印刷日：2026年10月05日

講義名	1000001000 宗教学（地域共創・人間健康）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1. 学校法人光星学院と八戸学院大学の建学の精神を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
2. 旧約聖書と新約聖書を通して人間と社会、世界にについて考えることにより、人間の真のニーズ、今後の学びを深める根本的な問題意識を持つ。
3. キリスト教の根幹を理解することによって、国際社会で通用する教養を身に着ける。
4. 基礎的な教養を身につけるとともに、学び方そのものを学ぶ機会の一つとする。

授業概要(教育目的)

宗教を学問として扱う方法論には様々な方法論やアプローチが考えられるが、世界の様々な諸宗教を客観的に考察する比較宗教学的な方法論には、実はあまり大きな意味はない。むしろ、本学も建学の精神とするカトリシズムやキリスト教の根幹にある、聖書という一つの普遍的な書物に対して学問的に真剣に向き合い理解を深めることで、21世紀の現代社会でも通用する気付きを得ることができるものである。

本講義では、まずは聖書の中でもその大部分を占め、様々な文学ジャンルを収録する『旧約聖書』を取り扱う。旧約聖書は、古代人たちの著作でありながら、大変深い人間理解と人間社会に対する鋭いまなざしを持っている。問題意識の宝庫といえよう。
さらに、旧約聖書が持つ問題意識に対する回答として新約聖書を読み進める。新約聖書が示す人間と人間社会の新しいあり方の可能性を考えたい。様々な物語を通してイエス・キリストと聖書の思想に迫ることによって、新約聖書とキリスト教は果たして本当は何を言っているのか、どのような体験をさせてくれるのか。そこにある「救い」が何であるのかを考え、生き方をも問う授業としたい。

真の目標は、聖書を学ぶのみならず、聖書を通して人間について考え、これからの日本の社会に必要なことを考えるための補助線を得ることである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科)。

評価方法

学期末試験を行う。さらに、授業におけるリアクションペーパー、質疑応答など授業参加態度などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックすることがある。

参考文献

『聖書　聖書協会共同訳』または『聖書　新共同訳』
雨宮慧『図解雑学　聖書』ナツメ社、2009年。
佐久間勤『四季おりおりの聖書』女子パウロ会、2002年。
月本昭雄監修『図説　一冊で学び直せるキリスト教の本』学研プラス、2020年。
その他、有用な書籍は授業時に随時紹介する。

講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

授業にあたっては、学生も教員も適切な緊張感を持って臨みたい。必ずしも細かな注意事項は列挙しないが、授業妨害、集中不足、非常識な行動や態度などは、取ることのないように願いたい。

この授業は教養科目として、学生諸君の世界を広げること、根本的な問題意識を持ってもらうこと、学び方を学ぶことを目指していると同時に、建学の精神に深くかかわる重要な科目である。受講生にはぜひ積極的な学ぶ姿勢を求めたい。

実務との関連

カトリック教会の週刊誌で連載執筆した記事を授業内で用いることがある。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	建学の精神について(理事長講話)	創立者ヨゼフ中村由太郎について、自分なりに調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	文化の中のキリスト教:キリスト教を概観する	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	聖書の周辺世界:地理と歴史と文学	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
4	旧約聖書の世界観と人間観:天地創造、エデンの園	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
5	旧約聖書の人間論:ノアの方舟とバベルの塔	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
6	召命:アブラハムへの「呼びかけ」	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
7	ヤコブが旅に出る理由	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	王国時代のイスラエル:王と預言者	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
9	イエス・キリストの生涯	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	参考文献の関連個所を読む
10	イエスと出会った奇跡:いやしの奇跡の意味	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	「神の国」のたとえ話に見る福音と人間	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
12	山上の説教に見るイエスの価値観	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	受難と復活:希望は終わらない	参考文献の関連個所を読む	配布資料とノートを読み直す
14	パウロの思想:「キリスト教」を作った人	参考文献の関連個所を読む	配布資料とノートを読み直す
15	ローマ教皇と現代:教会は現代なにを語っているか。	前回の配布資料とノートを読み直す	課題のレポートを作成する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000001001 宗教学（看護学科1年生）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1. 学校法人光星学院と八戸学院大学の建学の精神を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
2. 旧約聖書を通して人間と社会、世界にについて考えることを通して、人間の真のニーズをつかむ。
3. キリスト教の根幹を理解することによって、国際社会で通用する教養を身に着ける。

授業概要(教育目的)

宗教を学問として扱う方法論には様々な方法論やアプローチが考えられるが、世界の様々な諸宗教を客観的に考察する比較宗教学的な方法論には、実はあまり大きな意味はない。むしろ、本学も建学の精神とするカトリシズムやキリスト教の根幹にある、聖書という一つの普遍的な書物に対して学問的に真剣に向き合い理解を深めることで、21世紀の現代社会でも通用する気付きを得ることができるものである。
　本講義では、聖書の中でもその大部分を占め、様々な文学ジャンルを収録する『旧約聖書』を取り扱う。旧約聖書は、古代人たちの著作でありながら、極めて過酷な環境と壮大な歴史を背景のために、大変深い人間理解を持ち、また人間社会に対する鋭いまなざしを持ち合わせている。このような文学に学ぶことは、今日なお有意義であり単に「宗教学」に触れる以上の意味がある。真の目標は、聖書を学ぶのみならず、聖書を通して人間について考え、これからの日本の社会に必要なことを考えるための補助線を得ることである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

授業最終日に試験を実施する。さらに、授業におけるリアクションペーパー、質疑応答など授業参加態度などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

『聖書　聖書協会共同訳』または『聖書　新共同訳』
雨宮慧『図解雑学　聖書』ナツメ社、2009年。
雨宮慧『旧約聖書のこころ』女子パウロ会、1989年。
佐久間勤『四季おりおりの聖書』女子パウロ会、2002年。
月本昭雄監修『図説　一冊で学び直せるキリスト教の本』学研プラス、2020年。
その他、有用な書籍は授業時に随時紹介する。

講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

授業にあたっては、学生も教員も適切な緊張感を持って臨みたい。必ずしも細かな注意事項は列挙しないが、授業妨害、集中不足、非常識な行動や態度などは、取ることのないように願いたい。

この授業は教養科目として、学生諸君の世界を広げること、根本的な問題意識を持ってもらうこと、学び方を学ぶことを目指していると同時に、建学の精神に深くかかわる重要な科目である。受講生にはぜひ積極的な学ぶ姿勢を求めたい。

実務との関連

カトリック教会の週刊誌で連載執筆した記事を授業内で用いることがある。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	キリスト教を概観する	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	旧約聖書とは何か。背景となるパレスチナの歴史と地理	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	旧約聖書の世界観（創世記1章を分析する）	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	旧約聖書の人間論（アダムとエバ、カインとアベル　創世記2-4章）	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	旧約聖書の人間論II（ノアの方舟と世界刷新　創世記6-9章）	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	バベルの塔（創世記11章）、「原初史」と現代を照らし合わせて考える人間の可能性	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	アブラハムの「召命」と人間の現実「イスラエル民族」I	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	ヤコブ物語とヨセフ物語に見る、神と人間「イスラエル民族」II	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	物語としての「出エジプト」:　解放か救済か「イスラエル民族」III	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	荒れ野の40年と律法授与:イスラエル誕生の史実と真実	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	イスラエル統一王国:権力の現実と理想の平和	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	分裂王国時代:預言者の社会批判と、「あるべき社会」	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	詩編から考える、「人間とは何か」	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	闘う知恵文学:ヨブとコヘレトが見出したもの	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	聖書が示す、人間の希望とは:新約聖書が与える「回答」	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000001002 宗教学（看護学科2年生）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1. 学校法人光星学院と八戸学院大学の建学の精神を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
2. 旧約聖書を通して人間と社会、世界にについて考えることを通して、人間の真のニーズをつかむ。
3. キリスト教の根幹を理解することによって、国際社会で通用する教養を身に着ける。

授業概要(教育目的)

宗教を学問として扱う方法論には様々な方法論やアプローチが考えられるが、世界の様々な諸宗教を客観的に考察する比較宗教学的な方法論には、実はあまり大きな意味はない。むしろ、本学も建学の精神とするカトリシズムやキリスト教の根幹にある、聖書という一つの普遍的な書物に対して学問的に真剣に向き合い理解を深めることで、21世紀の現代社会でも通用する気付きを得ることができるものである。
　本講義では、聖書の中でもその大部分を占め、様々な文学ジャンルを収録する『旧約聖書』を取り扱う。旧約聖書は、古代人たちの著作でありながら、極めて過酷な環境と壮大な歴史を背景のために、大変深い人間理解を持ち、また人間社会に対する鋭いまなざしを持ち合わせている。このような文学に学ぶことは、今日なお有意義であり単に「宗教学」に触れる以上の意味がある。真の目標は、聖書を学ぶのみならず、聖書を通して人間について考え、これからの日本の社会に必要なことを考えるための補助線を得ることである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験期間中に試験を実施する。さらに、授業におけるリアクションペーパー、質疑応答など授業参加態度などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

『聖書　聖書協会共同訳』または『聖書　新共同訳』
雨宮慧『図解雑学　聖書』ナツメ社、2009年。
雨宮慧『旧約聖書のこころ』女子パウロ会、1989年。
佐久間勤『四季おりおりの聖書』女子パウロ会、2002年。
月本昭雄監修『図説　一冊で学び直せるキリスト教の本』学研プラス、2020年。
その他、有用な書籍は授業時に随時紹介する。

講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

授業にあたっては、学生も教員も適切な緊張感を持って臨みたい。必ずしも細かな注意事項は列挙しないが、授業妨害、集中不足、非常識な行動や態度などは、取ることのないように願いたい。

この授業は教養科目として、学生諸君の世界を広げること、根本的な問題意識を持ってもらうこと、学び方を学ぶことを目指していると同時に、建学の精神に深くかかわる重要な科目である。受講生にはぜひ積極的な学ぶ姿勢を求めたい。

実務との関連

カトリック教会の週刊誌で連載執筆した記事を授業内で用いることがある。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	キリスト教を概観する	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	旧約聖書とは何か。背景となるパレスチナの歴史と地理	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	旧約聖書の世界観（創世記1章を分析する）	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	旧約聖書の人間論（アダムとエバ、カインとアベル　創世記2-4章）	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	旧約聖書の人間論II（ノアの方舟と世界刷新　創世記6-9章）	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	バベルの塔（創世記11章）、「原初史」と現代を照らし合わせて考える人間の可能性	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	アブラハムの「召命」と人間の現実「イスラエル民族」I	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	ヤコブ物語とヨセフ物語に見る、神と人間「イスラエル民族」II	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	物語としての「出エジプト」：　解放か救済か「イスラエル民族」III	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	荒れ野の40年と律法授与：イスラエル誕生の史実と真実	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	イスラエル統一王国：権力の現実と理想の平和	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	分裂王国時代：預言者の社会批判と、「あるべき社会」	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	詩編から考える、「人間とは何か」	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	闘う知恵文学：ヨブとコヘレトが見出したもの	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	聖書が示す、人間の希望とは：新約聖書が与える「回答」	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000001004 宗教学（再履修）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1. 学校法人光星学院と八戸学院大学の建学の精神を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
2. 旧約聖書を通して人間と社会、世界にについて考えることを通して、人間の真のニーズをつかむ。
3. キリスト教の根幹を理解することによって、国際社会で通用する教養を身に着ける。

授業概要(教育目的)

宗教を学問として扱う方法論には様々な方法論やアプローチが考えられるが、世界の様々な諸宗教を客観的に考察する比較宗教学的な方法論には、実はあまり大きな意味はない。むしろ、本学も建学の精神とするカトリシズムやキリスト教の根幹にある、聖書という一つの普遍的な書物に対して学問的に真剣に向き合い理解を深めることで、21世紀の現代社会でも通用する気付きを得ることができるものである。
　本講義では、聖書の中でもその大部分を占め、様々な文学ジャンルを収録する『旧約聖書』を取り扱う。旧約聖書は、古代人たちの著作でありながら、極めて過酷な環境と壮大な歴史を背景のために、大変深い人間理解を持ち、また人間社会に対する鋭いまなざしを持ち合わせている。このような文学に学ぶことは、今日なお有意義であり単に「宗教学」に触れる以上の意味がある。真の目標は、聖書を学ぶのみならず、聖書を通して人間について考え、これからの日本の社会に必要なことを考えるための補助線を得ることである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

学期末に短いレポートを課す。さらに、授業におけるリアクションペーパー、質疑応答など授業参加態度などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

『聖書　聖書協会共同訳』または『聖書　新共同訳』
雨宮慧『図解雑学　聖書』ナツメ社、2009年。
雨宮慧『旧約聖書のこころ』女子パウロ会、1989年。
佐久間勤『四季おりおりの聖書』女子パウロ会、2002年。
月本昭雄監修『図説　一冊で学び直せるキリスト教の本』学研プラス、2020年。
その他、有用な書籍は授業時に随時紹介する。

講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

授業にあたっては、学生も教員も適切な緊張感を持って臨みたい。必ずしも細かな注意事項は列挙しないが、授業妨害、集中不足、非常識な行動や態度などは、取ることのないように願いたい。

この授業は教養科目として、学生諸君の世界を広げること、根本的な問題意識を持ってもらうこと、学び方を学ぶことを目指していると同時に、建学の精神に深くかかわる重要な科目である。受講生にはぜひ積極的な学ぶ姿勢を求めたい。

実務との関連

カトリック教会の週刊誌で連載執筆した記事を授業内で用いることがある。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	キリスト教を概観する	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	旧約聖書とは何か。背景となるパレスチナの歴史と地理	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	旧約聖書の世界観（創世記1章を分析する）	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	旧約聖書の人間論（アダムとエバ、カインとアベル　創世記2-4章）	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	旧約聖書の人間論II（ノアの方舟と世界刷新　創世記6-9章）	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	バベルの塔（創世記11章）、「原初史」と現代を照らし合わせて考える人間の可能性	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	アブラハムの「召命」と人間の現実「イスラエル民族」I	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	ヤコブ物語とヨセフ物語に見る、神と人間「イスラエル民族」II	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	物語としての「出エジプト」:　解放か救済か「イスラエル民族」III	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	荒れ野の40年と律法授与:イスラエル誕生の史実と真実	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	イスラエル統一王国:権力の現実と理想の平和	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	分裂王国時代:預言者の社会批判と、「あるべき社会」	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	詩編から考える、「人間とは何か」	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	闘う知恵文学:ヨブとコヘレトが見出したもの	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	聖書が示す、人間の希望とは:新約聖書が与える「回答」	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する

講義名	1000002001 キリスト教概論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1.「神を敬し、人を愛する」という学校法人光星学院と八戸学院大学の建学の精神の理解をさらに深め、実践する人となる。
2. 新約聖書への理解を通して、どのような社会になっても必要となる価値観を修得する。
3. キリスト教の根幹を理解することによって、国際社会で通用する教養を身に着ける。

授業概要(教育目的)

新約聖書は、旧約聖書が深く認識した人間存在の有り様に対する回答の書であり、それだけを読んでいてもあまり面白くはない。また、人間についての問題意識のないまま読み進めることによる弊害は計り知れない。本授業では、旧約聖書の知識も補いつつ、新約聖書が示す人間と人間社会の新しいあり方の可能性を考えたい。まずは知識は必要なので、新約聖書の背景となる歴史や地理、旧約聖書について知り、またイエスの言行録ともいえる福音書の概説を行う。さらに、様々な物語を通してイエス・キリストと聖書の思想に迫っていく。新約聖書とキリスト教は果たして本当はどのようなことを主張しようとしているのか、また、それらが語る「救い」が何であるのかを考え、生き方をも問う授業としたい。
新約聖書やキリスト教が指し示す人間のあり方について考えることを通して、今後の学びの基礎となる根本的な問題意識を養う場としたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科)。

評価方法

学期末試験を行う。さらに、授業におけるリアクションペーパー、質疑応答など授業参加態度などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

シルヴァノ・ファウスティ『思い起こし、物語れ:マルコ福音書のメッセージ』(上下巻)佐久間勤訳、女子パウロ会、2000-01年。
大貫隆『イエスと経験』岩波書店、2003年。
上村静『宗教の倒錯』岩波書店、2008年。
学校法人上智学院編『新カトリック大事典』研究社、1996-2010年。

講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

授業にあたっては、学生も教員も適切な緊張感を持って臨みたい。必ずしも細かな注意事項は列挙しないが、授業妨害、集中不足、非常識な行動や態度などは、取ることのないように願いたい。

この授業は教養科目として、学生諸君の世界を広げること、根本的な問題意識を持ってもらうこと、学び方を学ぶことを目指していると同時に、建学の精神に深くかかわる重要な科目である。受講生にはぜひ積極的な学ぶ姿勢を求めたい。

実務との関連

カトリック教会の週刊誌で連載執筆した記事を授業内で用いることがある。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	キリスト教を概観する	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
2	新約聖書の周辺世界:地理と歴史	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
3	前提としての旧約聖書	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
4	福音書通説(映像作品で見るイエス・キリスト)①	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
5	福音書通説(映像作品で見るイエス・キリスト)②	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
6	イエス・キリストの生涯とその意味:当時の社会から見る「いやしの奇跡」とは	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
7	山上の説教:主の祈りとイエスの価値観	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
8	イエスが語ったたとえ話に見る「神の国」:失われた羊など	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
9	イエスの受難と復活	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
10	ヨハネ福音書の語るイエス・キリスト	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
11	パウロの生涯	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
12	パウロ神学	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
13	新約聖書の女性たち	イエスの母マリア、マグダラのマリアなどについてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
14	ローマ教皇が語る世界と、世界が必要とするもの	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
15	外部講師特別講義:キリスト教的な生き方を聞く	授業内容についてインターネットで調べる	外部講師の話を自分なりにじっくり考える。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000002002 キリスト教概論（看護）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

1.「神を敬し、人を愛する」という学校法人光星学院と八戸学院大学の建学の精神の理解をさらに深め、実践する人となる。
2. 新約聖書への理解を通して、どのような社会になっても必要となる価値観を修得する。
3. キリスト教の根幹を理解することによって、国際社会で通用する教養を身に着ける。

授業概要(教育目的)

新約聖書は、旧約聖書が深く認識した人間存在の有り様に対する回答の書であり、それだけを読んでいてもあまり面白くはない。また、人間についての問題意識のないまま読み進めることによる弊害は計り知れない。本授業では、旧約聖書の知識も補いつつ、新約聖書が示す人間と人間社会の新しいあり方の可能性を考えたい。まずは知識は必要なので、新約聖書の背景となる歴史や地理、旧約聖書について知り、またイエスの言行録ともいえる福音書の概説を行う。さらに、様々な物語を通してイエス・キリストと聖書の思想に迫っていく。新約聖書とキリスト教は果たして本当はどのようなことを主張しようとしているのか、また、それらが語る「救い」が何であるのかを考え、生き方をも問う授業としたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科)。

評価方法

学期末試験を行う。さらに、授業におけるリアクションペーパー、質疑応答など授業参加態度などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

シルヴァノ・ファウスティ『思い起こし、物語れ：マルコ福音書のメッセージ』(上下巻)佐久間勤訳、女子パウロ会、2000-01年。
大貫隆『イエスと経験』岩波書店、2003年。
上村静『宗教の倒錯』岩波書店、2008年。
学校法人上智学院編『新カトリック大事典』研究社、1996-2010年。

講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

授業にあたっては、学生も教員も適切な緊張感を持って臨みたい。必ずしも細かな注意事項は列挙しないが、授業妨害、集中不足、非常識な行動や態度などは、取ることのないように願いたい。

この授業は教養科目として、学生諸君の世界を広げること、根本的な問題意識を持ってもらうこと、学び方を学ぶことを目指していると同時に、建学の精神に深くかかわる重要な科目である。受講生にはぜひ積極的な学ぶ姿勢を求めたい。

実務との関連

カトリック教会の週刊誌で連載執筆した記事を授業内で用いることがある。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	キリスト教を概観する	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
2	新約聖書の周辺世界：地理と歴史	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
3	福音書通説（映像作品で見るイエス・キリスト）①	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
4	福音書通説（映像作品で見るイエス・キリスト）②	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
5	イエスの生涯とその意味：当時の社会と癒しの奇跡、愛の実践	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
6	イエスの山上の説教	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
7	イエスが教えた主の祈りとイエスの価値観	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
8	イエスが語ったたとえ話に見る「神の国」：失われた羊など	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
9	イエスの受難と復活	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
10	ヨハネ福音書の語るイエス・キリスト	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
11	パウロの生涯と信仰義認の神学	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
12	新約聖書の女性たち：第一の証言者として	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
13	旧約聖書と新約聖書：愛をはばむものは何なのか	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
14	ローマ教皇が語る世界と、世界が必要とするもの	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
15	外部講師特別講義：キリスト教的な生き方を聞く	授業内容についてインターネットで調べる	外部講師の話を自分なりにじっくり考える。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000003000 地域文化論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	柾谷　伸夫		

学習目標(到達目標)

1. 八戸を中心とする南部地域の歴史と特性を説明できる。
2. 八戸を中心とする南部地域の文化と特性を説明できる。
3. 八戸を中心とする南部地域の地域発展に貢献した先人の業績を説明できる。
4. 八戸の政治・経済界を牽引しているゲストの講義を聞き、地域活性化の現状と課題の解決策を説明できる。

授業概要(教育目的)

わが国では、人口減少克服・地方創生という構造的な課題に取り組むため、平成26年末までに「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、人口減少の克服に向け国と地方が総力を挙げて取り組むうえでの指針となる「長期ビジョン」および「総合戦略」を毎年度閣議決定している。
特に人口減少と地域経済縮小の克服については、基本的視点の一つに「地域の特性に即して地域課題を解決する」が挙げられており、人口減少に伴う地域の変化に柔軟に対応し、地域が直面する課題を解決し、地域の中において安全・安心で心豊かな生活が将来にわたって確保されるように取り組むことが求められている。
本講義では、「地域文化の歴史と特性」「地域発展に貢献した先人の事例」「地域活性化の現状と課題の解決策」について学び、地域・文化の特性を理解し、地域社会発展のための手立てを探る。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

課題提出、授業アンケート等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

なし

資格との関連

学生へのメッセージ

この講義を通して、大学のある八戸を中心とする南部地域の魅力に気づき、八戸が大好きになって欲しい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	八戸の歴史～中世	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
2	八戸の歴史～中世から戦国時代	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
3	八戸の歴史～九戸の乱から八戸藩誕生	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
4	八戸の歴史～江戸中期から幕末	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
5	八戸の歴史～幕末から明治期 八戸藩の文化と特性	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
6	八戸の文化の特性①	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
7	八戸の文化の特性②	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
8	安藤昌益 美濃屋乙因	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
9	櫛引弓人 前原寅吉	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
10	神田重雄 長谷川藤次郎 浦山太吉 橋本八右衛門	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
11	地域活性化の現状と課題の解決策①	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
12	地域活性化の現状と課題の解決策②	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
13	地域活性化の現状と課題の解決策③	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
14	地域活性化の現状と課題の解決策④	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
15	地域活性化の現状と課題の解決策⑤	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004216 基礎演習　幸田ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田　威久矢		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

講義名	1000004222 基礎演習　加来ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りである。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられる。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴がある。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出してもらう。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文等)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用する。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践してもらう。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
12	12. レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
14	14. レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む

講義名	1000004230 基礎演習　馬場ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	馬場　祥次		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

提出された課題に対して随時、評価、講評を伝える。

参考文献

授業の中で、随時指示します。

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

システムエンジニアとして、コンピュータシステム会社に勤務。技術者としての経験を活かして、社会で必要とされる情報技術を解説します。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
12	12. レポートの書き方⑥－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
14	14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004234 基礎演習　横田ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
12	12. レポートの書き方⑥－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
14	14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004235 基礎演習　奈良ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	奈良　卓		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
12	12. レポートの書き方⑥－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
14	14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004237 基礎演習　楊ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
12	12. レポートの書き方⑥－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
14	14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。

講義名	1000004238 基礎演習　川守田ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	川守田　景子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
12	12. レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
14	14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004239 基礎演習　埴原ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
12	12. レポートの書き方⑥－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
14	14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。

講義名	1000004240 基礎演習　種市ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	種市　朋哉		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
12	12. レポートの書き方⑥－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
14	14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。

講義名	1000004241 基礎演習　木村ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	木村　浩哉		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
12	12. レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
14	14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004242 基礎演習　堀谷ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	堀谷　大輔		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
12	12. レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
14	14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004305 基礎演習　井元ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	井元　紀子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004310 基礎演習　浜中ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	浜中　のり子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004315 基礎演習　渡邉ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	渡邉　陵由		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004319 基礎演習　工藤ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	工藤　祐太郎		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004320 基礎演習　宮澤ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	宮澤　君子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

講義名	1000004327 基礎演習　佐藤ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	佐藤　千恵子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出とともに毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

提出した文章およびレポート等については添削後返却します。
またゼミ内での発表の機会を設け、意見交換をします。、

参考文献

その都度、必要に応じて紹介します。

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. オリエンテーション ・基礎演習・プレゼンテーションの進め方について説明する	・シラバスを読む	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①) ・新聞の社説等を読み、文章にまとめる	・「基礎演習・プレゼンテーションの手引き」を読む	・文章をまとめる
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②) ・前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	・「基礎演習・プレゼンテーションの手引き」を読む	・文章をまとめる
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③) ・VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	・「基礎演習・プレゼンテーションの手引き」を読む	・文章をまとめる
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④) ・前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	・「基礎演習・プレゼンテーションの手引き」を読む	・文章をまとめる
6	6. 資料(文献)の収集と利用① ・新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	・資料の収集をする	・資料を整理する
7	7. 資料(文献)の収集と利用② ・新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	・資料の収集をする	・資料を整理する
8	8. レポートの書き方① ・レポートの構成について学ぶ	・資料を整理し、作成の準備をする	・資料を整理する
9	9. レポートの書き方② ・レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	・資料を整理し、作成の準備をする	・資料を整理する
10	10. レポートの書き方③ ・図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	・資料を整理し、作成の準備をする	・資料を整理する
11	11. レポートの書き方④ ・文献情報の整理の仕方について学ぶ	・資料を整理し、作成の準備をする	・資料を整理する
12	12. レポートの書き方⑤ ・資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	・資料を整理し、作成の準備をする	・レポートの内容を整理する
13	13. レポートの書き方⑥ ・前回に引き続き、レポートを作成する。	・レポートをまとめ、整理する	・レポートの内容を整理する
14	14. レポートの書き方⑦ ・必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	・レポートをまとめ、整理する	・レポートの内容を整理する
15	15. レポートの提出・発表 ・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	・発表するための準備をする	・提出するために内容を見直し整理する

講義名	1000004329 基礎演習　千葉ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	千葉　啓子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたといえます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづくレポートの構成(見出しと概要)を記述した報告書により評価する。提出物だけでなく、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

課題をより深く追求するためのアドバイスを行う。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用する。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践する。
ゼミには毎回出席することが基本となる。1/3以上欠席した場合は単位が未習得となるので注意すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	履修科目の説明 自己紹介	テキストに目を通す	授業内容を整理する
2	履修科目の確認 必要に応じて面談	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
3	レポートテーマ選定の説明	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
4	図書館利用① DVD視聴による図書館機能の説明と施設案内	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
5	図書館利用② 前回説明を受けた図書館機能を実際に利用し、書籍等の貸借や文献検索方法を理解する	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
6	レポートテーマを探す① 図書館の新聞社説を中心に関心・興味のある文章を探し、数点候補に挙げる	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
7	レポートテーマを探す② 前回に引き続き、図書館で関心・興味のある文章を探し、数点候補に挙げる	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
8	レポートテーマを探す③ 探した数点から最も関心・興味のあるものを1点選び、コピーを取る	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
9	レポートテーマを選ぶ 各自、選んだテーマをゼミで報告し、他の人の報告について意見や質問をしあう。	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
10	レポート作成の準備① レポートの構成や書き方について理解する	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
11	レポート作成の準備② 各自、レポートの構成を考える	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
12	レポート作成の準備③ レポートの構成をゼミ担に報告し、アドバイスを受ける	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
13	レポート作成の準備④ 前回のアドバイスを踏まえてレポートの構成を再検討する	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
14	レポート作成の準備⑤ レポート作成に必要となる文献資料の入手について考える レポートの構成が決定したら見出しと概要を記述して提出する	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
15	春期履修状況の確認 必要に応じて面談する	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004330 基礎演習　大木ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	大木　えりか		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004331 基礎演習　有光ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	有光　琢磨		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004332 基礎演習　泉水ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	泉水　朝宏		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004334 基礎演習　金地ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	金地　美知彦		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004336 基礎演習　遠藤光男ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	遠藤　光男		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004337 基礎演習　石原ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

講義名	1000004338 基礎演習　立石ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	立石　真司		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004339 基礎演習　吉田ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	吉田　守実		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004340 基礎演習　平塚ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	平塚　和也		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004341 基礎演習　阿部ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	阿部　俊彦		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004342 基礎演習　今川ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	今川　ゆき		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004343 基礎演習（再履修）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	吉田　守実		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004428 基礎演習　溝江ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	溝江　弓恵		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004433 基礎演習　堺ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	堺　香奈子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004452 基礎演習　日當ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	日當　ひとみ		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004453 基礎演習　小出ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	小出　るみ子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004462 基礎演習　足澤ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	足澤　ちか子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004464 基礎演習　三浦ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	三浦　広美		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. 文章の読み方・まとめ方を身につける
2. 資料(文献)の収集とその利用方法を身につける
3. レポートの作成方法を身につける

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また4年次の「看護卒業研究」の導入段階の科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら選択したテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

ゼミナール活動として、自己のテーマに沿った文献資料の収集から、レポート作成において、毎時間ごとに進捗状況を報告してもらいます。また、レポートは紙ベースもしくはデータファイルにより提出してもらい、添削の上返却します。
成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きを参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	「基礎演習」「プレゼンテーション」の進め方	ゼミ生・担当教員を確認する。	「基礎演習」「プレゼンテーション」の目的、目標、内容等を確認する。
2	入学前課題の意見交換(グループワーク)	手引き「第1章 文章の読み方・まとめ方」を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	図書館利用に関する講義	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／2.図書館を利用しての情報収集」を読む。	OPAC検索方法等、図書館の利用方法を確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説を読み、書かれている内容を理解し、論者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	新聞の社説を読み、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－映像教材(ドキュメンタリー番組、あるいは討論番組のVTR)を視聴し、内容を理解し、番組制作者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	映像教材を視聴し、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
6	資料(文献)の収集と利用－情報ツールとしての新聞記事、インターネットの利用方法、利用に関する注意事項及びツールを学ぶ	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／1.情報収集と注意事項、3.インターネットによる情報収集」を読む。	新聞記事、インターネットの利用方法、利用する際の注意事項・ルール等を確認する。そして、パソコンや図書館を利用して検索してみる。
7	レポートの書き方①(レポート作成の準備)－レポートの構成(序論・本論・結論)、レポートのテーマ設定、レポートの目的、取り上げる内容を絞り込む方法を学ぶ	レポートのテーマを考案する。	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を考案する。
8	レポートの書き方②(レポート作成の準備)－レポート作成のプロセスのうち、テーマ設定から資料(文献)収集までの手順を学ぶ	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を絞り込む。	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。
9	レポートの書き方③(図書館を利用しての資料(文献)収集)－絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。	「文献カード」を作成する。
10	レポートの書き方④(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「文献カード」「情報カード」を作成する。	「情報カード」を作成する。
11	レポートの書き方⑤(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「情報カード」を作成する。	「情報カード」を整理する。
12	レポートの書き方⑥(文献整理の方法、レポート作成)－引き続き、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う。そして、資料(文献)の整理、要約の作業を終え次第、レポート作成に移行する	「情報カード」及びレポートを作成する。	「情報カード」を整理する。
13	レポートの書き方⑦(レポート作成)－レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
14	レポートの書き方⑧(レポート作成)－引き続き、レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
15	レポートの提出(完成、発表、提出)－レポートを作成し、発表、提出する	レポートを見直す。	ゼミごとにレポートを提出する。

講義名	1000004465 基礎演習　佐々木ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	佐々木　真湖		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. 文章の読み方・まとめ方を身につけること。
2. 資料(文献)の収集とその利用方法を身につけること。
3. レポートの作成方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また4年次の「看護卒業研究」の導入段階の科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら選択したテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

ゼミナール活動として、自己のテーマに沿った文献資料の収集から、レポート作成において、毎時間ごとに進捗状況を報告してもらいます。また、レポートは紙ベースもしくはデータファイルにより提出してもらい、添削の上返却します。
成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きを参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	「基礎演習」「プレゼンテーション」の進め方	ゼミ生・担当教員を確認する。	「基礎演習」「プレゼンテーション」の目的、目標、内容等を確認する。
2	入学前課題の意見交換(グループワーク)	手引き「第1章 文章の読み方・まとめ方」を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	図書館利用に関する講義	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／2.図書館を利用しての情報収集」を読む。	OPAC検索方法等、図書館の利用方法を確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説を読み、書かれている内容を理解し、論者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	新聞の社説を読み、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－映像教材(ドキュメンタリー番組、あるいは討論番組のVTR)を視聴し、内容を理解し、番組制作者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	映像教材を視聴し、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
6	資料(文献)の収集と利用－情報ツールとしての新聞記事、インターネットの利用方法、利用に関する注意事項及びツールを学ぶ	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／1.情報収集と注意事項、3.インターネットによる情報収集」を読む。	新聞記事、インターネットの利用方法、利用する際の注意事項・ルール等を確認する。そして、パソコンや図書館を利用して検索してみる。
7	レポートの書き方①(レポート作成の準備)－レポートの構成(序論・本論・結論)、レポートのテーマ設定、レポートの目的、取り上げる内容を絞り込む方法を学ぶ	レポートのテーマを考案する。	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を考案する。
8	レポートの書き方②(レポート作成の準備)－レポート作成のプロセスのうち、テーマ設定から資料(文献)収集までの手順を学ぶ	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を絞り込む。	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。
9	レポートの書き方③(図書館を利用しての資料(文献)収集)－絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。	「文献カード」を作成する。
10	レポートの書き方④(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「文献カード」「情報カード」を作成する。	「情報カード」を作成する。
11	レポートの書き方⑤(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「情報カード」を作成する。	「情報カード」を整理する。
12	レポートの書き方⑥(文献整理の方法、レポート作成)－引き続き、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う。そして、資料(文献)の整理、要約の作業を終え次第、レポート作成に移行する	「情報カード」及びレポートを作成する。	「情報カード」を整理する。
13	レポートの書き方⑦(レポート作成)－レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
14	レポートの書き方⑧(レポート作成)－引き続き、レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
15	レポートの提出(完成、発表、提出)－レポートを作成し、発表、提出する	レポートを見直す。	ゼミごとにレポートを提出する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004466 基礎演習　野崎ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	野崎　悦子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. 文章の読み方・まとめ方を身につけること。
2. 資料(文献)の収集とその利用方法を身につけること。
3. レポートの作成方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また4年次の「看護卒業研究」の導入段階の科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら選択したテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

ゼミナール活動として、自己のテーマに沿った文献資料の収集から、レポート作成において、毎時間ごとに進捗状況を報告してもらいます。また、レポートは紙ベースもしくはデータファイルにより提出してもらい、添削の上返却します。
成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きを参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	「基礎演習」「プレゼンテーション」の進め方	ゼミ生・担当教員を確認する。	「基礎演習」「プレゼンテーション」の目的、目標、内容等を確認する。
2	入学前課題の意見交換(グループワーク)	手引き「第1章 文章の読み方・まとめ方」を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	図書館利用に関する講義	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／2.図書館を利用しての情報収集」を読む。	OPAC検索方法等、図書館の利用方法を確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説を読み、書かれている内容を理解し、論者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	新聞の社説を読み、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－映像教材(ドキュメンタリー番組、あるいは討論番組のVTR)を視聴し、内容を理解し、番組制作者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	映像教材を視聴し、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
6	資料(文献)の収集と利用－情報ツールとしての新聞記事、インターネットの利用方法、利用に関する注意事項及びツールを学ぶ	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／1.情報収集と注意事項、3.インターネットによる情報収集」を読む。	新聞記事、インターネットの利用方法、利用する際の注意事項・ルール等を確認する。そして、パソコンや図書館を利用して検索してみる。
7	レポートの書き方①(レポート作成の準備)－レポートの構成(序論・本論・結論)、レポートのテーマ設定、レポートの目的、取り上げる内容を絞り込む方法を学ぶ	レポートのテーマを考案する。	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を考案する。
8	レポートの書き方②(レポート作成の準備)－レポート作成のプロセスのうち、テーマ設定から資料(文献)収集までの手順を学ぶ	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を絞り込む。	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。
9	レポートの書き方③(図書館を利用しての資料(文献)収集)－絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。	「文献カード」を作成する。
10	レポートの書き方④(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「文献カード」「情報カード」を作成する。	「情報カード」を作成する。
11	レポートの書き方⑤(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「情報カード」を作成する。	「情報カード」を整理する。
12	レポートの書き方⑥(文献整理の方法、レポート作成)－引き続き、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う。そして、資料(文献)の整理、要約の作業を終え次第、レポート作成に移行する	「情報カード」及びレポートを作成する。	「情報カード」を整理する。
13	レポートの書き方⑦(レポート作成)－レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
14	レポートの書き方⑧(レポート作成)－引き続き、レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
15	レポートの提出(完成、発表、提出)－レポートを作成し、発表、提出する	レポートを見直す。	ゼミごとにレポートを提出する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004467 基礎演習　山崎ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	山崎　千鶴		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. 文章の読み方・まとめ方を身につけること。
2. 資料(文献)の収集とその利用方法を身につけること。
3. レポートの作成方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また4年次の「看護卒業研究」の導入段階の科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら選択したテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

ゼミナール活動として、自己のテーマに沿った文献資料の収集から、レポート作成において、毎時間ごとに進捗状況を報告してもらいます。また、レポートは紙ベースもしくはデータファイルにより提出してもらい、添削の上返却します。
成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きを参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	「基礎演習」「プレゼンテーション」の進め方	ゼミ生・担当教員を確認する。	「基礎演習」「プレゼンテーション」の目的、目標、内容等を確認する。
2	入学前課題の意見交換(グループワーク)	手引き「第1章 文章の読み方・まとめ方」を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	図書館利用に関する講義	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／2.図書館を利用しての情報収集」を読む。	OPAC検索方法等、図書館の利用方法を確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説を読み、書かれている内容を理解し、論者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	新聞の社説を読み、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－映像教材(ドキュメンタリー番組、あるいは討論番組のVTR)を視聴し、内容を理解し、番組制作者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	映像教材を視聴し、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
6	資料(文献)の収集と利用－情報ツールとしての新聞記事、インターネットの利用方法、利用に関する注意事項及びツールを学ぶ	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／1.情報収集と注意事項、3.インターネットによる情報収集」を読む。	新聞記事、インターネットの利用方法、利用する際の注意事項・ルール等を確認する。そして、パソコンや図書館を利用して検索してみる。
7	レポートの書き方①(レポート作成の準備)－レポートの構成(序論・本論・結論)、レポートのテーマ設定、レポートの目的、取り上げる内容を絞り込む方法を学ぶ	レポートのテーマを考案する。	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を考案する。
8	レポートの書き方②(レポート作成の準備)－レポート作成のプロセスのうち、テーマ設定から資料(文献)収集までの手順を学ぶ	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を絞り込む。	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。
9	レポートの書き方③(図書館を利用しての資料(文献)収集)－絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。	「文献カード」を作成する。
10	レポートの書き方④(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「文献カード」「情報カード」を作成する。	「情報カード」を作成する。
11	レポートの書き方⑤(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「情報カード」を作成する。	「情報カード」を整理する。
12	レポートの書き方⑥(文献整理の方法、レポート作成)－引き続き、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う。そして、資料(文献)の整理、要約の作業を終え次第、レポート作成に移行する	「情報カード」及びレポートを作成する。	「情報カード」を整理する。
13	レポートの書き方⑦(レポート作成)－レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
14	レポートの書き方⑧(レポート作成)－引き続き、レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
15	レポートの提出(完成、発表、提出)－レポートを作成し、発表、提出する	レポートを見直す。	ゼミごとにレポートを提出する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004468 基礎演習　工藤（瑞）ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	工藤　瑞穂		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. 文章の読み方・まとめ方を身につけること。
2. 資料(文献)の収集とその利用方法を身につけること。
3. レポートの作成方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また4年次の「看護卒業研究」の導入段階の科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら選択したテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

ゼミナール活動として、自己のテーマに沿った文献資料の収集から、レポート作成において、毎時間ごとに進捗状況を報告してもらいます。また、レポートは紙ベースもしくはデータファイルにより提出してもらい、添削の上返却します。
成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きを参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	「基礎演習」「プレゼンテーション」の進め方	ゼミ生・担当教員を確認する。	「基礎演習」「プレゼンテーション」の目的、目標、内容等を確認する。
2	入学前課題の意見交換(グループワーク)	手引き「第1章 文章の読み方・まとめ方」を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	図書館利用に関する講義	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／2.図書館を利用しての情報収集」を読む。	OPAC検索方法等、図書館の利用方法を確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説を読み、書かれている内容を理解し、論者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	新聞の社説を読み、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－映像教材(ドキュメンタリー番組、あるいは討論番組のVTR)を視聴し、内容を理解し、番組制作者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	映像教材を視聴し、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
6	資料(文献)の収集と利用－情報ツールとしての新聞記事、インターネットの利用方法、利用に関する注意事項及びツールを学ぶ	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／1.情報収集と注意事項、3.インターネットによる情報収集」を読む。	新聞記事、インターネットの利用方法、利用する際の注意事項・ルール等を確認する。そして、パソコンや図書館を利用して検索してみる。
7	レポートの書き方①(レポート作成の準備)－レポートの構成(序論・本論・結論)、レポートのテーマ設定、レポートの目的、取り上げる内容を絞り込む方法を学ぶ	レポートのテーマを考案する。	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を考案する。
8	レポートの書き方②(レポート作成の準備)－レポート作成のプロセスのうち、テーマ設定から資料(文献)収集までの手順を学ぶ	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を絞り込む。	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。
9	レポートの書き方③(図書館を利用しての資料(文献)収集)－絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。	「文献カード」を作成する。
10	レポートの書き方④(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「文献カード」「情報カード」を作成する。	「情報カード」を作成する。
11	レポートの書き方⑤(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「情報カード」を作成する。	「情報カード」を整理する。
12	レポートの書き方⑥(文献整理の方法、レポート作成)－引き続き、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う。そして、資料(文献)の整理、要約の作業を終え次第、レポート作成に移行する	「情報カード」及びレポートを作成する。	「情報カード」を整理する。
13	レポートの書き方⑦(レポート作成)－レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
14	レポートの書き方⑧(レポート作成)－引き続き、レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
15	レポートの提出(完成、発表、提出)－レポートを作成し、発表、提出する	レポートを見直す。	ゼミごとにレポートを提出する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005216 プレゼンテーション　幸田ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田　威久矢		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005222 プレゼンテーション　加来ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文等)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用する。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005230 プレゼンテーション　馬場ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	馬場　祥次		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文等)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用する。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションは、非常に大切なスキルです。pptの作成に偏ることなく何をどの様に効率的に伝えるか身につけてください。

実務との関連

システムエンジニアとして、コンピュータシステム会社に勤務。技術者としての経験を活かして、社会で必要とされる情報技術を解説します。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005234 プレゼンテーション　横田ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005235 プレゼンテーション　奈良ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	奈良　卓		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005237 プレゼンテーション　楊ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005238 プレゼンテーション　川守田ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	川守田　景子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005239 プレゼンテーション　埴原ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005240 プレゼンテーション　種市ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	種市　朋哉		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005241 プレゼンテーション　木村ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	木村　浩哉		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005242 プレゼンテーション　堀谷ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	堀谷　大輔		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005305 プレゼンテーション　井元ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	井元　紀子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005310 プレゼンテーション　浜中ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	浜中　のり子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005315 プレゼンテーション　渡邉ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	渡邉　陵由		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005319 プレゼンテーション　工藤ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	工藤　祐太郎		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005320 プレゼンテーション　宮澤ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	宮澤　君子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

講義名	1000005327 プレゼンテーション　佐藤ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	佐藤　千恵子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特徴について理解し、地域に貢献できるような人材であること。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

提出した文章やレポートおよびスライドについては適宜アドバイスをし、必要に応じて添削後返却します。
また、ゼミ内での発表の機会を設け、意見交換をします。

参考文献

その都度必要に応じて指示します。

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション 基礎演習で作成したレポートの修正および加筆をする	・シラバスを読む	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む
2	レポートの修正および加筆	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む	・レポートをまとめる
3	レポートの完成およびゼミ内での発表 聴いている学生はアドバイスをする	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む	・レポートをまとめる
4	レポートの修正版を各自提出	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む	・レポートをまとめる
5	レジュメの作成方法 レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む	・レジュメを整理する
6	発表スライドの作成① レジュメを基に発表スライドを作成する	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む	・レジュメを整理する
7	発表スライドの作成② 引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む	・スライドを整理する
8	発表スライドの作成③ 引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む	・スライドを整理する
9	ゼミ内でのプレゼンテーション① 発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う	・発表の準備をする	・スライドを整理する
10	ゼミでのプレゼンテーション② 引き続き、プレゼンテーションを行う	・発表の準備をする	・レジュメとスライドの整理
11	プレゼンテーション発表会の準備① 各自、発表の準備をする	・発表の準備をする	・レジュメとスライドの整理
12	プレゼンテーション発表の準備② プレゼン評価シートへの記入	・発表の準備をする	・レジュメとスライドの整理
13	プレゼンテーション発表会	・発表の準備をする	・レジュメとスライドの整理
14	討論について学ぶ① 討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む	・資料の整理
15	討論について学ぶ② １年間を振り返って、学生同士で討論をする。	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む	・資料の整理

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005329 プレゼンテーション　千葉ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	千葉　啓子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成の準備段階として、「多くの文章を読み、調べ、自らテーマを決めて、レポートの構成を考える」基礎的スキルを身につける授業を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につける目的で授業を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等、積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特徴について理解し、地域に貢献できるような人材であること。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出状況、毎回の取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

完成したレポートの内容をプレゼンテーションで充分発表できるよう、サポートする。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーションの手引き」を参考とする。

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表しあう。そのため、全回出席が基本。1/3以上欠席した場合は単位が未習得となるので注意すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	春期の基礎演習振り返り 秋期履修予定の報告	1年生の基礎演習内容を確認する	授業内容を整理する
2	レポート作成に必要な資料(文献)の収集状況確認	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
3	資料(文献)補充① 図書館・PC・スマホを利用した資料(文献)のコピー、他学図書館へのコピー依頼	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
4	資料(文献)補充② 引き続き、資料(文献)収集を行い、内容読解・整理する	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
5	レポート執筆① レポート本文の構成確認、執筆開始	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
6	レポート執筆② 引き続き、レポートを執筆	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
7	レポート執筆③ 文字数、ポイント他、執筆要領に準じたレポートになっているか確認しながら完成に向けて作業する	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
8	発表会向け準備① パワーポイント作成要領およびレジュメ作成の説明	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
9	発表会向け準備② 要領に従い、パワーポイントを作成	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
10	発表会向け準備③ パワーポイントの作成を継続する	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
11	ゼミ内プレゼンテーション発表会 発表会進行のための司会、タイムキーパーなどの役割分担を行い、全員で発表し合う。 自分以外の発表について質問や意見を述べ合う	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
12	プレゼンテーション発表会 学年全体の発表会に参加する	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
13	プレゼンテーションレポートの最終修正 最終的な加筆修正を行い、全体の体裁を整える	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
14	プレゼンテーションレポートの提出	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
15	秋期履修状況の確認 必要に応じて面談を行う	前回の内容を確認する	授業内容を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005330 プレゼンテーション　大木ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	大木　えりか		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特徴について理解し、地域に貢献できるような人材であること。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005331 プレゼンテーション　有光ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	有光　琢磨		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特徴について理解し、地域に貢献できるような人材であること。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005332 プレゼンテーション　泉水ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	泉水　朝宏		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特徴について理解し、地域に貢献できるような人材であること。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005334 プレゼンテーション　金地ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	金地　美知彦		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005336 プレゼンテーション　遠藤光男ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	遠藤　光男		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005337 プレゼンテーション　石原ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005338 プレゼンテーション　立石ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	立石　真司		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005339 プレゼンテーション　吉田ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	吉田　守実		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いますが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートをパワーポイントなどを使って、ゼミ内で発表します。本演習を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるために、その前段として、様々なルートで情報収集を行い、読み手(聞き手)にとってわかりやすい文章にまとめ、分かりやすく説明する必要があります。
報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005340 プレゼンテーション　平塚ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	平塚　和也		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005341 プレゼンテーション　阿部ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	阿部　俊彦		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005342 プレゼンテーション　今川ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	今川　ゆき		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005343 プレゼンテーション（再履修）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	井元　紀子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005428 プレゼンテーション　溝江ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	溝江　弓恵		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きをテキストとして使用します。プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005433 プレゼンテーション　堺ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	堺　香奈子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005452 プレゼンテーション　日當ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	日當　ひとみ		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005453 プレゼンテーション　小出ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	小出　るみ子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005462 プレゼンテーション　足澤ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	足澤　ちか子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005464 プレゼンテーション　三浦ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	三浦　広美		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005465 プレゼンテーション　佐々木ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	佐々木　真湖		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005466 プレゼンテーション　野崎ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	野崎　悦子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005467 プレゼンテーション　山崎ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	山崎　千鶴		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005468 プレゼンテーション　工藤（瑞）ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	工藤　瑞穂		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000006001 情報処理基礎　地域共創Aクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	馬場　祥次		

学習目標(到達目標)

1.レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2.表計算でのデータを理解し適切に扱える。
3.グループウェアの活用、インターネットでの情報検索ができるようにする。

授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。
本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

課題の提出出席状況等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出してください。

参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

資格との関連

学生へのメッセージ

1.実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。テキストは随時改訂されているので必ず購入し、ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1.パーソナルコンピュータ(PC)の基本的な取り扱い	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
2	2.学術活動のためのインターネット利用	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
3	3.情報セキュリティとネチケット	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
4	4.文書処理①(Wordの基本操作)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
5	5.文書処理②(書式の設定)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
6	6.文書処理③(表作成、図の挿入)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
7	7.文書処理④(長文レポート編集と文書校閲)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
8	8.表計算データ処理①(数式、関数の利用)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
9	9.表計算データ処理②(ヒストグラムの作成)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
10	10.表計算データ処理③(様々なグラフ利用)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
11	11.表計算データ処理④(データ抽出,クロス集計)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
12	12.表計算統計分析①(基本的な統計関数:代表値)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
13	13.表計算統計分析②(散布図と相関)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。	実践した内容を再度実施する。
14	14.表計算統計分析③(回帰曲線と予測)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。	実践した内容を再度実施する。
15	15.実データ(学術データ等含む)課題演習(実データ検討)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。	実践した内容を再度実施する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000006002 情報処理基礎　地域共創B・人間健康再履修						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	馬場　祥次		

学習目標(到達目標)

1.レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2.表計算でのデータを理解し適切に扱える。
3.グループウェアの活用、インターネットでの情報検索ができるようにする。

授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。
本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

課題の提出出席状況等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出してください。

参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

資格との関連

学生へのメッセージ

1.実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。テキストは随時改訂されているので必ず購入し、ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1.パーソナルコンピュータ(PC)の基本的な取り扱い	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
2	2.学術活動のためのインターネット利用	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
3	3.情報セキュリティとネチケット	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
4	4.文書処理①(Wordの基本操作)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
5	5.文書処理②(書式の設定)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
6	6.文書処理③(表作成、図の挿入)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
7	7.文書処理④(長文レポート編集と文書校閲)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
8	8.表計算データ処理①(数式、関数の利用)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
9	9.表計算データ処理②(ヒストグラムの作成)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
10	10.表計算データ処理③(様々なグラフ利用)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
11	11.表計算データ処理④(データ抽出,クロス集計)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
12	12.表計算統計分析①(基本的な統計関数:代表値)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
13	13.表計算統計分析②(散布図と相関)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。	実践した内容を再度実施する。
14	14.表計算統計分析③(回帰曲線と予測)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。	実践した内容を再度実施する。
15	15.実データ(学術データ等含む)課題演習(実データ検討)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。	実践した内容を再度実施する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000006003 情報処理基礎　人間健康Aクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	村本　卓		

学習目標(到達目標)

1. レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2. 基本的な統計分析ができる。
3. グループウェアの活用、インターネットでの情報検索ができる。

授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

課題の提出状況等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

演習課題は、課題完成度の確認結果をフィードバックする.
成績を知りたい学生には個別に開示する.

参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

資格との関連

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
1. 実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。
ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	パーソナルコンピュータ(PC)の基本的な取り扱い	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
2	学術活動のためのインターネット利用	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
3	情報セキュリティと情報倫理	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
4	文書処理①(Wordの基本操作)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
5	文書処理②(書式の設定)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
6	文書処理③(表作成、図の挿入)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
7	文書処理④(長文レポート編集と文書校閲)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
8	表計算①(数式、関数の利用)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
9	表計算②(ヒストグラム作成)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
10	表計算③(様々なグラフ利用)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
11	表計算④(データ抽出、クロス集計)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
12	表計算統計分析①(基本的な統計関数:代表値)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
13	表計算統計分析②(散布図と相関)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
14	表計算統計分析③(回帰曲線と予測)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
15	実データ(学術データ等含む)課題演習	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000006004 情報処理基礎　人間健康Bクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

1. レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2. 表計算ソフトで基礎的計算設定やグラフの作成ができる。
3. 表計算ソフトでデータ分析ができる。

授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。

本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

課題の提出状況等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出してください。

参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

資格との関連

学生へのメッセージ

1.実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。テキストは随時改訂されているので必ず購入し、ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

実務との関連

システムエンジニアとして、コンピュータシステム会社に勤務。技術者としての経験を活かして、社会で必要とされる情報技術を解説します。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	コンピュータとネットワークの基礎知識	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
2	キャンパスグループウェアの利用方法	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
3	情報セキュリティと情報倫理 生成AI活用	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
4	文書処理①（Wordの基本操作）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
5	文書処理②（書式の設定）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
6	文書処理③（表作成、図の挿入）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
7	文書処理④（長文レポート編集と文書校閲）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
8	表計算①（数式、関数の利用）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
9	表計算②（ヒストグラム作成）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
10	表計算③（様々なグラフ利用）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
11	表計算④（データ抽出、クロス集計）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
12	表計算統計分析①（基本的な統計関数：代表値）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
13	表計算統計分析②（散布図と相関）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	実践した内容を再度実施する。
14	表計算統計分析③（回帰曲線と予測）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
15	実データ（学術データ等含む）課題演習	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000006005 情報処理基礎　看護Aクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	村本　卓		

学習目標(到達目標)

1.レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2.基礎的な統計分析ができる。
3.グループウェアの活用、インターネットでの情報検索ができるようにする。

授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

課題の提出状況等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

はちキャンWebにてコメントするとともに、次の授業でフィードバックする。

参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

資格との関連

学生へのメッセージ

・実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。
・ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	パーソナルコンピュータ(PC)の基本的な取り扱い	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
2	学術活動のためのインターネット利用	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
3	情報セキュリティとネチケット	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
4	文書処理①(Wordの基本操作)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
5	文書処理②(書式の設定)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
6	文書処理③(表作成、図の挿入)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
7	文書処理④(長文レポート編集と文書校閲)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
8	表計算データ処理①(数式、関数の利用)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
9	表計算データ処理②(ヒストグラムの作成)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
10	表計算データ処理③(様々なグラフ利用)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
11	表計算データ処理④(データ抽出,クロス集計)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
12	表計算統計分析①(基本的な統計関数:代表値)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
13	表計算統計分析②(散布図と相関)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
14	表計算統計分析③(回帰曲線と予測)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
15	実データ(学術データ等含む)課題演習(実データ検討)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000006006 情報処理基礎　看護Bクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

1. レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2. 表計算ソフトで基礎的計算設定やグラフの作成ができる。
3. 表計算ソフトでデータ分析ができる。

授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。
　本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

課題の提出状況等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

演習課題は、課題完成度の確認結果をフィードバックする.
成績を知りたい学生には個別に開示する.

参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

資格との関連

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
1. 実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。
ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	パーソナルコンピュータ(PC)の基本的な取り扱い	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
2	学術活動のためのインターネット利用	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
3	情報セキュリティと情報倫理 生成AI活用	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
4	文書処理①(Wordの基本操作)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
5	文書処理②(書式の設定)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
6	文書処理③(表作成、図の挿入)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
7	文書処理④(長文レポート編集と文書校閲)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
8	表計算①(数式、関数の利用)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
9	表計算②(ヒストグラム作成)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
10	表計算③(様々なグラフ利用)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
11	表計算④(データ抽出、クロス集計)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
12	表計算統計分析①(基本的な統計関数:代表値)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
13	表計算統計分析②(散布図と相関)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
14	表計算統計分析③(回帰曲線と予測)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
15	実データ(学術データ等含む)課題演習	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000006007 情報処理基礎　人間健康Cクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

1. レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2. 表計算ソフトで基礎的計算設定やグラフの作成ができる。
3. 表計算ソフトでデータ分析ができる。

授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。

本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

課題の提出状況等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出してください。

参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

資格との関連

学生へのメッセージ

1.実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。テキストは随時改訂されているので必ず購入し、ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

実務との関連

システムエンジニアとして、コンピュータシステム会社に勤務。技術者としての経験を活かして、社会で必要とされる情報技術を解説します。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	コンピュータとネットワークの基礎知識	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
2	キャンパスグループウェアの利用方法	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
3	情報セキュリティと情報倫理 生成AI活用	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
4	文書処理①（Wordの基本操作）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
5	文書処理②（書式の設定）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
6	文書処理③（表作成、図の挿入）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
7	文書処理④（長文レポート編集と文書校閲）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
8	表計算①（数式、関数の利用）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
9	表計算②（ヒストグラム作成）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
10	表計算③（様々なグラフ利用）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
11	表計算④（データ抽出、クロス集計）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
12	表計算統計分析①（基本的な統計関数：代表値）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
13	表計算統計分析②（散布図と相関）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	実践した内容を再度実施する。
14	表計算統計分析③（回帰曲線と予測）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
15	実データ（学術データ等含む）課題演習	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000007012 日本語リテラシー　地域共創　種市クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	種市　朋哉		

学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

資格との関連

学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス、オリエンテーション プレイスメントテスト、解答 日本語力養成(1) ・漢字の 部首と部首名について ・漢字の 読みと書き	日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。	授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。
2	日本語力養成(2) ・熟語の 構成について ・漢字の 読みと書き ・語義の 理解	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
3	日本語力養成(3) ・対義語と類義語 ・四字熟語の 読みと意味 新聞コラム 要約(1)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
4	日本語力養成(4) ・故事成語、ことわざ、成句 ・慣用 表現の 適切な 使用 新聞コラム 要約(2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
5	日本語力養成(5) ・文法「送り仮名のつけ 方」 ・敬語、授受表現 新聞コラム 要約(3)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
6	教科書 第2章(p8～) 「メール の 書き 方: 　スマートに 依頼する」 確認テスト(1/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
7	教科書 第4章(p17～) 「説明の 仕方: 　わかりやすく説明するコツ」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
8	教科書 第5章(p22～) 「新聞の 読み 方: 　信頼できる情報源」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
9	教科書 第6章(p28～) 「敬語の 使い 方: 　円滑な 人間関係を 築くために」 第7章(p32～) 「手紙の 書き 方: 　定型と 気持ち」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
10	教科書 第9章(p45～) 「問いの 立て 方: 　自分の 興味関心に 向き合う方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
11	教科書 第10章(p50～) 「情報読書の 仕方: 　あらまし読みのやり方」 ※ゲストティーチャー 招聘予定	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 あらまし読みに必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
12	教科書 第12章(p61～) 「構成の 仕方: 　接続語を 活かす 方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
13	教科書 第14章(p71～) 「論文・レポートの 表現: 　記号とかなと漢字」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
14	教科書 第15章(p77～) 「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉: 　論文特有の 言葉」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
15	教科書 第16章(p82～) 「文の 乱れへの 対応: 　正解を 知って 正しく書く」 確認テスト(2/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000007013 日本語リテラシー　地域共創　嶋クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	嶋　雅樹		

学習目標(到達目標)

1　社会生活において使用される常用漢字を中心とした漢字、熟語等の読み、書き、意味を理解し、適切に使用できる。
2　一般的な四字熟語、慣用句、故事成語、ことわざ、格言の読み意味を理解し、適切に使用できる。

授業概要(教育目的)

日本語リテラシーはコミュニケーションスキルの向上を目指し、その基礎である日本語の理解、運用能力を身につけることを目的としている。その目的を達成するため、表記と表記符号、送りがなの付け方、筆順の原則、漢字の部首と部首名を始めとして、常用漢字・熟語、同音異義語、同訓異義語、対義語、類義語、四字熟語、故事成語、ことわざ、慣用句の読み、書き、意味、用法について演習を取り入れながら学修する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

小テスト、授業中の発表・発言などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験(小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

なし。

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子/中﨑温子/仲道雅輝/湯川治敏/小松川浩編　ナカニシヤ出版)

資格との関連

学生へのメッセージ

日本語の基礎・基本を学び直し定着させていくことは、単に職業人としての自分に寄与するばかりではなく、生涯学習の観点からも大変意義のあることです。言語生活を豊かにして人生の幅を広げる意味からも、意欲を持って授業に臨んで欲しいと思います。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション 漢字検定3級の 問題演習と解説(1)	これまでの 漢字学習への 取り組み 状況を振り返る。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
2	漢字の 部首と部首名、筆順について ・漢字の 主な 部首、筆順についての 確認と演習 ・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(1)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
3	熟語の 構成について ・熟語の 構成についての 確認と演習 ・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(2)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
4	対義語と類義語について ・対義語と類義語についての 確認と演習 ・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(3)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
5	同訓・同音異義語について ・同訓・同音異義語についての 確認と演習 ・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(4)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
6	前時までの復習と小テスト(1)	前回までの 配布資料を 読み 直し、理解不足の 漢字・熟語、用法などに 習熟する。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
7	四字熟語の 解説と演習(1) ・主な四字熟語の 解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
8	四字熟語の 解説と演習(2) ・主な四字熟語の 解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
9	四字熟語の 解説と演習(3) ・四字熟語についての 演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
10	前時までの復習と小テスト(2)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
11	故事成語・ことわざ、慣用句の 解説と演習(1) ・故事成語・ことわざ、慣用句についての 解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
12	故事成語・ことわざ、慣用句の 解説と演習(2) ・故事成語・ことわざ、慣用句についての 解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
13	故事成語・ことわざ、慣用句の 解説と演習(3) ・故事成語・ことわざ、慣用句についての 解説と演習 ・好きな故事成語・ことわざ、慣用句について	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
14	前時までの復習と小テスト(3)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
15	漢字検定3級問題演習と解説(2)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000007014 日本語リテラシー　人間健康　種市クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	種市　朋哉		

学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

資格との関連

学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス、オリエンテーション プレイスメントテスト、解答 日本語力養成(1) ・漢字の 部首と部首名について ・漢字の 読みと書き	日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。	授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。
2	日本語力養成(2) ・熟語の 構成について ・漢字の 読みと書き ・語義の 理解	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
3	日本語力養成(3) ・対義語と類義語 ・四字熟語の 読みと意味 新聞コラム 要約(1)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
4	日本語力養成(4) ・故事成語、ことわざ、成句 ・慣用 表現の 適切な 使用 新聞コラム 要約(2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
5	日本語力養成(5) ・文法「送り仮名のつけ 方」 ・敬語、授受表現 新聞コラム 要約(3)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
6	教科書 第2章(p8～) 「メール の 書き 方: スマートに 依頼する」 確認テスト(1/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
7	教科書 第4章(p17～) 「説明の 仕方: わかりやすく説明するコツ」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
8	教科書 第5章(p22～) 「新聞の 読み 方: 信頼できる情報源」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
9	教科書 第6章(p28～) 「敬語の 使い 方: 円滑な 人間関係を 築くために」 第7章(p32～) 「手紙の 書き 方: 定型と 気持ち」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
10	教科書 第9章(p45～) 「問いの 立て 方: 自分の 興味関心に 向き合う方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
11	教科書 第10章(p50～) 「情報読書の 仕方: あらまし 読みのやり 方」 ※ゲストティーチャー 招聘予定	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 あらまし 読みに 必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
12	教科書 第12章(p61～) 「構成の 仕方: 接続語を 活かす 方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
13	教科書 第14章(p71～) 「論文・レポートの 表現: 記号とかなと漢字」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
14	教科書 第15章(p77～) 「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉: 論文特有の 言葉」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
15	教科書 第16章(p82～) 「文の 乱れへの 対応: 正解を 知って 正しく書く」 確認テスト(2/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000007015 日本語リテラシー　人間健康　嶋クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	嶋　雅樹		

学習目標(到達目標)

1　社会生活において使用される常用漢字を中心とした漢字、熟語等の読み、書き、意味を理解し、適切に使用できる。
2　一般的な四字熟語、慣用句、故事成語、ことわざ、格言の読み意味を理解し、適切に使用できる。

授業概要(教育目的)

日本語リテラシーはコミュニケーションスキルの向上を目指し、その基礎である日本語の理解、運用能力を身につけることを目的としている。その目的を達成するため、表記と表記符号、送りがなの付け方、筆順の原則、漢字の部首と部首名を始めとして、常用漢字・熟語、同音異義語、同訓異義語、対義語、類義語、四字熟語、故事成語、ことわざ、慣用句の読み、書き、意味、用法について演習を取り入れながら学修する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

小テスト、授業中の発表・発言などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験(小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

なし。

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子/中﨑温子/仲道雅輝/湯川治敏/小松川浩編　ナカニシヤ出版)

資格との関連

学生へのメッセージ

日本語の基礎・基本を学び直し定着させていくことは、単に職業人としての自分に寄与するばかりではなく、生涯学習の観点からも大変意義のあることです。言語生活を豊かにして人生の幅を広げる意味からも、意欲を持って授業に臨んで欲しいと思います。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション 漢字検定3級の 問題演習と解説(1)	これまでの 漢字学習への 取り組み 状況を振り返る。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
2	漢字の 部首と部首名、筆順について ・漢字の 主な 部首、筆順についての 確認と演習 ・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(1)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
3	熟語の 構成について ・熟語の 構成についての 確認と演習 ・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(2)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
4	対義語と類義語について ・対義語と類義語についての 確認と演習 ・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(3)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
5	同訓・同音異義語について ・同訓・同音異義語についての 確認と演習 ・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(4)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
6	前時までの復習と小テスト(1)	前回までの 配布資料を 読み 直し、理解不足の 漢字・熟語、用法などに 習熟する。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
7	四字熟語の 解説と演習(1) ・主な四字熟語の 解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
8	四字熟語の 解説と演習(2) ・主な四字熟語の 解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
9	四字熟語の 解説と演習(3) ・四字熟語についての 演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
10	前時までの復習と小テスト(2)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
11	故事成語・ことわざ、慣用句の 解説と演習(1) ・故事成語・ことわざ、慣用句についての 解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
12	故事成語・ことわざ、慣用句の 解説と演習(2) ・故事成語・ことわざ、慣用句についての 解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
13	故事成語・ことわざ、慣用句の 解説と演習(3) ・故事成語・ことわざ、慣用句についての 解説と演習 ・好きな故事成語・ことわざ、慣用句について	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
14	前時までの復習と小テスト(3)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
15	漢字検定3級問題演習と解説(2)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000007016 日本語リテラシー　看護　種市クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	種市　朋哉		

学習目標(到達目標)

1　社会生活において使用される常用漢字を中心とした漢字、熟語等の読み、書き、意味を理解し、適切に使用できる。
2　一般的な四字熟語、慣用句、故事成語、ことわざ、格言の読み意味を理解し、適切に使用できる。

授業概要(教育目的)

日本語リテラシーはコミュニケーションスキルの向上を目指し、その基礎である日本語の理解、運用能力を身につけることを目的としている。その目的を達成するため、表記と表記符号、送りがなの付け方、筆順の原則、漢字の部首と部首名を始めとして、常用漢字・熟語、同音異義語、同訓異義語、対義語、類義語、四字熟語、故事成語、ことわざ、慣用句の読み、書き、意味、用法について演習を取り入れながら学修する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

小テスト、授業中の発表・発言などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験(小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

なし。

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子/中﨑温子/仲道雅輝/湯川治敏/小松川浩編　ナカニシヤ出版)

資格との関連

学生へのメッセージ

日本語の基礎・基本を学び直し定着させていくことは、単に職業人としての自分に寄与するばかりではなく、生涯学習の観点からも大変意義のあることです。言語生活を豊かにして人生の幅を広げる意味からも、意欲を持って授業に臨んで欲しいと思います。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション 漢字検定3級の問題演習と解説(1)	これまでの漢字学習への取り組み状況を振り返る。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
2	漢字の読み・書きについて ・漢字の部首と部首名について ・漢字・熟語の読み方と書き取り(2)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
3	熟語の構成について ・漢字・熟語の読み方と書き取(3)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
4	対義語と類義語について ・対義語と類義語についての確認と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
5	四字熟語・ことわざ成句について 四字熟語・ことわざ成句の確認と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
6	前時までの復習と小テスト(1)	前回までの授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語、用法などに習熟する。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
7	表記・文法・敬語についての解説と演習(1)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
8	表記・文法・敬語についての解説と演習(2)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
9	表記・文法・敬語についての解説と演習(3)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
10	前時までの復習と小テスト(2)	前回までの授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
11	短文読解の解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
12	長文読解の解説と演習(2) ・故事成語・ことわざ、慣用句についての解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
13	図表読解の解説と演習(3)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
14	前時までの復習と小テスト(3)	前回までの授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
15	漢字検定3級問題演習と解説(2)	これまでの授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。	授業内容を整理して、授業の成果を確認する。

講義名	1000008011 日本語表現リテラシー地域共創 種市クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	種市　朋哉		

学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

資格との関連

学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス、オリエンテーション プレイスメントテスト、解答 日本語力養成(1) ・漢字の 部首と部首名について ・漢字の 読みと書き	日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。	授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。
2	日本語力養成(2) ・熟語の 構成について ・漢字の 読みと書き ・語義の 理解	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
3	日本語力養成(3) ・対義語と類義語 ・四字熟語の 読みと意味 新聞コラム 要約(1)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
4	日本語力養成(4) ・故事成語、ことわざ、成句 ・慣用 表現の 適切な 使用 新聞コラム 要約(2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
5	日本語力養成(5) ・文法「送り仮名のつけ 方」 ・敬語、授受表現 新聞コラム 要約(3)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
6	教科書 第2章(p8～) 「メール の 書き 方: スマートに 依頼する」 確認テスト(1/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
7	教科書 第4章(p17～) 「説明の 仕方: わかりやすく説明するコツ」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
8	教科書 第5章(p22～) 「新聞の 読み 方: 信頼できる情報源」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
9	教科書 第6章(p28～) 「敬語の 使い 方: 円滑な 人間関係を 築くために」 第7章(p32～) 「手紙の 書き 方: 定型と 気持ち」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
10	教科書 第9章(p45～) 「問いの 立て 方: 自分の 興味関心に 向き合う方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
11	教科書 第10章(p50～) 「情報読書の 仕方: あらまし 読みのやり 方」 ※ゲストティーチャー 招聘予定	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 あらまし 読みに 必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
12	教科書 第12章(p61～) 「構成の 仕方: 接続語を 活かす 方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
13	教科書 第14章(p71～) 「論文・レポートの 表現: 記号とかなと漢字」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
14	教科書 第15章(p77～) 「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉: 論文特有の 言葉」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
15	教科書 第16章(p82～) 「文の 乱れへの 対応: 正解を 知って 正しく書く」 確認テスト(2/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。

講義名	1000008012 日本語表現リテラシー地域共創 嶋クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	種市 朋哉		

学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

資格との関連

学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス、オリエンテーション プレイスメントテスト、解答 日本語力養成(1) ・漢字の 部首と部首名について ・漢字の 読みと書き	日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。	授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。
2	日本語力養成(2) ・熟語の 構成について ・漢字の 読みと書き ・語義の 理解	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
3	日本語力養成(3) ・対義語と類義語 ・四字熟語の 読みと意味 新聞コラム 要約(1)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
4	日本語力養成(4) ・故事成語、ことわざ、成句 ・慣用 表現の 適切な 使用 新聞コラム 要約(2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
5	日本語力養成(5) ・文法「送り仮名のつけ 方」 ・敬語、授受表現 新聞コラム 要約(3)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
6	教科書 第2章(p8～) 「メール の 書き 方: スマートに 依頼する」 確認テスト(1/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
7	教科書 第4章(p17～) 「説明の 仕方: わかりやすく説明するコツ」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
8	教科書 第5章(p22～) 「新聞の 読み 方: 信頼できる情報源」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
9	教科書 第6章(p28～) 「敬語の 使い 方: 円滑な 人間関係を 築くために」 第7章(p32～) 「手紙の 書き 方: 定型と 気持ち」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
10	教科書 第9章(p45～) 「問いの 立て 方: 自分の 興味関心に 向き合う方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
11	教科書 第10章(p50～) 「情報読書の 仕方: あらまし 読みのやり 方」 ※ゲストティーチャー 招聘予定	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 あらまし 読みに 必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
12	教科書 第12章(p61～) 「構成の 仕方: 接続語を 活かす 方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
13	教科書 第14章(p71～) 「論文・レポートの 表現: 記号とかなと漢字」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
14	教科書 第15章(p77～) 「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉: 論文特有の 言葉」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
15	教科書 第16章(p82～) 「文の 乱れへの 対応: 正解を 知って 正しく書く」 確認テスト(2/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000008013 日本語表現リテラシー人間健康 三上クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	三上 幾子		

学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

定期試験および提出課題、確認テスト、授業中の発表・発言などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験(小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

資格との関連

学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わってきたことから、その知見を活かして、読解力、思考力、表現力を養成し、的確で論理的な文章能力を身につけることができるよう講義を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス、オリエンテーション プレイスメントテスト、解答 日本語力養成(1) ・漢字の 部首と部首名について ・漢字の 読みと書き	日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。	授業内容を 整理して、学習内容をまとめる。
2	日本語力養成(2) ・熟語の 構成について ・漢字の 読みと書き ・語義の 理解	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
3	日本語力養成(3) ・対義語と類義語 ・四字熟語の 読みと意味 新聞コラム 要約(1)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
4	〃日本語力養成(4) ・故事成語、ことわざ、成句 ・慣用 表現の 適切な 使用 新聞コラム 要約(2)〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
5	〃日本語力養成(5) ・文法「送り仮名のつけ 方」 ・敬語、授受表現 新聞コラム 要約(3)〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
6	〃教科書 第2章(p8～) 「メール の 書き 方: スマートに 依頼する」 確認テスト(1/2)〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
7	〃教科書 第4章(p17～) 「説明の 仕方: わかりやすく説明するコツ」〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
8	〃教科書 第5章(p22～) 「新聞の 読み 方: 信頼できる情報源」〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
9	〃教科書 第6章(p28～) 「敬語の 使い 方: 円滑な 人間関係を 築くために」 第7章(p32～) 「手紙の 書き 方: 定型と 気持ち」〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
10	〃教科書 第9章(p45～) 「問いの 立て 方: 自分の 興味関心に 向き合う方法」〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
11	〃教科書 第10章(p50～) 「情報読書の 仕方: あらまし 読みのやり 方」 ※ゲストティーチャー 招聘予定〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
12	〃教科書 第12章(p61～) 「構成の 仕方: 接続語を 活かす 方法」〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 あらまし 読みに 必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
13	〃教科書 第14章(p71～) 「論文・レポートの 表現: 記号とかなと 漢字」〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
14	〃教科書 第15章(p77～) 「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉: 論文特有の 言葉」〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
15	〃教科書 第16章(p82～) 「文の 乱れへの 対応: 正解を 知って 正しく書く」 確認テスト(2/2)〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000008014 日本語表現リテラシー人間健康 嶋クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	種市　朋哉		

学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

資格との関連

学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス、オリエンテーション プレイスメントテスト、解答 日本語力養成(1) ・漢字の 部首と部首名について ・漢字の 読みと書き	日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。	授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。
2	日本語力養成(2) ・熟語の 構成について ・漢字の 読みと書き ・語義の 理解	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
3	日本語力養成(3) ・対義語と類義語 ・四字熟語の 読みと意味 新聞コラム 要約(1)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
4	日本語力養成(4) ・故事成語、ことわざ、成句 ・慣用 表現の 適切な 使用 新聞コラム 要約(2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
5	日本語力養成(5) ・文法「送り仮名のつけ 方」 ・敬語、授受表現 新聞コラム 要約(3)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
6	教科書 第2章(p8～) 「メール の 書き 方: 　スマートに 依頼する」 確認テスト(1/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
7	教科書 第4章(p17～) 「説明の 仕方: 　わかりやすく説明するコツ」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
8	教科書 第5章(p22～) 「新聞の 読み 方: 　信頼できる情報源」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
9	教科書 第6章(p28～) 「敬語の 使い 方: 　円滑な 人間関係を 築くために」 第7章(p32～) 「手紙の 書き 方: 　定型と 気持ち」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
10	教科書 第9章(p45～) 「問いの 立て 方: 　自分の 興味関心に 向き合う方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
11	教科書 第10章(p50～) 「情報読書の 仕方: 　あらまし 読みのやり 方」 ※ゲストティーチャー 招聘予定	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 あらまし 読みに 必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
12	教科書 第12章(p61～) 「構成の 仕方: 　接続語を 活かす 方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
13	教科書 第14章(p71～) 「論文・レポートの 表現: 　記号とかなと漢字」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
14	教科書 第15章(p77～) 「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉: 　論文特有の 言葉」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
15	教科書 第16章(p82～) 「文の 乱れへの 対応: 　正解を 知って 正しく書く」 確認テスト(2/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。

講義名	1000008015 日本語表現リテラシー看護 嶋クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	種市 朋哉		

学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

資格との関連

学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス、オリエンテーション プレイスメントテスト、解答 日本語力養成(1) ・漢字の 部首と部首名について ・漢字の 読みと書き	日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。	授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。
2	日本語力養成(2) ・熟語の 構成について ・漢字の 読みと書き ・語義の 理解	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
3	日本語力養成(3) ・対義語と類義語 ・四字熟語の 読みと意味 新聞コラム 要約(1)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
4	日本語力養成(4) ・故事成語、ことわざ、成句 ・慣用 表現の 適切な 使用 新聞コラム 要約(2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
5	日本語力養成(5) ・文法「送り仮名のつけ 方」 ・敬語、授受表現 新聞コラム 要約(3)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
6	教科書 第2章(p8～) 「メール の 書き 方: スマートに 依頼する」 確認テスト(1/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
7	教科書 第4章(p17～) 「説明の 仕方: わかりやすく説明するコツ」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
8	教科書 第5章(p22～) 「新聞の 読み 方: 信頼できる情報源」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
9	教科書 第6章(p28～) 「敬語の 使い 方: 円滑な 人間関係を 築くために」 第7章(p32～) 「手紙の 書き 方: 定型と 気持ち」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
10	教科書 第9章(p45～) 「問いの 立て 方: 自分の 興味関心に 向き合う方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
11	教科書 第10章(p50～) 「情報読書の 仕方: あらまし読みのやり方」 ※ゲストティーチャー 招聘予定	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 あらまし読みに必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
12	教科書 第12章(p61～) 「構成の 仕方: 接続語を 活かす 方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
13	教科書 第14章(p71～) 「論文・レポートの 表現: 記号とかなと漢字」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
14	教科書 第15章(p77～) 「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉: 論文特有の 言葉」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
15	教科書 第16章(p82～) 「文の 乱れへの 対応: 正解を 知って 正しく書く」 確認テスト(2/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000008016 日本語表現リテラシー看護 種市クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	種市 朋哉		

学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

資格との関連

学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス、オリエンテーション プレイスメントテスト、解答 日本語力養成(1) ・漢字の 部首と部首名について ・漢字の 読みと書き	日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。	授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。
2	日本語力養成(2) ・熟語の 構成について ・漢字の 読みと書き ・語義の 理解	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
3	日本語力養成(3) ・対義語と類義語 ・四字熟語の 読みと意味 新聞コラム 要約(1)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
4	日本語力養成(4) ・故事成語、ことわざ、成句 ・慣用 表現の 適切な 使用 新聞コラム 要約(2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
5	日本語力養成(5) ・文法「送り仮名のつけ 方」 ・敬語、授受表現 新聞コラム 要約(3)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
6	教科書 第2章(p8～) 「メール の 書き 方: スマートに 依頼する」 確認テスト(1/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
7	教科書 第4章(p17～) 「説明の 仕方: わかりやすく説明するコツ」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
8	教科書 第5章(p22～) 「新聞の 読み 方: 信頼できる情報源」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
9	教科書 第6章(p28～) 「敬語の 使い 方: 円滑な 人間関係を 築くために」 第7章(p32～) 「手紙の 書き 方: 定型と 気持ち」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
10	教科書 第9章(p45～) 「問いの 立て 方: 自分の 興味関心に 向き合う方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
11	教科書 第10章(p50～) 「情報読書の 仕方: あらまし読みのやり方」 ※ゲストティーチャー 招聘予定	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 あらまし読みに必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
12	教科書 第12章(p61～) 「構成の 仕方: 接続語を 活かす 方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
13	教科書 第14章(p71～) 「論文・レポートの 表現: 記号とかなと漢字」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
14	教科書 第15章(p77～) 「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉: 論文特有の 言葉」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
15	教科書 第16章(p82～) 「文の 乱れへの 対応: 正解を 知って 正しく書く」 確認テスト(2/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000009001 英語Ⅰ（地域共創）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

学期の終了までに英語の使用を通じて、グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など、自分自身の能力向上ができる。

授業概要(教育目的)

この講義は、タスクを中心にする授業で、英語自体が目的ではなく、英語をコミュニケーションの手段として、コミュニケーション力をアップする事を目的とする。いろいろな形式を用いながら、グループで、タスクの価値を考え、計画し、その内容を分析する。決められたタスクをやり遂げることにより、流暢な英語のコミュニケーションを身につけ、学内でも学外でも使える実用的なコミュニケーションスキルアップを図る。クラス外ではオンライン英語教材「English Central」を勉強し、単語を覚える、内容を理解するかたも必要とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

講義内での積極的な参加、小テスト、宿題、タスクを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。
＊再試験は実施しない。

課題に対するフィードバック

オンライン教材でのユーセージデーターはいつもアクセスがある。提示する課題を返し

講義時使用テキスト

「English Central アカデミックプレミアム 12カ月」(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)

＊「English Central」オンライン教材については「参考文献」を必ず読むこと。

参考文献は全て授業中に紹介する。
アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

参考文献

春学期の英語Iと秋学期の英語IIには「English Central」オンライン教材(予約購読サービス)が必要。

(6ヶ月間または1年間の予約購読になりますが、春学期の英語Iと秋学期の英語II両方登録学生は1年間の予約購読になる)
(英語I受けなかった場合、英語IIのみの登録学生は6ヶ月間の予約購読になる)

「English Central」の登録の仕方は講義中に指導する。

参考文献は全て授業中に紹介する。英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

学生へのメッセージ

講義中では積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。何度も言うようだが、積極性と責任が求められる。成績も第1日目から評価するので、初日から必ず出席すること。
インターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を講義毎回持参すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	A: Class and Online Systems Explanation B: Communication Activity	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	Entertainment ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	Entertainment ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	Entertainment ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	Sports ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	Sports ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	Sports ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	Technology and Science ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Technology and Science ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	Technology and Science ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	Technology and Science ④ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	Travel and Culture ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Travel and Culture ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	Travel and Culture ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Discuss and Review D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	Travel and Culture ④ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Discuss and Review D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000009002 英語Ⅰ　Aクラス（人間健康・看護）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科/看護学科			担当教員	バリー・H・グロスマン		

学習目標(到達目標)

学期の終了までに英語の使用を通じて、アクティブラーニング法(グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など)自分自身の能力向上ができる。

学習者のリスニング能力を伸ばすことに焦点を当てた、魅力的でインタラクティブな活動を通して、英語力を高めることを目的としています。主な目的は、生徒が積極的に参加し、本物の英語音声教材に没頭できる環境を作り、最終的に理解力を養い、総合的な語学力を高めることです。

授業概要(教育目的)

この講義は、タスクを中心にする授業で、このコースでは、異なる国と都市を題材に、実際の旅行動画を通じて世界の文化を紹介します。毎週、リスニング理解、語彙力強化、コミュニケーション課題を取り入れ、グローバルな文化を学びながら英語を実践的に練習します。このコース終了時までに、学生は以下のことができるようになります:

- 観光名所やアクティビティを英語で理解し説明できる
- 比較級・最上級を用いて様々な場所について議論できる
- 個人の旅行嗜好ポートフォリオを作成できる
- 構造化されたスピーキング・ライティング課題を通じて自信を持って表現できる

クラス外ではオンライン英語教材「English Central」を勉強し、単語を覚える、内容を理解するかだも必要とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

講義内での積極的な参加、宿題、タスクを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。
＊再試験は実施しない。

成績詳細:
①授業の課題　＝　50%
②宿題(English Central) ＝50%

課題に対するフィードバック

オンライン教材でのユーセージデーターはいつもアクセスできる。提示する課題を返し

参考文献

講義時使用テキスト

「English Central アカデミックプレミアム 12カ月」(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)

授業中にはインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。
英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。

資格との関連

学生へのメッセージ

講義中では積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。成績も第1日目から評価するので、初日から必ず出席すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	Class Explanation & Communication Activity	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	Japan, Tokyo Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	Portugal, Lisbon Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	Jordan Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	USA, Yellowstone National Park Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	France, Paris Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	Review and Follow-up	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	United Kingdom, London Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Italy, Rome Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	Australia, Sydney Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	Mexico, Cancun Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	Thailand, Bangkok Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Canada, Vancouver Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000009003 英語Ⅰ　Bクラス（人間健康・看護）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科/看護学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

学期の終了までに英語の使用を通じて、グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など、自分自身の能力向上ができる。

授業概要(教育目的)

この講義は、タスクを中心にする授業で、英語自体が目的ではなく、英語をコミュニケーションの手段として、コミュニケーション力をアップする事を目的とする。いろいろな形式を用いながら、グループで、タスクの価値を考え、計画し、その内容を分析する。決められたタスクをやり遂げることにより、流暢な英語のコミュニケーションを身につけ、学内でも学外でも使える実用的なコミュニケーションスキルアップを図る。クラス外ではオンライン英語教材「English Central」を勉強し、単語を覚える、内容を理解するかども必要とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

講義内での積極的な参加、小テスト、宿題、タスクを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。
＊再試験は実施しない。

課題に対するフィードバック

オンライン教材でのユーセージデーターはいつもアクセスがある。提示する課題を返し

講義時使用テキスト

「English Central アカデミックプレミアム 12カ月」(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)

＊「English Central」オンライン教材については「参考文献」を必ず読むこと。

参考文献は全て授業中に紹介する。
インターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

参考文献

春学期の英語Iと秋学期の英語IIには「English Central」オンライン教材(予約購読サービス)が必要。

(6ヶ月間または1年間の予約購読になりますが、春学期の英語Iと秋学期の英語II両方登録学生は1年間の予約購読になる)
(英語I受けなかった場合、英語IIのみの登録学生は6ヶ月間の予約購読になる)

「English Central」の登録の仕方は講義中に指導する。

参考文献は全て授業中に紹介する。英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

学生へのメッセージ

講義中では積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。何度も言うようだが、積極性と責任が求められる。成績も第1日目から評価するので、初日から必ず出席すること。

実務との関連

アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	A: Class and Online Systems Explanation B: Communication Activity	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	Entertainment ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	Entertainment ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	Entertainment ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	Sports ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	Sports ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	Sports ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	Technology and Science ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Technology and Science ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	Technology and Science ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	Technology and Science ④ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	Travel and Culture ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Travel and Culture ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	Travel and Culture ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Discuss and Review D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	Travel and Culture ④ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Discuss and Review D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

講義名	1000009004 英語Ⅰ　Cクラス（人間健康・看護）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科/看護学科			担当教員	三浦　文恵		

学習目標(到達目標)

日常生活で頻出する言葉やフレーズを学び、コミュニケーション能力の向上と基礎学力の定着を図る。

1. ネイティブスピーカーがナチュラルスピードで話す英語を理解できる。
2. ネイティブスピーカーが日常生活で使う身近な英語表現を使える。
3. ネイティブスピーカーの発想に基づいた表現ができる。

授業概要(教育目的)

主に、基礎文法、リスニング、ライティングの演習を行う。また授業では、会話や話す演習を行い、声を出す事を目的に活きた英語を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験の結果をベースに、授業態度、課題の提出状況などを考慮し総合的に評価する。特に、講義に積極的に臨む姿勢を重視する。

課題に対するフィードバック

試験や課題の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

必要に応じて授業で紹介する。

講義時使用テキスト

Peter Vincent/Naoko Nakazato/Alan Meadows 著「Speaking of People」南雲堂

資格との関連

各種英語検定試験受検の希望者には役立つ内容である。

学生へのメッセージ

日頃から英語を聞き、耳を慣らしておくとよい。暮らしの中における英語表記に興味をもち、注意して見るようにしましょう。

実務との関連

留学・通訳・翻訳の実務経験を活かし話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. Self Introduction (Presentation)	自分のことを英語でクラスに紹介できるよう、これまで 学んだ 単語やフレーズを確認しておく。	自分の紹介を思い通りにできたかを振り返り、うまくできなかった部分の単語やフレーズを確認しておく。
2	2. Warm-up Unit Welcome to English Class! (Presentation)	これまで学んだ英単語やフレーズを確認しておく。クラスでの 自分のニックネームを考えておく。	これまで学んだ英単語やフレーズでうまくできなかった部分を確認しておく。
3	3. Unit 1 Speaking About Yourself ①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
4	4. Unit 1 Speaking About Yourself ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
5	5. Unit 2 What Do You Do? ①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
6	6. Unit 2 What Do You Do? ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
7	7. Unit 3 What Does He Look Like? ①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
8	8. Unit 3 What Does He Look Like? ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
9	9. Review Units 1-3	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
10	10. Unit 4 Where Are You From? ①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
11	11. Unit 4 Where Are You From? ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
12	12. Unit 5 Likes and Dislikes ①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
13	13. Unit 5 Likes and Dislikes ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
14	14. Unit 6 What's She Like? ①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
15	15. アメリカと日本の生活・風習・文化の違いについて(ゲストティーチャー)	インターネットや文献で、アメリカ人の生活や文化について調べておく。疑問に思う事を質問として用意する。	内容をまとめ、疑問点に対する答えを含めレポートに書く。

講義名	1000010001 英語Ⅱ（地域共創）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	バリー・H・グロスマン		

学習目標（到達目標）

学期の終了までに英語の使用を通じて、アクティブラーニング法（グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など）自分自身の能力向上ができる。

学習者のリスニング能力を伸ばすことに焦点を当てた、魅力的でインタラクティブな活動を通して、英語力を高めることを目的としています。主な目的は、生徒が積極的に参加し、本物の英語音声教材に没頭できる環境を作り、最終的に理解力を養い、総合的な語学力を高めることです。

授業概要（教育目的）

この講義は、タスクを中心にする授業で、このコースでは、異なる国と都市を題材に、実際の旅行動画を通じて世界の文化を紹介します。毎週、リスニング理解、語彙力強化、コミュニケーション課題を取り入れ、グローバルな文化を学びながら英語を実践的に練習します。このコース終了時までに、学生は以下のことができるようになります：
・観光名所やアクティビティを英語で理解し説明できる
・比較級・最上級を用いて様々な場所について議論できる
・個人の旅行嗜好ポートフォリオを作成できる
・構造化されたスピーキング・ライティング課題を通じて自信を持って表現できる

クラス外ではオンライン英語教材「English Central」を勉強し、単語を覚える、内容を理解するかだも必要とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

講義内での積極的な参加、宿題、提出期限の厳守、タスクを総合的に評価する。
＊再試験は実施しない。

詳細：
①クラス中の課題 = 50%
②宿題（English Central）= 50%

課題に対するフィードバック

オンライン教材でのユーセージデーターはいつもアクセスできる。提示する課題を返し

参考文献

講義時使用テキスト

「English Central」オンライン教材（6ヶ月間；英語Ⅰを受けなかった場合）
インターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。
英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。

資格との関連

学生へのメッセージ

[履修上の注意]
覚えておかなければならないのは、講義中は、積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。
タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。何度も言うようだが、積極性と責任が求められる。成績も第1日目から評価する。

AIの倫理的な利用は、一定の条件のもとで認められています。このため、全ての学生はAI利用許可申請書を手出しなければなりません。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	A: Class and Online Systems Explanation B: Communication Activity: introductions	Warm-up	Closing
2	Japan, Tokyo Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
3	Portugal, Lisbon Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
4	Jordan Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
5	USA, Yellowstone National Park Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
6	France, Paris Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
7	Review and Follow-up	Warm-up	Closing
8	United Kingdom, London Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
9	taly, Rome Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
10	Australia, Sydney Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
11	Mexico, Cancun Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
12	Thailand, Bangkok Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
13	Canada, Vancouver Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
14	United Arab Emirates, Dubai Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000010002 英語Ⅱ　Aクラス（人間健康・看護）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科/看護学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

学期の終了までに英語の使用を通じて、グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など、自分自身の能力向上ができる。

授業概要(教育目的)

この講義は、タスクを中心にする授業で、英語自体が目的ではなく、英語をコミュニケーションの手段として、コミュニケーション力をアップする事を目的とする。いろいろな形式を用いながら、グループで、タスクの価値を考え、計画し、その内容を分析する。決められたタスクをやり遂げることにより、流暢な英語のコミュニケーションを身につけ、学内でも学外でも使える実用的なコミュニケーションスキルアップを図る。クラス外ではオンライン英語教材「English Central」を勉強し、単語を覚える、内容を理解するかども必要とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

講義内での積極的な参加、小テスト、宿題、タスクを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。
＊再試験は実施しない。

課題に対するフィードバック

オンライン教材でのユーセージデーターはいつもアクセスがある。提示する課題を返し

講義時使用テキスト

「English Central アカデミックプレミアム」(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)

＊「English Central」オンライン教材については「参考文献」を必ず読むこと。

参考文献は全て授業中に紹介する。
アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

参考文献

春学期の英語Iと秋学期の英語IIには「English Central」オンライン教材(予約購読サービス)が
必要。
(6ヶ月間または1年間の予約購読になりますが、春学期の英語Iと秋学期の英語II両方登録学生は1
年間の予約購読になる)
(英語I受けなかった場合、英語IIのみの登録学生は6ヶ月間の予約購読になる)
「English Central」の登録の仕方は講義中に指導する。
参考文献は全て授業中に紹介する。英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

学生へのメッセージ

講義中では積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。何度も言うようだが、積極
性と責任が求められる。成績も第1日目から評価するので、初日から必ず出席すること。
インターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を講義毎回持参すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	A: Class and Online Systems Explanation B: Communication Activity	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	Health and Food ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	Health and Food ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	Health and Food ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	Health and Food ④ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	Environment and Nature ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	Environment and Nature ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	Environment and Nature ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Environment and Nature ④ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	Politics and Crime ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	Politics and Crime ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	Politics and Crime ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Social Sciences ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	Social Sciences ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	Social Sciences ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

講義名	1000010003 英語Ⅱ　Bクラス（人間健康・看護）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科/看護学科			担当教員	バリー・H・グロスマン		

学習目標（到達目標）

期の終了までに英語の使用を通じて、アクティブラーニング法（グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など）自分自身の能力向上ができる。

学習者のリスニング能力を伸ばすことに焦点を当てた、魅力的でインタラクティブな活動を通して、英語力を高めることを目的としています。主な目的は、生徒が積極的に参加し、本物の英語音声教材に没頭できる環境を作り、最終的に理解力を養い、総合的な語学力を高めることです。

授業概要（教育目的）

この講義は、タスクを中心にする授業で、このコースでは、異なる国と都市を題材に、実際の旅行動画を通じて世界の文化を紹介します。毎週、リスニング理解、語彙力強化、コミュニケーション課題を取り入れ、グローバルな文化を学びながら英語を実践的に練習します。このコース終了時までに、学生は以下のことができるようになります：
・観光名所やアクティビティを英語で理解し説明できる
・比較級・最上級を用いて様々な場所について議論できる
・個人の旅行嗜好ポートフォリオを作成できる
・構造化されたスピーキング・ライティング課題を通じて自信を持って表現できる

クラス外ではオンライン英語教材「English Central」を勉強し、単語を覚える、内容を理解するかだも必要とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

講義内での積極的な参加、宿題、タスクを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。
＊再試験は実施しない。

成績詳細：
①授業の課題　＝　50%
②宿題（English Central）＝50%

課題に対するフィードバック

オンライン教材でのユーセージデーターはいつもアクセスがある。提示する課題を返し

講義時使用テキスト

「English Central アカデミックプレミアム 12カ月」（予約購読サービスのオンラインアクセスカード）
＊「English Central」オンライン教材については「参考文献」を必ず読むこと。

参考文献は全て授業中に紹介する。
英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

参考文献

春学期の英語Ⅰと秋学期の英語Ⅱには「English Central」オンライン教材（予約購読サービス）が必要。

（6ヶ月間または1年間の予約購読になりますが、春学期の英語Ⅰと秋学期の英語Ⅱ両方登録学生は1年間の予約購読になる）
（英語Ⅰ受けなかった場合、英語Ⅱのみの登録学生は6ヶ月間の予約購読になる）

「English Central」の登録の仕方は講義中に指導する。

参考文献は全て授業中に紹介する。英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

学生へのメッセージ

講義中では積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。何度も言うようだが、積極性と責任が求められる。成績も第1日目から評価するので、初日から必ず出席すること。
AIの倫理的な利用は、一定の条件のもとで認められています。このため、全ての学生はAI利用許可申請書を手出しなければなりません。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	A: Class and Online Systems Explanation B: Communication Activity: introductions	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	apan, Tokyo Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	Portugal, Lisbon Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	Jordan Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	USA, Yellowstone National Park Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	France, Paris Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	Review and Follow-up	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	United Kingdom, London Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Italy, Rome Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	Australia, Sydney Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	Mexico, Cancun Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	Thailand, Bangkok Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Canada, Vancouver Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000010004 英語Ⅱ　Cクラス（人間健康・看護）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科/看護学科			担当教員	三浦　文恵		

学習目標(到達目標)

日常生活で頻出する言葉やフレーズを学び、コミュニケーション能力の向上と基礎学力の定着を図る。

1. ネイティブスピーカーがナチュラルスピードで話す英語を理解できる。
2. ネイティブスピーカーが日常生活で使う身近な英語表現を使える。
3. ネイティブスピーカーの発想に基づいた表現ができる。

授業概要(教育目的)

主に、基礎文法、リスニング、ライティングの演習を行う。また授業では、会話や話す演習を行い、声を出す事を目的に活きた英語を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験の結果をベースに、授業態度、課題の提出状況などを考慮し総合的に評価する。特に、講義に積極的に臨む姿勢を重視する。

課題に対するフィードバック

試験や課題の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

必要に応じて授業で紹介する。

講義時使用テキスト

Peter Vincent/Naoko Nakazato/Alan Meadows 著「Speaking of People」南雲堂

資格との関連

各種英語検定試験受検希望者には役立つ内容である。

学生へのメッセージ

日頃から英語を聞き、耳を慣らしておくとよい。暮らしの中における英語表記に興味をもち、注意して見るようにしましょう。

実務との関連

留学・通訳・翻訳の実務経験を活かし話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. Unit 6 What's She Like? ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認する。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
2	2. Review Units 4-6	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
3	3. Unit 7 Tell Me About Your Family ①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
4	4. Unit 7 Tell Me About Your Family ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
5	5. Unit 8 Communication ①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
6	6. Unit 8 Communication ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
7	7. Unit 9 How Are You Feeling? ①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
8	8. Unit 9 How Are You Feeling? ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
9	9. Review Units 7-9	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
10	10. Unit 10 Memories①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
11	11. Unit 10 Memories②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
12	12. Unit 11 Talking About Health ①(Discussion)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
13	13. Unit 11 Talking About Health ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
14	14. Unit 12 Mindset (Discussion)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
15	15. アメリカ人と日本人の価値観・考え方の違いについて(ゲストティーチャー)	インターネットや文献で、アメリカ人の価値観や考え方について調べておく。疑問に思う事を質問として用意する。	内容をまとめ、疑問点に対する答えを含めレポートに書く。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000011000 英語コミュニケーション						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	バリー・H・グロスマン		

学習目標(到達目標)

This class will focus on effective English communication skills, especially listening and speaking. It will prepare you for various language situations that might occur either in Japan or overseas. Effective communication begins with communicative intent, so this class will also help you "find your English voice" and overcome fear and anxiety when communicating in a foreign language.

授業概要(教育目的)

This class will focus on improving all of the English language skills necessary for communcation. Listening, speaking, reading, and writing will all be practiced for the purpose of effective communication.

卒業認定・学位授与の方針との関連

講義中と宿題は積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。成績は第1日目から評価する。

評価方法

講義内での積極的な参加(アクティブラーニング法)、宿題、クラスクイズを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。

成績詳細:
①宿題 (「English Central」オンライン教材)(50%)
②スピーキングテスト (50%)

課題に対するフィードバック

毎回の授業の初めに学生の前で宿題をチェックする;スピーキングテストの点数はテスト日の次の週に報告

参考文献

講義時使用テキスト

「English Central アカデミックプレミアム 6カ月」(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)

資格との関連

学生へのメッセージ

上達するためのモチベーションを持って授業に臨むことが肝要です。積極的に参加することが語学上達の鍵であり、このクラスにもその考え方が反映されています。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	A: Class Introduction B: Self-Introduction Task	Class Introduction	Self-Introduction Task
2	Travel: Discussing favorite travel destinations, memorable trips, or dream vacations.	Warm-up & Review	Wrap-up
3	Hobbies: Talking about hobbies and interests such as reading, sports, painting, or playing a musical instrument.	Warm-up & Review	Wrap-up
4	Food and Cuisine: Exploring different types of cuisine, favorite dishes, or traditional foods from different countries.	Warm-up & Review	Wrap-up
5	Technology: Discussing the impact of technology on daily life, favorite gadgets, or social media platforms.	Warm-up & Review	Wrap-up
6	Environment: Talking about environmental issues, recycling, conservation, or sustainable practices.	Warm-up & Review	Wrap-up
7	Mid-Term Conversation Evaluations	Warm-up & Review	Wrap-up
8	Education: Discussing favorite subjects, school experiences, or educational goals.	Warm-up & Review	Wrap-up
9	Culture and Traditions: Exploring cultural celebrations, customs, or traditions from various countries.	Warm-up & Review	Wrap-up
10	Health and Fitness: Talking about exercise routines, healthy eating habits, or ways to maintain a healthy lifestyle.	Warm-up & Review	Wrap-up
11	Music and Entertainment: Discussing favorite music genres, concerts, movies, or TV shows.	Warm-up & Review	Wrap-up
12	Relationships: Talking about friendships, family dynamics, or romantic relationships.	Warm-up & Review	Wrap-up
13	Current Events: Discussing recent news topics, social issues, or global events.	Warm-up & Review	Wrap-up
14	Sports: Discussing favorite sports, sports events, or personal experiences with sports activities.	Warm-up & Review	Wrap-up
15	Future Plans: Talking about career aspirations, dreams, or goals for the future.	Warm-up & Review	Wrap-up

講義名	1000012000 英語（TOEIC） I						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

TOEICスコアを伸ばすためには、一般の英語能力をあげなければならない。グループ活動も加えて、読解・聴解・TOEIC専用語彙能力を広げ、過去の問題試験もおこないながら、試験の取り組み方学習し、自分次第スコアを伸ばすことができる。

授業概要(教育目的)

TOEICは日本だけではなく世界各国で英語を用いる職場においての日常的な読解と聴解能力の試験である。近年では就職のみならず昇進の際にも採用している企業も数多くある。実際のTOEIC試験はレベル分けしていないので、練習問題はTOEIC IIのレベルと同じである。TOEIC Ⅰの講義では、次の三つのことに重点を置く。①実際のTOEIC試験問題を練習し、頻繁に出題される問題に慣れる。②基本的な戦略を学習する。③単語力を広める。

TOEIC Ⅱでは、TOEIC Ⅰで学習したことをベースに細かく戦略し、さらにスコアを伸ばす。TOEICのスコアを伸ばしたいのなら、TOEIC Ⅰ・Ⅱの講義両方を受講するのが望ましい。試験の準備を通して実用的な英語能力を身につけることを目標とする。

2016年以降のTOEIC試験問題形式の変更部分も講義中に指導する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

授業活動参加、課題、クイズに基づいて総合的に評価する。
＊学期後半でおこなう学内 TOEIC ip 試験の受験。
＊授業内での活動の積極的な参加を重点においている。

課題に対するフィードバック

課題は講義中口頭でフィードバックする。
試験(小テスト)は採点の上返却する。

参考文献

講義時使用テキスト

Tactics for the TOEIC Test Listening and Reading Test Introductory Course: Student Book
Grant Trew, OXFORD UNIVERSITY PRESS
ISBN: 9780194529761

資格との関連

学生へのメッセージ

第1日目に現在のTOEICレベルも確認する。成績も第1日目から評価する。
学期後半で授業時間外におこなう学内TOEIC ip 試験を必ず受験すること。教科書は毎回必ず持参すること。

実務との関連

アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	TOEIC Level Check	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	Part 1 Photographs ① (strategies)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	Part 1 Photographs ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	Part 2 Question-Response ① (strategies)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	Part 2 Question-Response ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	Part 3 Conversations ① (strategies)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	Part 3 Conversations ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	Part 4 Talks ① (strategies)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Part 4 Talks ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	Part 5 Incomplete Sentences ① (strategies)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	Part 5 Incomplete Sentences ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	Part 6 Text Completion ① (strategies)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Part 6 Text Completion ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	Part 7 Reading Comprehension ① (strategies)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	Part 7 Reading Comprehension ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

講義名	1000013000 英語（TOEIC）Ⅱ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

TOEICスコアを伸ばすためには、一般の英語能力をあげなければならない。グループ活動も加えて、読解・聴解・TOEIC専用語彙能力を広げ、過去の問題試験もおこないながら、試験の取り組み方学習し、自分次第スコアを伸ばすことができる。

授業概要(教育目的)

TOEICは日本だけではなく世界各国で英語を用いる職場においての日常的な読解と聴解能力の試験である。近年では就職のみならず昇進の際にも採用している企業も数多くある。実際のTOEIC試験はレベル分けしていないので、練習問題はTOEIC Ⅱのレベルと同じである。TOEIC Ⅰの講義では、次の三つのことに重点を置く。①実際のTOEIC試験問題を練習し、頻繁に出題される問題に慣れる。②基本的な戦略を学習する。③単語力を広める。

TOEIC Ⅱでは、TOEIC Ⅰで学習したことをベースに細かく戦略し、さらにスコアを伸ばす。TOEICのスコアを伸ばしたいのなら、TOEIC Ⅰ・Ⅱの講義両方を受講するのが望ましい。試験の準備を通して実用的な英語能力を身につけることを目標とする。

2016年以降のTOEIC試験問題形式の変更部分も講義中に指導する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

授業活動参加、課題、クイズに基づいて総合的に評価する。
＊学期後半でおこなう学内 TOEIC ip 試験の受験。
＊授業内での活動の積極的な参加を重点においている。

課題に対するフィードバック

課題は講義中口頭でフィードバックする。
試験(小テスト)は採点の上返却する。

参考文献

講義時使用テキスト

Tactics for the TOEIC Test Listening and Reading Test Introductory Course: Student Book
Grant Trew, OXFORD UNIVERSITY PRESS
ISBN: 9780194529761

資格との関連

学生へのメッセージ

成績も第1日目から評価する。
学期後半で授業時間外におこなう学内TOEIC ip 試験を必ず受験すること。教科書は毎回必ず持参すること。

アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	TOEIC Test Prep Schedule and Strategies	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	Part 1 Photographs ① (tactics)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	Part 1 Photographs ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	Part 2 Question-Response ① (tactics)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	Part 2 Question-Response ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	Part 3 Conversations ① (tactics)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	Part 3 Conversations ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	Part 4 Talks ① (tactics)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Part 4 Talks ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	Part 5 Incomplete Sentences ① (tactics)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	Part 5 Incomplete Sentences ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	Part 6 Text Completion ① (tactics)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Part 6 Text Completion ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	Part 7 Reading Comprehension ① (tactics)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	Part 7 Reading Comprehension ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

講義名	1000014001 ドイツ語（地域共創）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須　則行		

学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3　日常生活で多用される基本表現を使える。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツーその文化・歴史・社会』郁文堂

講義時使用テキスト

小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ(第2版)』朝日出版社
副教材としてプリントを配付する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	春学期「ドイツ語」の要点整理	春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す	授業の内容を整理する
2	動詞の3基本形 現在完了 お名前は？	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
3	昨日・今日・明日 休暇旅行 「何をしたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	過去 再帰動詞と再帰代名詞 オクトーバーフェスト	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	こんにちは オペラ鑑賞 「どこにいたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	形容詞・副詞の比較 関係代名詞 レストランにて	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	受動形 反対語のいろいろ ホテルに宿泊	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	接続法 「～がほしいのですが」 誕生パーティー	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	いくらですか？ マンガ文化	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	ハンザ都市リューベック 環境首都フライブルク	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	結婚式の写真 外国人労働者	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	ポツダム広場へ 食習慣	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	どこへ行くの？ ノイシュヴァンシュタイン城	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	路上にて アウシュヴィッツ	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	道案内 ビールの話	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

講義名	1000014002 ドイツ語（人間健康）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1 発音できる。
2 動詞の現在人称変化ができる。
3 冠詞類の格変化ができる。
4 ドイツ語で自己紹介し、簡単な手紙を書くことができる。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初歩を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する。

参考文献

黒田龍之助『はじめての言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
黒田龍之助『にぎやかな外国語の世界』白水社
町田　健監修『ニューエクスプレス・スペシャル　ヨーロッパのおもしろ言語』白水社

講義時使用テキスト

小野寿美子／中川明博／西巻丈児
『クロイツング・ネオ(第2版)』
朝日出版社

資格との関連

学生へのメッセージ

ドイツ(連邦共和国)はヨーロッパ大陸の中央部に位置して、9つの国と国境を接しています。ドイツ語は、ドイツはもちろんオーストリアとリヒテンシュタインの唯一の公用語であり、スイス、ルクセンブルクでは公用語の一つです。
この授業では初級ドイツ語を学びます。(1)アルファベートから始めて、(2)文を作る基本的なルール(＝文法)を理解し、(3)多くの平易な文章に触れ、(4)ドイツ語圏の文化や歴史にも目を向けるのが目標です。
ドイツ語の読み方は容易です。(1)ローマ字を読む要領で、(2)語の最初の母音にアクセントを置き、(3)アクセントのある母音は、うしろに子音が一つの場合に長く、子音が二つ以上続く場合に短く読むのが原則です。
これまで英語に馴染んできた目には複雑そうに映るかもしれない文法も、要点は(1)主語に応じて動詞の語尾が定まること(＝人称変化)、(2)名詞の前に付けられる冠詞(類)が、その名詞の文中での役割を明示するために語尾を変えること(＝格変化)の二つに過ぎません。とは言っても、語学は結局のところ覚えなければ何ものでもありません。語彙は少しずつ増やしていきましょう。
ドイツ語を学ぶことで、未知の世界への扉がまた一つ開くことになればと願っています。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	世界の言語とドイツ語 アルファベート つづりと発音 あいさつ 曜日、月	世界地図または地球儀を見る	授業の内容を整理する 発音練習をする
2	人称代名詞と動詞の現在人称変化 最重要動詞sein(英:be)とhaben(英:have) 語順 ja(英:yes)とnein(英:no)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する 発音練習をする
3	さまざまな疑問詞 自己紹介	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	名詞の性、冠詞 定冠詞と名詞の格変化 不定冠詞と名詞の格変化 格の用法	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	職業名・専攻名のいろいろ 趣味はManga	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	不規則動詞の現在人称変化 命令形	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	人称代名詞の格変化 人称代名詞の3格と4格 「～しよう」 フランクフルト中央駅で	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	名詞の複数形 定冠詞類 不定冠詞類 否定冠詞kein	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	身につけるもの、家族 買い物 「～はいくらですか」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	前置詞の格支配 従属の接続詞と副文 非人称のes	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	時刻の言い方 チューリヒの町で 「～はどこにありますか」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	話法の助動詞 分離動詞	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	映画を見に行きたい 「～したい」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	形容詞の格変化 zu不定詞	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	「どんな種類の？」「どのような？」 わたしのねがい	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

講義名	1000014003 ドイツ語（看護）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	髙須　則行		

学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化ができる。
3　冠詞類の格変化ができる。
4 ドイツ語で自己紹介し、簡単な手紙を書くことができる。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初歩を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する。

講義時使用テキスト

小野寿美子／中川明博／西巻丈児
『クロイツング・ネオ(第2版)』
朝日出版社

参考文献

黒田龍之助『はじめての言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
黒田龍之助『にぎやかな外国語の世界』白水社
町田　健監修『ニューエクスプレス・スペシャル　ヨーロッパのおもしろ言語』白水社

資格との関連

学生へのメッセージ

ドイツ(連邦共和国)はヨーロッパ大陸の中央部に位置して、9つの国と国境を接しています。ドイツ語は、ドイツはもちろんオーストリアとリヒテンシュタインの唯一の公用語であり、スイス、ルクセンブルクでは公用語の一つです。
この授業では初級ドイツ語を学びます。(1)アルファベートから始めて、(2)文を作る基本的なルール(＝文法)を理解し、(3)多くの平易な文章に触れ、(4)ドイツ語圏の文化や歴史にも目を向けるのが目標です。
ドイツ語の読み方は容易です。(1)ローマ字を読む要領で、(2)語の最初の母音にアクセントを置き、(3)アクセントのある母音は、うしろに子音が一つの場合に長く、子音が二つ以上続く場合に短く読むのが原則です。
これまで英語に馴染んできた目には複雑そうに映るかもしれない文法も、要点は(1)主語に応じて動詞の語尾が定まること(＝人称変化)、(2)名詞の前に付けられる冠詞(類)が、その名詞の文中での役割を明示するために語尾を変えること(＝格変化)の二つに過ぎません。とは言っても、語学は結局のところ覚えなければ何ものでもありません。語彙は少しずつ増やしていきましょう。
ドイツ語を学ぶことで、未知の世界への扉がまた一つ開くことになればと願っています。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	世界の言語とドイツ語 アルファベート つづりと発音 あいさつ 曜日、月	世界地図または地球儀を見る	授業の内容を整理する 発音練習をする
2	人称代名詞と動詞の現在人称変化 最重要動詞sein(英:be)とhaben(英:have) 語順 ja(英:yes)とnein(英:no)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する 発音練習をする
3	さまざまな疑問詞 自己紹介	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	名詞の性、冠詞 定冠詞と名詞の格変化 不定冠詞と名詞の格変化 格の用法	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	職業名・専攻名のいろいろ 趣味はManga 「～するのが好きです」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	不規則動詞の現在人称変化 命令形	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	人称代名詞の格変化 3格目的語と4格目的語の語順 「～しよう」 フランクフルト中央駅で	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	名詞の複数形 定冠詞類 不定冠詞類 否定冠詞kein	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	身につけるもの、家族 買い物 「～はいくらですか」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	前置詞の格支配 従属の接続詞と副文 非人称のes	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	時刻の言い方 チューリヒの町で 「～はどこにありますか」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	話法の助動詞 分離動詞	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	映画を見に行きたい 「～したい」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	形容詞の格変化 zu不定詞(句)	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	「どんな種類の？」「どのような？」 わたしのねがい	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

講義名	1000015001	ドイツ語コミュニケーション（地域共創）					
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須　則行		

学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3　日常生活で多用される基本表現を使える。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツーその文化・歴史・社会』郁文堂

講義時使用テキスト

春学期「ドイツ語」のテキスト（小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ（第2版）』朝日出版社）を引き続き使用し、副教材としてプリントを配付する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	春学期「ドイツ語」の要点整理	春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す	授業の内容を整理する
2	動詞の3基本形 現在完了 お名前は？	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
3	昨日・今日・明日 休暇旅行 「何をしたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	過去 再帰動詞と再帰代名詞 オクトーバーフェスト	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	こんにちは オペラ鑑賞 「どこにいたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	形容詞・副詞の比較 関係代名詞 レストランにて	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	受動形 反対語のいろいろ ホテルに宿泊	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	接続法 「～がほしいのですが」 誕生パーティー	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	いくらですか？ マンガ文化	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	ハンザ都市リューベック 環境首都フライブルク	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	結婚式の写真 外国人労働者	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	ポツダム広場へ 食習慣	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	どこへ行くの？ ノイシュヴァンシュタイン城	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	路上にて アウシュヴィッツ	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	道案内 ビールの話	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000015002 ドイツ語コミュニケーション（人間健康）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3　日常生活で多用される基本表現を使える。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツ－その文化・歴史・社会』郁文堂

講義時使用テキスト

春学期「ドイツ語」のテキスト（小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ（第2版）』朝日出版社）を引き続き使用し、副教材としてプリントを配付する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	春学期「ドイツ語」の要点整理	春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す	授業の内容を整理する
2	動詞の3基本形 現在完了 お名前は？	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
3	昨日・今日・明日 休暇旅行 「何をしたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	過去 再帰動詞と再帰代名詞 オクトーバーフェスト	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	こんにちは オペラ鑑賞 「どこにいたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	形容詞・副詞の比較 関係代名詞 レストランにて	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	受動形 反対語のいろいろ ホテルに宿泊	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	接続法 「～がほしいのですが」 誕生パーティー	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	いくらですか？ マンガ文化	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	ハンザ都市リューベック 環境首都フライブルク	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	結婚式の写真 外国人労働者	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	ポツダム広場へ 食習慣	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	どこへ行くの？ ノイシュヴァンシュタイン城	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	路上にて アウシュヴィッツ	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	道案内 ビールの話	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000015003 ドイツ語コミュニケーション（看護）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	髙須　則行		

学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3　日常生活で多用される基本表現を使える。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツ－その文化・歴史・社会』郁文堂

講義時使用テキスト

春学期「ドイツ語」のテキスト（小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ（第2版）』朝日出版社）を引き続き使用し、副教材としてプリントを配付する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	春学期「ドイツ語」の要点整理	春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す	授業の内容を整理する
2	動詞の3基本形 現在完了 お名前は？	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
3	昨日・今日・明日 休暇旅行 「何をしたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	過去 再帰動詞と再帰代名詞 オクトーバーフェスト	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	こんにちは オペラ鑑賞 「どこにいたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	形容詞・副詞の比較 関係代名詞 レストランにて	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	受動形 反対語のいろいろ ホテルに宿泊	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	接続法 「～が欲しいのですが」 誕生パーティー	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	いくらですか？ マンガ文化	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	ハンザ都市リューベック 環境首都フライブルク	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	結婚式の写真 外国人労働者	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	ポツダム広場へ 食習慣	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	どこへ行くの？ ノイシュヴァンシュタイン城	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	路上にて アウシュヴィッツ	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	道案内 ビールの話	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

講義名	1000016000 哲学						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1.哲学的な文献に触れ、読解する訓練を積む。
2.様々な思想や考え方があることを知り、それぞれを自分の言葉で説明できるようになる。
3.抽象的かつ観念的な内容について記述することができるようになる。

授業概要(教育目的)

哲学とは、理性のみを方法論として真理を探究する学問である。人間は文明の発祥の時代から自らの頭脳を駆使して、世界や人間についての真理を探求してきたのである。本講義では、様々な文献資料、特に『新カトリック大事典』を頼りに、哲学の通史と様々な諸テーマに迫ることとしたい。幾人かの哲学者についても紹介することとなるが、人名や歴史を覚える必要はない。古来どのようなことが論じられ、それに従えば世界はどのように見えるのか、受講生の世界を広げ、問題意識を深め、また思考の基礎を養う場としたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

授業参加、受講態度、質疑応答、学期末の筆記試験によって総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

授業内における質疑応答を歓迎する。
課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

今道友信『西洋哲学史』講談社学術文庫、1987年。
K.リーゼンフーバー『西洋古代・中世哲学史』平凡社、2000年。
学校法人上智学院編『新カトリック大事典』研究社、1996-2010年。
小須田健『30分でわかる哲学＆思想』日本文芸社　2010年。

講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

受講生には、漫然とではなく、分からないところはまず何が分からないのかはっきりさせるような「攻める読書」を求めたい。配布資料のすべてを理解する必要は必ずしもないが、全体として、様々な思想それぞれの特徴や個性に触れて、面白みを感じてほしい。授業を通して「ともに考える」姿勢を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	哲学入門：過ぎ去らない確かなこと、本質とは	「哲学」について、インターネットや図書で調べる。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
2	ソクラテス以前の哲学者と自然「科学者」	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
3	ソフィストとソクラテスの哲学的態度	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
4	プラトンのイデア論	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
5	アリストテレスの形而上学	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
6	古代末期の哲学潮流：ストア派	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
7	中世哲学と大学の使命	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
8	普遍論争	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
9	中性から近代へ：ルネサンスと人文主義	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
10	大陸合理論の哲学者たち	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
11	イギリス経験論と政治思想	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
12	社会契約説からカントまで	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
13	仏教哲学にみる認識論・唯識思想	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
14	現代の哲学者たちは世界をどう見ているのか：マルクス・ガブリエルが見る日本と世界	前回の配布資料とノートを読み直す	可能なら、授業内で視聴した動画コンテンツを再視聴する。
15	論文執筆と詭弁を批判するための論理学	関連する動画コンテンツを見てみる	授業の内容を整理し、論点を整理する。

講義名	1000017000 芸術論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	高橋　史朗		

学習目標(到達目標)

この授業では、以下の2点を到達目標とする。
1.芸術を批評する際に必要な理論及び芸術思潮の流れについて概括的な知識を獲得すること。
2.その知識を芸術作品の価値判断に活かせること。

授業概要(教育目的)

芸術はそれ自体で完結するものではなく、作品を取り巻く様々な要素によって意味づけられ、その価値が判断される。また、歴史的に評価が繰り返され、芸術史が形成されることになる。この授業では、第一に芸術作品を鑑賞する(見る・読む・聞く)ことの方法、意義、その目的など批評活動の概念を紹介する。そのうえで、プラトン、アリストテレスにはじまる西洋美学を概観するとともに、芸術思潮および批評理論の基本を講義する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

15回の講義終了後に実施するアセスメントに基づいて評価する。
欠席は1／3まで、6回目欠席の時点で試験の受験資格を失う。

課題に対するフィードバック

試験の模範解答を示す。

参考文献

授業を理解するうえで必要不可欠と思われる資料(作品写真・映像・参考資料・図書等)については、必要に応じて適宜紹介する。

講義時使用テキスト

なし

資格との関連

学生へのメッセージ

情報量の多い授業となるので、ノートテイキングを効率的に行うことを期待する。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス(授業内容、計画、成績評価、学習方法など)、批評とは何か	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	作品と周辺:芸術の種類、作品とテクストの差異、芸術思潮や批評理論の役割	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
3	プラトンの芸術批判1	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
4	プラトンの芸術批判2	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
5	アリストテレスと悲劇の形相	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
6	アリストテレスの芸術観1	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
7	アリストテレスの芸術観2	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
8	プロティノスの作品観	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
9	美の円環構造	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
10	ルネサンスとユマニスム	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
11	ルネサンス芸術	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
12	カントの技術論	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
13	カントにおける美1	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
14	カントにおける美2	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
15	まとめと演習	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。

講義名	1000018000 デザイン論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	高橋　史朗		

学習目標(到達目標)

この授業では、デザインという極めて広範な活動について知識を得るとともに、デザイン的な思考方法の基盤を作ることを目指す。この授業の受講者の学習到達目標は以下のとおりである。
1.デザインの定義について把握すること。
2.デザインとその周辺領域との相違及び相互関係につて理解すること。
3.デザイン的な思考方法の基礎を身につけること。
4.思考方法をベースとした提案を実践できること。

授業概要(教育目的)

デザインはときに美しい製品やビジュアルを作るものと考えられがちだが、ドアの鍵や事務用品のような実用品、スポーツの大会や誕生会のようなイベント、公園や街路もデザインされている。本講義ではまず、このようなデザインの広がりを前提として、デザイン活動の本質と優れたデザインの有する特徴を提示する。次いで、生産・改善といったデザインに近似する領域とデザインの相違点を把握した上で、デザイン的な思考とはどのようなものかディスカッションを進める。さらに、その思考法を活用してデザイン的な提案を実践することを目指す。受講生は調査活動とグループワークを実践して、デザイン思考に基づくプレゼンテーションを行うこととなる。そのつもりで受講に臨んでもらいたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

知識を確認するアセスメント35%、グループワークでの相互評価15%、プレゼンテーション40%の割合で評価する。なお、不合格者にはアセスメントの再試験とレポートを課す。

課題に対するフィードバック

アセスメントは授業時に解答解説を行う。プレゼンテーションはその場で評価を行い、必要な場合改善を指示したうえで提出を求める。

参考文献

授業を理解するうえで必要不可欠と思われる資料(Webサイト、作品・映像・参考資料・図書等)については、必要に応じて適宜紹介する。

講義時使用テキスト

なし

資格との関連

学生へのメッセージ

授業ではPPTを使用する機会が多く、そのファイルは適宜共有するが、授業時にある程度メモをとらず画面を眺めるだけでは、アセスメントもプレゼンも十分な成果を得られないので注意すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス(授業内容、計画、成績評価、学習方法など)、デザインの諸相	デザインに関心を持ち、周囲のデザイン例を収集してみる。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
2	広義のデザインと狭義のデザイン	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。
3	デザインと競争の原理	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。
4	デザインと改良	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。
5	デザインと価値:新しい経験と対価	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。
6	デザインと価値:価値の創造・増大・転換	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。
7	ターゲティングとターゲットインサイト	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。
8	観察と視点	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。
9	デザイン思考	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。
10	観察と視点	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。
11	ナレッジアセスメント グループワーク1:情報収集とターゲティング	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。 課題のレポートを作成する
12	グループワーク2:ターゲティングとインサイト	授業内容についてインターネットなどで調べる	課題のレポートを作成する
13	グループワーク3:アイディエーション	授業内容についてインターネットなどで調べる	課題のレポートを作成する
14	グループワーク4:プレゼンファイル作成	授業内容についてインターネットなどで調べる	課題のレポートを作成する
15	プレゼンバトルと相互評価	授業内容についてインターネットで調べる	課題のレポートを作成する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000019000 心の科学						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	金地　美知彦		

学習目標(到達目標)

心理学の基礎となる概念、理論、アプローチを理解し、それらが人間の行動と心理プロセスをどのように説明するかを理解する。

授業概要(教育目的)

本講義では、心理学の観点から「心」の基本的なメカニズムについて考えていきたい。心理学の研究によって、「心」の意外な働きが分かってきた。本講義では、知覚、記憶などの認知的な側面から心理学の基礎について概説する。また、人格、知能、発達などから、その人特有の個性を形作る「心」の働きについても学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

定期試験の成績を中心に、講義中の小レポートも加味し、総合的に評価する。なお、定期試験は、テキスト、ノートなど一切の資料を持ち込み不可で行う。

課題に対するフィードバック

全体の成績評価および定期試験の成績(得点)については、成績発表終了後に金地まで問い合わせれば個別に開示する。

参考文献

角山剛・小西啓史・三星宗雄・渡辺浪二(編著)『基礎からの心理学』おうふう

講義時使用テキスト

特に指定しない

資格との関連

認定心理士資格申請に必要な科目の一つである。

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
秋学期集中講義で開講される『行動の科学』では、主に集団としての人間の問題、心の病などについて概説する予定である。本科目と『行動の科学』を併せて履修することで、心理学の知識を幅広く習得されることを希望する。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	【ガイダンス & 心理学とは】 ①授業の進め方 ②心理学とは ③心理学の歴史	心理学の研究対象について図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
2	【知覚】 ①知覚とは ②視覚の世界 ③その他の知覚世界	物を知覚するしくみについて図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
3	【記憶】 ①記憶とは ②短期記憶と長期記憶 ③勉強に役立つ記憶法	記憶のしくみについて図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
4	【思考】 ①問題解決 ②推理 ③確率判断 ④意思決定	問題解決、推理、確率判断、意志決定のしくみについて図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
5	【行動学習(レスポンデント条件付け)】 ①無条件反射 ②条件反射とレスポンデント条件付け ③さまざまな条件反射	レスポンデント条件付けのしくみについて図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
6	【行動学習(オペラント条件付け)】 ①生得的行動と獲得的行動 ②スキナーの実験とオペラント条件付け ③ギャンブルに依存する心理 ④学習性無力感	オペラント条件付けのしくみについて図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
7	【対人関係】 ①他者を知る仕組み ②自分を知ってもらうには ③友情& 恋愛	他者認知、自己呈示、印象形成のしくみについて図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
8	【感情・動機づけ】 ①感情とは ②フラストレーションとストレス ③動機づけ	感情が生起するしくみ、フラストレーションの解消法について図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
9	【性格】 ①性格とは ②性格のとらえ方 ③性格を決める要因	性格の捉え方(類型論と特性論)について図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
10	【性格テスト(心理検査)】 ①性格テスト(心理検査)とは ②性格テスト(心理検査)の実施	性格(心理状態)の3つの測定方法について図書館やネットを用いて調べる。	性格テスト(心理検査)の結果を振り返ってみる。
11	【心の発達】 ①乳児期・幼児期 ②認知の発達 ③言語能力の発達	乳児期や幼児期、児童期の心の発達について図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
12	【心の発達】 ①社会性の発達 ②自己の発達 ③成人期・老年期	青年期から老年期の心の発達について図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
13	【心のダメージ】 ①心の葛藤 ②ストレス ③心の病気	ストレスによって引き起こされる心や身体の病気について図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
14	【心の治療】 ①心理療法とは ②心理療法の様々な技法 ③日常生活でのメンタルケア	心理療法の様々な技法について図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
15	【まとめ】 これまでの授業を一通り振り返り、ポイントを押さえる。	配布プリントがすべて手元にあるかどうか確認し整理しておく。	ポイントを重点的に学習し、試験に備える。

講義名	1000020000 行動の科学						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	石岡　れい子		

学習目標(到達目標)

行動の科学的接近の成果にもとづいて、心理学の各領域のテーマについて基本的な事柄を理解し、説明できる。

授業概要(教育目的)

この授業では、行動の科学的な理解を通して、社会、他者、集団、環境における人間の行動や心の働きについて概説する。また、心の病やそれに対する治療、援助について学び、臨床的・応用的な見地からも「心」の働きについて考えていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

毎回の小テスト、課題((レポート)提出、演習への参加態度、授業中の発言等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

レポート、感想文は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、小テスト)の模範解答を示す。
試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。
期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

認知症サポーター養成講座標準教材「認知症を学び、地域で支えよう」全国キャラバンメイト連絡協議会

資格との関連

社会福祉士、教員、看護師の資格取得のための選択科目である。人間の行動を科学的に観察、分析するために、まずは実際に自分で各種の検査を行い、自身の性格や行動について客観的に分析することから始めていく。

学生へのメッセージ

受講者は、意志・好奇心を持って参加されたい。また、学んだ知識を生かせるように実際の事例にあてはめながら理解してもらいたい。重要なことは、学んだことをただ授業の中だけで終わらせないことである。そうでなければ、内容を理解したとは言えない。理解習得し、ものごとを学習前と違った視点から見られるようになって欲しい。

実務との関連

小学校教員、特別支援学校教員を経て、教育大学の大学院で臨床心理学を学んだ。特に応用行動分析学の研究室で、人間の行動、行動変容、環境との相互作用、コンサルテーションについて学んだ。現在は、障害児施設の心理指導員、小学校・中学校・高校のスクールカウンセラーなどをしており、その知見と実務経験をもとに話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	心理学とはなにか	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
2	環境の認知	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
3	行動の変容 自身のコーピング尺度を分析し行動パターンについて感想文を提出する。	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
4	記憶	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
5	感情と動機づけ	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
6	性格と知能 自身のエゴグラムの結果を分析し説明したうえで、今後の自身のあり方をレポートにまとめ提出する。	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
7	発達	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
8	対人認知と対人魅力、態度と態度変化 対人認知と対人魅力、態度と態度変化 Leeの愛情尺度の結果を自己分析し、レポートを提出する。	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
9	自己と他者 自己と他者 ハイダーのバランス理論について学び日常の行動と結び付けて具体例を挙げて、レポートにまとめ提出する。	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
10	集団の心理	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
11	リーダーシップ 自身のLPC尺度の結果を分析し効果的なリーダーシップのあり方について考え、レポートを提出する。	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
12	適応と不適応 STAI1とSTAI2を分析し、レポートを提出する。	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
13	主な精神障害の概要 SDS(うつ尺度)を実施し、うつの症状を知る。	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
14	精神障害への介入技法 高齢者の心理や特徴を学び、認知症の理解と支援について知る 認知症サポーター養成講座　八戸市介護予防センター(ゲストティーチャー)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	ゲストティーチャーによる寸劇などを見て、グループディスカッションをして発表する。 配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
15	障害の心理(発達障害児者の理解と支援につい) 視角や聴覚、味覚、触覚などの感覚過敏、変化への不適応、こだわりなどについて具体的に話し、 対応を考える。	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	ゲストティーチャーによる寸劇などを見て、グループディスカッションをして発表する。 配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000021000 歴史学 ※2026年度開講せず						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

1、歴史的なものの見方の意義が理解できる。
2、古代ギリシアから現代に至るまでの法思想の概要について理解できる。
3、それぞれの思想家が思索した時代背景を理解できる。

授業概要(教育目的)

現代世界は「グローバリゼーション」の掛け声のもとに、大きな変動を迎えている。そうした中で、従来の国家・社会の構造は変容し、人々の信念にも変容がみられると同時に、そうした変化に対する反発も生じている。
こうした流動的な状況においては、人類の歴史を振り返り、過去の変動の時代に人々が何を考え、どのように行動し、結果として何がもたらされたかを学ぶ歴史学の視点は大変重要に思われる。
この授業では、国家と社会を形作るいわば骨格である「法」についての捉え方の歴史、すなわち「法思想」の歴史を西洋という文脈に限って、古代ギリシアから現代に至るまでたどってみたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

期末の定期試験によって評価する。出席が3分の2を超えていることは単位取得の前提条件である。穴埋め個所は試験範囲になるので、授業中はこまめな穴埋めをすること。なお遅刻は3回で欠席1回相当とみなす。

課題に対するフィードバック

授業中には適宜討論の時間を設けたい。電子メールで質問には随時答える。講義中の質問は大歓迎である。

参考文献

三島淑臣『法思想史〔新版〕』青林書院、1993年。それ以外は授業時に紹介する。

講義時使用テキスト

テキストは特に指定せずに、スライド資料などを配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

高校時代に世界史を履修していない人は、何か世界史に関する入門書を授業受講以前に1冊読んでおいてください。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	「歴史」のとらえ方 歴史学の歴史	高校の世界史の教科書や資料集をもう一度取り出して、自分の関心のある所を見直すなどしてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
2	法思想史の意義について プラトンの哲人王政　魂の政治	高校の世界史教科書でも構いませんので、古代ギリシアに関する部分をざっくり読んできてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
3	アリストテレスの正義論　正義の三分説	高校の世界史教科書でも構いませんので、古代ギリシアに関する部分をざっくり読んできてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
4	ヘレニズム時代の法思想　ストア派とエピクロス派	高校の世界史教科書でも構いませんので、古代ギリシアに関する部分をざっくり読んできてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
5	キリスト教の登場　旧約の法から新約の法へ	高校の世界史教科書でよいので世界史・倫理のキリスト教に関する記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
6	教父アウグスティヌスの法思想　永遠法について	高校の世界史教科書でよいので世界史・倫理のキリスト教に関する記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
7	スコラ学者トマス・アクィナスの法思想　自然法について	高校の世界史教科書でよいので世界史・倫理のキリスト教に関する記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
8	末期スコラ学とグロティウス　国際法の萌芽	高校の世界史教科書でよいので世界史の大航海時代前後に関する記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
9	ルネサンスから「宗教改革」へ　マキアヴェリの君主論について～ホッブズの社会契約論	高校の世界史の教科書でよいのでルネサンス前後の記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
10	近代市民社会の成立　ジョン・ロックの所有権論	高校の世界史の教科書でよいので近代市民革命前後の記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
11	近代市民社会の深化　カントの普遍主義的法理論とJ.S.ミルの自由論	高校の世界史の教科書でよいので近代市民革命前後の記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
12	近代市民社会への批判　ルソーの一般意思論とヘーゲルの人倫論	高校の世界史の教科書でよいので近代市民革命前後の記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
13	実証主義の時代　ハンス・ケルゼンの法実証主義とラートブルフの価値相対主義	高校の世界史の教科書でよいので19世紀の記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
14	自然法論の「復権」　ヨハネス・メスナーの自然法倫理学	高校の世界史の教科書でよいので第二次世界大戦前後のヨーロッパに関する記述(特にファシズムについて)を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
15	現代世界の法思想　「ハーバード白熱教室」が問いかけるもの	高校の世界史の教科書でよいので現代に関する記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000022000 日本国憲法						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	髙須 則行		

学習目標(到達目標)

① 日本国憲法の理念・構造を説明できる。
② 基本的人権の精神およびその内容、平和の尊さを考え、民主政治の仕組みを説明できる。

授業概要(教育目的)

本講義では、私たちの国家の基本的在り方を決めている日本国憲法について、その基本原理として挙げられている国民主権、基本的人権の保障、平和主義の理念、権力分立制がどのような働きをしているのかを判例を踏まえながら理解してもらうことを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

定期試験および小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストの模範解答を示す。

参考文献

他の参考書、参考資料は、講義の中で適宜紹介する。

講義時使用テキスト

『憲法概観(再訂補訂版)』(司法協会)

資格との関連

公務員(教職も含む)試験　行政書士試験

学生へのメッセージ

① 公務員試験における試験科目ですので、公務員希望者は必ず受講することを勧めます。
② テキストは必ず持ってくること。
③ 新聞・TVなどの報道には関心を持ってほしい。女性天皇制・天皇の国事行為・天変地異と危機管理・日本を取り巻く国際社会の変化など、憲法改正論が巷を騒がせている。他方で国民の人権はどうなるのか是非関心を持ってニュースに接してほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	憲法へのいざない：日常生活における基本的人権の問題)	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
2	憲法の位置付け:憲法の最高法規性	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
3	憲法の基本原理：国民主権・基本的人権の保障・権力分立制・平和主義	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
4	憲法の歴史:近代憲法から現代憲法へ	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
5	基本的人権の性質	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
6	基本的人権の体系	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
7	法の下の平等	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
8	自由権(1)：精神的自由(信教の自由)	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
9	自由権(2)：精神的自由(表現の自由)	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
10	自由権(3)：人身の自由	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
11	自由権(4)：経済的自由	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
12	社会権	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
13	統治機構(1)：三権分立制の意義	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
14	統治機構(2)：三権分立制の関係	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
15	地方自治	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。

講義名	1000022001 日本国憲法（看護学科）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	髙須 則行		

学習目標(到達目標)

① 日本国憲法の理念・構造を説明できる。
② 基本的人権の精神およびその内容、平和の尊さを考え、民主政治の仕組みを説明できる。

授業概要(教育目的)

本講義では、私たちの国家の基本的在り方を決めている日本国憲法について、その基本原理として挙げられている国民主権、基本的人権の保障、平和主義の理念、権力分立制がどのような働きをしているのかを判例を踏まえながら理解してもらうことを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

定期試験および小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストの模範解答を示す。

参考文献

他の参考書、参考資料は、講義の中で適宜紹介する。

講義時使用テキスト

『憲法概観(再訂補訂版)』(司法協会)

資格との関連

公務員試験 行政書士試験

学生へのメッセージ

テキストは必ず持ってくること。
新聞・TVなどの報道には関心を持ってほしい。女性天皇制・天皇の国事行為・天変地異と危機管理・日本を取り巻く国際社会の変化など、憲法改正論が巷を騒がせている。他方で国民の人権はどうなるのか是非関心を持ってニュースに接してほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	憲法へのいざない：日常生活における基本的人権の問題)	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
2	憲法の位置付け:憲法の最高法規性	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
3	憲法の基本原理:国民主権・基本的人権の保障・権力分立制・平和主義	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
4	憲法の歴史:近代憲法から現代憲法へ	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
5	基本的人権の性質	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
6	基本的人権の体系	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
7	法の下の平等	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
8	自由権(1):精神的自由(信教の自由)	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
9	自由権(2):精神的自由(表現の自由)	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
10	自由権(3):人身の自由	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
11	自由権(4):経済的自由	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
12	社会権	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
13	統治機構(1):三権分立制の意義	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
14	統治機構(2):三権分立制の関係	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
15	地方自治	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000023000 政治学						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①政治学で用いられる基本的な概念について説明できるようになる。
②政治学の考え方を活用して、実際の政治現象を読み解くことができるようになる。
③物事を客観的・理性的に判断したうえで、自らのもつ政治的権利を行使できるようになる。

授業概要(教育目的)

私たちは、政治が決めたルールなどに従って生活していると同時に、主権者であり、政治の行方を決める存在でもある。そのため、実際の政治現象を正確に理解したうえで、行動することが求められる。本講義では、この点を踏まえ、現実社会における複雑な政治現象を理解し、さまざまな政治的課題への解答を見つけ出すために必要な政治学の諸概念や分析手法を身につけていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

期末試験と授業内課題の結果を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

参考文献

授業のなかで適宜紹介する。

講義時使用テキスト

なし

資格との関連

学生へのメッセージ

日頃から政治に興味・関心をもって新聞やニュースに触れるとともに、政治の当事者としての意識をもちながら生活してほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	政治と政治学	政治とは何かについて考えておく。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
2	国家と主権	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
3	政治権力	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
4	政治制度	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
5	政治体制とイデオロギー	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
6	政治思想	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
7	民主主義①(民主主義の歴史的展開)	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
8	民主主義②(民主主義を支える諸概念)	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
9	政党と政党システム	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
10	選挙	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
11	諸外国の政治①(イギリス)	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
12	諸外国の政治②(アメリカ)	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
13	日本の政治①(日本政治史)	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
14	日本の政治②(現代日本政治の特徴と課題)	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
15	政治学の役割	政治的課題の解決に向けて自ら何ができるのかについて考えておく。	授業の内容を整理し、論点を整理する。

講義名	1000024000 社会学						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①現代社会の特徴について理解し、説明できるようになる。
②個人と社会の関係性や生活(生き方)の多様性について理解し、さまざまな生き方を選択したり、受け容れたりできるようになる。
③社会の抱える諸問題とその背景を理解し、問題の解決策を考えることができる。

授業概要(教育目的)

社会学は、私たちが生活する社会の仕組みやそこで起こる現象の説明を試みる学問分野であり、非常に幅広い研究対象をもつ。この講義では、社会のさまざまな側面を取り上げ、それを客観的に理解・説明するために必要な能力を身につけ、実社会で直面する多種多様な課題に自ら対応できるようになることを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

期末試験と授業内課題の結果を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

参考文献

講義時使用テキスト

奥村隆編『はじまりの社会学――問いつづけるためのレッスン』ミネルヴァ書房、2018年。

資格との関連

学生へのメッセージ

社会学は、私たちの暮らしに関わるさまざまな面を分析する学問である。そのため、普段の生活のなかでも、さまざまな事象に興味・関心をもつよう心掛けてほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	社会学の意義	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
2	社会学の射程	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
3	自己と他者	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
4	家族	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
5	ジェンダー	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
6	労働	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
7	格差・不平等	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
8	病気・障害	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
9	外国人・民族	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
10	宗教	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
11	環境と開発	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
12	逸脱と社会規範	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
13	権力と国家	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
14	マスメディア	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
15	社会学がもつチカラ	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。

講義名	1000024001 社会学（臨時開講）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①現代社会の特徴について理解し、説明できるようになる。
②個人と社会の関係性や生活(生き方)の多様性について理解し、さまざまな生き方を選択したり、受け容れたりできるようになる。
③社会の抱える諸問題とその背景を理解し、問題の解決策を考えることができる。

授業概要(教育目的)

社会学は、私たちが生活する社会の仕組みやそこで起こる現象の説明を試みる学問分野であり、非常に幅広い研究対象をもつ。この講義では、社会のさまざまな側面を取り上げ、それを客観的に理解・説明するために必要な能力を身につけ、実社会で直面する多種多様な課題に自ら対応できるようになることを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

期末試験と授業内課題の結果を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

参考文献

講義時使用テキスト

奥村隆編『はじまりの社会学――問いつづけるためのレッスン』ミネルヴァ書房、2018年。

資格との関連

学生へのメッセージ

社会学は、私たちの暮らしに関わるさまざまな面を分析する学問である。そのため、普段の生活のなかでも、さまざまな事象に興味・関心をもつよう心掛けてほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	社会学の意義	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	社会学の射程	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	自己と他者	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	家族	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	ジェンダー	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	労働	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	格差・不平等	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	病気・障害	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	外国人・民族	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	宗教	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	環境と開発	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	逸脱と社会規範	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	権力と国家	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	マスメディア	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	社会学がもつチカラ	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000025000 国際関係論						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①国際社会の特徴と歴史を踏まえ、現在の国際関係や世界情勢を説明できるようになる。
②国際関係や国際政治の説明に必要な理論を活用できるようになる。
③国際社会から受けるさまざまな影響に対して正しく対応できるようになる。

授業概要(教育目的)

私たちは、国際社会のなかで暮らし、国際関係から大きな影響を受けている。グローバル化が進んだ現代、地域社会で活躍するためには、国際関係を客観的に理解し、論理的に説明する力が求められる。この授業では、国際関係の特徴・歴史・理論・課題を学び、世界情勢を読み解く力を習得したうえで、持続可能な開発目標(SDGs)に代表されるさまざまな地球的課題への解答を自ら見つけ出せるようになることを目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

期末試験と授業内課題の結果を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

参考文献

授業のなかで適宜紹介する。

講義時使用テキスト

佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄・山本直(編)『国際関係論(第4版)』弘文堂、2025年。

資格との関連

学生へのメッセージ

国際関係論は政治学の一分野であることから、事前に政治学の履修を勧める。また、日頃から国際情勢に関心をもち、新聞の国際面に目をとおしたり、世界の出来事を伝えるニュース番組を見たりすることが望ましい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	国際関係を学ぶ理由	世界情勢にの興味・関心をもっておくこと。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
2	国際社会の特徴	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
3	20世紀の国際関係	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
4	21世紀の国際関係	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
5	現代のグローバル化	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
6	グローバル化の光と影	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
7	地域化	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
8	北東アジアの今	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
9	現代の安全保障	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
10	南北問題	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
11	地球環境問題	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
12	非国家アクター	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
13	国際関係の理論①(リベラリズム、リアリズム、ネオリアリズム)	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
14	国際関係の理論②(ネオリベラリズム、コンストラクティヴィズム)	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
15	世界の平和と安定に向けて	世界を平和にする方法を考えておくこと。	授業の内容を整理し、論点を整理する。

講義名	1000026000 海外事情						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

「海外事情」は国際理解教育の観点から、外国に一定期間滞在して、人的交流と語学研修等を通して、具体的かつ実践的な海外各国の異文化の事情等を学ぶことを目的とする。異文化や異国でのビジネス等に触れることにより、広い視野と積極性に基づく国際理解を身につけ説明できる。

授業概要(教育目的)

①＜タイ＞タイ国チェンマイ市の歴史や専物館、病院、福祉施設などの見学を通して、異文化を理解し、国際感覚を培うことを目的として実施する。
②＜EF＞学校法人光星学院が協定を結んでいるEF(イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社)が提供する世界各地への語学留学プログラムに参加する。
＊注意事項
上記①～②の研修に参加する予定の学生は、あらかじめ「海外事情」を履修登録すること。また、研修参加後に「海外事情」と「英語コミュニケーション」の単位認定を希望する学生は、教務学生課において修了証等の写しとともに、「単位認定願」を必ず提出すること。なお、参加費は実費で、費用に含まれるのは次の通りである。
1)交通費(国内の移動費。航空運賃)と海外旅行傷害保険料
2)英語研修費と諸活動費の一部及び宿泊費(ホテル費用)
3)その他費用(現地移動費等)

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

海外事情に関する事前講義、現地における各種研修、帰国後に行う事後講義・レポート提出・プレゼンテーション等により、教員が必要に応じて受講や発表を決定しその内容で評価する。
＜「EF(英語圏)」での英語研修については、「英語コミュニケーション」を参照。＞

課題に対するフィードバック

事前研修プログラム最中にプログラム担当者が口頭でフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

後日指定する。
団体行動を基本としたスケジュールを組んでいるので、その自覚と意欲ある者の履修を求める。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	海外研修事前指導(1) 研修の目的	シラバスの内容を確認する。	研修内容を整理する。
2	海外研修事前指導(2) 研修地の事情、歴史、文化	研修地についてメディアで調べる。	研修内容を整理する。
3	海外研修事前指導(3) 研修スケジュールの計画	研修地についてメディアで調べる。	研修内容を整理する。
4	海外研修実施中 語学研修(1)	研修スケジュールを確認する。	研修内容を整理する。
5	海外研修実施中 語学研修(2)	前回の研修内容を再確認する。	研修内容を整理する。
6	海外研修実施中 歴史・文化(1)	前回の研修内容を再確認する。	研修内容を整理する。
7	海外研修実施中 歴史・文化(2)	前回の研修内容を再確認する。	研修内容を整理する。
8	海外研修実施中 歴史・文化(3)	前回の研修内容を再確認する。	研修内容を整理する。
9	海外研修実施中 ビジネス(1)	前回の研修内容を再確認する。	研修内容を整理する。
10	海外研修実施中 ビジネス(2)	前回の研修内容を再確認する。	研修内容を整理する。
11	海外研修実施中 観光・食(1)	前回の研修内容を再確認する。	研修内容を整理する。
12	海外研修実施中 観光・食(2)	前回の研修内容を再確認する。	研修内容を整理する。
13	海外研修実施中 観光・食(3)	前回の研修内容を再確認する。	研修内容を整理する。
14	海外研修事後指導(1) 海外研修の振り返り	海外研修中の学習内容を整理する。	研修内容を整理する。
15	海外研修事後指導(2) レポートの作成	海外研修中の学習内容を整理する。	研修内容を整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000026001 海外事情（韓国文化） ※2026年度開講せず						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

本講義の学習目標は、韓国語および韓国文化について基礎的な知識を習得し、韓国文化への理解を深めることをである。具体的には、毎回韓国語の学習を通じ、ハングル文字や発音を身につける。さらには、簡単な文法を覚え、日常生活に必要な表現について学習し、授業の最後には初級レベルに達することを目標とする。そして、韓国文化について地理、衣・食・住文化、歴史、芸能などのように幅広く学習し、隣国である韓国文化への理解を深めることを目標とする。

授業概要(教育目的)

授業は大きく2つに分けて進める。一つは、韓国語の学習である。ハングルが創造された歴史を踏まえ、ハングルの基本的な文字構成や発音について身につける。文字を単に覚えるのみではなく、基礎的に読める、書ける、聞ける、言えるようになっていただくよう、随時テストを行いながら授業を進める。二つは、韓国文化の学習である。文化の基本的な定義から始め、韓国の地理的特徴や歴史、社会的情勢などできる限り幅広く紹介する。すなわち、韓国文化について一面ではなく、多面的に観察することにより文化への理解を深める。さらには、韓国文化への理解を始め、異文化を理解するための土台を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、ビジネスに必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

本講義の評価は、課題(レポート)2回と定期試験1回により評価する。レポート1回につき15点で合計30点、定期試験を70点にして、総100点で評価する。

課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

1. 李昌圭著『日常会話から文法まで学べる はじめての韓国語』ナツメ社

講義時使用テキスト

レジュメ配布

資格との関連

韓国語能力試験(TOPIK)の資格を受験する基礎になる。

学生へのメッセージ

本講義は、韓国語および韓国文化について理解を深めたい人を対象としている。また、授業での内容を十分理解した上で、両国の交流増進のために積極的に活動してほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. ハングルについて 2. 文化について(文化とは何か？)	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
2	1. ハングルの創造の歴史 2. 韓国の地理(位置、領土、気候、山河などの自然環境など)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
3	1. ハングルの子音について 2. 韓国の「食」文化(キムチ、サムギョプサルなど)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
4	1. ハングルの母音について 2. 韓国の「衣」文化(韓服(チマチョゴリ)など)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
5	1. 基本的な文字の構成①(パッチム無し) 2. 韓国の「住」文化(昔の住宅と現在の住宅)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
6	1. 基本的な文字の構成②(パッチム有り) 2. 韓国の歴史(原始時代から現代まで)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
7	1. ハングルの発音法①(パッチム無し) 2. 韓国の民俗芸能と通過儀礼(陶磁器(世界遺産、国宝)、生活規範としての儒教)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
8	1. ハングルの発音法②(パッチム有り) 2. 韓国の伝統舞踊と仮面劇(「판소리」と「탈춤」)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
9	1. ハングルを書いてみよう①(パッチム無し) 2. 韓国の音楽(「트로트」と「K-POP」)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
10	1. ハングルを書いてみよう②(パッチム有り) 2. 韓国のドラマと映画	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
11	1. ハングルの読み・聞き練習①(パッチム無し) 2. 韓国の若手文化	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
12	1. ハングルの読み・聞き練習②(パッチム無し) 2. 日本との交流について①(朝鮮通信使について)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
13	1. 基本的な会話表現①(あいさつ、自己紹介) 2. 日本との交流について②(近代から現代まで)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
14	1. 基本的な会話表現②(家族の紹介) 2. 日本との交流について③(地域ごとの交流について)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
15	1. 基本的な会話表現③(食事する時) 2. 在日韓国人・朝鮮人について	授業内容についてインターネットで前回の配布資料とノートを読み直す 調べる	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000026002 海外事情（中国文化）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

①中国の文化、習慣など、広範な内容を通して、中国に対する理解を深める。
②中国文化と日本文化の違いなどを、ディスカッションやワークショップを通じて表現する力を養う。

授業概要(教育目的)

日本は中国と一衣帯水の国であり、両国の交流は古代より頻繁に行われている。近年、日本を訪れる中国人観光客や、日本の教育機関で学ぶ留学生は増加する一方である。国際化社会の中では、いかに相手の国の文化、そして習慣を理解しながら、円滑にコミュニケーションを取れるのかが重要視されている。本講義は中国の大学生とオンライン交流を交えつつ、中国の文化について様々な視点から学び、思考を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、ビジネスに必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

授業態度、発表やレポートを総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

発表やレポートなどの取組みに対してアドバイスを行う。

参考文献

授業時に指示する。

講義時使用テキスト

教科書は基本的に使用しない。パワーポイント、視覚教材などを使用する。必要に応じてプリントを配布。

資格との関連

学生へのメッセージ

中国に興味をお待ちの方大歓迎。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 中国の 概況① 地理、気候、民族、文化の 背景を 知る 2. ゲームを 通じて 中国語を 学ぼう	中国についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
2	1. 中国の 概況② 中国の 都市を 知る 2. グループワーク	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
3	1. 中国の 社会・人文科学① 政治、経済を 知る 2. グループワーク	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
4	1. 中国の 社会・人文科学② 中国の 教育システムを 知る 2. グループワークまたは 文化体験	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
5	1. 中国人の 生活① 中国の 年中行事と 生活習慣を 知る 2. グループワークまたは 文化体験	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
6	1. 中国人の 生活② 中国人の 食文化を 知る 2. グループワークまたは 文化体験	授業内容についてインターネットで 調べ、準備する	授業の内容とポイントを整理する
7	中国人の 生活③ 1. 中国の 服飾文化を 知る 2. 漢服体験	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
8	1. 中国の 科学技術 中国の 四大発明を 知る 2. グループワークまたは 文化体験	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
9	1. 中国の 社会システム 中国医学、健康法を 知る 2. グループワークまたは 文化体験	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
10	1. 中国の 伝統・芸能① 中国の 伝統スポーツを 知る 2. 中国の 伝統スポーツを 体験	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
11	中国の 伝統・芸能② 1. 中国の 茶文化を 知る 2. 茶芸を 体験	授業内容についてインターネットで 調べ、準備する	授業の内容とポイントを整理する
12	1. 中国人の 対人関係を 知る 2. グループワークまたは 文化体験	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
13	映画からみる現代中国	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
14	1. SNSなどから見る中国の 流行りの 文化 2. グループワーク	授業内容についてインターネットで 調べ、準備する	授業の内容とポイントを整理する
15	1. 中国文化と 日本文化の 相違点 2. ゲームまたは 文化体験	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する

講義名	1000026003 海外事情（タイ文化）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①タイの社会や文化について理解を深め、説明できるようになる。
②日本はタイからどのように見られているのかについて知り、自らの暮らす社会を客観的に把握できる能力を獲得する。
③国際社会で求められるコミュニケーション・スキルとコモンセンスを身につける。

授業概要(教育目的)

タイは、日本人が観光やビジネスで最も頻繁に行き来する国の1つである。近年は、日本に訪れるタイ人の数も急激に増えつつある。しかしながら、日本では、タイに誤ったイメージを抱く人々がいまだに多くいる。一方のタイにおいては、アニメをはじめとする日本のポップカルチャーが広く浸透し、日本に興味・関心を抱く人々が数多く存在するが、実際の日本社会を正確に把握・理解している者はまだ少ない。この授業では、これらの点を踏まえて、ワークショップなども行いつつ、日本とタイの相互理解を深めていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、ビジネスに必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

授業中に実施する課題等を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

参考文献

授業の中で適宜紹介する。

講義時使用テキスト

なし

資格との関連

学生へのメッセージ

例年2月もしくは3月に実施している本学の「海外研修(タイ・チェンマイ)」への参加や将来的なタイへの(短期)留学を考えている者の履修を歓迎する。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	タイを学ぶ意義	タイについて興味や関心をもつ	授業の内容と論点を整理する
2	タイのイメージの整理	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
3	タイの人々の特徴	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
4	タイの大学と学生生活	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
5	タイの王室とその役割	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
6	タイの歴史	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
7	タイと仏教	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
8	タイ経済と日本	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
9	タイ政治の特徴と課題	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
10	タイの地方自治	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
11	OTOP(One Tambon One Product)	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
12	タイにおけるマイノリティー(少数民族、LGBTQ等)	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
13	タイと周辺国との関係	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
14	料理から見るタイの多様性	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
15	タイから得られる日本へのインプリケーション	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000027000 自然科学概論（Aクラス）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	村本　論		

学習目標(到達目標)

物理学・化学・生物学の基礎を理解し、物理学・化学・生物学の統合された自然科学で生物を説明できる。

授業概要(教育目的)

生物の特徴はその多様性と統一性の両面に見られる。生物体内では絶えず化合と分解の化学変化が行われ、生物体とそれをとりまく外部環境との間には物質の循環がみとめられる。物質の循環は化学変化であるが、光のエネルギーが大きな働きをなす。太陽のエネルギーが姿をかえて、生物体内の化学変化を酵素の存在のもとに行っている。また、機械的な仕事、熱、光、電気、化学現象間はエネルギー概念により結びつけられた。
生命現象を理解するために、これらの自然科学(生物学、化学、物理学)の基礎を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

受講態度と定期試験を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

講義において随時紹介する。

講義時使用テキスト

高等学校「生物　BIOLOGY」第一学習社

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	自然科学概論とは	自然界の成り立ちとこれを支配する法則を調べる。	人類の直面する諸問題の論点を整理する。
2	生物の基本概念と基本構造	生命体の基本的属性を調べる。	生物の多様性と生命の斉一性を理解する。
3	生物の増殖	生物の増殖について調べる。	生物としての増殖には無性生殖と有性生殖があることを理解する。
4	生命と水	生命活動に重要な水の性質を調べる。	生命現象を水との関わりで理解する。
5	タンパク質	タンパク質の構造と機能について調べる。	タンパク質を機能から整理する。
6	糖質	生命活動のエネルギー源としての糖質について調べる。	糖質のエネルギー代謝を理解する。
7	脂質	水に溶けない脂質の役割を調べる。	エネルギー源、生体膜成分等の脂質の役割を整理する。
8	核酸と遺伝子	核酸の構造と機能を調べる。	遺伝子の本体としての核酸の構造を理解する。
9	細胞	生命活動の最小単位としての細胞について調べる。	細胞の構造と機能を理解する。
10	遺伝子DNA	遺伝子の本体のDNAの構造と遺伝情報の関係を調べる。	DNAの二重らせん構造と遺伝情報について理解する。
11	遺伝情報の発現	遺伝情報はタンパク質となり機能する。その仕組みを調べる。	遺伝情報の発現の仕組みを理解する。
12	遺伝情報の翻訳	遺伝情報をタンパク質に翻訳する仕組みを調べる。	遺伝情報の翻訳の仕組みを理解する。
13	生物学的存在としての人間①	人間は周囲の環境と影響し合って生きている。その仕組みを調べる。	人間の生命活動を整理する。
14	生物学的存在としての人間②	60兆個の細胞からなる人間の生体内の恒常性を調べる。	動的平衡で生体内の恒常性を保つ仕組みを理解する。
15	生命誕生	生命誕生について調べる。	受精から生命誕生までの仕組みを整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000027001 自然科学概論（Bクラス）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	村本　論		

学習目標(到達目標)

物理学・化学・生物学の基礎を理解し、物理学・化学・生物学の統合された自然科学で生物を説明できる。

授業概要(教育目的)

生物の特徴はその多様性と統一性の両面に見られる。生物体内では絶えず化合と分解の化学変化が行われ、生物体とそれをとりまく外部環境との間には物質の循環がみとめられる。物質の循環は化学変化であるが、光のエネルギーが大きな働きをなす。太陽のエネルギーが姿をかえて、生物体内の化学変化を酵素の存在のもとに行っている。また、機械的な仕事、熱、光、電気、化学現象間はエネルギー概念により結びつけられた。
生命現象を理解するために、これらの自然科学(生物学、化学、物理学)の基礎を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

受講態度と定期試験を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

講義において随時紹介する。

講義時使用テキスト

高等学校「生物　BIOLOGY」第一学習社

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	自然科学概論とは	自然界の成り立ちとこれを支配する法則を調べる。	人類の直面する諸問題の論点を整理する。
2	生物の基本概念と基本構造	生命体の基本的属性を調べる。	生物の多様性と生命の斉一性を理解する。
3	生物の増殖	生物の増殖について調べる。	生物としての増殖には無性生殖と有性生殖があることを理解する。
4	生命と水	生命活動に重要な水の性質を調べる。	生命現象を水との関わりで理解する。
5	タンパク質	タンパク質の構造と機能について調べる。	タンパク質を機能から整理する。
6	糖質	生命活動のエネルギー源としての糖質について調べる。	糖質のエネルギー代謝を理解する。
7	脂質	水に溶けない脂質の役割を調べる。	エネルギー源、生体膜成分等の脂質の役割を整理する。
8	核酸と遺伝子	核酸の構造と機能を調べる。	遺伝子の本体としての核酸の構造を理解する。
9	細胞	生命活動の最小単位としての細胞について調べる。	細胞の構造と機能を理解する。
10	遺伝子DNA	遺伝子の本体のDNAの構造と遺伝情報の関係を調べる。	DNAの二重らせん構造と遺伝情報について理解する。
11	遺伝情報の発現	遺伝情報はタンパク質となり機能する。その仕組みを調べる。	遺伝情報の発現の仕組みを理解する。
12	遺伝情報の翻訳	遺伝情報をタンパク質に翻訳する仕組みを調べる。	遺伝情報の翻訳の仕組みを理解する。
13	生物学的存在としての人間①	人間は周囲の環境と影響し合って生きている。その仕組みを調べる。	人間の生命活動を整理する。
14	生物学的存在としての人間②	60兆個の細胞からなる人間の生体内の恒常性を調べる。	動的平衡で生体内の恒常性を保つ仕組みを理解する。
15	生命誕生	生命誕生について調べる。	受精から生命誕生までの仕組みを整理する。

講義名	1000028000 数学						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	田村　正文		

学習目標(到達目標)

以下の項目を到達目標とする。
授業で扱った内容について説明できる。
卒業論文や卒業研究など分析を行う際に、授業で扱った内容を応用できる。

授業概要(教育目的)

この授業では、大学の一般教養課程としての基礎的な内容について講義を行う。授業の内容としては、いわゆる「線形代数学」と「解析学」に分類される内容を中心に講じる。とくに、各学部、各学科ともに2年次以降に開講されている「統計学」あるいは「統計的分析」に用いられている公式やそれを導くための根底にある数学的基礎を扱う。
さらには高校までの数学とは異なり、問題を解くのではなく、与えられた条件に対してそれを一般的に成立することを示す内容となる。つまり問題を「解く」のではなく「考える」授業である。本授業の最終的な内容としては、学習目標(到達目標)に記載したとおりであるが、より具体的には以下の通りである。
① 大学での一般教養程度の数学の内容を理解する(例えば、代数と解析の違いを理解できる)。
② 線形代数で扱った内容をデータ分析などに活用できる。
③ 解析で扱った内容について、統計的公式などを導く際に活用できる。
これらを、本講義の最終的な到達地点とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

定期試験(100%)によって評価する。

課題に対するフィードバック

質問などがあれば、個別に対応する。

参考文献

必要に応じて適宜指示するが、授業内容の参考になるものとして以下を上げる。
矢崎成俊 『大学数学の教則』, ちくま学芸文庫.
松阪和夫 『線型代数入門』, 岩波書店.
原岡喜重 『はじめての解析学』, 講談社ブルーバックス.

講義時使用テキスト

使用しない.
講義資料を配布し、それに基づき行う。

資格との関連

特定の資格には結びつかないものの、各種試験などの計算問題(例えば公務員試験の経済学、数的処理など)をはじめ、各種検定(数学検定、統計学検定)などを計算が求められる受験科目の基礎を提供する。

実務との関連

学生へのメッセージ

大学での数学は、その考え方(論理性)が重要になる。中学校や高校までの数学と異なり、計算し、その解(答え)を求めることが必ずしも重要なのではないことを初めに理解しておくこと(高校までの数学の計算問題よりも証明問題に力点を置いた授業の内容と進め方とイメージすればよいだろう)。
数学に限らずどの科目にも言える事であるが、遅刻等をせずに講義に臨むこと。
予習、復習とくに復習は欠かさず行うこと。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	この授業の全体のアウトライン。 行列の基本(行と列、対角成分、正方行列)	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。 この授業専用のノートとファイルを用意する。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
2	行列の演算(四則演算)	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
3	逆行列・単位行列 ケリー・ハミルトンの公式	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
4	行列と行列式の違い 行列式の演算(2行2列)	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
5	行列式の演算(3行3列) サラスの方法 余因子展開	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
6	行列を用いた連立方程式の解法 クラーメルの公式	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
7	行列の固有値と写像	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
8	解析の基本事項 関数の連続と無限、平均変化率、極限	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
9	微分可能性と$\varepsilon-\delta$法 導関数と微分係数	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
10	指数関数や対数関数の微分 高次関数の微分 三角関数の微分	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
11	2変数の以上の微分(偏微分) 最適化	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
12	積分の基本事項 原始積分と区間積分	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
13	重積分と線積分	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
14	微分方程式の基礎事項	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
15	授業内容の他分野との関わり 数学と情報理論 数学と統計学	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000029000 スポーツの科学						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	泉水　朝宏		

学習目標(到達目標)

以下の事項を到達目標とする。
1. 現代社会におけるスポーツの意義を説明することができる。
2. 自分自身の健康を保つためのスポーツトレーニングを実践することができる。
3. スポーツパフォーマンスを決定する原理原則を説明することができる。

授業概要(教育目的)

現代社会においてスポーツの持つ役割はますます重要なものとなっている。スポーツの本質を理解することは、スポーツの専門家を目指す場合だけではなく、健全な市民として身に付けるべき教養として不可欠なものであり、それは自然科学、人文科学、社会科学をはじめとする諸学問の力を借りる必要がある。本講義では、自らの心身を健康に保つため、そして生涯にわたりスポーツに親しむために必要となるスポーツの科学的知識を理解することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

講義への参加態度(発問への答えなど)、課題、小テストの成績から総合的に評価する。
オムニバス科目であるためそれぞれの教員の評価の総計をもって評価する。
また、原則として再試験・追試験は行わない。

課題に対するフィードバック

・成績を知りたい学生には個別に開示する。
・成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

講義時使用テキスト

テキストは使用しない。

参考文献

・深代千之監修「スポーツを科学しよう!：トレーニング・競技から用具まで」(PHP研究所)
・鹿屋体育大学スポーツトレーニング教育研究センター編；西薗秀嗣著者代表「スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法 ：トレーニング科学の活用テクニック」(大修館書店)
・宮西智久編；岡田英孝，藤井範久著「スポーツバイオメカニクス」(化学同人)
・日本トレーニング指導者協会「トレーニング指導者テキスト」(大修館書店)

資格との関連

本科目は「教育職員免許法施行規則66条の6」に定められた科目の1つであり、中学校、高等学校に限らず教員免許を取得する学生は必ず履修し、修得すること。

学生へのメッセージ

講義会場を変更する場合があるので、掲示に注意すること。
講義科目であるが、実技を行う場合があるので掲示に注意すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 体力とは何か	・参考文献の関連個所を読む。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
2	2. 体力の測定①(握力・上体起こし・長座体前屈)	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
3	3. 体力の測定②(反復横跳び・立ち幅跳び)	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
4	4. 体力の測定③(50m走・ハンドボール投げ)	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
5	5. 体力の測定④(20mシャトルラン)	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
6	6. 体力評価の方法	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
7	7. スポーツと科学の関わり	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
8	8. 体力を高める方法	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
9	9. トレーニングへの体力測定の活用	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
10	10. トレーニングの構成の実際	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
11	11. 生涯スポーツと体力トレーニング	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
12	12. 運動生理学の基礎①運動と呼吸循環器系・エネルギー代謝	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
13	13. 運動生理学の基礎②運動と骨格系・神経系・内分泌系	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
14	14. スポーツのバイオメカニクス①(スポーツ力学)	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
15	15. スポーツのバイオメカニクス②(動作の観察)	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000030001 データサイエンス入門　地域共創Aクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理感を身につけている。

評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

必要に応じて適宜指示する。

講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
2	社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
3	社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
4	データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
5	データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
6	データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
7	データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現)とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
8	データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
9	データリテラシー③　データのバラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
10	データリテラシー④　相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
11	データリテラシー⑤　データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
12	データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
13	データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
14	データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
15	データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000030002 データサイエンス入門　地域共創Bクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理感を身につけている。

評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

必要に応じて適宜指示する。

講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
2	社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
3	社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
4	データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
5	データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
6	データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
7	データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現)とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
8	データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
9	データリテラシー③　データのバラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
10	データリテラシー④　相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
11	データリテラシー⑤　データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
12	データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
13	データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
14	データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
15	データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000030003 データサイエンス入門　人間健康Aクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

必要に応じて適宜指示する。

講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
2	社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
3	社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
4	データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
5	データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
6	データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
7	データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現)とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
8	データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
9	データリテラシー③　データのバラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
10	データリテラシー④　相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
11	データリテラシー⑤　データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
12	データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
13	データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
14	データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
15	データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000030004 データサイエンス入門　人間健康Bクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

必要に応じて適宜指示する。

講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
2	社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
3	社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
4	データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
5	データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
6	データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
7	データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現)とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
8	データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
9	データリテラシー③　データのバラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
10	データリテラシー④　相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
11	データリテラシー⑤　データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
12	データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
13	データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
14	データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
15	データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000030005 データサイエンス入門　看護Aクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

必要に応じて適宜指示する。

講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
2	社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
3	社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
4	データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
5	データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
6	データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
7	データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現)とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
8	データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
9	データリテラシー③　データのバラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
10	データリテラシー④　相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
11	データリテラシー⑤　データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
12	データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
13	データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
14	データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
15	データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000030006 データサイエンス入門　看護Bクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

必要に応じて適宜指示する。

講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
2	社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
3	社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
4	データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
5	データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
6	データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
7	データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現)とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
8	データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
9	データリテラシー③　データのバラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
10	データリテラシー④　相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
11	データリテラシー⑤　データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
12	データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
13	データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
14	データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
15	データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000030007 データサイエンス入門　人間健康Cクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

必要に応じて適宜指示する。

講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
2	社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
3	社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
4	データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
5	データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
6	データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
7	データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現)とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
8	データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
9	データリテラシー③　データのバラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
10	データリテラシー④　相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
11	データリテラシー⑤　データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
12	データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
13	データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
14	データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
15	データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

講義名	1000031000 言語学						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	バリー・H・グロスマン		

学習目標(到達目標)

Welcome to the fascinating world of language! This course will explore how languages work, from the sounds we make to the complex meanings in social situations . We'll crack the code of human communication and discover the science of language.

授業概要(教育目的)

Course Objectives:

* Understand the basic building blocks of language: sounds, words, sentences, and meaning.
* Explore different subfields of linguistics: phonetics, phonology, morphology, syntax, semantics, and pragmatics.
* Analyze language patterns and see how meaning is created.
* Appreciate the diversity of languages around the world.
* Develop critical thinking and problem-solving skills through language analysis.

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理感を身につけている」(地域経営学科)、「豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている」(人間健康学科)、「豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している」(看護学科)。

評価方法

An average of each of the following will determine your class grade:

1.Homework
2.Class Assignments
3.Short Tests

課題に対するフィードバック

Feedback is provided throughout the course in various ways: one-on-one discussions, classwork and homework results feedback, and short test results feedback.

参考文献

講義時使用テキスト

* None: Readings and online resources will be shared throughout the course.

資格との関連

学生へのメッセージ

This class will be conducted entirely in English.

In order for classes to proceed smoothly, you are expected to read the class materials before each related class.

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	What is Language? #1 * Defining Language: What makes human language unique? * Universals of Language: Features shared by most languages.	Introductions	Next week Preview
2	What is Language? #2 * Defining Language: What makes human language unique? * Universals of Language: Features shared by most languages.	Warm-up Activity	Closing Activity
3	Sounds & Systems #1 (Phonetics & Phonology) * Unveiling the Sounds of Speech: How we produce and hear sounds. * Organizing Sounds: How sounds combine to form words in a language.	Previous Week Review	Closing Activity
4	Sounds & Systems #2 (Phonetics & Phonology) * Unveiling the Sounds of Speech: How we produce and hear sounds. * Organizing Sounds: How sounds combine to form words in a language.	Previous Week Review	Closing Activity
5	Word Parts & Building #1 (Morphology) * Morphemes: The building blocks of words. * Word Formation: How prefixes, suffixes, and roots create new words.	Previous Week Review	Closing Activity
6	Word Parts & Building #2 (Morphology) * Morphemes: The building blocks of words. * Word Formation: How prefixes, suffixes, and roots create new words.	Previous Week Review	Closing Activity
7	Sentence Structure #1 (Syntax) * Putting Words Together: How sentences are formed and understood. * Parts of Speech: Knowing nouns, verbs, adjectives, and more.	Previous Week Review	Closing Activity
8	Sentence Structure #2 (Syntax) * Putting Words Together: How sentences are formed and understood. * Parts of Speech: Knowing nouns, verbs, adjectives, and more.	Previous Week Review	Closing Activity
9	Meaning Making #1 (Semantics) * Words & Meanings: Exploring different types of meaning. * Ambiguity & Context: How words change meaning depending on situations.	Previous Week Review	Closing Activity
10	Meaning Making #1 (Semantics) * Words & Meanings: Exploring different types of meaning. * Ambiguity & Context: How words change meaning depending on situations.	Previous Week Review	Closing Activity
11	Beyond Words #! (Pragmatics) * Communication & Context: Understanding the speaker, listener, and situation. * Implicature & Presupposition: What's meant but not said.	Previous Week Review	Closing Activity
12	Beyond Words #2 (Pragmatics) * Communication & Context: Understanding the speaker, listener, and situation. * Implicature & Presupposition: What's meant but not said.	Previous Week Review	Closing Activity
13	Language Around the World #1 * Language Families & Diversity: Exploring the connections between languages. * How Languages Change Over Time: The evolution of languages through history.	Previous Week Review	Closing Activity
14	Language Around the World #2 * Language Families & Diversity: Exploring the connections between languages. * How Languages Change Over Time: The evolution of languages through history.	Previous Week Review	Closing Activity
15	Language & Society *Language & Culture: How language shapes our worldview. * Language & Identity: Exploring dialects and social variations in language.	Previous Week Review	Closing Activity

講義名	1000032000 ドイツ語Ⅰ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分		対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000032001 ドイツ語Ⅰ（地域共創）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須　則行		

学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3　日常生活で多用される基本表現を使える。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツーその文化・歴史・社会』郁文堂

講義時使用テキスト

小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ(第2版)』朝日出版社
副教材としてプリントを配付する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	春学期「ドイツ語」の要点整理	春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す	授業の内容を整理する
2	動詞の3基本形 現在完了 お名前は？	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
3	昨日・今日・明日 休暇旅行 「何をしたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	過去 再帰動詞と再帰代名詞 オクトーバーフェスト	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	こんにちは オペラ鑑賞 「どこにいたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	形容詞・副詞の比較 関係代名詞 レストランにて	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	受動形 反対語のいろいろ ホテルに宿泊	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	接続法 「～がほしいのですが」 誕生パーティー	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	いくらですか？ マンガ文化	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	ハンザ都市リューベック 環境首都フライブルク	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	結婚式の写真 外国人労働者	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	ポツダム広場へ 食習慣	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	どこへ行くの？ ノイシュヴァンシュタイン城	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	路上にて アウシュヴィッツ	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	道案内 ビールの話	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

講義名	1000032002 ドイツ語Ⅰ（人間健康）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化ができる。
3　冠詞類の格変化ができる。
4 ドイツ語で自己紹介し、簡単な手紙を書くことができる。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初歩を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する。

参考文献

黒田龍之助『はじめての言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
黒田龍之助『にぎやかな外国語の世界』白水社
町田　健監修『ニューエクスプレス・スペシャル　ヨーロッパのおもしろ言語』白水社

講義時使用テキスト

小野寿美子／中川明博／西巻丈児
『クロイツング・ネオ(第2版)』
朝日出版社

資格との関連

学生へのメッセージ

ドイツ(連邦共和国)はヨーロッパ大陸の中央部に位置して、9つの国と国境を接しています。ドイツ語は、ドイツはもちろんオーストリアとリヒテンシュタインの唯一の公用語であり、スイス、ルクセンブルクでは公用語の一つです。

この授業では初級ドイツ語を学びます。(1)アルファベートから始めて、(2)文を作る基本的なルール(＝文法)を理解し、(3)多くの平易な文章に触れ、(4)ドイツ語圏の文化や歴史にも目を向けるのが目標です。

ドイツ語の読み方は容易です。(1)ローマ字を読む要領で、(2)語の最初の母音にアクセントを置き、(3)アクセントのある母音は、うしろに子音が一つの場合に長く、子音が二つ以上続く場合に短く読むのが原則です。

これまで英語に馴染んできた目には複雑そうに映るかもしれない文法も、要点は(1)主語に応じて動詞の語尾が定まること(＝人称変化)、(2)名詞の前に付けられる冠詞(類)が、その名詞の文中での役割を明示するために語尾を変えること(＝格変化)の二つに過ぎません。とは言っても、語学は結局のところ覚えなければ何ものでもありません。語彙は少しずつ増やしていきましょう。

ドイツ語を学ぶことで、未知の世界への扉がまた一つ開くことになればと願っています。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	世界の言語とドイツ語 アルファベート つづりと発音 あいさつ 曜日、月	世界地図または地球儀を見る	授業の内容を整理する 発音練習をする
2	人称代名詞と動詞の現在人称変化 最重要動詞sein(英:be)とhaben(英:have) 語順 ja(英:yes)とnein(英:no)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する 発音練習をする
3	さまざまな疑問詞 自己紹介	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	名詞の性、冠詞 定冠詞と名詞の格変化 不定冠詞と名詞の格変化 格の用法	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	職業名・専攻名のいろいろ 趣味はManga	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	不規則動詞の現在人称変化 命令形	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	人称代名詞の格変化 人称代名詞の3格と4格 「～しよう」 フランクフルト中央駅で	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	名詞の複数形 定冠詞類 不定冠詞類 否定冠詞kein	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	身につけるもの、家族 買い物 「～はいくらですか」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	前置詞の格支配 従属の接続詞と副文 非人称のes	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	時刻の言い方 チューリヒの町で 「～はどこにありますか」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	話法の助動詞 分離動詞	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	映画を見に行きたい 「～したい」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	形容詞の格変化 zu不定詞	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	「どんな種類の？」「どのような？」 わたしのねがい	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

講義名	1000032003 ドイツ語Ⅰ（看護）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	髙須 則行		

学習目標(到達目標)

1 発音できる。
2 動詞の現在人称変化ができる。
3 冠詞類の格変化ができる。
4 ドイツ語で自己紹介し、簡単な手紙を書くことができる。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初歩を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する。

講義時使用テキスト

小野寿美子／中川明博／西巻丈児
『クロイツング・ネオ(第2版)』
朝日出版社

参考文献

黒田龍之助『はじめての言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
黒田龍之助『にぎやかな外国語の世界』白水社
町田 健監修『ニューエクスプレス・スペシャル ヨーロッパのおもしろ言語』白水社

資格との関連

学生へのメッセージ

ドイツ(連邦共和国)はヨーロッパ大陸の中央部に位置して、9つの国と国境を接しています。ドイツ語は、ドイツはもちろんオーストリアとリヒテンシュタインの唯一の公用語であり、スイス、ルクセンブルクでは公用語の一つです。

この授業では初級ドイツ語を学びます。(1)アルファベートから始めて、(2)文を作る基本的なルール(＝文法)を理解し、(3)多くの平易な文章に触れ、(4)ドイツ語圏の文化や歴史にも目を向けるのが目標です。

ドイツ語の読み方は容易です。(1)ローマ字を読む要領で、(2)語の最初の母音にアクセントを置き、(3)アクセントのある母音は、うしろに子音が一つの場合に長く、子音が二つ以上続く場合に短く読むのが原則です。

これまで英語に馴染んできた目には複雑そうに映るかもしれない文法も、要点は(1)主語に応じて動詞の語尾が定まること(＝人称変化)、(2)名詞の前に付けられる冠詞(類)が、その名詞の文中での役割を明示するために語尾を変えること(＝格変化)の二つに過ぎません。とは言っても、語学は結局のところ覚えなければ何ものでもありません。語彙は少しずつ増やしていきましょう。

ドイツ語を学ぶことで、未知の世界への扉がまた一つ開くことになればと願っています。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	世界の言語とドイツ語 アルファベート つづりと発音 あいさつ 曜日、月	世界地図または地球儀を見る	授業の内容を整理する 発音練習をする
2	人称代名詞と動詞の現在人称変化 最重要動詞sein(英:be)とhaben(英:have) 語順 ja(英:yes)とnein(英:no)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する 発音練習をする
3	さまざまな疑問詞 自己紹介	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	名詞の性、冠詞 定冠詞と名詞の格変化 不定冠詞と名詞の格変化 格の用法	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	職業名・専攻名のいろいろ 趣味はManga 「～するのが好きです」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	不規則動詞の現在人称変化 命令形	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	人称代名詞の格変化 3格目的語と4格目的語の語順 「～しよう」 フランクフルト中央駅で	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	名詞の複数形 定冠詞類 不定冠詞類 否定冠詞kein	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	身につけるもの、家族 買い物 「～はいくらですか」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	前置詞の格支配 従属の接続詞と副文 非人称のes	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	時刻の言い方 チューリヒの町で 「～はどこにありますか」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	話法の助動詞 分離動詞	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	映画を見に行きたい 「～したい」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	形容詞の格変化 zu不定詞(句)	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	「どんな種類の？」「どのような？」 わたしのねがい	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000033000 ドイツ語Ⅱ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分		対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習

講義名	1000033001 ドイツ語Ⅱ（地域共創）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須 則行		

学習目標(到達目標)

1 発音できる。
2 動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3 日常生活で多用される基本表現を使える。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツ－その文化・歴史・社会』郁文堂

講義時使用テキスト

春学期「ドイツ語」のテキスト（小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ（第2版）』朝日出版社）を引き続き使用し、副教材としてプリントを配付する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	春学期「ドイツ語」の要点整理	春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す	授業の内容を整理する
2	動詞の3基本形 現在完了 お名前は？	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
3	昨日・今日・明日 休暇旅行 「何をしたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	過去 再帰動詞と再帰代名詞 オクトーバーフェスト	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	こんにちは オペラ鑑賞 「どこにいたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	形容詞・副詞の比較 関係代名詞 レストランにて	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	受動形 反対語のいろいろ ホテルに宿泊	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	接続法 「～がほしいのですが」 誕生パーティー	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	いくらですか？ マンガ文化	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	ハンザ都市リューベック 環境首都フライブルク	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	結婚式の写真 外国人労働者	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	ポツダム広場へ 食習慣	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	どこへ行くの？ ノイシュヴァンシュタイン城	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	路上にて アウシュヴィッツ	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	道案内 ビールの話	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000033002 ドイツ語Ⅱ（人間健康）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3　日常生活で多用される基本表現を使える。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツーその文化・歴史・社会』郁文堂

講義時使用テキスト

春学期「ドイツ語」のテキスト（小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ（第2版）』朝日出版社）を引き続き使用し、副教材としてプリントを配付する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	春学期「ドイツ語」の要点整理	春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す	授業の内容を整理する
2	動詞の3基本形 現在完了 お名前は？	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
3	昨日・今日・明日 休暇旅行 「何をしたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	過去 再帰動詞と再帰代名詞 オクトーバーフェスト	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	こんにちは オペラ鑑賞 「どこにいたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	形容詞・副詞の比較 関係代名詞 レストランにて	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	受動形 反対語のいろいろ ホテルに宿泊	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	接続法 「～がほしいのですが」 誕生パーティー	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	いくらですか？ マンガ文化	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	ハンザ都市リューベック 環境首都フライブルク	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	結婚式の写真 外国人労働者	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	ポツダム広場へ 食習慣	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	どこへ行くの？ ノイシュヴァンシュタイン城	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	路上にて アウシュヴィッツ	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	道案内 ビールの話	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000033003 ドイツ語Ⅱ（看護）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	髙須 則行		

学習目標(到達目標)

1 発音できる。
2 動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3 日常生活で多用される基本表現を使える。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツーその文化・歴史・社会』郁文堂

講義時使用テキスト

春学期「ドイツ語」のテキスト（小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ（第2版）』朝日出版社）を引き続き使用し、副教材としてプリントを配付する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	春学期「ドイツ語」の要点整理	春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す	授業の内容を整理する
2	動詞の3基本形 現在完了 お名前は？	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
3	昨日・今日・明日 休暇旅行 「何をしたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	過去 再帰動詞と再帰代名詞 オクトーバーフェスト	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	こんにちは オペラ鑑賞 「どこにいたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	形容詞・副詞の比較 関係代名詞 レストランにて	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	受動形 反対語のいろいろ ホテルに宿泊	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	接続法 「～が欲しいのですが」 誕生パーティー	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	いくらですか？ マンガ文化	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	ハンザ都市リューベック 環境首都フライブルク	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	結婚式の写真 外国人労働者	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	ポツダム広場へ 食習慣	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	どこへ行くの？ ノイシュヴァンシュタイン城	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	路上にて アウシュヴィッツ	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	道案内 ビールの話	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

講義名	1000034000 韓国語						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	金　善旭		

学習目標(到達目標)

本講義の学習目標は、韓国語の基本的な文字(ハングル)の構成や基礎的な文法、そして日常生活で使われる様々な表現などについて学習することで、受講生の韓国語能力を向上させることを目標とする。そのために、まずは、音素文字であるハングルの母音・子音を正確に読み書きできることを学習目標とする。次に、基礎語彙を身につけ、簡単な文章についても読み書きできることを学習目標とする。さらには、簡単なあいさつ表現および日常生活に使われる表現などについて学習し、受講生の韓国語能力の向上に努める。

授業概要(教育目的)

本講義では、基礎的な韓国語の文字・文法・表現などについて説明し、受講生の理解を深めるために、実際の発音練習および書く練習を積極的に行う。まず、内容について易しく説明し、その後、実際に書きながら、発音の練習をする。受講生の人数によっては、グループを作成し、その中でお互い話し合う時間も作りたいと考えている。外国語の学習においては、とにかく目と耳がなれることが大事であるため、なるべく発音する時間と聞く時間を確保しながら講義を進めていきたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、ビジネスに必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

本講義の評価は、授業毎のワークシートと定期試験により評価する。

課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の模範解答を示す。
期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

『世宗学院 韓国語入門』世宗学院財団
https://nuri.iksi.or.kr/front/cms/contents/layout2/learningsejong/detail.do

講義時使用テキスト

レジュメ配布

資格との関連

韓国語能力試験(TOPIK)や「ハングル」能力検定試験の資格を受験する基礎になる。

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	韓国語とハングルについて 理解すること。	参考文献の関連個所を読む	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
2	基本母音を 理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
3	平音を理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
4	激音を理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
5	硬音を理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
6	二重母音1を 理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
7	二重母音2を 理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
8	パッチム1を 理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
9	パッチム2を 理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
10	二重パッチムを 理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
11	連音を理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
12	簡単なあいさつと自己紹介の 表現することができる。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
13	数字と時刻の 読み 方と年月日・曜日などを表すことができる。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
14	教室でよく使う多様な表現を 理解して 使用することができる。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
15	韓国語の様々な挨拶表現を 状況ごとに 理解して 使うことができる。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000035000 中国語						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

ゲームやロールプレイを通して、中国語の母音、子音、声調などの発音をマスターすることができる。また、中国語の基本構文などの学習を通して、名前や出身、所属、家族などについて紹介することができ、簡単な挨拶や日常会話を理解し、応用できるようになる。

授業概要(教育目的)

この授業は、発音や自己紹介、お誘い、レストランでの注文、買い物などの簡単な日常会話を習得することを目的としている。授業では「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能をバランスよく身につけるため、ゲームやロールプレイを活用して楽しく練習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

成績評価は、授業中の学習状況、小テスト、期末レポートにより行います。

課題に対するフィードバック

その都度フィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

ライト版　中国語でコミュニケーション(沈国威・氷野善寛・小嶋美由紀・海暁芳・紅粉芳惠・阿部慎太郎 共著／朝日出版社／￥2,805／ISBN=978-4-255-45355-2)

資格との関連

中国語検定準4級

学生へのメッセージ

積極的な態度で授業に参加してください。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	中国語の発音：子音、母音、声調について	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
2	自己紹介①ー名前、出身（人称代名詞、名前の聞き方）	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
3	自己紹介①ー名前、出身(“是”構文の使い方)	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
4	自己紹介②ー所属、専攻(「動詞述語文」の使い方、指示代名詞)	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
5	自己紹介②ー所属、専攻(場所代名詞、疑問詞疑問文、連体修飾語を作る“的”)	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
6	自己紹介③ー家族について(所在を表す“在”、所有と存在を表す“有”の使い方)	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
7	自己紹介③ー家族について(方位詞の使い方、名詞述語文、文末助詞“了”の使い方)	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
8	お誘い①（前置詞“在”、連動文の使い方）	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
9	お誘い②（反復疑問文）	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
10	お誘い③（年月日、曜日、時刻の言い方）	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
11	レストラン①（選択疑問文）	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
12	レストラン②（“想”と“要”の使い方、省略疑問文、数量詞の使い方）	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
13	買い物①（形容詞述語文、比較文の使い方）	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
14	買い物②（助動詞“能”と“可以”の使い方）	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
15	まとめ	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000036000 人間関係論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1・2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	今川　ゆき		

学習目標(到達目標)

次の2点を到達目標とする。
1. 人間関係やコミュニケーションに関する心や行動の仕組みを知り，説明できる。
2. 円滑なコミュニケーションスキルを身につけ，日常場面でも活用できるようになる。

授業概要(教育目的)

学校や家庭，仕事など私たちの生活において人間関係が影響する場面は多い。現代社会ではSNS等のコミュニケーションツールの発達により，多様なコミュニケーションが可能になった一方で，良好な人間関係を構築することに課題を抱える人も少なくない。本授業では，心理学的な視点から基本的なコミュニケーションに関わる理論と，日常場面でも活用できるコミュニケーションスキルを学び，より良い人間関係のあり方を考えていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

成績は，期末考査の点数を重視し，毎授業後のコメントシートの提出・内容，授業中の参加態度などからも総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

コメントシートへの返答は，次の授業で代表的なものをいくつか取りあげる。
期末試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

必要時，適宜講義内で提示する。

講義時使用テキスト

テキストは使用せず，資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

授業内でQRコードを読み取ってもらい，ワークに取り組んでもらう場合があります。
QRコードが読み取れるスマートフォンやタブレット端末等を持参してください。

実務との関連

心理職(公認心理師・臨床心理士)として行政の精神科デイケアに勤務。精神医療・保健福祉での実務経験をもとに，生活の場で活用できる人間関係についての知識やコミュニケーションスキルについて話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	人間関係とは	シラバスを確認する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
2	人間関係のはじまり(アタッチメント理論)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
3	人間関係のきっかけとなる要因(対人認知・対人魅力・ステレオタイプ)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
4	人間関係の発展と自己理解(対人関係・自己認知)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
5	人間関係の維持(社会的交換理論・対人葛藤)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
6	人間関係の変化(認知的不協和・バランス理論)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
7	集団の中の人間関係(同調・社会的手抜きと促進・リーダーシップ)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
8	コミュニケーションの基礎知識	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
9	聴くスキル:傾聴	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
10	伝えるスキル:アサーション	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
11	捉えるスキル:リフレーミング	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
12	人間関係を維持するスキル①:アンガーマネジメント	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
13	人間関係を維持するスキル②:セルフ・ケア	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
14	ソーシャルスキル・トレーニング	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
15	コミュニケーション上の諸問題	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000037000 スポーツ実技Ⅰ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分		対象年次	1・2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000037001 スポーツ実技Ⅰ（Aクラス）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	実技	対象年次	1・2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	有光　琢磨		

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000037002 スポーツ実技Ⅰ（Bクラス）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分		対象年次	1・2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000038000 スポーツ実技Ⅱ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分		対象年次	1・2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

■ 各実技種目の学習を通じて、各種目の特徴を理解するとともに、「リーダーシップ・フォロワーシップ能力」を実践的に高めることができる

■ 仲間とスポーツを実践する中で、積極的に発言(ファシリテーション)し、他者とのコミュニケーションを円滑する能力を高めることができる

■ 生涯スポーツを実践していくための自己(健康)管理能力を高めることができる。

授業概要(教育目的)

■ スポーツ実技は、生涯スポーツ種目の定着を目指す科目である。本授業の実践的継続を通して、学習目標に記述した各種能力の獲得を目指す

■ スポーツ実技を履修した学生が、各種目の特性を理解し、生涯スポーツとして実践できるようにすること、さらに、多くの仲間と共に学ぶ中で深い社会性を磨き、特にリーダーシップ能力を涵養することを目的とする

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

授業態度点60%、目標達成度およびレポート40%

課題に対するフィードバック

テスト

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス	テスト	テスト

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000038001 スポーツ実技Ⅱ（Aクラス）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	実技	対象年次	1・2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	渡邉　陵由		

学習目標(到達目標)

■　各実技種目の学習を通じて、各種目の特徴を理解するとともに、「リーダーシップ・フォロワーシップ能力」を実践的に高めることができる

■　仲間とスポーツを実践する中で、積極的に発言(ファシリテーション)し、他者とのコミュニケーションを円滑する能力を高めることができる

■　生涯スポーツを実践していくための自己(健康)管理能力を高めることができる。

授業概要(教育目的)

■　スポーツ実技は、生涯スポーツ種目の定着を目指す科目である。本授業の実践的継続を通して、学習目標に記述した各種能力の獲得を目指す

■　スポーツ実技を履修した学生が、各種目の特性を理解し、生涯スポーツとして実践できるようにすること、さらに、多くの仲間と共に学ぶ中で深い社会性を磨き、特にリーダーシップ能力を涵養することを目的とする

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

授業態度点60%、目標達成度およびレポート40%

課題に対するフィードバック

テスト

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス	テスト	テスト

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000038002 スポーツ実技Ⅱ（Bクラス）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分		対象年次	1・2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

■ 各実技種目の学習を通じて、各種目の特徴を理解するとともに、「リーダーシップ・フォロワーシップ能力」を実践的に高めることができる

■ 仲間とスポーツを実践する中で、積極的に発言(ファシリテーション)し、他者とのコミュニケーションを円滑する能力を高めることができる

■ 生涯スポーツを実践していくための自己(健康)管理能力を高めることができる。

授業概要(教育目的)

■ スポーツ実技は、生涯スポーツ種目の定着を目指す科目である。本授業の実践的継続を通して、学習目標に記述した各種能力の獲得を目指す

■ スポーツ実技を履修した学生が、各種目の特性を理解し、生涯スポーツとして実践できるようにすること、さらに、多くの仲間と共に学ぶ中で深い社会性を磨き、特にリーダーシップ能力を涵養することを目的とする

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

授業態度点60%、目標達成度およびレポート40%

課題に対するフィードバック

テスト

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス	テスト	テスト

講義名	1000039000 防災と危機管理						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1・2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	井上　丹		

学習目標(到達目標)

自然災害について基礎的知識を身につけることで、自らの防災力向上につなげるとともに、周囲の安全確認や事前対策ができるようになる。

授業概要(教育目的)

近年多発している自然災害や今後起こり得る自然災害から、人々の生命や財産を守るためには、防災に関する知識を身につけ、共有していく必要がある。本講義では、自然災害の発生のメカニズム、被害想定、災害情報の入手方法、自治体や地域における対策について理解する。そして安心安全なまちづくりに向けて、防災意識を高めるだけでなく、自助・共助・協働による活動を推進できるよう、授業中では学生同士による積極的な意見交換を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理感を身につけている」(地域経営学科)、「豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている」(人間健康学科)、「豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している」(看護学科)。

評価方法

①筆記試験60%:学期末の定期試験期間に実施(持ち込み不可)
②リアクションペーパー40%:毎回配布し授業中に取り組み、最後にWebclassで提出

課題に対するフィードバック

・リアクションペーパーについては、次回の授業でポイントを復習する
・期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること

参考文献

2024年度版『防災士教本』認定特定非営利活動法人日本防災士機構

講義時使用テキスト

毎回レジュメを配布

資格との関連

「防災士」の資格取得に役立つ講義となっている。なお、防災士取得を目指す場合は、別途申込と受講料が必要となる。詳細は講義中に説明する。

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	防災を学ぶ意義 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
2	災害発生のしくみ(地震・津波・気象災害など) ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
3	近年の主な自然災害(ゲストティーチャー) ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
4	被害想定・ハザードマップ ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
5	災害関連情報と予報・警報 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
6	行政の災害対策と危機管理 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
7	復旧・復興と被災者支援 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
8	災害医療とこころのケア ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
9	企業・団体の事業継続 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
10	災害への備え ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
11	自主防災活動と地区防災計画 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
12	地域防災と多様性への配慮 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
13	災害ボランティア活動 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
14	安心安全なまちづくり・レジリエンス ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
15	防災士について ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000040000 日本語Ⅰ（楊クラス）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

自分のこと、自分の考えを伝える力と語り合う日本語力を身につけることが目的である。

授業概要(教育目的)

本講義は、「タスク(課題)先行型」という特徴を前面に押し出し、日本語のコミュニケーション力、特に「対話力」を高めることが目的である。コミュニケーションは人と人との関わりによって成り立つ。伝えたいことを自分の持つ言語知識で「正確」かつ「効率」的に伝えることが大事であるため、本講義は学習者をコミュニケーションを主体として、「こんなときどうする？」、「見つけた！」「耳でキャッチ」「伝えてみよう」という4種類のタスクで、教室活動を進めていく。これらの活動により、学習者の日本語コミュニケーション力を高めていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

小テスト、授業中の発表・発言・意欲などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

『できる日本語　初中級』嶋田和子　監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

講義時使用テキスト

『できる日本語　初中級』嶋田和子　監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

資格との関連

学生へのメッセージ

N4レベル以上であること

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	新しい一歩①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
2	新しい一歩②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
3	楽しいショッピング①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
4	楽しいショッピング②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
5	私の目標①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
6	私の目標②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
7	住んでいる町で①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
8	住んでいる町で②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
9	大変な1日①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
10	大変な1日②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
11	旅行に行こう①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
12	旅行に行こう②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
13	西川さんの家へ①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
14	西川さんの家へ②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
15	復習	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。

講義名	1000041000 日本語Ⅱ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

自分のこと、自分の考えを伝える力と語り合う日本語力を身につけることが目的である。

授業概要(教育目的)

本講義は、「タスク(課題)先行型」という特徴を前面に押し出し、日本語のコミュニケーション力、特に「対話力」を高めることが目的である。コミュニケーションは人と人との関わりによって成り立つ。伝えたいことを自分の持つ言語知識で「正確」かつ「効率」的に伝えることが大事であるため、本講義は学習者をコミュニケーションを主体として、「こんなときどうする？」、「見つけた！」「耳でキャッチ」「伝えてみよう」という4種類のタスクで、教室活動を進めていく。これらの活動により、学習者の日本語コミュニケーション力を高めていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

小テスト、授業中の発表・発言・意欲などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

『できる日本語　初中級』嶋田和子　監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

講義時使用テキスト

『できる日本語　初中級』嶋田和子　監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

資格との関連

学生へのメッセージ

N4レベル以上であること

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ありがとう①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
2	ありあとう②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
3	アルバイト先で①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
4	アルバイト先で②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
5	旅行に行って①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
6	旅行に行って②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
7	地域社会の中で①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
8	地域社会の中で②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
9	私の健康法①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
10	私の健康法②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
11	親の気持ち・子の気持ち①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
12	親の気持ち・子の気持ち②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
13	イベント・行事①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
14	イベント・行事②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
15	復習	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000042000 日本語Ⅲ（楊クラス）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

自分のこと、自分の考えを伝える力と語り合う日本語力を身につけることが目的である。

授業概要(教育目的)

本講義は、「タスク(課題)先行型」という特徴を前面に押し出し、日本語のコミュニケーション力、特に「対話力」を高めることが目的である。コミュニケーションは人と人との関わりにより成り立つ。伝えたいことを自分の持つ言語知識で「正確」かつ「効率」的に伝えることが大事であるため、本講義は、日本語Ⅰ・Ⅱに引き続き、学習者をコミュニケーション主体として、「こんなときどうする？」、「見つけた！」「耳でキャッチ」「伝えてみよう」という4種類のタスクで、教室活動を進めていく。これらの活動により、学習者の日本語コミュニケーション力を高めていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

小テスト、授業中の発表・発言・意欲などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

『できる日本語』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

講義時使用テキスト

『できる日本語』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

資格との関連

学生へのメッセージ

N3レベル相当の学生であること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	新たな出会い①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
2	新たな出会い②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
3	新たな出会い③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
4	楽しい食事・上手な買い物①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
5	楽しい食事・上手な買い物②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
6	楽しい食事・上手な買い物③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
7	時間を生かす①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
8	時間を生かす②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
9	時間を生かす③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
10	地域を知って生活する①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
11	地域を知って生活する②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
12	地域を知って生活する③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
13	緊急事態①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
14	緊急事態②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
15	緊急事態③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000043000 日本語Ⅳ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

自分のこと、自分の考えを伝える力と語り合う日本語力を身につけることが目的である。

授業概要(教育目的)

本講義は、「タスク(課題)先行型」という特徴を前面に押し出し、日本語のコミュニケーション力、特に「対話力」を高めることが目的である。コミュニケーションは人と人との関わりによって成り立つ。伝えたいことを自分の持つ言語知識で「正確」かつ「効率」的に伝えることが大事であるため、本講義は日本語Ⅰ・Ⅱに引き続き、学習者をコミュニケーションを主体として、「こんなときどうする？」、「見つけた！」「耳でキャッチ」「伝えてみよう」という4種類のタスクで、教室活動を進めていく。これらの活動により、学習者の日本語コミュニケーション力を高めていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

小テスト、授業中の発表・発言・意欲などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

『できる日本語』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

講義時使用テキスト

『できる日本語』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

資格との関連

学生へのメッセージ

日本語Ⅲと日本語Ⅳを同時に受講すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	地図を広げる①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
2	地図を広げる②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
3	地図を広げる③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
4	世代を超えた交流①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
5	世代を超えた交流②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
6	世代を超えた交流③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
7	気持ちを伝える①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
8	気持ちを伝える②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
9	気持ちを伝える③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
10	言葉を楽しむ①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
11	言葉を楽しむ②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
12	言葉を楽しむ③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
13	日本を旅する①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
14	日本を旅する②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
15	日本を旅する③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000044000 日本語Ⅴ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

自分のこと、自分の考えを伝える力と語り合う日本語力を身につけることが目的である。

授業概要(教育目的)

社会生活の様々な場面で日本人と上手にコミュニケーションできるように「相手との良好な関係を確立・維持しながら、自分の意図や考え方をきちんと伝えることができる能力」を身に付ける。「許可を求める」「依頼する」「謝罪する」「誘う」「申し出をする」「助言する」「不満を伝える」「ほめる」の8つの場面を通して、状況にそった適切なことばの使い方を効率的・体系的に学ぶことができる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

小テスト、授業中の発表・発言などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

『できる日本語』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

講義時使用テキスト

『できる日本語』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

資格との関連

学生へのメッセージ

日本語Ⅲと日本語Ⅳを受講したうえ、日本語Ⅴと日本語Ⅵを同時に受講すること。または、N3レベル以上の学生であること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ライフスタイル①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
2	ライフスタイル②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
3	ライフスタイル③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
4	心と体の健康①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
5	心と体の健康②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
6	心と体の健康③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
7	トレンドに乗ってつながる①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
8	トレンドに乗ってつながる②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
9	トレンドに乗ってつながる③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
10	カルチャーショック①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
11	カルチャーショック②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
12	カルチャーショック③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
13	情報社会に生きる①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
14	情報社会に生きる②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
15	情報社会に生きる③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000045000 日本語VI						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

自分のこと、自分の考えを伝える力と語り合う日本語力を身につけることが目的である。

授業概要(教育目的)

グローバル化が進むなか、留学生の約半数以上が卒業後、日本での就職を希望している。本講義はビジネス日本語能力の知識だけでなく、日本のビジネスマナー、仕事の進め方、情報セキュリティなどの法的ルール取り入れながら授業をすすめていく。日本の会社文化への理解を深めることで、職場と取引先の人とのコミュニケーション能力や、ビジネス場面における日本語の実践的な運用能力の育成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

小テスト、授業中の発表・発言・意欲などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

『できる日本語　中級』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

講義時使用テキスト

『できる日本語　中級』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

資格との関連

学生へのメッセージ

日本語Ⅲと日本語Ⅳを受講したうえ、日本語Ⅴと日本語Ⅵを同時に受講すること。N3レベル相当の学生であること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	学校生活①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
2	学校生活②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
3	学校生活③	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
4	働くということ①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
5	働くということ②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
6	働くということ③	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
7	地球に生きる①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
8	地球に生きる②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
9	地球に生きる③	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
10	科学の力①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
11	科学の力②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
12	科学の力③	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
13	豊かさと幸せ①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
14	豊かさと幸せ②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
15	豊かさと幸せ③	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000046000 日本文化Ⅰ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

各種資料を通して、日本の文化、習慣などについて考え、母国の生活・文化と比較して日本文化を理解する。また、日本文化と母国文化の違いなどを、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて表現する力を養う。

授業概要(教育目的)

本講義は日本の文化について様々な視点から学び、思考を深める。本講義は「受信型」の学習にとどまらず、自ら思考・判断・表現する「発信型」の学習を重視する。読み取った内容を理解し、自分の見解をディスカッションなどの形を通して、アウトプットできるようになることが目的である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

国際交流、地域活動やフィールドワーク等を通じて、コミュニケーション能力を身につける。

評価方法

授業中の発言や参加態度、課題レポート等の成績により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

1.『知っていますか　日本のこと-学ぼう　話そう　日本事情』
2.『日本語で文化体験』
3.「日本語中級学習者のための日本事情シラバス」

講義時使用テキスト

使用しない(適宜プリントを配布する)

資格との関連

学生へのメッセージ

本講義は、留学生を対象とする。発表は日本語で行う。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	プロローグ	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
2	日本人の一生	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
3	日本人の食生活	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
4	日本人の衣生活	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
5	日本人の住生活	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
6	日本の教育制度	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
7	社会的習慣・社会的情勢①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
8	社会的習慣・社会的情勢②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
9	日本の年中行事	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
10	日本の伝統文化①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
11	日本の伝統文化②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
12	日本社会のトレンド	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
13	現代日本の若者文化	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
14	日本語に関するトピック①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
15	日本語に関するトピック②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000047000 日本文化Ⅱ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

各種資料を通して、日本の文化、習慣などについて考え、母国の生活・文化と比較して日本文化を理解する。また、日本文化と母国文化の違いなどを、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて表現する力を養う。

授業概要(教育目的)

本講義は日本の文化について様々な視点から学び、思考を深める。本講義は「受信型」の学習にとどまらず、自ら思考・判断・表現する「発信型」の学習を重視する。本講義では、日本文化Ⅰに引き続き、読み取った内容を理解し、自分の見解をディスカッションなどの形を通して、アウトプットできるようになることが目的である。さらに、学習者の地域への愛着を育むため、青森県の伝統文化についても学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、コミュニケーション能力を身につける。

評価方法

授業中の発言や参加態度、課題レポート等の成績により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

1. 留学生のための日本事情入門
2.「日本語中級学習者のための日本事情シラバス」

講義時使用テキスト

使用しない(適宜プリントを配布する)

資格との関連

学生へのメッセージ

本講義は留学生を対象とする。発表は日本語で行う。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	日本社会と日本人の変化	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
2	季節と対策から見える日本	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
3	スポーツから見える日本	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
4	マンガ・アニメ等から見える日本	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
5	広告から見える日本	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
6	災害から見える日本	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
7	儀式から見える日本	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
8	日本のマナー・習慣・ルール①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
9	日本のマナー・習慣・ルール②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
10	日本のマナー・習慣・ルール③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
11	グループ発表	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
12	地域の文化・産業を学ぶ①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
13	地域の文化・産業を学ぶ②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
14	地域の文化・産業を学ぶ③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
15	グループ発表	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000048000 日本社会Ⅰ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

読み物を通して社会的なテーマについて自ら考えていく力を身につける。

授業概要(教育目的)

本の地理、人口、政治、教育、スポーツなどをやさしい日本語を使用して説明し、これらを留学生の母国事情と比較しながら日本社会を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

国際交流、地域活動やフィールドワーク等を通じて、コミュニケーション能力を身につける。

評価方法

授業中の発言や参加態度、課題レポート等の成績により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

使用しない(適宜プリントを配布する)

資格との関連

学生へのメッセージ

本講義は、留学生を対象とする。発表は日本語で行う。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
2	日本の地理①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
3	日本の地理②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
4	日本の人口①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
5	日本の人口②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
6	日本の政治①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
7	日本の政治②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
8	日本の教育①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
9	日本の教育②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
10	日本のスポーツ①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
11	日本のスポーツ②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
12	日本のテクノロジー①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
13	日本のテクノロジー②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
14	日本人と自然①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
15	日本人と自然②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000049000 日本社会Ⅱ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

読み物を通して社会的なテーマについて自ら考えていく力を身につける。

授業概要(教育目的)

日本の宗教、科学技術、環境対策、産業構造などをやさしい日本語を使用して説明し、これらを留学生の母国事情と比較しながら日本社会を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、コミュニケーション能力を身につける。

評価方法

授業中の発言や参加態度、課題レポート等の成績により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

使用しない(適宜プリントを配布する)

資格との関連

学生へのメッセージ

本講義は、留学生を対象とする。発表は日本語で行う。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
2	日本人と宗教①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
3	日本人と宗教②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
4	日本の科学技術①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
5	日本の科学技術②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
6	日本の環境対策①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
7	日本の環境対策②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
8	日本の産業構造①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
9	日本の産業構造②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
10	日本に滞在する外国人①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
11	日本に滞在する外国人②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
12	外国人ポイント制度	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
13	都市の暮らし・地方の暮らし①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
14	都市の暮らし・地方の暮らし②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
15	多文化共生社会	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020001000 看護教育のための生物基礎						
年度	2026	開講時期	前期前半	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	田中　完		

学習目標(到達目標)

1. 生命科学と生命観について基礎的知識を述べることができる。
2. 細胞、生殖、発生および生物と環境のかかわりなどの基礎的知識を述べることができる。
3. 生命体と地球環境との関連などの知識をもとに生命観について述べることができる。

授業概要(教育目的)

看護・医療の基礎科学として生命現象の共通性や特異性、すなわち細胞・秩序・動的平衡・エネルギー・恒常性・反応性・成長と生殖・遺伝・適応による進化などを追及する。高校で生物を履修していない学生にも理解しやすいよう、平易で明快な表現を用いた授業とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

定期試験(筆記)により評価する。

課題に対するフィードバック

ミニテスト、まとめのテストは解説し、解答を提示する。

参考文献

テキスト以外に授業で必要な資料は印刷して配布する。

講義時使用テキスト

系統看護学講座　基礎分野　生物学、医学書院

資格との関連

学生へのメッセージ

基礎的な知識を十分身に付けるように予習と復習をしてください。ミニテストおよびまとめのテストを行い、知識を整理する機会を設けます。

医学・医療を学ぶ上での基本的な部分を自分なりにざっくりとでも押えておくことが重要です。

実務との関連

大学病院勤務の実務経験を活かし、基礎生物学について教授する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	生命体のつくりとはたらき・生命維持のエネルギー	生命体のつくりとはたらき・生命維持のエネルギーについて該当する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	配布されたハンドアウトおよび講義の要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
2	細胞の増殖と体の成り立ち	細胞の増殖と体の成り立ちについて該当する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	配布されたハンドアウトおよび講義の要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
3	遺伝情報と伝達・発現のしくみ	遺伝情報と伝達・発現の該当する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	配布されたハンドアウトおよび講義の要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
4	生殖と発生・個体の調節	生殖と発生・個体の調節について該当する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	配布されたハンドアウトおよび講義の要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
5	刺激の受容と行動	刺激の受容と行動について該当する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	配布されたハンドアウトおよび講義の要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
6	生命の進化と多様性	テキストの該当箇所をあらかじめ読み、生命の進化と多様性に関連する事項について該当する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	配布されたハンドアウトおよび講義の要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
7	生物と環境のかかわり	生物と環境のかかわりについて該当する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	配布されたハンドアウトおよび講義の要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
8	地球環境とヒトの共存	地球環境とヒトの共存について該当する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	配布されたハンドアウトおよび講義の要点をまとめ、疑問点をピックアップする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020002000	看護教育のための化学基礎					
年度	2026	開講時期	前期後半	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	鶴田　猛彦		

学習目標(到達目標)

1. 無機化学について、無機物の化学的性質および化学反応の基礎知識を述べることができる。
2. 有機化学について、有機化合物の特性および化学反応の基礎知識を述べることができる。
3. 生体物質について、生体物質の特性および化学反応の基礎知識を述べることができる。

授業概要(教育目的)

医療系教育において、人の正常な活動や疾病に理解には、身体を構成する物質とその反応を知ることが不可欠である。本講義では看護の道に進む学生が興味を持って化学を学べるよう、なるべく日常生活や健康・医療に関連した事項を取り上げ、無機化学・有機化学の理解を通して、生化学・薬理学・栄養学の学びにつながるように教授する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

定期試験の結果により評価する。

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

講義時使用テキスト

系統看護学講座　基礎分野　化学、医学書院

資格との関連

看護師、保健師を目指す上で必要な生化学・薬理学・栄養学を学ぶ前にその基礎となる化学の基礎を習得する。

学生へのメッセージ

高校で学んだ知識を確実なものとし、さらにその上に積み上げていきますから、高校時代の授業内容を復習して本授業に臨むことが効果的です。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	身のまわりの化学、化学の単位と元素の周期律	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	物質の三態、気体の性質、液体、溶液の性質	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	化学反応、反応速度、化学平衡	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	原子の構造と化学結合、無機化学	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	有機化合物の基礎、脂肪族炭化水素、ベンゼンとその誘導体	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	芳香族多環式化合物、複素環化合物、官能基の種類、アルコール、フェノール類、エーテル、アルデヒド、ケトン	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	カルボン酸、エステル、ニトロ化合物、アミン	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	糖質、アミノ酸とたんぱく質、脂質、核酸	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する

講義名	4020004000 生命と倫理（看護学科）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	高橋　雪子		

学習目標(到達目標)

1. 生命倫理に関する基本的な考え方を説明できる。
2. 生命倫理に関する主要な思想や歴史について説明できる。
3. 生命倫理に関する種々の問題について説明できる。

授業概要(教育目的)

生命は何故かけがえのないものであるのか、人間には何故、尊厳があるのか、人類の歴史は生命や尊厳を軽視してこなかったか、現代社会において生命や尊厳について何が問題となり、私たちはどのような選択を迫られているか。また、医療における倫理的な種々の問題、つまり患者の権利、障害者や先天異常に対する考え方、安楽死や尊厳死、緩和ケア、薬害、医療過誤、臓器移植、生殖医療および遺伝子治療などにおける倫理ついて学ぶことが本講義の目的である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

講義後のテーマに対する小論文と期末の筆記テストの結果で総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

・課題(小論文)は各回の講義の終了20分前に行い、次回の講義の最初の10分間を用いてフィードバックする。

参考文献

塩野　寛著、「生命倫理への招待」 南山堂

講義時使用テキスト

使用しない。講義の度にハンドアウトを配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

生命倫理や人間の尊厳に関する新聞やテレビの報道に注目し、自分のこととして考えることが医療従事者としての心構えになり得る。

実務との関連

40年以上の看護教育及び実務経験を活かして職業と倫理(看護倫理、守秘義務、ｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞｺﾝｾﾝﾄ)、生命の尊厳、患者の権利と医療現場、障がい者の尊厳、先天的異常、安楽死、尊厳死、生殖医療、グリーフケア、人生の最終段階における治療、薬害、医療過誤、各種ハラスメント、ジェンダー問題、臓器移植および遺伝子治療について教授する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	職業と倫理(守秘義務・インフォームド・コンセントIC)	職業と倫理に関連する情報を書籍やインターネットを 用いて調べてまとめる。	配布資料と講義のノートを読み返し、要点と疑問点をピックアップする。
2	患者の権利と義務(医療現場)	患者の権利と義務を書籍やインターネットを 用いて調べてまとめる。	配布資料と講義のノートを読み返し、要点と疑問点をピックアップする。
3	障がい者の尊厳	障がい者の 尊厳に関連する情報を書籍やインター ネットを 用いて調べてまとめる。	配布資料と講義のノートを読み返し、要点と疑問点をピックアップする。
4	児童虐待	児童虐待に関連する情報を書籍やインターネットを 用いて調べてまとめる。	配布資料と講義のノートを読み返し、要点と疑問点をピックアップする。
5	安楽死・尊厳死	安楽死・尊厳死に関連する情報を書籍やインターネットを 用いて調べてまとめる。	配布資料と講義のノートを読み返し、要点と疑問点をピックアップする。
6	先天異常	先天異常に関連する情報を書籍やインターネットを 用いて調べてまとめる。	配布資料と講義のノートを読み返し、要点と疑問点をピックアップする。
7	出生前診断と人工妊娠中絶	出生前診断に関連する情報を書籍やインターネットを 用いて調べてまとめる。	配布資料と講義のノートを読み返し、要点と疑問点をピックアップする。
8	臓器移植	臓器移植に関連する情報を書籍やインターネットを 用いて調べてまとめる。	配布資料と講義のノートを読み返し、要点と疑問点をピックアップする。
9	人生の 最終段階における治療(緩和ケア・延命治療・ホスピスケア)	緩和ケア・延命治療・ホスピスケアに関連する情報を書籍やインターネットを 用いて調べてまとめておく。	配布資料と講義のノートを読み返し、要点と疑問点をピックアップする。
10	性の 多様性(DVD鑑賞)	性の 多様性に関連する情報を書籍やインターネットを 用いて調べてまとめておく。	配布資料と講義のノートを読み返し、要点と疑問点をピックアップする。
11	ジェンダー問題と人権	ジェンダー問題に関連する情報を書籍やインターネットを 用いて調べてまとめておく。	配布資料と講義のノートを読み返し、要点と疑問点をピックアップする。
12	性的マイノリティ(DVD鑑賞)	性的マイノリティに関連する情報を書籍やインターネットを 用いて調べてまとめておく。	配布資料と講義のノートを読み返し、要点と疑問点をピックアップする。
13	ハラスメント	ハラスメントに関連する情報を書籍やインターネットを 用いて調べてまとめておく。	配布資料と講義のノートを読み返し、要点と疑問点をピックアップする。
14	薬害	薬害における倫理について書籍やインターネットを 用いて調べてまとめておく。	配布資料と講義のノートを読み返し、要点と疑問点をピックアップする。
15	医療過誤	臓器移植に関する情報を書籍やインターネットを 用いて調べてまとめておく。	配布資料と講義のノートを読み返し、要点と疑問点をピックアップする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020006000 解剖生理学Ⅰ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	坂本　弘子		

学習目標(到達目標)

1. 人体で営まれている生命現象のなかで生命を維持する機能について述べることができる。
2. 栄養の消化と吸収について述べることができる。
3. 呼吸と血液のはたらきについて述べることができる。
4. 血液の循環とその調節について述べることができる。
5. 体液の調節と尿の生成について述べることができる。

授業概要(教育目的)

人体の生命を維持する働きについての基本的な知識と、消化器系、呼吸器器系、血液・循環器系、腎臓系に関する人体の形態と構造、役割と機能を臨床(看護)と関連させて教授する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

講義時のミニテストの実施と定期試験の結果で評価をする。
日々作成の暗記カードまたは暗記メモの作成状況も評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

各講義ごとにミニテストの実施と、覚えるべき要点・項目を示し、暗記カードまたは暗記メモの確認をし、日々の学習状況の確認をする。
試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

1.解剖生理学　竹内修二著　医学芸術社
2.解剖トレーニングノート　竹内修二著　医学教育出版社
3.人体の構造と機能　内田さえ他著　医歯薬出版株式会社

講義時使用テキスト

系統看護学講座　専門基礎　「解剖生理学」 人体の構造と機能1 （医学書院）

資格との関連

病態理解には必須の教科であり、さらに看護ケアの根拠となるために必要である。看護師国家試験の出題範囲に人体の構造と機能が深く関連している。

学生へのメッセージ

解剖生理学は、医学の体系の中でも基礎中の基礎であり十分に理解することで、今後の病態学の理解や看護の講義の理解につながる。難しい言葉や漢字が出てきて戸惑うことが多いが、日常から触れるようにすることで自然に覚えることができるため、暗記することに努力を惜しまないで欲しい。医療・看護に携わる者として、人体についての医学的な知識を深く学び、患者様に十分な説明ができるようになることが求められている。

実務との関連

助産師・看護師としての30年を超える長い臨床経験と看護師国家試験のための講義を聴講し、経験による基礎知識を刷新し確実なものへと変換してきた。医療従事者、特に看護師が知っておくべき解剖生理学を楽しく学んでいけるように教授していきたい。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 解剖生理学のための基礎知識① 構造からみた人体 さまざまな器官 素材からみた人体 組織 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
2	2.解剖生理学のための基礎知識② 構造からみた人体 さまざまな器官 素材からみた人体 組織 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
3	3.栄養の消化と吸収① 口腔から食道 胃 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
4	4.栄養の消化と吸収② 小腸　消化と吸収　大腸の機能 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
5	5. 栄養の消化と吸収③ 膵臓　肝臓　胆嚢　腹膜　初回通過効果 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
6	6. 呼吸と血液のはたらき① 呼吸器の構造　呼吸運動 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
7	7. 呼吸と血液のはたらき② ガス交換　肺循環　呼吸運動の 調節 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
8	8.呼吸と血液の 働き③ 血液　血球成分と血漿成分 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
9	9. 呼吸と血液の 働き④ 止血機序　まとめ 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
10	10. 血液の循環とその調節① 心臓の構造　刺激伝導系 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
11	11. 血液の循環とその調節② 末梢循環系　動脈と静脈　血液循環の 調節 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
12	12. 血液の循環とその調節③ 体循環と肺循環 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記 カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
13	13. 血液の循環とその調節④ リンパとリンパ管　まとめ 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
14	14. 体液の調節と尿の 生成① 腎臓と排尿路　尿の 生成 R-A-A系 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
15	15. 体液の調節と尿の 生成② 体液の 調節　酸塩基平衡 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020007000 解剖生理学Ⅱ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	坂本　弘子		

学習目標(到達目標)

1. 人体で営まれている生命現象のなかで生命を活用する機能について述べることができる。
2. 内臓機能の調節について述べることができる。
3. 身体の支持と運動について述べることができる。
4. 情報の受容と処理について述べることはできる。
5. 身体機能の防御と適応について述べることができる。
6. 生殖・発生と老化のしくみについて述べることができる

授業概要(教育目的)

人体の生命を活用する機能についての基本的な知識と、内分泌系・筋・骨格系、脳・神経系、免疫系、生殖系および体表からみた人体に関する人体の形態と構造、役割と機能を臨床(看護)と関連させて教授する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

講義時のミニテストの実施と定期試験の結果で評価をする。
日々作成の暗記カードまたは暗記メモの作成状況も評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

各講義ごとにミニテストの実施と、覚えるべき要点・項目を示し、暗記カードまたは暗記メモの確認をし、日々の学習状況の確認をする。
試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

1. 解剖生理　竹内修二著　医学芸術社
2. 解剖トレーニングノート　竹内修二著　医学教育出版社
3. 人体の構造と機能　内田さえ他著　医歯薬出版株式会社

講義時使用テキスト

系統看護学講座　専門基礎　「解剖生理学」人体の構造と機能1(医学書院)

資格との関連

看護師国家試験の出題範囲に人体の構造と機能があり深く関連している。さらに、病態理解には必須の教科である。また、看護ケアの根拠(エビデンス)につながる。

学生へのメッセージ

解剖生理学は、医学の体系の中でも基礎中の基礎であり十分に理解することで、今後の病態学の理解や看護の講義の理解につながる。難しい言葉や漢字が出てきて戸惑うことが多いが、日常から触れるようにすることで自然に覚えることができるため、暗記することに努力を惜しまないで欲しい。医療・看護に携わる者として、人体についての医学的な知識を深く学び、患者様に十分な説明ができるようになることが求められている。

実務との関連

助産師・看護師としての30年を超える長い臨床経験と看護師国家試験のための講義を聴講し、経験による基礎知識を刷新し確実なものへと変換してきた。医療従事者、特に看護師が知っておくべき解剖生理学を楽しく学んでいけるように教授していきたい。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 内臓機能の調節① 自律神経・内分泌による調節 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
2	2. 内臓機能の調節② 全身の内分泌腺と内分泌細胞 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
3	3. 内臓機能の調節③ ホルモン分泌の調節　フィードバック機能 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
4	4. 身体の支持と運動① 人体の骨格　骨の連結 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
5	5. 身体の支持と運動② 骨格と筋群 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
6	6. 身体の支持と運動③ 筋の収縮　運動と代謝 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
7	7. 情報の受容と処理① 神経系の構造と機能　脊髄と脳　中枢神経 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
8	8. 情報の受容と処理② 脊髄神経と脳神経　末梢神経 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
9	9. 情報の受容と処理③ 運動機能と下行伝導路　感覚機能と上行伝導路 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
10	10. 身体機能の防御と適応① 皮膚の構造と機能　生体の防御機構 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
11	11. 身体機能の防御と適応② 免疫応答 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
12	12. 身体機能の防御と適応③ 体温調節　まとめ 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
13	13. 生殖・発生と老化のしくみ① 男性生殖器　女性生殖器 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
14	14. 生殖・発生と老化のしくみ② 胎児と胎盤　胎児循環 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。
15	15. 生殖・発生と老化のしくみ③ 成長と老化　まとめ 講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを作成しグループディスカッション	講義内容に関連する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	①講義の要点をまとめ、覚えるための暗記カードまたは暗記メモを完成させる。 ②講義で理解不十分な点を書き出し、調べ学習をする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020008000 病態学Ⅰ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	田中　完		

学習目標(到達目標)

疾病による身体変化や病因、診断・治療の概略について説明できることと、呼吸器および循環器疾患について以下の3点を到達目標とする。
1. 各系統別疾患の医療の動向を説明できる。
2. 主な疾患の基礎的な事項について説明できる。
3. 呼吸器および循環器疾患での看護実践に必要な患者の身体的特徴を明確にできる。

授業概要(教育目的)

疾病の原因、変化の過程、転帰についての知識を習得することで、医学的根拠に基づいた看護に従事できる能力を身につけることを目的とする。
病態学Ⅰでは、総論として疾病による身体変化や疾病の原因、診断・治療の概略を教示し、さらに呼吸器疾患、循環器疾患の特徴や成り立ち、および症状・診断・治療・予後について教授するとともに、演習として呼吸機能検査の異常、心電図の異常からみた症例検討を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

定期試験(筆記)により評価する。

課題に対するフィードバック

課題(ワークシート)について添削し、次週の講義時に学生に返却する。

参考文献

講義時使用テキスト

1. 系統看護学講座　基礎分野　病態生理学　疾病のなりたちと回復の促進②(医学書院)
2. ナーシンググラフィカ　疾患と看護1　呼吸器(MCメディカ出版)
3. ナーシンググラフィカ　疾患と看護2　循環器(MCメディカ出版)

資格との関連

学生へのメッセージ

「看護師国家試験出題基準」に準じたテキストを使用し、解剖生理学などすでに学んだ事項と並行して理解することで統合的な知識を習得する。高橋担当分の講義では、知識を確認し理解を深めることを目的に毎回ミニテストを行い、復習のための課題(ワークシート)を次週までの講義の前日までに提出すること。

実務との関連

田中　完担当分として大学病院勤務の実務経験を活かし、疾病の症候、診断、検査および予防について教授する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	総論:疾病の原因	疾病の原因に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
2	総論:疾病による身体の変化	疾病による身体の変化に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
3	総論:疾病の症候	疾病の症候に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
4	総論:疾病の検査と診断	疾病の検査と診断に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
5	総論:疾病の検査と予防	疾病の検査と予防に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
6	呼吸器:呼吸器疾患の症状と病態生理	呼吸器疾患の症状と病態生理に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
7	呼吸器:呼吸器疾患の検査と治療・処置	呼吸器疾患の検査と治療・処置に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
8	呼吸器:呼吸器疾患の理解①	種々の呼吸器疾患に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
9	呼吸器:呼吸器疾患の理解②	種々の呼吸器疾患に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
10	循環器:循環器疾患の症状と病態生理	循環器疾患の症状と病態生理に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
11	循環器:循環器疾患の検査と治療・処置	循環器疾患の検査と治療・処置に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
12	循環器:循環器疾患の理解①	種々の循環器疾患に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
13	循環器:循環器疾患の理解②	種々の循環器疾患に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
14	(演習)まとめ・症例提示・演習問題①	これまでの講義内容を振り返り、教科書の該当部分を熟読し理解を深める。	演習の振り返りを行い、要点をまとめるとともに疑問点をピックアップする。
15	(演習)まとめ・症例提示・演習問題②	これまでの講義内容を振り返り、教科書の該当部分を熟読し理解を深める。	演習の振り返りを行い、要点をまとめるとともに疑問点をピックアップする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020009000 病態学Ⅱ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	田中　完		

学習目標(到達目標)

消化器(消化管、肝・胆・膵)疾患、血液・造血器疾患およびアレルギー・膠原病疾患について、以下の3点を到達目標とする。
1. 各系統別疾患の医療の動向を説明できる。
2. 主な疾患の基礎的な事項について説明できる。
3. 血液・造血器疾患、アレルギー・膠原病疾患での看護実践に必要な患者の身体的特徴をせつめいできる。

授業概要(教育目的)

疾病の原因、変化の過程、転帰についての知識を習得することで、医学的根拠に基づいた看護に従事できる能力を身につけることを目的とする。病態学Ⅱでは消化器(消化管、肝・胆・膵)疾患、血液・造血器疾患、アレルギー・膠原病疾患の特徴や成り立ち、および症状・診断・治療・予後について教授するとともに、演習として貧血から考える症例、発熱から考える症例について検討を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

定期試験(筆記)により評価する。

課題に対するフィードバック

課題(ワークシート)を添削し、次週の講義時に返却する。

参考文献

講義時使用テキスト

1. ナーシンググラフィカ　疾患と看護3　　消化器(MCメディカ出版)
2. ナーシンググラフィカ　疾患と看護4　　血液/アレルギー・膠原病/感染症(MCメディカ出版)

資格との関連

学生へのメッセージ

「看護師国家試験出題基準」に準じたテキストを使用しており、解剖生理学などのすでに学んだ分野と並行して理解することで統合的な知識を習得する。高橋担当分の講義では、知識を確認し理解を深めることを目的に毎回ミニテストを行い、復習のための課題(ワークシート)を次週までの講義の前日までに提出してもらいます。

なお、外部講師の三上達也先生担当分は都合で日時の変更や集中講義への変更があり得る。

実務との関連

田中　完担当分として大学病院勤務の実務経験を活かし、免疫疾患、アレルギー性疾患について教授する。
三上達也担当分として大学病院の消化器内科医としての実務経験を活かし、消化器系疾患・肝胆膵疾患について教授する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	アレルギー・膠原病:免疫のしくみとアレルギー	免疫のしくみとアレルギーに関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
2	アレルギー・膠原病:アレルギー疾患の理解	アレルギー疾患に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
3	消化器:消化管疾患の病態生理	消化管疾患の病態生理に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
4	消化器:消化管疾患の症状・徴候	消化管疾患の症状・徴候に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
5	消化器:消化管疾患の理解	消化管疾患の理解に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
6	消化器:肝・胆・膵疾患の病態生理	肝・胆・膵疾患の病態生理に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
7	消化器:肝・胆・膵疾患の理解①	肝・胆・膵疾患に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
8	消化器:肝・胆・膵疾患の理解②	肝・胆・膵疾患に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
9	血液・造血器:血液・造血器疾患の症候・病態生理	血液・造血器疾患の症候・病態生理に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
10	血液・造血器:血液・造血器疾患の検査・診断	血液・造血器疾患の検査・診断に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
11	血液・造血器:血液・造血器疾患の理解①	血液・造血器疾患に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
12	血液・造血器:血液・造血器疾患の理解②	血液・造血器疾患に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
13	(演習)まとめ・症例提示・演習問題①	これまでの講義内容を振り返り、教科書の該当部分を熟読し理解を深める。	提示された症例の病態に関する要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
14	(演習)まとめ・症例提示・演習問題②	これまでの講義内容を振り返り、教科書の該当部分を熟読し理解を深める。	演習の振り返りを行い、要点をまとめるとともに疑問点をピックアップする。
15	(演習)まとめ・症例提示・演習問題③	これまでの講義内容を振り返り、教科書の該当部分を熟読し理解を深める。	演習の振り返りを行い、要点をまとめるとともに疑問点をピックアップする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020010000 病態学Ⅲ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	田中　完		

学習目標(到達目標)

運動器疾患、脳・神経疾患および代謝・内分泌疾患について、以下の3点を到達目標とする。
1. 各系統別疾患の医療の動向を説明できる。
2. 主な疾患の基礎的な事項について説明できる。
3. 運動器疾患、脳・神経疾患および代謝・内分泌疾患での看護実践に必要な患者の身体的特徴を説明できる。

授業概要(教育目的)

疾病の原因、変化の過程、転帰についての知識を習得することで、医学的根拠に基づいた看護に 従事できる能力を身につけることを目的とする。
病態学Ⅲでは運動器疾患、脳・神経疾患、内分泌・代謝疾患の特徴や成り立ち、および症状・診断・治療・予後について教授するとともに、演習として、血圧測定から血圧異常と脳疾患について、体組成の測定から骨量の異常や肥満の症例について考え検討を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

定期試験(筆記)により評価する。

課題に対するフィードバック

課題を添削し、次週の講義時に返却する。

参考文献

講義時使用テキスト

1. ナーシンググラフィカ　疾患と看護8　腎/泌尿器/内分泌・代謝(MCメディカ出版))
2. ナーシンググラフィカ　疾患と看護5　脳・神経(MCメディカ出版))
3. ナーシンググラフィカ　疾患と看護7　運動器(MCメディカ出版))

資格との関連

学生へのメッセージ

「看護師国家試験出題基準」に準じたテキストを使用しており、解剖生理学などすでに学んだ分野と並行して理解することで統合的な知識を習得する。高橋担当分の講義では、知識を確認し理解を深めることを目的に毎回ミニテストを行い、復習のための課題(ワークシート)を次週までの講義の前日までに提出してもらいます。

なお、外部講師の伊藤浩平先生の講義は、都合により講義時期や時間に変更があり得る。

実務との関連

藤井一晃担当分として大学病院勤務の実務経験を活かし、整形外科疾患の総論と各論について教授する。
遠藤守人担当分として大学病院勤務の実務経験を活かし、代謝疾患(糖尿病)と血圧測定(演習)について教授する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	運動器:運動器疾患の症状と病態生理	運動器疾患の症状と病態生理に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
2	運動器:運動器疾患の検査と治療・処置	運動器疾患の検査と治療・処置に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
3	運動器:運動器疾患の理解①	運動器疾患に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
4	運動器:運動器疾患の理解②	運動器疾患に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
5	運動器:運動器疾患の理解③	運動器疾患に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
6	脳・神経:脳・神経疾患の症状と病態生理	脳・神経疾患の症状と病態生理に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
7	脳・神経:脳・神経疾患の検査・診断と治療・処置	脳・神経疾患の検査・診断と治療・処置に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
8	脳・神経:脳・神経疾患の理解①	脳・神経疾患に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
9	脳・神経:脳・神経疾患の理解②	脳・神経疾患に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
10	内分泌・代謝:代謝性疾患の病態生理	代謝性疾患の病態生理に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
11	内分泌・代謝:代謝性疾患の理解	代謝性疾患に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
12	内分泌・代謝:内分泌疾患の病態生理	内分泌疾患の病態生理に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
13	内分泌・代謝:内分泌疾患の理解	内分泌疾患に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを読み直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
14	(演習)血圧測定～血圧の異常とその予防	血圧測定に関する教科書の部分を読み、要点をまとめる。	演習の振り返りを行い、要点をまとめるとともに疑問点をピックアップする。
15	肥満の病態・生活習慣病・健康教育などの概説	青森県の健康課題である短命県返上への取り組みを事前学習のこと	健康教育の要点をまとめるとともに疑問点をピックアップする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020011000 病態学Ⅳ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	田中　完		

学習目標(到達目標)

腎・泌尿器疾患、感覚器系疾患(皮膚・眼・耳鼻咽喉)、精神疾患、歯・口腔疾患について、以下の3点を到達目標とする。
1. 各系統別疾患の医療の動向を説明できる。
2. 主な疾患の基礎的な事項について説明できる。
3. 腎・泌尿器疾患、感覚器系疾患(皮膚・眼・耳鼻咽喉)、精神疾患、歯・口腔疾患での看護実践に
　必要な患者の身体的特徴を説明できる。

授業概要(教育目的)

疾病の原因、変化の過程および転帰についての知識を習得することで、医学的根拠に基づいた看護を行う能力を身につけることを目的とする。
病態学Ⅳでは腎・泌尿器疾患、感覚器系疾患(皮膚・眼・耳鼻咽喉)、精神疾患、歯・口腔疾患の特徴や成り立ち、および症状・診断・治療・予後について教授するとともに、演習として尿検査の異常と皮膚症状の異常についての症例検討を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

定期試験(筆記)により評価する。

課題に対するフィードバック

課題を添削し、次週の講義時に返却する。

参考文献

講義時使用テキスト

1. ナーシンググラフィカ　疾患と看護8　腎/泌尿器/内分泌・代謝
(MCメディカ出版)
2. ナーシンググラフィカ　疾患と看護6　眼/耳鼻咽喉/歯科・口腔/皮膚
(MCメディカ出版)

資格との関連

学生へのメッセージ

「看護師国家試験出題基準」に準じたテキストを使用しており、解剖生理学などすでに学んだ分野と並行して理解することで統合的な知識を習得する。高橋担当分の講義では、知識を確認し理解を深めることを目的に毎回ミニテストを行い、復習のための課題(ワークシート)を次週までの講義の前日までに提出してもらいます。

実務との関連

田中　完担当分として大学病院勤務の実務経験を活かし、腎疾患(総論・各論)について教授する。
山内崇生担当分として大学病院勤務の実務経験を活かし、泌尿器科疾患について教授する。
深澤隆担当分として大学病院勤務の実務経験を活かし、精神疾患について教授する。
田名部茂担当分として大学病院勤務の実務経験を活かし、精神疾患について教授する。
吉田洋一担当分として一般病院勤務の実務経験を活かし、口腔疾患について教授する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	腎・泌尿器: 腎・泌尿器疾患の症状と病態生理	腎・泌尿器疾患の症状と病態生理に関する教科書の部分を 読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを 読み 直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
2	腎・泌尿器: 腎・泌尿器疾患の検査	腎・泌尿器疾患の検査に関する教科書の部分を 読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを 読み 直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
3	腎・泌尿器: 腎・泌尿器疾患の治療・処置	腎・泌尿器疾患の治療・処置に関する教科書の 部分を 読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを 読み 直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
4	腎・泌尿器: 腎疾患の理解	腎疾患に関する教科書の 部分を 読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを 読み 直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
5	腎・泌尿器: 泌尿器疾患の 理解	泌尿器疾患に関する教科書の部分を 読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを 読み 直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
6	感覚器:皮膚疾患の病態生理	皮膚疾患の 病態生理に関する教科書の 部分を 読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを 読み 直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
7	感覚器:皮膚疾患の理解	皮膚疾患に関する教科書の 部分を 読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを 読み 直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
8	感覚器:耳鼻咽喉疾患の理解	耳鼻咽喉疾患に関する教科書の 部分を 読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを 読み 直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
9	感覚器:眼疾患の理解	眼疾患に関する教科書の 部分を 読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを 読み 直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
10	精神:精神機能の統合障害	精神機能の 統合障害に関する教科書の 部分を 読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを 読み 直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
11	精神:発達障害、心的外傷や心理的要因の大きい障害	発達障害、心的外傷や心理的要因の大きい障害に関する教科書の 部分を 読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを 読み 直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
12	精神:精神科における治療	精神科における治療に関する教科書の 部分を 読み、要点をまとめる。。	講義での配布資料とノートを 読み 直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
13	歯・口腔疾患の 理解	口腔疾患に関する教科書の 部分を 読み、要点をまとめる。	講義での配布資料とノートを 読み 直して要点をまとめ、疑問点をピックアップする。
14	(演習)まとめ・症例提示・演習問題①	これまでの 講義を 振り返り 該当箇所の 教科書の 部分を 読み、要点をまとめる。	演習の 振り返りを 行い、疑問点を 解決する。
15	(演習)まとめ・症例提示・演習問題②	これまでの 講義を 振り返り 該当部分に 関する教科書の 部分を 読み、要点をまとめる。	演習の 振り返りを 行い、疑問点を 解決する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020012000 薬理学						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	郡川 康		

学習目標(到達目標)

1. 薬物治療の目的と薬物療法における看護職の役割について説明できる。
2. 薬物の作用機序、有害作用、薬効に影響する因子等について説明できる。
3. 薬物の管理と新薬開発のプロセスについて説明できる。
4. 薬効分類に従った各薬物について、薬理作用、使用上の注意、安全で有効な使用方法等について説明できる。

授業概要(教育目的)

ヒトは生を受けてから死に至るまで多くの病気の脅威にさらされているが、その治療に大きな役割を果たすのが薬である。体内ではそのような機序で薬が作用するのか、異なった薬を使用した場合の相乗効果、副作用や毒性、誤った使用方法などを知り、両刃の刀である薬を正しく安全に有効に使用できるよう、総合的な知識を身に付ける。さらに、新薬がどのようにして研究開発され販売されるのか、新しい薬が生まれるまでの課程を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

定期試験により評価する。

課題に対するフィードバック

期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

系統看護学講座　専門基礎分野　薬理学(医学書院)

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	薬理学総論①(使用目的、看護師の役割、薬理作用の基本形式)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	薬理学総論②(投与経路、吸収・代謝・排泄)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	薬理学総論③(耐性・依存・相互作用)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	薬理学総論④(適量、有益性、有害性)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	薬理学総論⑤(薬の管理、新薬の誕生)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	薬理学各論①(抗感染症)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	薬理学各論②(抗がん薬、免疫治療薬)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	薬理学各論③(補充)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	薬理学各論④(抗アレルギー薬、抗炎症薬)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	薬理学各論⑤(末梢での神経活動に作用する薬物)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	薬理学各論⑥(中枢神経系に作用する薬物)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	薬理学各論⑦(心臓・血管系、呼吸器・消化器系に作用する薬物)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	薬理学各論⑧(物質代謝に作用する薬物)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	薬理学各論⑨(漢方、消毒、輸液・輸血、看護業務の知識①)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	薬理学各論⑩(漢方、消毒、輸液・輸血、看護業務の知識②)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する

講義名	4020013000 栄養学						
年度	2026	開講時期	後期前半	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	井元　紀子		

学習目標(到達目標)

1. ヒトが発育・成長して生命を維持し，健康な生命活動を営むための栄養を説明できる。
2. 種々の栄養素の働きとエネルギー代謝を説明できる。
3. 消化吸収された栄養素の体内での代謝を説明できる。

授業概要(教育目的)

生命を営む上で必須である「栄養」の基礎知識を習得し、健康の維持や疾病の治療における栄養(食事)療法の役割と実際について学ぶ。基礎知識を応用し、特に高齢者の低栄養やライフサイクルを通しての生活習慣病を回避するためのマネジメントなど、医療と保健活動において栄養面からのアプローチができるようになることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

定期試験により評価する。

課題に対するフィードバック

期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

1. 三輪一智　他著、系統看護学講座専門基礎分野　生化学　人体の構造と機能[2](医学書院)
2. 小野章史　他著、系統看護学講座専門基礎分野　栄養学　人体の構造と機能[3](医学書院)

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	栄養と栄養素	栄養学の栄養と日常使う栄養という言葉の違いを調べる。	栄養学の観点から，栄養と栄養素を整理する。
2	栄養素の消化・吸収	解剖学の消化器を読む。	栄養素ごとの消化・吸収を整理する。
3	エネルギー代謝	健全な生命活動を営むために必要なエネルギー源になる栄養素について、教科書の関連個所を読む。	生体のエネルギー獲得とその変化について教科書の関連個所を読む。
4	糖質の代謝	糖質について教科書の関連個所を読む。	消化・吸収された糖質の代謝を整理する。
5	脂質の代謝	脂質について教科書の関連個所を読む。	消化・吸収された脂質の代謝を整理する。
6	タンパク質の代謝	タンパク質について教科書の関連個所を読む。	消化・吸収されたタンパク質の代謝を整理する。
7	健康と栄養	食生活の変遷と栄養の問題点を整理する。	食を通して生活の質と社会環境の質の向上の大切さを整理する。
8	代謝の異常(代謝性疾患)	食事・運動・飲酒・喫煙などの生活習慣と代謝生疾患の関連について調べる。	病態の改善や疾病の良好なコントロールを計るため、全身の栄養状態を改善する重要性を整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020014000 微生物学（看護学科）						
年度	2026	開講時期	後期前半	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	井元　紀子		

学習目標(到達目標)

1. 微生物の種類・構造など特性について説明できる。
2. 滅菌、消毒についてそれぞれの手法の違いについて説明できる。
3. 微生物の感染・伝播について理解し、説明できる。

授業概要(教育目的)

人間の生活環境に存在している微生物には、人体に有用な微生物や病気の原因となる病原微生物がある。生物の有用な代謝産物の医学的応用について理解するとともに、病原微生物感染から人体を防御する手段を考える必要がある。そこで、感染防止の手段として滅菌、消毒等の感染から人体を防御する基本的概念やワクチンや抗生剤によって感染拡大から人体を防御するメカニズムを理解する。このように人の生活面における微生物の利害両面にわたる関わりあいを認識し、衛生管理の意識を育成する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

定期試験により評価する。

課題に対するフィードバック

期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

【1】『感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学』羊土社

【2】『系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病の成り立ちと回復の促進4』医学書院

【3】『イラストでわかる 微生物学超入門 病原微生物の感染のしくみ』南山堂

【4】『休み時間の微生物学 第2版』講談社

講義時使用テキスト

『病気がみえる＜vol.6＞ 免疫・膠原病・感染症(Medical Disease：An Illustrated Reference)』メディックメディア

資格との関連

学生へのメッセージ

看護師として、自身の感染予防対策、医療現場での感染予防・感染者への対応ができるように、感染症を引き起こす微生物のそれぞれの特徴を理解してください。
8回の講義ですので、個々の感染症については触れられませんが、感染症を引き起こす微生物の構造や増殖の仕方など、微生物に関する基礎的な知識を習得していただきます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	微生物概論	テキストを 読む。	配布したプリント、教科書を 読み 整理する。
2	感染と感染症 微生物の 種類と分類	テキストを 読む。	配布したプリント、教科書を 読み 整理する。
3	微生物の種類と分類(1)細菌の構造・種類・増殖過程(1)	テキストを 読む。	配布したプリント、教科書を 読み 整理する。
4	微生物の種類と分類(1)細菌の構造・種類・増殖過程(2) 微生物の種類と分類(2)ウイルスの構造・種類・増殖過程(1)	テキストを 読む。	配布したプリント、教科書を 読み 整理する。
5	微生物の種類と分類(2)ウイルスの構造・種類・増殖過程(2)	テキストを 読む。	配布したプリント、教科書を 読み 整理する。
6	真菌の構造・種類	テキストを 読む。	配布したプリント、教科書を 読み 整理する。
7	寄生虫の構造・種類	テキストを 読む。	配布したプリント、教科書を 読み 整理する。
8	感染予防について(滅菌・殺菌の手法)	テキストを 読む。	配布したプリント、教科書を 読み 整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020015000 社会福祉論						
年度	2026	開講時期	後期前半	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	吉田　守実		

学習目標(到達目標)

1. 学生が社会保障および社会福祉の歴史的変遷について説明できる。
2. 学生が社会保障や社会福祉の制度について説明できる。
3. 学生が他職種との連携の重要性について説明できる。

授業概要(教育目的)

わが国の社会保障と社会福祉制度について歴史的変遷を学び、「人間の尊厳」を守るということについて考える。現在の社会福祉・保障制度によって人々の生活はどのように守られているか、もし生活困窮に陥った時どうしたらよいのか、生活に深く結びついている社会福祉の考え方を法律や制度と関連付けて理解できるように教授する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

定期試験により評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

社会福祉(医学書院)

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	・社会保障制度・社会保障の機能	社会福祉に関することを新聞やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
2	・前回の授業の振り返り(コメントシートから) ・社会福祉の組織	社会福祉に関することを新聞やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
3	・前回の授業の振り返り(コメントシートから) ・現代社会の変化・地域社会の変化	社会福祉に関することを新聞やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
4	・前回の授業の振り返り(コメントシートから) ・医療保障・保険の制度	社会福祉に関することを新聞やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
5	・前回の授業の振り返り(コメントシートから) ・所得保障・年金保険制度	社会福祉に関することを新聞やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
6	・前回の授業の振り返り(コメントシートから) ・公的扶助・高齢者福祉	社会福祉に関することを新聞やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
7	・前回の授業の振り返り(コメントシートから) ・社会福祉の歴史・社会福祉と実践	社会福祉に関することを新聞やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
8	・前回の授業の振り返り(コメントシートから) ・連携の看護師の役割(グループワーク)	社会福祉に関することを新聞やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。

講義名	4020016000 公衆衛生学（看護学科）						
年度	2026	開講時期	前期前半	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	古舘　美喜子		

学習目標(到達目標)

1.公衆衛生における健康の概念について理解する。
2.公衆衛生学を通して個人、家族、集団における「健康」を理解する。
3.社会や環境との視点から集団の「健康」を維持・改善するための制度や施策の概要を理解する。
4.ライフステージ・分野毎の公衆衛生活動の実際を理解する。

授業概要(教育目的)

生活における「健康」とはどのようなものか、健康の保持・増進や疾病予防の活動とその仕組みはどうなっているのかを理解する。公衆衛生の概要の他、疾病と予防対策、保健衛生統計等の意義と役割、及び社会と健康について、また、各ライフステージにおける公衆衛生活動とその現状ついて教授学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

公衆衛生上の科学的な根拠に基づき、看護師として臨床の現場で働く人にとって役に立つ授業内容とする。

評価方法

定期試験や授業時の小テストにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート等)は次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。また、コメントして返却する。

参考文献

厚生労働統計協会編．図説国民衛生の動向
厚生労働統計協会編．国民衛生の動向
その他、厚生労働省、環境省、文部科学省等の資料を参考にした。

講義時使用テキスト

「よくわかる専門基礎講座　公衆衛生」、松木英明編（金原出版株式会社）

資格との関連

学生へのメッセージ

インターネットや新聞、テレビ、ラジオ等で配信される健康に関する情報から、社会で起きている出来事について関心を持ち、本授業に臨んで欲しい。

実務との関連

看護職として医療機関に勤務。実務経験をもとに公衆衛生に関する講義を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	健康の概念と公衆衛生学 国際保健	シラバスで講義の到達目標を確認し、講義計画に目を通しておく。各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等、各自行う。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
2	人口統計と保健統計	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等、各自行う。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
3	衛生行政と地域保健	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等、各自行う。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
4	母子保健 学校保健	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等、各自行う。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
5	成人保健 高齢者保健 産業保健	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等、各自行う。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
6	感染症 環境保健	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等、各自行う。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
7	食品保健 国民栄養	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等、各自行う。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
8	社会保障と社会福祉 精神保健と障害者保健	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等、各自行う。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020017000 疫学						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	木村　緑		

学習目標(到達目標)

1. 疫学の概念および疫学データが示す要素について述べることができる。
2. 集団の健康状態の把握と意味、疫学的研究方法について述べることができる。
3. 感染症及び主な疾患の疫学について述べることができる。

授業概要(教育目的)

公衆衛生の基盤となり、得られた知見を現在あるいは将来の国民の健康に寄与するために、明確に規定された人間集団の中で出現する健康関連のいろいろな事象の頻度と分布及びそれらに影響を与える要因を明らかにして、健康関連の諸問題に対する有効な対策を検討するための原理と方法を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

試験や小テスト・グループワークの貢献度や課題レポートによる総合的評価により評価する

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する

参考文献

テキスト以外に必要な資料は、授業時配布する。

講義時使用テキスト

標準保健師講座別巻　疫学・保健統計学

資格との関連

学生へのメッセージ

本科目は、公衆衛生看護学(保健師国家試験受験資格)を選択し選抜された学生の必修科目となっている。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	疫学の基本概念(疫学の定義・歴史的背景)	予め、シラバスで講義の到達目標を理解し、講義計画を調べておく。	講義内容をノートにまとめ、整理しておく。
2	疾病の原因、疫学的な因果関係の考え方	予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。	講義内容をノートにまとめ、整理しておく。
3	疾病頻度の指標	予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。	講義内容をノートにまとめ、整理しておく。
4	曝露効果の指標	予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。	講義内容をノートにまとめ、整理しておく。
5	疫学的研究方法	予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。	講義内容をノートにまとめ、整理しておく。
6	疫学研究の 偏り・誤差	予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。	講義内容をノートにまとめ、整理しておく。
7	主な疾患の 疫学:グループワーク(母子保健・小児・がん)	予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。グループワークで扱う疾患について自己学習をしてくる。	講義やグループワークでの内容をノートにまとめ、整理しておく。
8	主な疾患の 疫学:グループワーク(心疾患・脳血管疾患・糖尿病)	予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。グループワークで扱う疾患について自己学習をしてくる。	講義やグループワークでの内容をノートにまとめ、整理しておく。
9	主な疾患の 疫学:グループワーク(難病・精神疾患・喫煙・飲酒)	予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。グループワークで扱う疾患について自己学習をしてくる。	講義やグループワークでの内容をノートにまとめ、整理しておく。
10	主な疾患の 疫学:発表(母子保健・小児・がん 心疾患・脳血管疾患の疫学について理解を深める)	予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。グループワークで扱う疾患について自己学習をしてくる。	講義内容や 他のグループで 発表した内容をノートにまとめ、整理しておく。
11	主な疾患の 疫学:発表(糖尿病・難病・精神疾患・喫煙・飲酒の疫学について理解を深める)	予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。グループワークで扱う疾患について自己学習をしてくる。	講義内容や 他のグループで 発表した内容をノートにまとめ、整理しておく。
12	スクリーニング・疾病登録	予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。	講義内容をノートにまとめ、整理しておく。
13	岩木健康プロジェクトにおける疫学研究の実際	予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。	講義内容をノートにまとめ、整理しておく。
14	疫学研究から得られた知見	予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。	講義内容をノートにまとめ、整理しておく。
15	疫学的見地からの予防	予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。	講義内容をノートにまとめ、整理しておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020018000 保健統計学Ⅰ						
年度	2026	開講時期	前期前半	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	柴生田　英香		

学習目標(到達目標)

看護実践に必要な基礎的統計概念を理解し、健康指標や衛生の主要データを適切に読み取り、根拠に基づく判断の基礎を身につけることを目標に、次の到達目標を示す。
1) 統計の基本的な考え方を理解できる。
2) 統計データの意味を理解できる。
3) 保健統計データを読み取り、特徴を述べることができる。

授業概要(教育目的)

本科目では、保健・医療分野における統計の基礎概念を学び、健康指標や各種統計資料を適切に読み取る力を養う。平均・中央値・割合・率などの基本的統計量の理解を基盤として、表やグラフの解釈、保健医療データの特徴把握を行う。また、講義に加えて演習やディスカッションを取り入れ、統計データの意味や前提を主体的に考察することを通して、看護実践において数値情報を根拠として活用するための基礎的能力を育成することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

1.試験・評価は八戸学院大学試験規程に準ずる。60点以上を合格とし単位認定する。
2.筆記試験、グループワークの成果等により、総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題についてはコメント等を付して返却する。

参考文献

尾島俊之ほか編:保健学講座4 疫学／保健統計,メヂカルフレンド社,2022.
厚生労働統計協会:国民衛生の動向 2025/2026,厚生労働統計協会,2025.
坂本なほ子:はじめての保健統計学,サイオ出版,2023.
浅野嘉延:楽しく学べる! 看護学生のための疫学・保健統計,南山堂,2023.

講義時使用テキスト

尾崎米厚ほか著:標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学,医学書院,2025.

資格との関連

本科目は、公衆衛生看護学(保健師国家試験受験資格)の必修科目となっている。

学生へのメッセージ

統計に対して「難しそう」「苦手かもしれない」と感じている人もいるかもしれません。本授業では、できるだけ複雑な計算式に頼らず、看護実践に必要な統計データの読み取りを重視します。また、学生同士のディスカッションや分析ワークを通して、数値を根拠として考える力を養います。統計を“難しいもの”ではなく、実践に活かせる道具として捉えられるようになることを目指します。

実務との関連

保健師(看護職)の経験を持つ教員が担当する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	看護実践と統計の基本的な考え方 (1) 本科目全体の概要(イントロダクション) (2) 統計の基本的な役割 (3) データの種類と基本的な分類	教科書等の該当箇所をよく読んでおく。	授業のノート・資料を整理する。
2	データの種類と尺度 (1) 質的データと量的データ (2) 尺度水準(名義・順序・間隔・比率) (3) 看護実践におけるデータの具体例	教科書等の該当箇所をよく読んでおく。	授業のノート・資料を整理する。
3	データの要約と代表値 ※電卓を持参すること (1) データを要約することの意義 (2) 代表値(平均、中央値、最頻値など)とは (3) 代表値の特徴と看護実践における活用	教科書等の該当箇所をよく読んでおく。	授業のノート・資料を整理する。 練習問題に取り組む。
4	比率(割合・率・比) ※電卓を持参すること (1) 比率の基本的な考え方 (2) 割合・率・比の違い (3) 看護実践における比率の活用	教科書等の該当箇所をよく読んでおく。	授業のノート・資料を整理する。 練習問題に取り組む。
5	主要統計調査とデータの読み方 (1) 主な公的統計調査の目的と概要 (2) 統計データの構成と特徴 (3) データの読み取りの視点	教科書等の該当箇所をよく読んでおく。	授業のノート・資料を整理する。 新聞やHPに記載されている統計データを検討する(練習問題として)。
6	保健統計データの分析①(GW) (1) 公的な保健統計データの概要整理 (2) データの確認と指標の整理 (3) 分析方針の検討	教科書等の該当箇所をよく読んでおく。	授業時間内に終えられなかったワークは、時間外を用いて学生間で協力して実施すること。
7	保健統計データの分析②(GW) ※PC持参 (1) 比率・比較を用いたデータ分析 (2) データの傾向整理 (3) 発表用資料の作成	教科書等の該当箇所をよく読んでおく。	授業時間内に終えられなかったワークは、時間外を用いて学生間で協力して実施すること。
8	保健統計データの分析③(GW) (1) 発表、質疑応答 (2) まとめ	教科書等の該当箇所をよく読んでおく。	授業のノート・資料を整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020019000 保健統計学Ⅱ						
年度	2026	開講時期	後期前半	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	柴生田　英香		

学習目標(到達目標)

保健師に求められる地域の保健統計データの分析に必要な推測統計の基礎を理解し、統計結果を適切に解釈・計算・判断できる力を身につけることを目標に、次の到達目標を示す。
(1) 統計的推測の基礎となる確率分布の考え方を理解できる。
(2) 推定および仮説検定の基本的な考え方を理解し、基礎的な問題を解くことができる。
(3) 統計分析に関する問題を読み取り、結果を適切に解釈できる。

授業概要(教育目的)

本授業では、保健師に求められる統計的基礎力の習得を目的とする。確率分布、推定、仮説検定、関連の指標など、推測統計の基本事項を扱い、保健師国家試験水準の統計問題に対応できる力を養う。講義と演習を通して、統計結果を論理的に解釈する力を身につけることを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

1.試験・評価は八戸学院大学試験規程に準ずる。60点以上を合格とし単位認定する。
2.筆記試験、グループワークの成果等により、総合的に評価する。
※講義時は毎回電卓を持参すること。

課題に対するフィードバック

課題はコメントを付して返却する。

参考文献

尾島俊之ほか編:保健学講座4 疫学／保健統計,メヂカルフレンド社,2022.
厚生労働統計協会:国民衛生の動向 2025/2026,厚生労働統計協会,2025.
坂本なほ子:はじめての保健統計学,サイオ出版,2023.
浅野嘉延:楽しく学べる! 看護学生のための疫学・保健統計,南山堂,2023.

講義時使用テキスト

尾崎米厚ほか著:標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学,医学書院,2025.

資格との関連

本科目は、公衆衛生看護学(保健師国家試験受験資格)の必修科目となっている。

学生へのメッセージ

本授業では、保健師国家試験で求められる推測統計の基礎を扱います。確率分布や仮説検定など、これまでより一段踏み込んだ内容を学びますが、公式の暗記や高度な数学的理解を目指すものではありません。大切なのは、統計問題の考え方を理解し、論理的に判断できるようになることです。講義と問題演習を繰り返しながら、基礎的な問題に対応できる力を着実に身につけていきましょう。

実務との関連

保健師(看護職)の経験を持つ教員が担当する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	確率分布と標準化 ※電卓持参 (1) 確率および正規分布の基本的性質 (2) 標準偏差の考え方 (3) 分布を用いた確率の求め方(演習)	教科書の該当箇所をよく読む。	配布資料とノートを読み直す。演習問題を繰り返し解く。
2	仮説検定の基本的構造 ※電卓持参 (1) 仮説検定の考え方 (2) 有意水準およびp値の意味 (3) 検定の手順と判断方法(演習)	教科書の該当箇所をよく読む。	配布資料とノートを読み直す。演習問題を繰り返し解く。
3	Z検定と信頼区間 ※電卓持参 (1) 母平均・母比率の推定 (2) 信頼区間の算出と解釈 (3) z検定の基本問題(演習)	教科書の該当箇所をよく読む。	配布資料とノートを読み直す。演習問題を繰り返し解く。
4	パラメトリック検定(t検定) ※電卓持参 (1) t分布の特徴 (2) 1標本および2標本のt検定 (3) t検定の問題(演習)	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業内容を整理しておく。	配布資料とノートを読み直す。演習問題を繰り返し解く。
5	パラメトリック検定(χ²検定) ※電卓持参 (1) クロス集計表の構造 (2) 適合度検定および独立性検定 (3) χ²検定問題(演習)	教科書の該当箇所をよく読む。	配布資料とノートを読み直す。演習問題を繰り返し解く。
6	オッズ比と関連の指標 ※電卓持参 (1) オッズ比およびリスク比の概念 (2) 2×2表を用いた算出方法 83) 関連の強さの解釈(演習)	教科書の該当箇所をよく読む。	配布資料とノートを読み直す。演習問題を繰り返し解く。
7	相関と回帰の基礎 ※電卓持参 (1) 散布図と相関係数 (2) 相関と因果の違い (3) 回帰分析の基本的考え方(演習)	教科書の該当箇所をよく読む。	配布資料とノートを読み直す。演習問題を繰り返し解く。
8	多変量解析およびノンパラメトリック検定 ※電卓持参 (1) 多変量解析の目的と概要 (2) 重回帰分析の基本概念 (3) ノンパラメトリック検定の意味と特徴	教科書の該当箇所をよく読む。	配布資料とノートを読み直す。演習問題を繰り返し解く。

講義名	4020020000 保健医療福祉行政論Ⅰ						
年度	2026	開講時期	前期後半	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	看護学科			担当教員	藤本　幸男		

学習目標(到達目標)

1　保健医療福祉行政・財政の理念としくみを理解し、説明できる。
2　社会情勢の変化と保健医療福祉行政の考え方の変遷について理解し、説明できる。
3　保健医療福祉行政の分野と制度について理解し、説明できる。
4　保健医療福祉の計画と評価について理解し、説明できる。

授業概要(教育目的)

保健医療従事者として地域保健を実践する上で不可欠な知識として、保健医療福祉の制度や組織、内容、またその変遷について説明を行う。
また、保健福祉計画の策定から評価までのプロセスと策定方法を説明するとともに、実際の計画策定事例について検討を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

期末試験による。

課題に対するフィードバック

課題レポートは内容を確認して返却する。
理解が十分でない事項については、再学習すること。

参考文献

フランク・M・スノーデン「疫病の世界史(上下)」明石書店(桃井、塩原共訳　2021)
その他、講義中に必要に応じて紹介する。

講義時使用テキスト

標準保健師講座別巻1　保健医療福祉行政論　医学書院

資格との関連

保健師国家試験受験資格

学生へのメッセージ

本科目は、公衆衛生看護学(保健師国家試験受験資格)を選択し選抜された学生の必修科目となっている。
相互授業を目指しているので、質問はいつでも受け付ける。他の学生に迷惑となるので、私語は厳に慎むこと。事前に教科書を読んでから受講すること。

実務との関連

保健師として活動するために必要不可欠な、保健医療福祉行政の仕組みや制度の変遷とその内容及び関係行政計画について講義を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1章　保健医療福祉行政の基本	教科書の該当部分を事前に読んでから出席すること。	教科書の該当部分を読み返すこと。
2	2章　保健医療福祉制度の変遷	教科書の該当部分を事前に読んでから出席すること。	教科書の該当部分を読み返すこと。
3	3章　保健医療福祉行政・財政の理念としくみ	教科書の該当部分を事前に読んでから出席すること。	教科書の該当部分を読み返すこと。
4	4章　地域保健行政と保健師活動	教科書の該当部分を事前に読んでから出席すること。	教科書の該当部分を読み返すこと。
5	5章　社会保障制度と政策　①社会保障制度の理念としくみ　②医療制度と政策	教科書の該当部分を事前に読んでから出席すること。	教科書の該当部分を読み返すこと。
6	5章　社会保障制度と政策　③介護保険制度　④社会保障・社会福祉の制度	教科書の該当部分を事前に読んでから出席すること。	教科書の該当部分を読み返すこと。
7	6章　保健医療福祉の計画と評価　①地方公共団体の保健医療福祉計画	教科書の該当部分を事前に読んでから出席すること。	教科書の該当部分を読み返すこと。
8	6章　保健医療福祉の計画と評価　②保健計画の策定プロセス　③保健計画の推進と評価	教科書の該当部分を事前に読んでから出席すること。	教科書の該当部分を読み返すこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020021000 保健医療福祉行政論Ⅱ						
年度	2026	開講時期	前期前半	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	看護学科			担当教員	末廣 敏昭		

学習目標(到達目標)

1. 法の概念、厚生行政を支える衛生法の基本的考え方を説明できる。
2. 衛生法の分類と主要な法規を挙げることができる。
3. 看護業務を支える法規について概略の説明ができる。

授業概要(教育目的)

保健医療従事者として必要なわが国の保健医療福祉制度の概要と制度を支える法規について教示する。法とは何か、法の社会性・規範性といった基本的な事項から、高度先進医療や医療事故の動向とその対応、法的側面からの看護倫理の課題等について教示する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

定期試験による評価

課題に対するフィードバック

期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

必要な場合、授業時紹介する。

講義時使用テキスト

系統看護学講座専門基礎分野　看護関係法令　医学書院

資格との関連

学生へのメッセージ

本科目は、公衆衛生看護学(保健師国家試験受験資格)を選択し選抜された学生の必修科目となっている。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	法の概念と厚生行政のしくみ	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	医事法：看護法・医師法・医療法・医療関係資格法　等	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	保健衛生法：共通保健法・分野別保健法・その 他	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	薬務法・環境衛生法	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	社会保険法・福祉法	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	労働法・環境法	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	高度先進医療および医療事故の動向と法的対応	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	看護の倫理的課題と法律	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する

講義名	4020022000 看護学概論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	田中　克枝		

学習目標(到達目標)

1.看護の歴史的変遷、看護制度、看護活動の場について概要を説明できる。
2.看護学の基盤となる「人間」「健康」「環境」「看護」の4つの基本的概念について説明できる。
3.主な看護理論家の理論の特徴を説明できる。
4.看護倫理および看護者の責務について概要を説明できる。
5.自分が目指す看護について説明することができる。

授業概要(教育目的)

看護を学ぶ第一歩として、看護の基本概念である「人間」「健康」「環境」「看護」の4概念と、その関係を学ぶ。また、看護の歴史的な変遷や社会における看護の役割や機能についても理解し、自らの看護観を構築していくための手がかりとするとともに、看護の専門職としての自律と責任を理解し、今後の学びの基礎づくりをする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

看護を学ぶベースとなる看護学概論であり、必修科目です。
科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

課題のグループワークの活動やレポート(20%)と期末試験(80%)による総合評価

課題に対するフィードバック

・課題は次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時に参考文献を紹介する

講義時使用テキスト

系統看護学講座　基礎看護学〔1〕看護学概論、医学書院

資格との関連

学生へのメッセージ

「看護」を学ぶ者として、まずは人間・健康・環境に関心をもち、先人に学びながら看護観を養う基礎としましょう。

実務との関連

臨床経験・看護教育経験を生かし、講義・演習を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	看護とはなにか、看護への導入 グループ・ワーク 「看護」をイメージするキーワードを出し、 グループでKJ法でまとめる	シラバスを読んでくる	教科書を読みなおす
2	看護の定義、看護の変遷① ナイチンゲール、ヘンダーソン ・理解度の確認(発問) ・授業の振り返りをリアクションペーパー(WebClass)でアンケート、感想・意見をとる	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
3	看護の変遷② 看護理論家の看護の定義、現代の動向 ・理解度の確認(発問) ・授業の振り返りをリアクションペーパー(WebClass)でアンケート、感想・意見をとる	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
4	看護における基本的概念「人間」「健康」「環境」「看護」① ・看護理論、4つのメタパラダイム ・理解度の確認(発問) ・授業の振り返りをリアクションペーパー(WebClass)でアンケート、感想・意見をとる	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
5	看護における基本的概念「人間」「健康」「環境」「看護」② ・看護理論家における看護の基本概念 ・理解度の確認(発問) ・授業の振り返りをリアクションペーパー(WebClass)でアンケート、感想・意見をとる	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
6	看護の役割と機能 ・理解度の確認(発問) ・授業の振り返りをリアクションペーパー(WebClass)でアンケート、感想・意見をとる	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
7	保健・医療・福祉の連携、チームで関わる医療 ・理解度の確認(発問) ・授業の振り返りをリアクションペーパー(WebClass)でアンケート、感想・意見をとる	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
8	看護の対象の理解 ・理解度の確認(発問) ・GW(患者の理解を話し合う) ・授業の振り返りをリアクションペーパー(WebClass)でアンケート、感想・意見をとる	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
9	援助的人間関係 ・理解度の確認(発問) ・授業の振り返りをリアクションペーパー(WebClass)でアンケート、感想・意見をとる・紙面事例を話し合う((GW)	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
10	看護における倫理と法、倫理的ジレンマ ・倫理的ジレンマの具体例を話し合う(GW) ・理解度の確認(発問) ・授業の振り返りをリアクションペーパー(WebClass)でアンケート、感想・意見をとる	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
11	看護の提供としくみ(制度と政策、医療の質保証) ・理解度の確認(発問) ・授業の振り返りをリアクションペーパー(WebClass)でアンケート、感想・意見をとる	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
12	専門職としての看護、広がる看護の活動領域 ・理解度の確認(発問) ・授業の振り返りをリアクションペーパー(WebClass)でアンケート、感想・意見をとる	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
13	医療安全・国際看護・災害看護 ・理解度の確認(発問) ・授業の振り返りをリアクションペーパー(WebClass)でアンケート、感想・意見をとる	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
14	事例を通して看護を考える① 対象者の尊厳、倫理的ジレンマなどの関して 調べる、グループワーク(GW)で検討	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
15	事例を通して看護を考える② テーマに沿ったグループ発表	自分の看護観について考えてくる	教科書を読みなおす

講義名	4020022001 看護学概論（再履修）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

1.看護の歴史的変遷、看護制度、看護活動の場について概要を説明できる。
2.看護学の基盤となる「人間」「健康」「環境」「看護」の4つの基本的概念について説明できる。
3.主な看護理論家の理論の特徴を説明できる。
4.看護倫理および看護者の責務について概要を説明できる。
5.自分が目指す看護について説明することができる。

授業概要(教育目的)

看護を学ぶ第一歩として、看護の基本概念である「人間」「健康」「環境」「看護」の4概念と、その関係を学ぶ。また、看護の歴史的な変遷や社会における看護の役割や機能についても理解し、自らの看護観を構築していくための手がかりとするとともに、看護の専門職としての自律と責任を理解し、今後の学びの基礎づくりをする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

看護を学ぶベースとなる看護学概論であり、必修科目です。
科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

課題レポート(40%)と試験(60%)による総合評価

課題に対するフィードバック

・課題は次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時に参考文献を紹介する

講義時使用テキスト

系統看護学講座　基礎看護学〔1〕看護学概論、医学書院

資格との関連

学生へのメッセージ

「看護」を学ぶ者として、まずは人間・健康・環境に関心をもち、先人に学びながら看護観を養う基礎としましょう。

実務との関連

臨床経験・看護教育経験を生かし、講義・演習を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	看護とはなにか、看護への導入	シラバスを読んでくる	教科書を読みなおす
2	看護の変遷① ナイチンゲール、ヘンダーソン	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
3	看護の変遷② 看護理論家の看護の定義、現代の動向	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
4	看護における基本的概念「人間」「健康」	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
5	看護における基本的概念「環境」「看護」	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
6	看護の役割と機能	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
7	保健・医療・福祉の連携	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
8	看護の対象の理解	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
9	援助的人間関係	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
10	看護における倫理と法、倫理的ジレンマ	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
11	看護の提供としくみ（制度と政策、医療の質保証）	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
12	専門職としての看護、広がる看護の活動領域	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
13	医療安全・国際看護・災害看護	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
14	事例を通して看護を考える① 看護倫理のジレンマ、グループワーク((GW)	教科書の関連個所を読んでくる	教科書を読みなおす
15	事例を通して看護を考える② 対象者の尊厳、グループワーク(GW)	自分の看護観について考えてくる	教科書を読みなおす

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020023000 日常生活援助論　Aクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	小沢　久美子		

学習目標(到達目標)

1. 患者へ提供する看護技術の基本的な考え方を説明できる。
2. 看護行為に共通する援助技術の基本を身につける。
3. 健康的な日常生活行動の促進する援助技術の基本を身につける。
4. 生命活動を支える援助技術の基本を身につける。

授業概要(教育目的)

人間の生活を看護の視点から捉え、解剖生理学と運動させながら、科学的根拠のある知識に裏づけられ対象にあわせた看護技術を習得する。食事・清潔・排泄を中心とした日常生活援助の看護技術について教授する。また、患者の療養環境、倫理的配慮や安全管理の重要性についても学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

提出物、筆記試験、実技試験により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

技術演習に関する課題(予習および、演習後の振り返り)については、講義や演習中にフィードバックを行う。また、課題の返却はフィードバックが終了した後に行う。

参考文献

1. 必要時紹介する。

講義時使用テキスト

1.メディカ出版 ナーシンググラフィカ　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ
2.インターメディカ 新訂版　写真でわかる基礎看護技術アドバンス
3.インターメディカ 新訂版　写真でわかる臨床看護技術①アドバンス
4.インターメディカ 新訂版　写真でわかる臨床看護技術②アドバンス

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

看護師として総合病院に勤務。臨床経験をもとに具体的な事例を交えながら援助技術について理解が深まるように助言する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	看護技術とは ・理解度の確認(発問) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
2	快適な環境を作る ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
3	演習:手洗い・病床環境の調整①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
4	演習:手洗い・病床環境の調整②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
5	演習:ベッドメーキング①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
6	演習:ベッドメーキング②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
7	安楽かつ快適さを確保する技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
8	感染を予防する・安全を守る看護技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
9	身体の清潔を守る看護技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
10	活動・運動を守る看護技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
11	演習:体位と移動①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
12	演習:体位と移動②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
13	休息・睡眠を守る看護技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
14	体温調節を守る看護技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
15	演習:手浴・足浴①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
16	演習:手浴・足浴②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
17	演習:洗髪①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
18	演習:洗髪②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
19	演習:清拭・寝衣交換①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
20	演習:清拭・寝衣交換②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
21	バイタルサインの測定技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
22	排泄を促す看護技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
23	演習:臥床患者のシーツ交換・おむつ着脱・陰部洗浄①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
24	演習:臥床患者のシーツ交換・おむつ着脱・陰部洗浄②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
25	演習:体温・呼吸・脈拍・血圧測定①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
26	演習:体温・呼吸・脈拍・血圧測定②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
27	食事・栄養の看護技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
28	演習:食事の援助・口腔ケア①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
29	演習:食事の援助・口腔ケア②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
30	総合演習	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020023001 日常生活援助論　Bクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	小沢　久美子		

学習目標(到達目標)

1. 患者へ提供する看護技術の基本的な考え方を説明できる。
2. 看護行為に共通する援助技術の基本を身につける。
3. 健康的な日常生活行動の促進する援助技術の基本を身につける。
4. 生命活動を支える援助技術の基本を身につける。

授業概要(教育目的)

人間の生活を看護の視点から捉え、解剖生理学と運動させながら、科学的根拠のある知識に裏づけられ対象にあわせた看護技術を習得する。食事・清潔・排泄を中心とした日常生活援助の看護技術について教授する。また、患者の療養環境、倫理的配慮や安全管理の重要性についても学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

提出物、筆記試験、実技試験により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

技術演習に関する課題(予習および、演習後の振り返り)については、講義や演習中にフィードバックを行う。また、課題の返却はフィードバックが終了した後に行う。

参考文献

1. 必要時紹介する。

講義時使用テキスト

1.メディカ出版 ナーシンググラフィカ　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ
2.インターメディカ 新訂版　写真でわかる基礎看護技術アドバンス
3.インターメディカ 新訂版　写真でわかる臨床看護技術①アドバンス
4.インターメディカ 新訂版　写真でわかる臨床看護技術②アドバンス

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

看護師として総合病院に勤務。臨床経験をもとに具体的な事例を交えながら援助技術について理解が深まるように助言する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	看護技術とは ・理解度の確認(発問) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
2	快適な環境を作る ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
3	演習:手洗い・病床環境の調整①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
4	演習:手洗い・病床環境の調整②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
5	演習:ベッドメーキング①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
6	演習:ベッドメーキング②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
7	安楽かつ快適さを確保する技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
8	感染を予防する・安全を守る看護技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
9	身体の清潔を守る看護技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
10	活動・運動を守る看護技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
11	演習:体位と移動①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
12	演習:体位と移動②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
13	休息・睡眠を守る看護技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
14	体温調節を守る看護技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
15	演習:手浴・足浴①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
16	演習:手浴・足浴②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
17	演習:洗髪①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
18	演習:洗髪②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
19	演習:清拭・寝衣交換①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
20	演習:清拭・寝衣交換②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
21	バイタルサインの測定技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
22	排泄を促す看護技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
23	演習:臥床患者のシーツ交換・おむつ着脱・陰部洗浄①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
24	演習:臥床患者のシーツ交換・おむつ着脱・陰部洗浄②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
25	演習:体温・呼吸・脈拍・血圧測定①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
26	演習:体温・呼吸・脈拍・血圧測定②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
27	食事・栄養の看護技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
28	演習:食事の援助・口腔ケア①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。演習の内容を整理し、要点をまとめる。
29	演習:食事の援助・口腔ケア②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。
30	総合演習	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキストの該当箇所を読む。授業の内容を整理し、要点をまとめる。

講義名	4020024000 回復促進援助論　Aクラス						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	小沢　久美子		

学習目標(到達目標)

1. 生命活動を支える援助技術の基本を身につける。
2. 治療・処置に伴う援助技術の基本を身につける。

授業概要(教育目的)

医療的側面から人間の健康に寄与する目的で、診察・検査・治療などの医療行為が円滑に行えるように支援するための看護技術の基礎を学ぶ。感染予防、創傷管理、与薬、呼吸を楽にする技術を中心とした回復促進の看護技術について、科学的根拠のある知識に裏づけられた技術の実際を学ぶとともに、倫理的配慮や安全管理の重要性についても学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

提出物、筆記試験、実技試験により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

技術演習に関する課題(予習および、演習後の振り返り)については、講義や演習中にフィードバックを行う。また、課題の返却はフィードバックが終了した後に行う。

参考文献

1. 必要時紹介する。

講義時使用テキスト

1. メディカ出版 ナーシンググラフィカ　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ
2. インターメディカ 新訂版　写真でわかる基礎看護技術アドバンス
3.インターメディカ 新訂版　写真でわかる臨床看護技術①アドバンス
4.インターメディカ 新訂版　写真でわかる臨床看護技術②アドバンス

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

看護師として総合病院に勤務。臨床経験をもとに具体的な事例を紹介しながら援助技術の基本を教える。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	皮膚・創傷を管理する技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、授業の内容を整理し、要点をまとめる。
2	感染予防を促進する看護技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、授業の内容を整理し、要点をまとめる。
3	演習:膀胱留置カテーテル管理① ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
4	演習:膀胱留置カテーテル管理②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
5	演習:滅菌手袋・無菌操作①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
6	演習:滅菌手袋・無菌操作②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
7	演習:包帯法・ガーゼ交換①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
8	演習:包帯法・ガーゼ交換②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
9	演習:皮下注射・筋肉内注射①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
10	演習:皮下注射・筋肉内注射②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
11	与薬を安全かつ正確に行う技術① ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
12	与薬を安全かつ正確に行う技術② ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
13	演習:点滴静脈内注射① ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
14	演習:点滴静脈内注射② ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
15	治療・検査を安全に正確に行う技術① ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
16	治療・検査を安全かつ正確に行う技術② ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
17	演習:静脈血採血① ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
18	演習:静脈血採血② ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
19	技術試験:バイタルサイン測定① ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
20	技術試験:バイタルサイン測定② ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
21	ロールプレイ演習① グループ活動、リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
22	ロールプレイ演習② グループ活動、リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
23	危篤・終末時における技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
24	呼吸を楽にする技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
25	演習:吸引・吸入・酸素療法① ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
26	演習:吸引・吸入・酸素療法② ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
27	演習:浣腸① ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
28	演習:浣腸② ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
29	29. 総合演習①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
30	30. 総合演習②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。

講義名	4020024001 回復促進援助論　Bクラス						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	小沢　久美子		

学習目標(到達目標)

1. 生命活動を支える援助技術の基本を身につける。
2. 治療・処置に伴う援助技術の基本を身につける。

授業概要(教育目的)

医療的側面から人間の健康に寄与する目的で、診察・検査・治療などの医療行為が円滑に行えるように支援するための看護技術の基礎を学ぶ。感染予防、創傷管理、与薬、呼吸を楽にする技術を中心とした回復促進の看護技術について、科学的根拠のある知識に裏づけられた技術の実際を学ぶとともに、倫理的配慮や安全管理の重要性についても学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

提出物、筆記試験、実技試験により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

技術演習に関する課題(予習および、演習後の振り返り)については、講義や演習中にフィードバックを行う。また、課題の返却はフィードバックが終了した後に行う。

参考文献

1. 必要時紹介する。

講義時使用テキスト

1. メディカ出版 ナーシンググラフィカ　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ
2. インターメディカ 新訂版　写真でわかる基礎看護技術アドバンス
3.インターメディカ 新訂版　写真でわかる臨床看護技術①アドバンス
4.インターメディカ 新訂版　写真でわかる臨床看護技術②アドバンス

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

看護師として総合病院に勤務。臨床経験をもとに具体的な事例を紹介しながら援助技術の基本を教える。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	皮膚・創傷を管理する技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、授業の内容を整理し、要点をまとめる。
2	感染予防を促進する看護技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、授業の内容を整理し、要点をまとめる。
3	演習:膀胱留置カテーテル管理① ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
4	演習:膀胱留置カテーテル管理②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
5	演習:滅菌手袋・無菌操作①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
6	演習:滅菌手袋・無菌操作②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
7	演習:包帯法・ガーゼ交換①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
8	演習:包帯法・ガーゼ交換②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
9	演習:皮下注射・筋肉内注射①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
10	演習:皮下注射・筋肉内注射②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
11	与薬を安全かつ正確に行う技術① ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
12	与薬を安全かつ正確に行う技術② ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
13	演習:点滴静脈内注射① ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
14	演習:点滴静脈内注射② ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
15	治療・検査を安全に正確に行う技術① ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
16	治療・検査を安全かつ正確に行う技術② ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
17	演習:静脈血採血① ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
18	演習:静脈血採血② ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
19	技術試験:バイタルサイン測定① ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
20	技術試験:バイタルサイン測定② ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
21	ロールプレイ演習① グループ活動、リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
22	ロールプレイ演習② グループ活動、リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
23	危篤・終末時における技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
24	呼吸を楽にする技術 ・理解度の確認(発問、確認テスト) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)の活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
25	演習:吸引・吸入・酸素療法① ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
26	演習:吸引・吸入・酸素療法② ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
27	演習:浣腸① ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
28	演習:浣腸② ・リフレクションシートの活用	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
29	29. 総合演習①	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。
30	30. 総合演習②	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、演習の内容を整理し、要点をまとめる。

講義名	4020025000 看護過程論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	小沢　久美子		

学習目標(到達目標)

看護の実践において必要な質の高い人間的ケアを、効果的にかつ効率よく行うための組織的・系統的な方法を学習する。さらに、事例演習を通して臨地実習における看護展開の基礎を習得する。

授業概要(教育目的)

1. 看護を展開する技術を理解することができる。
2. アセスメントの技術を理解し、看護問題を抽出することができる。
3. 長期目標、短期目標の違いを理解し、具体的な看護計画の立案ができる。
4. 看護計画の実践と評価の方法を理解することができる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

授業への参加態度、試験、課題提出物から総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

事例演習では、事例に基づいて看護過程を一人ひとり展開する。事例演習の毎回の授業でフィードバックを行う。

参考文献

講義時使用テキスト

1. 実習記録の書き方が分かる看護過程展開ガイド(任和子　編著, 照林社)
2. NANDA-Ⅰ　看護診断　定義と分類　2024-2026(日本看護診断学会監訳, 医学書院)

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

看護師として総合病院に勤務。臨床経験をもとに看護展開の基礎について理解が深まるように教育する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 看護を展開する技術 ①看護過程とは何か　②看護過程のプロセス ・理解度の確認(発問)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、論点を整理する
2	2. 情報収集 ・理解度の確認(発問、演習の記録) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、論点を整理する
3	3. 情報の分析 ・理解度の確認(発問、演習の記録) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、論点を整理する
4	4. 全体像 ・理解度の確認(発問、演習の記録) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、論点を整理する
5	5. 看護問題の明確化、看護診断 ・理解度の確認(発問、演習の記録) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、論点を整理する
6	6. 看護計画立案 ・理解度の確認(発問、演習の記録) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、論点を整理する
7	7. 看護の実施、記録 ・理解度の確認(発問、演習の記録) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、論点を整理する
8	8. 評価 ・理解度の確認(発問、演習の記録) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、論点を整理する
9	9. 事例演習①情報収集 ・理解度の確認(発問、看護過程の記録)	配布資料の事例をもとに看護過程の展開を行う	テキスト、配布資料の該当箇所を読む。授業で解説されたことの要点を整理する
10	10. 事例演習②情報収集・分析 ・理解度の確認(発問、看護過程の記録)	配布資料の事例をもとに看護過程の展開を行う	テキスト、配布資料の該当箇所を読む。授業で解説されたことの要点を整理する
11	11. 事例演習③全体像・問題の明確化 ・理解度の確認(発問、看護過程の記録)	配布資料の事例をもとに看護過程の展開を行う	テキスト、配布資料の該当箇所を読む。授業で解説されたことの要点を整理する
12	12. 事例演習④中間発表 ・グループワークおよび全体発表を行い、学びを共有する ・理解度の確認(発表内容)	看護問題抽出までのグループ発表の資料を作成する	授業で解説されたことの要点を整理する
13	13. 事例演習⑥看護計画立案(看護目標・行動計画) ・理解度の確認(発問、看護過程の記録)	配布資料の事例をもとに看護過程の展開を行う	テキスト、配布資料の該当箇所を読む。授業で解説されたことの要点を整理する
14	14. 事例演習⑧実施・評価 ・理解度の確認(発問、看護過程の記録)	配布資料の事例をもとに看護過程の展開を行う	テキスト、配布資料の該当箇所を読む。授業で解説されたことの要点を整理する
15	15. 事例演習⑦まとめ発表 ・グループワークおよび全体発表を行い、学びを共有する ・理解度の確認(発表内容)	一連の看護過程の展開についてのグループ発表の資料を作成する	授業で解説されたことの要点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020026000 ヘルスアセスメント						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	小沢　久美子		

学習目標(到達目標)

1. 看護におけるヘルスアセスメントの基本的な考え方を説明できる。
2. フィジカルアセスメントの系統的方法とアセスメント技術の基本を説明できる。
3. 成長・発達に伴うアセスメントの方法とアセスメント技術の基本を説明できる。
4. 心理・社会的側面のアセスメントの方法とアセスメント技術の基本を説明できる。

授業概要(教育目的)

看護を科学的、理論的に実践する方法としてのヘルスアセスメントの意義を理解するとともに、ケアの臨床的意志決定の中心的構成要素であるヘルスアセスメントの知識と技術を学ぶという目的のもと、頭の先からつま先までの系統的なフィジカルアセスメントができるようにするため、講義と演習を組み合わせながら授業を展開する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

授業・演習への参加態度、試験、課題提出物から総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題については、具体的な事例を交えて解説する

参考文献

1. 必要時紹介する。

講義時使用テキスト

1. 村上美好　他:写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント, インターメディカ

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

看護師として総合病院に勤務。臨床経験をもとに具体的な事例を紹介しながらヘルスアセスメントの実際を解説する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 看護におけるヘルスアセスメントの基本的考え方 ・理解度の確認(発問、演習の記録)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、論点を整理する
2	2. フィジカルアセスメントの技法　視診・触診・打診・聴診・その他のアセスメント技法 ・理解度の確認(発問、演習の記録)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、論点を整理する
3	3. 系統的フィジカルアセスメント① ・理解度の確認(発問)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、論点を整理する
4	4. 系統的フィジカルアセスメント② ・理解度の確認(発問)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、論点を整理する
5	5. 系統的フィジカルアセスメント③ ・理解度の確認(発問)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、論点を整理する
6	6・系統的フィジカルアセスメント④ ・理解度の確認(発問) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、論点を整理する
7	7. 系統的フィジカルアセスメント⑤ 演習①問診 ・理解度の確認(発問、演習の記録) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、論点を整理する
8	8. 成長・発達に伴うアセスメント: 加齢による変化 代表的なアセスメントツールの活用 ・理解度の確認(発問) ・リフレクションシート(授業の振り返り、思ったこと、疑問等)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直し、論点を整理する
9	9. 演習②身体診察(視診・触診・打診・聴診) ・理解度の確認(発問、演習の記録、演習への取り組み状況)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直す。演習の内容を整理し、要点をまとめる
10	10. 演習③身体各部の測定 ・理解度の確認(発問、演習の記録、演習への取り組み状況)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直す。演習の内容を整理し、要点をまとめる
11	11. 演習④フィジカルアセスメント(ブリーフィング) ・理解度の確認(発問、演習の記録、演習への取り組み状況)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直す。演習の内容を整理し、要点をまとめる
12	12. 演習⑥フィジカルアセスメント(シミュレーショントレーニング①) ・理解度の確認(発問、演習の記録、演習への取り組み状況)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直す。演習の内容を整理し、要点をまとめる
13	13. 演習⑧フィジカルアセスメント(シミュレーショントレーニング②) ・理解度の確認(発問、演習の記録、演習への取り組み状況)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直す。演習の内容を整理し、要点をまとめる
14	14. 演習⑦フィジカルアセスメント(シミュレーショントレーニング③) ・理解度の確認(発問、演習の記録、演習への取り組み状況)	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直す。演習の内容を整理し、要点をまとめる
15	15. フィジカルアセスメント グループ発表 ・理解度の確認(発問) ・各グループの発表内容	テキストの該当箇所を読み、論点を把握しておく	テキスト、配布資料を読み直す。演習の内容を整理し、要点をまとめる

講義名	4020027000	看護倫理					
年度	2026	開講時期	前期後半	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	坂本　保子		

学習目標(到達目標)

1. 医療における倫理の概念、理論的背景について説明できる。
2. 医療現場における看護倫理とジレンマについて説明できる。
3. 看護者としての対象の人権擁護の姿勢と行動を説明できる。

授業概要(教育目的)

・患者の権利とその擁護、人間の尊厳、看護職の責務と倫理原則など看護を実践する上で必要な倫理に関
　する基本的な知識と倫理的意思決定の考え方および方法を学ぶ。
・看護実践、看護教育、看護研究、保健医療政策における倫理的問題について、理論を用いて分析し、看
　護の価値および看護者としての行動について考察する。
・看護の価値を追求、倫理的課題への対処法の獲得により高い倫理観を醸成する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

定期試験とグループワーク活動への参加状況等による総合評価

課題に対するフィードバック

課題(グループワークでのレポート等)は次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

1. 臨床倫理学　第5版　Albert R、jonsen他　新興医学出版社
2. 臨床倫理ベーシックレッスン　石垣靖子　清水哲郎　日本看護協会出版会
3. 看護者のための倫理的合意形成の考え方・進め方　医学書院

他必要な文献・資料は、授業時に紹介する。

講義時使用テキスト

看護学テキストNICE　看護倫理　良い看護・よい看護師への道しるべ
改定第3版
編集　小西恵美子　南江堂

資格との関連

看護師国家試験において看護倫理に関わる出題がある

学生へのメッセージ

実務との関連

臨床経験における倫理的ジレンマの経験を踏まえて教授する

授業計画表

	内容	予習	復習
1	看護倫理についての基礎知識	・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の関連個所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる	テキストの該当箇所を読む ・参考文献の関連個所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
2	看護倫理の用語	・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の関連個所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の授業の内容を整理し、論点を整理する ・前回の配布資料と自己メモを読み直す	テキストの該当箇所を読む ・参考文献の関連個所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
3	倫理原則に基づくアプローチの理論 倫理原則 ケアの倫理	・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の関連個所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の授業の内容を整理し、論点を整理する ・前回の配布資料と自己メモを読み直す	テキストの該当箇所を読む ・参考文献の関連個所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
4	倫理原則に基づくアプローチの実践	・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の関連個所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の授業の内容を整理し、論点を整理する ・前回の配布資料と自己メモを読み直す	テキストの該当箇所を読む ・参考文献の関連個所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
5	倫理的意思決定のステップ	・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の関連個所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の授業の内容を整理し、論点を整理する ・前回の配布資料と自己メモを読み直す	テキストの該当箇所を読む ・参考文献の関連個所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
6	事例分析(グループワーク):入院している患者に対する看護者の対応に関する事例	・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の関連個所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の授業の内容を整理し、論点を整理する ・前回の配布資料と自己メモを読み直す	テキストの該当箇所を読む ・参考文献の関連個所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
7	事例分析発表:事例分析の共有と意見交換	・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の関連個所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の授業の内容を整理し、論点を整理する ・前回の配布資料と自己メモを読み直す	テキストの該当箇所を読む ・参考文献の関連個所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
8	8. その他の看護活動と倫理	・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の関連個所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の授業の内容を整理し、論点を整理する ・前回の配布資料と自己メモを読み直す	テキストの該当箇所を読む ・参考文献の関連個所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020028000 基礎看護学実習Ⅰ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	小沢　久美子		

学習目標(到達目標)

1. 病院、病棟の構造と機能を知り、療養環境を理解できる。
2. 毎日の看護活動の実際を理解する。
3. 看護の基礎的技術の実際を理解する。
4. 患者とのコミュニケーション、人間関係の成立について理解できる。
5. 看護を学ぶ学生としての学習姿勢を身につける。

授業概要(教育目的)

入院患者の生活状況や療養環境、看護活動の概要、日常生活の援助、人間関係の成立等、看護実践に必要な基礎的能力(知識・技術・態度)を学習し、自己の課題に気づくことができる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

実習評価表にもとづいて評価する。

課題に対するフィードバック

・事前課題(予習)、実習記録、事後課題レポートについては、コメントまたは面談により フィードバックする。また実習中はカンファレンスを行い、実習目標に沿って振り返りを行う。
・成績評価について自己評価をしてもらい、良かった点と今後の課題について個々にフィードバックを行う。

参考文献

講義時使用テキスト

授業で使用したテキスト、参考文献、資料の全て。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

看護師として総合病院に勤務。臨床経験をもとに、看護師という職業や看護の役割、看護活動の実際について理解が深まるように助言する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	実習時期:1年次春学期: 1週間(5日間) 実習内容:看護師と共に行動し、入院患者の療養環境、看護活動の一日の流れ、日常生活の援助を見学する 実習場所:八戸赤十字病院、青森労災病院　＊計画の詳細は実習要項参照	実習要項に沿って、日常生活援助論、コミュニケーション論の学習内容を復習する	実習で学んだ内容を整理し、実習のまとめレポートを作成する

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020029001 基礎看護学実習Ⅱ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	小沢　久美子		

学習目標(到達目標)

1. 入院患者の療養環境および看護の対象を理解する。
2. 患者の特徴や健康障害に配慮したコミュニケーションを見学・実施し、振り返ることができる。
3. 患者の特徴や健康障害に応じた基礎的看護技術を見学・実施し、振り返ることができる。
4. 看護を学ぶ学生としての学習姿勢を身につける。

授業概要(教育目的)

看護実践を通して、看護の対象となる人へのコミュニケーション技術や基礎的看護技術の実際を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

実習評価表にもとづいて評価する。

課題に対するフィードバック

・事前課題(予習)、実習記録、事後課題レポートについては、コメントまたは面談により フィードバックする。また実習中はカンファレンスを行い、実習目標に沿って振り返りを行う。
・成績評価について自己評価をしてもらい、良かった点と今後の課題について個々にフィードバックを行う。

参考文献

適宜紹介する。

講義時使用テキスト

授業で使用したテキスト、参考文献、資料の全て。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

看護師として総合病院に勤務。臨床経験をもとに患者の看護について理解が深まるように助言する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	実習時期:2年次秋学期 実習期間:1週間5日間 実習内容:看護の対象となる人へのコミュニケーション技術や基礎的看護技術の実際を学ぶ。 実習場所:八戸赤十字病院、青森労災病院 計画の詳細は実習要項参照 ・理解度の確認(発問・実習記録、発表内容) ・実習最終日にグループワークおよび全体のまとめ発表会を行い、実習での学びを共有する。	・実習要項に沿って日常生活援助論、回復促進援助論、コミュニケーション論、看護倫理、ヘルスアセスメントの学習内容を復習する。	実習で学んだ内容を整理し、実習後のまとめレポートを作成する

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020030000 成人看護学概論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	市川　裕美子		

学習目標(到達目標)

1. 成人期の人々の身体的・心理的・社会的な特徴、健康問題の特徴について述べることができる。
2. 成人の健康・保健の動向について説明できる。
3. 成人期にある対象の健康と生活について説明できる。
4. 成人の健康状態に応じた看護の特徴について述べることができる。
5. 成人期の人々の発達課題や健康問題の特徴を踏まえた看護を提供することの意義とその方法を考察することができる。

授業概要(教育目的)

成人期にある人々の特徴についてライフサイクルの視点から理解する。また、成人期の健康特性、生活特性および加齢の進行とそれに基づく生活習慣病の予防など、成人期にある人の健康問題および各健康レベルに応じた看護の特徴と方法を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

定期試験により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

講義内容に対して予習、復習、さらに社会の状況・情勢に照らして新聞などの情報も含めながら、グループで事例検討をしたり、応用問題を解いたりすることを試みる。

参考文献

日常生活の健康に関する諸問題を考え、解決していくためにも、広く情報収集をすることが重要である。そのためにも種々の書籍や新聞などを読む。
テキスト以外の必要な資料は、授業時に紹介する。

講義時使用テキスト

成人看護学 成人看護学概論 改訂第4版 南江堂

資格との関連

看護師国家試験に関連している科目である。

学生へのメッセージ

テキストを丁寧に読み、その内容を理解できるように努めてほしい。

実務との関連

担当教員は30年以上の実務実績を有する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	第1章 成人とは 成人の定義 成人期の特徴	教科書の授業範囲を必ず読む	重要な要点・箇所を学習目標、課題を参考にしながら確認する
2	第1章 成人とは 成人期における発達課題 大人になること、大人であること(事例検討・講義)	教科書の授業範囲を必ず読む	重要な要点・箇所を学習目標、課題を参考にしながら確認する
3	第2章 成人を取り巻く今日の状況 家族・仕事をめぐる状況 日常生活スタイルの変化 セクシュアリティ 環境問題 死生観	次回の授業範囲を必ず読む	重要な要点・箇所を学習目標、課題を参考にしながら確認する
4	第3章 成人期にある人の健康① 健康とは 病気の体験 成人保健と健康動向	次回の授業範囲を必ず読む	重要な要点・箇所を学習目標、課題を参考にしながら確認する
5	第3章 成人期にある人の健康② 生活習慣と健康 職業と労働と健康	次回の授業範囲を必ず読む	重要な要点・箇所を学習目標、課題を参考にしながら確認する
6	第3章 成人期にある人の健康③ ストレスと健康 性・更年期と健康 健康維持・促進を目指した生活(事例検討)	次回の授業範囲を必ず読む	重要な要点・箇所を学習目標、課題を参考にしながら確認する
7	第4章 成人期にある人を看護するための基本的な考え方① 関係を結ぶ 適応を促す(ストレス・危機理論他)	次回の授業範囲を必ず読む	重要な要点・箇所を学習目標、課題を参考にしながら確認する
8	第4章 成人期にある人を看護するための基本的な考え方② 発達を促進	次回の授業範囲を必ず読む	重要な要点・箇所を学習目標、課題を参考にしながら確認する
9	第5章 健康状態に応じた看護① ヘルスプロモーション 急性の状態にある人への看護	次回の授業範囲を必ず読む	重要な要点・箇所を学習目標、課題を参考にしながら確認する
10	第5章 健康状態に応じた看護② リハビリテーション看護 慢性期看護 人生の最終段階にある人への看護	次回の授業範囲を必ず読む	重要な要点・箇所を学習目標、課題を参考にしながら確認する
11	第6章 成人看護を充実させる実践的環境 看護者の倫理綱領 専門職種間の連携と協働 医療安全 人材育成 ・意思決定支援(事例検討他)	次回の授業範囲を必ず読む	重要な要点・箇所を学習目標、課題を参考にしながら確認する
12	治療過程にある患者への看護技術① ①回復促進 ②安全	次回の授業範囲を必ず読む	重要な要点・箇所を学習目標、課題を参考にしながら確認する
13	治療過程にある患者への看護技術② ③日常生活機能の保護・維持と社会復帰 ④ボディイメージの変化	次回の授業範囲を必ず読む	重要な要点・箇所を学習目標、課題を参考にしながら確認する
14	感染看護	次回の授業範囲を必ず読む	重要な要点・箇所を学習目標、課題を参考にしながら確認する
15	・療養の場を移行する人々への看護技術 ①移行支援とは ②具体的方法 ・新たな治療法、先進医療と看護	次回の授業範囲を必ず読む	重要な要点・箇所を学習目標、課題を参考にしながら確認する

講義名	4020031000 成人看護援助論Ⅰ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	坂本　弘子		

学習目標(到達目標)

1. 急性期・周手術期にある患者とその家族の特徴を理解し、看護の役割を説明できる。
2. 周手術期看護の考え方、回復促進のための看護について説明できる。
3. クリティカルケアの視点を捉え、必要な看護について説明できる。

授業概要(教育目的)

急性期・周手術期にある患者への看護を実践するために必要な病態、検査・治療を理解し、急性期看護、周手術期看護の考え方、援助方法を講義を通して教授する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

講義内容により小テストを行い、定期試験の結果とあわせて評価する。

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

1. ナーシンググラフィカ　疾患と看護(循環器、呼吸器、消化器、腎・泌尿器/内分泌/代謝、血液/アレルギー・膠原病/感染症、運動器、脳・神経、眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚/女性生殖器)

講義時使用テキスト

1. 成人看護学　急性期看護Ⅰ概論・周手術期看護　南江堂
2. 成人看護学　急性期看護Ⅱ　クリティカルケア　南江堂
3. 成人看護学　成人看護技術　南江堂

資格との関連

看護師国家試験

学生へのメッセージ

常に予習復習をする時間を惜しまないでほしい。テキストを丁寧に読むこと。

実務との関連

看護師として実務経験がある。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	急性期看護とは 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
2	周手術期看護とは 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
3	手術前期の看護　手術期の看護 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
4	手術後期の看護(術後合併症) 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
5	手術後期の看護(術後合併症予防の看護) 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
6	退院に向けた指導・支援 内視鏡治療・鏡視下手術の術前・術後の看護 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
7	事例で考える周手術期看護 開頭腫瘍摘出術 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
8	事例で考える周手術期看護 胸腔鏡下肺葉切除術 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
9	事例で考える周手術期看護 冠動脈バイパス術 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
10	事例で考える周手術期看護 食道切除術 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
11	事例で考える周手術期看護 胃切除術 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
12	事例で考える周手術期看護 肝切除術 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
13	事例で考える周手術期看護 腹腔鏡下胆嚢摘出術 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
14	事例で考える周手術期看護 人工股関節全置換術 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
15	事例で考える周手術期看護 乳房部分切除術 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
16	事例で考える周手術期看護 子宮摘出術 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
17	事例で考える周手術期看護 低位前方切除術 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
18	事例で考える周手術期看護 経尿道的前立腺切除術 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
19	事例で考える周手術期看護 腎移植 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
20	脳神経系フィジカルアセスメント演習 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする
21	事例で考えるクリティカルケア 急性心筋梗塞 講義の要点をまとめ、覚えるためのノートを作成しグループでデスカッション	講義内容に一致する教科書の部分を読み、要点をまとめる	①講義の要点をまとめ覚えるためのノートを完成させる ②講義で理解不十分な点を書きだし調べ学習をする

講義名	4020032000 成人看護援助論Ⅱ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	市川　裕美子		

学習目標(到達目標)

1. 慢性期、終末期にある疾患・治療・療養環境・具体的な看護援助について説明できる。
2. 慢性期をもつ人と家族に対し、セルフマネジメント能力を高めるための具体的方法が説明できる。
3. 慢性期、終末期患者の看護と他職種との連携および社会資源について説明できる。

授業概要(教育目的)

慢性疾患の特徴を理解し、疾患を抱えて生きる人とその家族がセルフケア能力を高めることができるよう援助するための知識・技術および、終末期・緩和ケアに関する基礎的知識と看護援助について、講義・演習・グループディスカッションを通して教授する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

定期試験および課題提出、課題の内容、演習の発表で総合的に評価する

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に対応する。
レポートは、次の授業でフィードバックする。

講義時使用テキスト

1. 成人看護学　慢性期看護　南江堂
2. ナーシンググラフィカ　疾患と看護(循環器、呼吸器、消化器、腎・泌尿器/内分泌/代謝、血液/アレルギー・膠原病/感染症、運動器、脳・神経、眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚、女性生殖器)

参考文献

1. 系統看護学講座「成人看護学2～15」 医学書院
2. 吉田澄江編「成人看護学②健康危機状況／セルフケアの再獲得」メディカ出版
3. 安酸史子編「成人看護学③セルフマネジメント」メディカ出版
その他、必要時その都度紹介する。

資格との関連

看護師国家試験受験資格に関連している

学生へのメッセージ

教科書を丁寧に読む、そして既に習得している病態生理学を繰り返し復習して欲しい。
事例検討は今後の実習の基礎となることを意識して取り組んでほしい。

実務との関連

看護師として総合病院に勤務。医療機関での実務経験は、急性期病棟、慢性期病棟、混合病棟、ICU、手術室、リハビリテーション病院などであり、それらの経験をもとに授業展開に活かしている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	慢性疾患の特徴の理解(慢性期疾患の特徴・治療の特徴)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
2	慢性期看護の理解(看護の役割、家族の理解)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
3	慢性疾患を有する人とその家族への援助(セルフケアマネジメント・患者教育)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
4	がん化学療法看護(ゲストティーチャー：がん化学療法看護認定看護師) がん化学療法看護の実際他	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
5	慢性の脳・神経機能障害のある患者の看護(脳梗塞) 脳梗塞とは 脳梗塞患者の看護	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
6	高次脳機能障害のある人への看護	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
7	慢性の脳・神経機能障害のある患者の看護、事例検討・アセスメント(脳梗塞) 事例の看護問題を抽出し、グループでまとめて発表する。	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
8	生活機能障害とリハビリテーション(廃用症候群、嚥下障害、口腔ケア)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
9	慢性の血液・免疫機能障害のある患者の看護(白血病の治療と看護)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
10	慢性の血液・免疫機能障害のある患者の看護(関節リウマチ・全身性エリテマトーデス)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
11	主な治療法と治療を受ける患者の看護(がん化学療法、放射線療法、内分泌療法)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
12	慢性の代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への援助(脂質異常症、甲状腺機能障害)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
13	慢性の呼吸機能障害のある患者の看護(気管支喘息・COPD)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
14	エンド・オブ・ライフケア	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
15	慢性期疾患を持つ患者への援助の実際① 輸液ポンプ、シリンジポンプの使用方法と使用患者の看護 簡易血糖測定の方法について	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
16	慢性期疾患を持つ患者への援助の実際② 麻痺のある患者で点滴実施中患者の寝衣交換 麻痺のある患者の車椅子移乗	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
17	慢性期疾患を持つ患者のアセスメント①(電子カルテ使用事例検討) 情報収集、問題点の抽出	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
18	慢性期疾患を持つ患者のアセスメント②(電子カルテ使用事例検討) 事例の看護問題を抽出し、発表できる	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
19	慢性の循環機能障害のある患者の看護①(心不全)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
20	慢性の循環機能障害のある患者の看護②(事例検討、循環器疾患の症状に対する看護)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
21	慢性の循環機能障害のある患者の看護③(高血圧症・虚血性心疾患)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
22	慢性の代謝・内分泌機能障害のある患者の看護 ①(糖尿病)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
23	慢性の代謝・内分泌機能障害のある患者の看護②(糖尿病の事例検討)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
24	慢性の循環機能障害のある患者の看護④(不整脈・ペースメーカー)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
25	慢性の消化器系の障害を有する患者とその家族の看護(慢性肝炎・肝硬変・肝がん) 治療：TAE	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
26	慢性の脳・神経機能障害のある患者と家族の看護(パーキンソン病、ALS)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
27	慢性の消化器機能障害のある患者の看護(胃・十二指腸潰瘍・クローン病、ステロイド療法)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
28	慢性慢性の腎・泌尿器系の障害を有する人とその家族への援助(慢性腎不全、透析療法)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む
29	慢性の代謝・内分泌機能障害を有する人とその家族への援助③(看護計画・指導)	テキストの該当箇所を読む	授業内容を整理し、論点を整理する
30	緩和ケア	テキストの該当箇所を読む	授業内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020033000 成人看護学実習Ⅰ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	3・4
対象学科	看護学科			担当教員	市川　裕美子		

学習目標(到達目標)

1.急性期・回復期・周手術期にある成人期の患者の特徴と看護問題を理解できる。
2.急性期・回復期・周手術期にある患者の看護問題に応じた援助を理解し、実践できる。
3.急性期にある患者の検査・治療・処置に応じた援助を理解し、回復に向けた援助を実践できる。
(身体的侵襲を受ける周手術期の看護の方法を含む)
4.回復期にある患者の自立に向けた援助を理解し、実践できる。
5.他職種との連携による社会復帰に向けた援助の方法と実践を理解できる。
6.急性期・回復期・周手術期における看護の役割・機能を理解し、自己の役割を認識し行動できる。

授業概要(教育目的)

1.急性期・回復期・周手術期にある成人を理解し、個別性をふまえた看護の実践に必要な基礎的能力を
習得する。
2.急性期・回復期・周手術期にある患者の看護実践をとおして、看護過程展開能力と看護専門職としての姿勢を養う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

実習評価表にもとづいて評価する。

課題に対するフィードバック

成績に疑問がある場合は、個別に対応する

参考文献

授業で使用したテキスト、参考文献、資料の全て。
必要時、適宜紹介する

講義時使用テキスト

授業で使用したテキスト、参考文献、資料の全て。
必要時、適宜紹介する

資格との関連

看護師国家試験に関連する

学生へのメッセージ

積極的に主体的に学習すること。

実務との関連

担当教員全員が看護師として病院勤務の経験がある。それに基づいて実習指導を行う

授業計画表

	内容	予習	復習
1	【実習時期】3年次後期以降～4年次前期 【実習期間】3週間 【実習場所】八戸赤十字病院、八戸市立市民病院、青森労災病院他 【実習方法】原則として学生は一人の患者を受け持ち、健康障害をもった患者の健康レベルに応じた看護援助を実践しながら看護過程の展開を行う。 実習の詳細については「成人看護学実習要項」参照	実習病棟の主な疾患、検査、処置、看護について学習しレポートにまとめること。	毎日実習記録を記載し、内容を整理し振り返ること。また、不明な点は調べておくこと。

講義名	4020033001 急性期・周手術期看護実習						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	実習	対象年次	3・4
対象学科	看護学科			担当教員	市川　裕美子		

学習目標(到達目標)

1.急性期・周手術期にある患者の特徴と看護問題を理解できる。
2.急性期・周手術期にある患者の看護問題に応じた援助を理解し、実践できる。
3.急性期・周手術期にある患者の検査・治療・処置に応じた援助を理解し、回復に向けた援助を実践できる。
4.患者の自立に向けた援助を理解し、実践できる。
5.他職種との連携による社会復帰に向けた援助の方法と実践を理解できる。
6.急性期・回復期・周手術期における看護の役割・機能を理解し、自己の役割を認識し行動できる。

授業概要(教育目的)

1.心身ともに危機的な状況や手術などの生体侵襲を受ける状況にある患者、家族について、回復過程に及ぼす影響を理解し、患者、家族が危機的状態に対処しながら回復を促進し、その人らしいクオリティ・オブ・ライフが維持できるための実践能力を養う。また、急性期と回復過程におけるチーム医療での看護師の役割と連携について学ぶ。
2.個別性をふまえた看護の実践に必要な基礎的能力を習得し、看護実践をとおして看護過程展開能力と看護専門職としての姿勢を養う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

実習評価表にもとづいて評価する。

課題に対するフィードバック

成績に疑問がある場合は、個別に対応する

参考文献

授業で使用したテキスト、参考文献、資料の全て。
必要時、適宜紹介する

講義時使用テキスト

授業で使用したテキスト、参考文献、資料の全て。
必要時、適宜紹介する

資格との関連

看護師国家試験受験資格取得必修科目

学生へのメッセージ

3週間の実習です。各週の達成目標を確認して、積極的に主体的に学習すること。
健康管理をしっかり行うこと。

実務との関連

担当教員全員が看護師として病院勤務の経験がある。それに基づいて実習指導を行う

授業計画表

	内容	予習	復習
1	【実習時期】3年次後期以降～4年次前期 【実習期間】3週間 【実習場所】八戸赤十字病院、八戸市立市民病院、青森労災病院他 【実習方法】原則として学生は一人の患者を受け持ち、健康障害をもった患者の健康レベルに応じた看護援助を実践しながら看護過程の展開を行う。 実習の詳細については「急性期・周手術期看護実習要項」参照	実習病棟の主な疾患、検査、処置、看護について学習しレポートにまとめること。	毎日実習記録を記載し、内容を整理し振り返ること。また、不明な点は調べておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020034000 成人看護学実習Ⅱ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	3・4
対象学科	看護学科			担当教員	市川　裕美子		

学習目標(到達目標)

1. 慢性期または、終末期にある成人期の患者の特徴と看護上の問題を理解できる。
2. 慢性期または、終末期にある患者の健康問題、健康レベル、機能障害に応じた援助を理解し、実践できる。
3. 慢性期または、終末期にある患者の検査・治療・処置に応じた援助を理解し、援助を実践できる。
4. 他職種との連携や継続看護、社会復帰に向けた援助の方法と実践を理解できる。
5. 慢性期または、終末期における看護の役割機能を理解し、自己の役割を認識し行動できる。

授業概要(教育目的)

1.慢性期または、終末期における患者の健康状態を把握し、患者の特徴と個別性をふまえた看護の実践に必要な基礎的能力を習得する。
2.慢性期または、終末期にある患者の看護実践をとおして、看護過程展開能力と看護専門職としての姿勢を養う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

実習評価表にもとづいて評価する。

課題に対するフィードバック

成績に疑問がある場合は、個別に対応する

参考文献

これまで授業で使用したテキスト、参考文献、資料の全て。
適宜必要な場合には紹介する。

講義時使用テキスト

これまで授業で使用したテキスト、参考文献、資料の全て。
適宜必要な場合には紹介する。

資格との関連

看護師国家試験に関連する

学生へのメッセージ

積極的に主体的に学習すること。

実務との関連

担当教員全員が看護師としての病院勤務の実務経験がある。それに基づいて成人看護学について実習指導を行う

授業計画表

	内容	予習	復習
1	【実習時期】3年次後期～4年次前期 【実習期間】3週間 【実習場所】八戸赤十字病院、八戸市立市民病院、青森労災病院他 【実習方法】原則として学生は一人の患者を受け持ち、健康障害をもった患者の健康レベルに応じた看護援助を実践しながら看護過程の展開を行う。 実習の詳細については、成人看護学実習要項参照	実習病棟の主な疾患、検査、処置、看護について学習し、レポートにまとめること。	毎日実習記録を記載し、内容を整理し振り返りを行うこと。また、不明な点は調べておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020034001 慢性期看護実習						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	実習	対象年次	3・4
対象学科	看護学科			担当教員	市川　裕美子		

学習目標(到達目標)

1.慢性期にある患者の特徴と看護問題を理解できる。
2.慢性期にある患者の看護問題や機能障害に応じた援助を理解し、実践できる。
3.慢性期にある患者の検査・治療・処置に応じた援助を理解し、実践できる。
4.他職種との連携や継続看護、社会復帰に向けた援助の方法と実践を理解できる。
5.慢性期における看護の役割機能を理解し、自己の役割を認識し行動できる。

授業概要(教育目的)

1.慢性的・長期的に経過する健康障害や機能障害の特性を多面的に理解する能力を養い、慢性疾患患者が疾病をコントロールしセルフケアができるための援助方法、また生活者としてのクオリティ・オブ・ライフの充実に向けた援助方法を学ぶ。さらに、チームケアならびに在宅療養支援を必要とする社会資源の活用や患者への継続看護について体験的に学習し、看護実践を通じてチームとして患者を支えること、看護師の役割について学ぶ。
2.慢性期にある患者の看護実践を通して、看護過程展開能力と看護専門職としての姿勢を養う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

実習評価表にもとづいて評価する。

課題に対するフィードバック

成績に疑問がある場合は、個別に対応する

参考文献

授業で使用したテキスト、参考文献、資料の全て。
必要時、適宜紹介する

講義時使用テキスト

授業で使用したテキスト、参考文献、資料の全て。
必要時、適宜紹介する

資格との関連

看護師国家試験受験資格取得必修科目

学生へのメッセージ

3週間の実習です。各週の実習目標を確認して、積極的・主体的に行動すること
健康管理をしっかりすること

実務との関連

担当教員全員が看護師として病院勤務の経験がある。それに基づいて実習指導を行う

授業計画表

	内容	予習	復習
1	【実習時期】3年次後期以降～4年次前期 【実習期間】3週間 【実習場所】八戸赤十字病院、八戸市立市民病院、青森労災病院他 【実習方法】原則として学生は一人の患者を受け持ち、健康障害をもった患者の健康レベルに応じた看護援助を実践しながら看護過程の展開を行う。 実習の詳細については「慢性期看護実習要項」参照	実習病棟の主な疾患、検査、処置、看護について学習しレポートにまとめること。	毎日実習記録を記載し、内容を整理し振り返ること。また、不明な点は調べておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020035000 高齢者看護学概論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	切明　美保子		

学習目標(到達目標)

1. 加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面から高齢者の特徴を説明できる。
2. 高齢者の健康問題と看護の役割について説明できる。
3. 高齢者を支える社会構造と保健・医療・福祉制度を説明できる。
4. 高齢者の人権擁護・倫理的課題を説明できる。

授業概要(教育目的)

高齢期にある人の加齢に伴う変化と特徴、高齢社会の課題の理解を基に、高齢者の健康のあり方とQOLを考えた生活支援および看護ケアの基盤について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

僻地や医療過疎地など地域特性の理解のもと、地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

定期試験、小テスト、グループワークの参加度、課題レポートにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題レポートは、次の授業で代表的なものををいくつかフィードバックする。
小テストは採点の上返却する。

参考文献

内閣府『高齢社会白書』
山田律子他編集『生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図』、医学書院

講義時使用テキスト

堀内ふき他編『ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害』、メディカ出版
堀内ふき他編『ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践』、メディカ出版

資格との関連

看護師国家試験受験資格取得のための必修科目である。

学生へのメッセージ

身近にいる高齢者と関わりを持ち、高齢者の理解を深めてほしい。

実務との関連

看護師としての実務経験を踏まえて話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	高齢者とは ・加齢と老化の 概念 ・高齢社会の 進展と対策、高齢者に関する統計的な 特徴、高齢者の 発達段階と発達課題 ・リアクションペーパー 活用(講義の 振り返り、疑問など)	テキストの「高齢者とは」「高齢者の 特徴と理解」をよく読む。	授業の 内容を 整理し、要点を 整理する。
2	高齢者にとっての 健康とQOL ・高齢者のQOLを 理解し、QOLを 向上させる関わり ・健康指標から見た 高齢者の 特徴 ・リアクションペーパー 活用(講義の 振り返り、疑問など)	テキストの「高齢者にとっての 健康」「高齢者とQOL」をよく読む。	授業の 内容を 整理し、要点を 整理する。
3	加齢による身体的変化と生活への影響① ・ジグソー法(エキスパートグループ 活動) ・担当個所についてGWし、発表資料を 作成する。	加齢による身体的変化と生活への影響について、テキストの 関連個所と資料をよく読み 理解する。	配布資料とテキスト参考書を 読みなおし、要点を 整理する。
4	加齢による身体的変化と生活への影響② ・ジグソー法(エキスパートグループ 活動) ・担当個所についてGWし、発表資料を 作成する。	加齢による身体的変化と生活への影響について、テキストの 関連個所と資料をよく読み 理解する。	グループ 活動内容を 整理・見直し、発表資料を 完成させる。
5	加齢による身体的変化と生活への影響③ ・ジグソー法(ホームグループ 活動) ・作成した資料に基づき発表し、質疑応答する。	発表者は、作成した資料に基づき発表の準備をする。 発表資料、テキストの 該当箇所を 精読し、不明点を 明らかにする。	グループ発表された 内容を 整理し、テキストや 参考書で 調べ、理解を 深める。
6	加齢による身体的変化と生活への影響④ ・ジグソー法(ホームグループ 活動) ・作成した資料に基づき発表し、質疑応答する。	発表者は、作成した資料に基づき発表の準備をする。 発表資料、テキストの 該当箇所を 精読し、不明点を 明らかにする。	グループ発表内容を 整理し、テキストや 参考書で 調べ、理解を 深める。
7	加齢による心理・社会的変化と生活への影響 ・第4回～第7回の内容についての確認小テストを 実施。 ・加齢による心理・社会的変化と生活への影響 ・リアクションペーパー 活用(講義の 振り返り、疑問など)"	配布資料とノートを 読み 直す。	テキストの 該当箇所を 読み、要点を 整理する。
8	高齢者を 取り巻く社会と社会制度 ・高齢者の 生活と家族、高齢者を 支える制度 ・リアクションペーパー 活用(講義の 振り返り、疑問など)	テキストの 関連個所を 読み、高齢者にかかわる社会制度を 調べる。	高齢者看護における看護師の 役割や態度について 要点を 整理する。
9	高齢者疑似体験(演習・グループ 活動)	演習要項を 精読する。第3回～第7回の 加齢変化について 見 直す。	・課題レポートを 作成し、提出する。
10	高齢者看護における倫理① ・高齢者看護における意思決定支援と権利擁護 ・スティグマ、エイジズム、高齢者虐待 ・リアクションペーパー 活用(講義の 振り返り、疑問など)	テキストの 関連個所を 読み、授業内容についてインター ネットで 調べる。	・授業内容を 整理し、要点を 整理する。 ・選択した 課題レポートを 作成する。
11	高齢者看護における倫理② ・高齢者の 終末期の 概念とエンドオブライフケア ・リアクションペーパー 活用(講義の 振り返り、疑問など)	ACP,エンドオブライフケアについて、テキストや 参考書で 調べる。	・授業内容を 整理し要点を 整理する。 ・選択した 課題レポートを 作成する。
12	地域包括ケアシステムと多様な生活の 場における看護 ・地域包括ケアシステム、高齢者の 生活の 場、高齢者の 生活を 支える仕組み ・リアクションペーパー 活用(講義の 振り返り、疑問など)	テキストの 関連個所をよく読み、不明点を参考書で 調べる。	・授業内容を 整理し要点を 整理する。 ・選択した 課題レポートを 作成する。
13	高齢者看護の 基本①高齢者看護の 特性 ・老年看護の 役割と 特徴 ・離脱理論、コンフォート理論、ストレングスモデル ・リアクションペーパー 活用(講義の 振り返り、疑問など)	テキストの 関連個所をよく読み、不明点を参考書で 調べる。	授業内容を 整理し、要点を 整理する。
14	高齢者の 安全とリスクマネジメント(GW) ・リアクションペーパー 活用(講義の 振り返り、疑問など)"	テキストの 関連個所をよく読み、不明点を参考書で 調べる。	授業内容を 整理し、要点を 整理する。
15	高齢者の 健康維持・増進と予防 ・リアクションペーパー 活用(講義の 振り返り、疑問など)	高齢者の 健康維持・増進のための 方法についてテキストや 参考書で 調べる。	授業内容を 整理し、要点をまとめる。

講義名	4020036000 高齢者看護援助論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	溝江　弓恵		

学習目標(到達目標)

1. 加齢変化や疾患が日常生活に与える影響を理解し，生活機能を支える看護について説明できる。
2. 高齢者に起こりやすい症候・疾患・障害の看護，認知症高齢者の看護，薬物療法・入院治療・手術療法・リハビリテーションを受ける高齢者の看護について説明できる。
3. 高齢者の持てる力(強み)に着目し，目標志向型思考で高齢者事例の看護過程を展開できる。

授業概要(教育目的)

加齢変化や疾患が日常生活に与える影響を理解し，高齢者の生活機能を整える看護を学ぶ。また高齢者に起こりやすい症候・疾患・障害の看護，認知症高齢者の看護，薬物療法・入院治療・手術療法・リハビリテーションを受ける高齢者の看護を学ぶ。そして，老年看護過程の特徴を理解し，その人らしい生活を支える看護について看護過程を展開しながら学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

僻地や医療過疎地など地域特性の理解のもと，地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけることに関連する。

評価方法

定期試験，小テスト，課題レポート，提出物などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題レポートは次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックし，今後の学習活動に活用可能なものは返却する。
小テストはWeb Class活用して実施し，採点結果を表示する。

参考文献

1. 奥宮暁子編著『ウェルネスの視点い基づく老年看護過程：生活機能に焦点を当てたアセスメント』，医歯薬出版，2024.

講義時使用テキスト

1. 堀内ふき他，ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害，メディア出版，2025.
2. 堀内ふき他，ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践，メディア出版，2025.

資格との関連

看護師国家試験受験資格に関連する。

学生へのメッセージ

既存の学習内容を活用することが求められるため，学習の見直しを行ってください。また，高齢者に関連するニュースや社会情勢に目を向ける等して，高齢者に関心を持ち学習を進めてください。演習やグループワークが多いため，講義は休まず出席することを望みます。

実務との関連

医療機関や介護施設における看護師の実務経験をもとに高齢者看護について話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	食生活を支える看護(食事，摂食嚥下障害，低栄養)	テキストの該当箇所を通読し，論点を整理しておく。	テキスト・参考文献の該当箇所を読む。 授業の内容を整理し，配布資料やノートを見直す。
2	排泄を支える看護(排泄，尿失禁，排便障害)	テキストの該当箇所を通読し，論点を整理しておく。	テキスト・参考文献の該当箇所を読む。 授業の内容を整理し，配布資料やノートを見直す。
3	清潔・衣生活を 支える看護 皮膚障害と看護(老人性皮膚掻痒症，褥瘡，スキンテア)	テキストの該当箇所を通読し，論点を整理しておく。	テキスト・参考文献の該当箇所を読む。 授業の内容を整理し，配布資料やノートを見直す。
4	活動と休息を 支える看護(活動と休息，睡眠障害)	テキストの該当箇所を通読し，論点を整理しておく。	テキスト・参考文献の該当箇所を読む。 授業の内容を整理し，配布資料やノートを見直す。
5	歩行・移動を支える看護(歩行・移動，転倒)	テキストの該当箇所を通読し，論点を整理しておく。	テキスト・参考文献の該当箇所を読む。 授業の内容を整理し，配布資料やノートを見直す。
6	視覚・聴覚障害と看護(視覚障害，聴覚障害) 高齢者に多い症状のアセスメント：痛み，かゆみ	テキストの該当箇所を通読し，論点を整理しておく。	テキスト・参考文献の該当箇所を読む。 授業の内容を整理し，配布資料やノートを見直す。
7	高齢者の生活機能を支える看護(QW：生活機能のアセスメント)	演習要項を 読む。 テキスト・参考文献の該当箇所を 通読し，論点を整理しておく。	課題(アセスメントシート)を提出できるよう記載する。 テキスト・参考文献の該当箇所を 読む。
8	高齢者に起こりやすい症状のアセスメント：脱水，熱中症	課題(アセスメントシート)を 提出できるように見直す。 テキストの該当箇所を通読し，論点を整理しておく。	テキスト・参考文献の該当箇所を読む。 授業の内容を整理し，配布資料やノートを見直す。
9	精神・神経機能障害と看護(うつ，パーキンソン病，せん妄)	テキストの該当箇所を通読し，論点を整理しておく。	テキスト・参考文献の該当箇所を読む。 授業の内容を整理し，配布資料やノートを見直す。
10	呼吸・循環機能障害と看護(肺炎，心不全)	テキストの該当箇所を通読し，論点を整理しておく。	テキスト・参考文献の該当箇所を読む。 授業の内容を整理し，配布資料やノートを見直す。
11	感染症の看護(ノロウイルス感染症，尿路感染症，疥癬)	テキストの該当箇所を通読し，論点を整理しておく。	テキスト・参考文献の該当箇所を読む。 授業の内容を整理し，配布資料やノートを見直す。
12	糖尿病の高齢患者の看護(腎不全の看護を含む)	テキストの該当箇所を通読し，論点を整理しておく。	テキスト・参考文献の該当箇所を読む。 授業の内容を整理し，配布資料やノートを見直す。
13	認知症高齢者の看護①認知症の人の理解	テキストの該当箇所を通読し，論点を整理しておく。	テキスト・参考文献の該当箇所を読む。 授業の内容を整理し，配布資料やノートを見直す。
14	認知症高齢者の看護②認知症高齢者とのコミュニケーションの基本	テキストの該当箇所を通読し，論点を整理しておく。	テキスト・参考文献の該当箇所を読む。 授業の内容を整理し，配布資料やノートを見直す。
15	認知症高齢者の看護③認知症への看護実践，演習オリエンテーション(GW)	テキストの該当箇所を通読し，論点を整理しておく。	テキスト・参考文献の該当箇所を読む。 授業の内容を整理し，配布資料やノートを見直す。
16	薬物療法を受ける高齢者の看護	テキストの該当箇所を通読し，論点を整理しておく。	テキスト・参考文献の該当箇所を読む。 授業の内容を整理し，配布資料やノートを見直す。
17	演習：認知症ロールプレイング①GW	テキストの該当箇所を通読し，論点を整理しておく。 演習要項を 読む。 発表できるように準備する。	テキスト・参考文献の該当箇所を読む。 課題レポートを 作成する。
18	演習：認知症ロールプレイング②GW	テキストの該当箇所を通読し，論点を整理しておく。 演習要項を 読む。 発表できるように準備する。	テキスト・参考文献の該当箇所を読む。 課題レポートを 作成する。
19	大腿骨頸部骨折の 高齢患者の 看護①入院治療を 受ける高齢者の 看護，手術療法における看護(術後せん 妄を 含む)	テキストの該当箇所を通読し，論点を整理しておく。	テキスト・参考文献の該当箇所を読む。 授業の内容を整理し，配布資料やノートを見直す。
20	大腿骨頸部骨折の 高齢患者の 看護②リハビリテーションを受ける高齢者の 看護，高齢患者の退院支援	テキストの該当箇所を通読し，論点を整理しておく。	テキスト・参考文献の該当箇所を読む。 授業の内容を整理し，配布資料やノートを見直す。
21	演習：看護過程①オリエンテーション 老年看護過程の特徴(GW：ノート・テーキング・ペア)	テキスト該当箇所・老年看護過程演習要項・配布資料を 読む。 事前課題を 提出できるようにする。	テキスト該当箇所・老年看護過程演習要項・配布資料を 読む。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020037000 高齢者看護学実習Ⅰ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	3・4
対象学科	看護学科			担当教員	切明　美保子		

学習目標(到達目標)

1. 介護老人保健施設・介護老人福祉施設及び関連施設の概要を説明できる。
2. 施設における看護の役割と多職種の連携の重要性を説明できる。
3. 施設を利用している高齢者の加齢の変化に応じたコミュニケーションがとれる。
4. 施設で生活している高齢者の特徴について説明できる。
5. 施設で生活している高齢者の健康と生活機能の自立を高める支援のあり方を理解する。

授業概要(教育目的)

高齢者の発達課題および心身の特性、健康レベルの多様性について理解し、慢性疾患や障害をもつ高齢者の健康と生活機能の自立を支援するための援助方法を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

へき地や医療過疎地など地域特性の理解のもと、地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

実習評価表にもとづいて評価する。

課題に対するフィードバック

面談又はコメントでフィードバックする。

参考文献

適宜紹介する。

講義時使用テキスト

これまで授業で使用したテキスト、参考文献、資料の全て。
適宜紹介する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

看護職として病院や高齢者施設へ勤務。実務経験をもとに高齢者の理解について話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	実習期間:1週間 実習時期:3年次後期 実習場所:特別養護老人ホーム又は介護老人保健施設及び関連事業所	実習要項に沿って高齢者看護学概論や高齢者看護援助論の学習内容を復習する。 事前課題レポートを作成する。	実習内容を振り返り、不明な点は良く調べる。課題レポートを作成する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020037001 高齢者生活支援看護実習						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	実習	対象年次	3・4
対象学科	看護学科			担当教員	切明　美保子		

学習目標(到達目標)

介護老人福祉施設実習
1. 介護老人福祉施設の役割や機能を説明できる。
2. 施設における看護職の役割と多職種の連携の重要性を説明できる。
3. 施設を利用している高齢者の加齢の変化に応じたコミュニケーションがとれる。
4. 施設で生活している高齢者の健康と生活機能の自立を高める支援方法を説明できる。
5. 学習者として望ましい態度で実習できる。

介護老人保健施設実習
1. 利用者とのコミュニケーションを通して、自己のかかわり方の特徴を捉えることができる。
2. 介護老人保健施設における看護師の役割を理解するとともに、各職種の役割を理解できる。
3. 老化や病的変化を理解し、生活機能のアセスメントができる。
4. 日常生活上の困難状況に合わせた援助を実施できる。
5. 高齢者看護における倫理的課題について理解を深めることができる。
6. 臨地実習を通して、高齢者看護における今後の課題を見出すことができる。
7. 学習者として望ましい態度で実習できる。

授業概要(教育目的)

高齢者の心身の特性、健康レベルの多様性を理解する。慢性的な疾患や障害を抱えながら、その人らしい生活を継続していくための支援について、実際の関わりを通して学ぶ。また、高齢者の療養生活を支える各種施設や関連職種との連携、看護実践で生じる倫理的課題における看護の役割について考える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

へき地や医療過疎地など地域特性の理解のもと、地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

実習評価表に基づいて評価する。

課題に対するフィードバック

面談またはコメントでフィードバックする。
実習中はカンファレンスを行い、実習目標にそって振り返りを行う。

参考文献

適宜紹介する。

講義時使用テキスト

これまでの授業で使用したテキスト、参考文献、資料のすべて。

資格との関連

看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

学生へのメッセージ

実務との関連

看護師として総合病院や福祉施設に勤務。高齢者看護について理解が深まるよう助言する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	実習期間：3週間 実習内容：利用者を受け持ち、看護過程を展開する 実習場所：近隣の介護老人福祉施設及び介護老人保健施設 ※適宜グループワーク、カンファレンスなどを行い、学びを共有する。	実習要項に沿って、高齢者看護学概論や高齢者看護援助論の学習内容を復習し、論点を整理する。	実習で学んだ内容を整理し、課題レポートを作成する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020038000 高齢者看護学実習Ⅱ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	3・4
対象学科	看護学科			担当教員	切明　美保子		

学習目標(到達目標)

1. 高齢者の加齢に伴う変化と健康障害との関連について理解し、援助につなげることができる。
2. 高齢者の残存機能を活用した日常生活の自立への援助や予測される二次的障害や合併症予防のための援助を実施できる。
3. 高齢者や家族の健康問題を解決するためのソーシャルサポートシステムが理解できる。
4. 高齢者ケアサービスにおける医療施設の役割と課題を理解する。

授業概要(教育目的)

高齢者の生活を支える保健医療福祉の施設の役割・機能について理解し、多職種との連携・協働のあり方とその中における看護の役割・責任及び専門性について学習する。高齢者の特徴を理解し、日常生活の自立への援助および二次障害、合併症の予防、その人らしい生活が送れるための援助について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

僻地や医療過疎地など地域特性の理解のもと、地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

実習評価表にもとづいて評価する。

課題に対するフィードバック

課題について、コメント又は面談にてフィードバックする。

参考文献

適宜紹介する。

講義時使用テキスト

これまで授業で使用したテキスト、参考文献、資料の全て。
適宜必要な場合には紹介する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

看護師としての実務経験をもとに高齢者の理解について話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	実習期間:3週間 実習期間:3年次秋学期～4年次春学期 実習場所:青森労災病院 実習方法:入院している高齢者を原則として1名受け持ち、看護を実践する。 ※詳細は実習要項に記す。	実習要項に沿って高齢者看護学概論や高齢者看護援助論の学習内容を復習する。 課題レポートを作成する。	毎日、実施した内容を整理し、実習記録にまとめ、振り返りをする。不明な点は良く調べる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020039000 小児看護学概論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	田中　克枝		

学習目標(到達目標)

1. 子どもの成長・発達に関する知識を習得し、その特徴について説明できる。
2. 子どもの家族の関係や望ましい成育環境、子どもを取り巻く社会環境について説明できる。
3. 小児看護の基本となる概念と援助について説明できる。
4. 健康障害をもつ子どもと家族の看護について説明できる。

授業概要(教育目的)

小児の健康について生命の進化および地球環境における生態学的健康の観点から捉え、小児の権利を基盤に小児看護の基本概念や役割について教授する。また小児の健全な成長発達段階に応じた看護の理解を通して、小児の健やかな発育に必要な親子関係や養育環境、母子保健の動向について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

専門科目(必修)であり、本科目と「小児看護援助論」は小児看護学実習するための履修科目であり、単位を修得する必要がある。

評価方法

筆記試験、課題レポート等により総合的に判断する。

課題に対するフィードバック

試験・レポートの結果等を知りたい学生は個別に開示する

参考文献

授業テーマ毎に参考文献を示す

講義時使用テキスト

1)中野綾美編:ナーシング・グラフィカ　小児看護学①小児の発達と看護, メディカ出版
2)奈良間美保他:系統看護学講座専門分野Ⅱ　小児臨床看護各論 小児看護学[2], 医学書院

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

担当教員は看護師として勤務経験ある。実務経験をもとに講義・演習を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	小児看護の対象と目的、子どもの倫理 ・理解度の確認(発問) ・リアクションペーパー(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等)の使用	テキストの該当箇所を読む	授業内容を整理し、テキストや配布資料を読み直す
2	成長・発達① ・理解度の確認(発問) ・リアクションペーパー(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等)の使用	テキストの該当箇所を読む	授業内容を整理し、テキストや配布資料を読み直す
3	成長・発達②、発達評価 ・理解度の確認(発問) ・リアクションペーパー(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等)の使用	テキストの該当箇所を読む	授業内容を整理し、テキストや配布資料を読み直す 課題レポートを作成する
4	子どもの日常生活援助① ー子どもの栄養ー ・理解度の確認(発問) ・リアクションペーパー(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等)の使用	テキストの該当箇所を読む	授業内容を整理し、テキストや配布資料を読み直す
5	子どもの日常生活援助② ー子どもの排泄、清潔ー ・理解度の確認(発問) ・リアクションペーパー(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等)の使用	テキストの該当箇所を読む	授業内容を整理し、テキストや配布資料を読み直す
6	子どもの日常生活援助③ ー活動と休息、安全と危険の予防ー ・理解度の確認(発問) ・リアクションペーパー(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等)の使用	テキストの該当箇所を読む	授業内容を整理し、テキストや配布資料を読み直す
7	子どもの病気・入院が及ぼす影響 ・理解度の確認(発問) ・リアクションペーパー(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等)の使用	テキストの該当箇所を読む	授業内容を整理し、テキストや配布資料を読み直す
8	子どもの対症看護① ー発熱、脱水、痙攣ー ・理解度の確認(発問) ・リアクションペーパー(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等)の使用	テキストの該当箇所を読む	授業内容を整理し、テキストや配布資料を読み直す
9	子どもの対症看護② ー嘔吐、下痢、呼吸困難ー ・理解度の確認(発問) ・リアクションペーパー(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等)の使用	テキストの該当箇所を読む	授業内容を整理し、テキストや配布資料を読み直す
10	子どもの健康障害と看護① ー活動制限と主な疾患看護(ネフローゼ症候群)ー ・理解度の確認(発問) ・リアクションペーパー(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等)の使用	テキストの該当箇所を読む	授業内容を整理し、テキストや配布資料を読み直す
11	子どもの健康障害と看護③ ー隔離と主な疾患看護(感染症、肺炎)ー ・理解度の確認(発問) ・リアクションペーパー(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等)の使用	テキストの該当箇所を読む	授業内容を整理し、テキストや配布資料を読み直す
12	プレパレーションの講義、演習GWのオリエンテーション	テキストの該当箇所を読む	グループワークの疾患、発達に応じた理解度などを復習する
13	プレパレーション演習②:GW 5つの事例をもとづき、プレパレーションを考える	テキストの該当箇所を読む	グループでの課題をそれぞれが行う
14	プレパレーション演習③:GW	テキストの該当箇所を読む	グループ発表するための準備を行う
15	プレパレーションのGWの発表 小児看護学概論のまとめ	テキストの該当箇所を読む	小児看護学概論の総復習を行う

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020040000 小児看護援助論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	看護学科			担当教員	田中　克枝		

学習目標(到達目標)

1. 成長発達過程にある小児の疾患やその療養に関する知識を習得する。
2. 健康問題をもつ小児とその家族のアセスメントと援助方法について説明できる。
3. 小児の入院による影響や環境の変化をアセスメントすることができる。
4. 小児とその家族の看護に必要な小児看護技術を習得する。

授業概要(教育目的)

成長過程にある小児の特徴と小児疾患についての知識を習得し、健康課題をもつ小児と家族のアセスメントと援助方法を理解することができる。また、小児の入院による影響や環境の変化をイメージ化し、小児とその家族の看護に必要な小児看護技術の基礎となるものを習得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

この科目は必修科目であり卒業認定・学位授与に関わります。また、国家試験の小児看護に関連する科目なので、わからない箇所・不明な点は教員に質問したり、自ら調べ理解するように努力して下さい。

評価方法

事前課題やレポート提出、筆記試験の結果にて総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験(レポート、期末試験)の成績を知りたい学生には個別で開示する

参考文献

授業時、授業内容に沿った参考文献を示す

講義時使用テキスト

1. 奈良間美保他：系統看護学講座専門Ⅱ　小児臨床看護各論　小児看護学[2]，医学書院.
2. 中野綾美編：ナーシング・グラフィカ　小児看護学①小児の発達と看護，メディカ出版.

資格との関連

看護師国家資格

学生へのメッセージ

小児看護学概論で学んだ内容を復習して、小児看護援助論の講義に望んで下さい。
配布したプリントは実習でも使用するので、きちんとファイリングして保管して下さい。

実務との関連

田中(克)、佐々木は看護師としての実務経験があり、田中完は小児科医として現在も勤務し、それに基づき講義・演習を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	小児科の概略、最近の小児疾患の傾向、成長と発達など	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
2	代表的な小児疾患:感染症と予防接種	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
3	代表的な小児疾患:アレルギー性疾患（アナフィラキシー、気管支喘息など）	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
4	代表的な小児疾患:神経疾患（熱性けいれん、てんかん、髄膜炎・脳炎・脳症など）、筋肉疾患（筋ジストロフィー）	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
5	代表的な小児疾患:染色体異常、先天性心疾患など	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
6	代表的な小児疾患:小児の死因、悪性腫瘍（白血病）、その他	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
7	小児・家族の 健康に関する問題 ・グループワーク ・リアクションペーパーの 使用 （講義についての 振り返り、疑問等）	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
8	子ども 虐待と 支援 ・理解度確認(発問) ・リアクションペーパーの 使用 （講義についての 振り返り、質問等）	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
9	子どもと 社会 ー 子どもに 関する法規、制度ー ・理解度確認(発問) ・リアクションペーパーの 使用(講義についての 振り返り、質問等)	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
10	子どもの 健康診断と 育児支援 ・理解度確認(発問) ・リアクションペーパーの 使用(講義についての 振り返り、質問等)	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
11	予防接種 ・理解度確認(発問) ・リアクションペーパーの 使用(講義についての 振り返り、質問等)	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
12	慢性疾患患児の 援助①　ー 糖尿病、アレルギー 性疾患ー ・理解度確認(発問) ・リアクションペーパーの 使用(講義についての 振り返り、質問等)	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
13	慢性疾患患児の 援助②　ー 腎疾患と 心疾患の 成育医療ー ・理解度確認(発問、ミニテスト) ・リアクションペーパーの 使用(講義についての 振り返り、質問等)	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
14	手術を 受ける 子どもの 看護①総論 ・理解度確認(発問) ・リアクションペーパーの 使用(講義についての 振り返り、質問等)	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
15	手術を 受ける 子どもの 看護②各論 ・理解度確認(発問) ・リアクションペーパーの 使用(講義についての 振り返り、質問等)	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
16	ハイリスク児の 看護 ・理解度確認(発問) ・リアクションペーパーの 使用(講義についての 振り返り、質問等)	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
17	先天性疾患の 看護　ダウン 症候群の 子どもの 関わり ・理解度確認(発問) ・リアクションペーパーの 使用(講義についての 振り返り、質問等)	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
18	悪性腫瘍をもつ 子どもの 看護 ー 急性リンパ性白血病ー ・理解度確認(発問) ・リアクションペーパーの 使用(講義の 振り返り、感想ななど)	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
19	看護過程のグループワーク①　ーオリエンテーションと演習ー	テキストの該当箇所を読む	グループメンバーで 事例について 話し合う
20	看護過程のグループワーク②	事例の疾患看護を調べる	グループメンバーで 話し合う 疾患の勉強を 行う
21	看護課程のグループワーク③	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
22	障がいをもつ 子どもの 看護①　ー 発達障害児の 関わりー	小児看護専門看護師の 役割をテキスト等を 読み、調べる	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
23	障がいをもつ 子どもの 看護②　ー 肢体不自由児、重症心身障害児の 関わりー ・リアクションペーパーの 使用 （講義についての 振り返り、質問等）	テキストの該当箇所を読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読み 直す
24	看護過程のグループワーク④　事例によるプレパレーション 作成	事例のプレパレーションの 内容グループで 話しあう	発表できるように資料作成作業を行う
25	看護過程のグループ 発表会①	グループで 発表できるように準備する	グループ 以外の 事例看護の 発表を 聞いて、学んだことを 調べなおす
26	看護過程のグループ 発表会②	グループで 発表できるように準備する	グループ 以外の 事例看護の 発表を 聞いて、学んだことを 調べなおす
27	子どもの 看護技術(講義) ・理解度確認(発問) ・リアクションペーパーの 使用 （講義についての 振り返り、質問等）	前回の 授業のテキスト、配布資料を 読み 返す	看護技術の 練習を 行う
28	子どもの 看護技術(学内演習)①	前回の 授業のテキスト、配布資料を 読み 返す	看護技術を 復習し、身につける。
29	子どもの 看護技術(学内演習)②	今までの 学んだものからわからないもの、憶えるべきものを 整理する	看護技術を 復習し、身につける。課題を 行う
30	小児看護援助論のまとめ 実習前の 看護演習	今までの 学んだものからわからないもの、憶えるべきものを 整理する	実習の 準備、今までの 講義内容を 整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020041000 小児看護学実習Ⅰ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	3・4
対象学科	看護学科			担当教員	佐々木　真湖		

学習目標(到達目標)

1. 子どもの活動の場を通じ、成長発達段階の特徴と個別性を理解できる。
2. 基本的生活習慣の自立に基づいた日常生活援助について理解できる。
3. 子どもを一人の人として尊重してかかわり、相互の信頼関係の必要性を理解することができる。
4. 子どもの健康管理、安全管理の実際を理解できる。

授業概要(教育目的)

子どもの成長・発達を促進するための支援や、子どもの人権を擁護する具体的な方法について考え、保育活動および幼児教育の場を通して観察し、成長・発達段階の特徴を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

僻地や医療過疎地など地域特性の理解のもと、地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

実習評価表にもとづいて評価する。

課題に対するフィードバック

1. 実習目標に沿って、学んだことを毎日のカンファレンスで発表し、指導者や教員よりアドバイスを受ける。
2. 実習記録を指導者が確認し、子どもの成長発達段階に合わせた関わり方について、コメントをもらう。
3. 小児看護学実習Ⅱの病院実習においても、成長発達シートを継続して活用し、内容を充実させる。

講義時使用テキスト

特に指定しない

参考文献

・筒井真優美監修:パーフェクト臨床実習ガイド小児看護　第2版、照林社、2018.
・金子龍太郎・吾田富士子監修:保育に役立つ！子どもの発達がわかる本、ナツメ社、2019.
・河原紀子監修・執筆:0歳～6歳子どもの発達と保育の本、学研教育みらい、2021.

資格との関連

看護師国家試験受験資格

学生へのメッセージ

実務との関連

大学病院での小児病棟の看護師としての実務経験を有し、小児看護に関わる実質的な経験に基づき授業を展開する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	子どもの成長・発達を促進するための支援や、子どもの人権を擁護する具体的な方法についての実習 実習内容:実習要項にて提示する。 実習時期(期間):一週間　3年次後期～4年次前期 実習場所:市内幼稚園　　2か所 市内認定こども園　3か所	子どもの成長発達シートを作成する。各実習施設の概要について調べる。	子どもの活動の場を通して観察したことを、テキストに沿って成長発達段階を確認し評価し記録する。子どもの生活環境、子どもの反応や様子・教諭との関わりから見学・実施できたことを記録し、実習目標に沿って整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020042000 小児看護学実習Ⅱ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	3・4
対象学科	看護学科			担当教員	佐々木　真湖		

学習目標(到達目標)

1. 子どもの成長発達について対象を通じ理解できる。
2. 疾病や障害をもつ子どもとその家族に及ぼす影響について理解を深め、必要な情報を収集し、分析し、看護過程を展開できる。
3. 成長・発達段階や健康レベルに応じた、その小児に適した入院環境の調整や日常生活の援助を安全に実施できる。
4. 小児看護の目的と機能について理解し、子どもと家族の看護に関する倫理観を養うことができる。
5. 子どもを取り巻く環境を認識し、外来など関連する多職種との連携や協働することの重要性について理解できる。

授業概要(教育目的)

子どもとその家族の成長・発達段階や健康レベルに応じた実践場面を通じ、健康の保持、増進、回復を目指した小児看護の役割や具体的な看護支援を理解し、子どもを取り巻く社会や入院環境による影響について看護過程を展開しながら主体的に学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

僻地や医療過疎地など地域特性の理解のもと、地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

実習評価表にもとづいて評価する。

課題に対するフィードバック

1. 日々の実習計画は教員と指導者が確認し指導・助言を行う。
2. 看護過程は、教員が確認し、指導・助言を行う。
3. 成長発達シートや自主学習ファイルは、実習前・後に教員が確認する。
4. 毎日の実習の学びは、カンファレンスでグループ内で共有され、学生同士のコメントや教員や指導者からのアドバイスがある。

講義時使用テキスト

特に指定しない

参考文献

・筒井真優美監修：パーフェクト臨床実習ガイド小児看護　第2版、照林社、2018.
・桑野タイ子・本間昭子編・新看護観察のキーポイントシリーズ「小児Ⅰ」「小児Ⅱ」、中央法規
・浅野みどり・杉浦太一・大村知子編集：発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図　第4版、医学書院、2021.
・山口桂子・柴邦代・服部淳子編集：エビデンスに基づく小児看護ケア関連図、中央法規、2018.
・医学情報科学研究所編集：病気が見えるvol.15小児科、メディックメディア、2022.

資格との関連

看護師国家試験受験資格

学生へのメッセージ

実務との関連

大学病院での小児病棟の看護師としての実務経験があり、小児看護や小児保健および小児医療の実際について臨地実習指導者と協力し教育する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	子どもやその家族の成長発達や健康レベルに応じた小児看護の実践と看護過程の展開を目的とする病院実習 実習時期：3年次後期～4年次前期 実習期間：一週間 実習場所：八戸市立市民病院 実習内容：実習要項に提示する。	事前課題に基づき、子どもの成長発達シート、主な疾患や症状、小児看護技術などに関する自主学習ファイルを作成する。	受け持ち患児の疾患・症状・検査・看護ケアなどに関する学習、看護過程の展開を行う。

講義名	4020043000 母性看護学概論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	坂本　保子		

学習目標(到達目標)

1. 母性に関する概念を理解し、母性についての自分の考えを述べる。
2. 母性看護の対象の特徴を説明できる。
3. 母性を取り巻く社会の状況と問題について説明できる。
4. ライフサイクル各期の特徴と看護について説明できる。
5. 母子を取り巻く親子・家族関係について説明できる。
6. 母性看護に関する法律や施策について説明できる。

授業概要(教育目的)

母性看護、母性保健の対象や歴史、現代社会における母性の健康をめぐる課題を理解し、
女性のライフサイクルに応じた女性の健康維持と健康課題について学ぶ。検査・治療に伴う羞恥心への配慮や、臓器や女性性の喪失に伴う心理的・社会的問題への対応、患者・家族への指導、主な症状に対する看護や代表的な手術療法に関する看護を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療過疎地やへき地など地域特性を理解し、地域の看護活動に積極的に取り組むことができる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

小テスト・定期試験、課題レポートにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生は個別に開示す。

参考文献

講義時使用テキスト

中込さと子編　ナーシンググラフィカ　母性看護学①「概論・リプロダクティブヘルスと看護」メディカ出版

資格との関連

看護師国家試験受験資格

学生へのメッセージ

すべての人が経験している生命誕生、それにまつわる様々な事象を知り視野を広げて欲しい。
自分のこと、将来のことを考え看護の役割へと発展させる。
母性看護にまつわる社会の現状を知り、問題意識を高く持つことを期待する。

無断欠席、遅刻をしないこと。

実務との関連

看護師としての臨床経験から、講義をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	母性看護とは、生命の誕生	テキストの該当部分を通読し要点を整理しておく	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと
2	母性看護の基盤となる概念	テキストの該当部分を通読し要点を整理しておく	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと
3	リプロダクティブヘルスに関する概念	テキストの該当部分を通読し要点を整理しておく	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと
4	リプロダクティブヘルスに関する動向	テキストの該当部分を通読し要点を整理しておく	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと
5	リプロダクティブヘルスに関する倫理	テキストの該当部分を通読し要点を整理しておく	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと
6	リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援	テキストの該当部分を通読し要点を整理しておく	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと
7	生殖に関する生理	テキストの該当部分を通読し要点を整理しておく	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと
8	不妊症	テキストの該当部分を通読し要点を整理しておく	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと
9	加齢とホルモンの変化・生殖における健康問題と看護	テキストの該当部分を通読し要点を整理しておく	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと
10	母性看護に関するGW(グループワーク)	テキストの該当部分を通読し要点を整理しておく	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと
11	GW発表(結婚と離婚・家族計画・人工妊娠中絶)	テキストの該当部分を通読し要点を整理しておく	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと
12	GW発表(性感染症・アルコール・喫煙)	テキストの該当部分を通読し要点を整理しておく	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと
13	GW発表(DV・児童虐待)	テキストの該当部分を通読し要点を整理しておく	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと
14	ライフステージにおける健康問題	テキストの該当部分を通読し要点を整理しておく	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと
15	母性看護の課題と展望	テキストの該当部分を通読し要点を整理しておく	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020044000 母性看護援助論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	看護学科			担当教員	坂本　保子		

学習目標(到達目標)

1. 正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護について説明できる。
2. ハイリスクおよび正常を逸脱した妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の周産期の看護を説明できる。
3. 周産期各期の看護に必要な技術を習得することができる。
4. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護過程を通じて根拠のある看護の展開ができる。

授業概要(教育目的)

妊娠期・分娩期・産褥期・および新生児期の母子とその家族に対する看護活動を実践するための基礎知識を学び、個別性を重視した看護および保健指導を行う基盤とする。さらに母性看護における基本的援助技術の理論と方法を習得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療過疎地やへき地など地域特性を理解し、地域の看護活動に積極的に取り組むことができる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

定期試験、課題レポーと・講義態度を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、小テスト)の成績は希望者に開示する。

参考文献

・北川真理子、谷口千絵著「看護実践のための根拠がわかる母性看護技術」 メディカルフレンド社
・中村幸代編集「根拠がわかる母性看護過程」 南江堂
・井上裕美他「病気がみえるVOL10産科」 メディックメデア
・仁志田博「新生児学入門」 医学書院
・太田操編著「ウエルネスの視点にもとづく母性看護過程」医歯薬出版株式会社

講義時使用テキスト

1.小林康江編　ナーシンググラフィカ　母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版
2.荒木奈緒　　ナーシンググラフィカ　母性看護学③ 母性看護技術 メディカ出版

資格との関連

看護師国家試験受験資格

学生へのメッセージ

講義は遅刻や無断欠席せず受講すること。講義中無断でスマホなどを視聴していた場合で注意を促しても続ける場合は、携帯などを没収(講義後返却)することや講義態度の評価点数として減点することがある。
講義態度の欠席した場合はの資料は必ず次の講義前に受け取りに来ること。予習・復習が大事である。

実務との関連

産科領域における臨床経験から講義を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	妊婦とは・妊娠の経過	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
2	妊婦と胎児のアセスメントと援助	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
3	出産を控えた妊婦と家族の心理・社会的変化と看護	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
4	妊娠期の健康維持のためのセルフマネジメント、出産と子育てのための準備のための看護	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
5	分娩とは、分娩の経過	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
6	正常分娩の経過とアセスメントと援助	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
7	分娩第1～3期のアセスメントと援助	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
8	分娩の異常、産科処置、産科手術	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
9	産褥期のヘルスアセスメント 復古及びマイナートラベル	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
10	母乳育児・育児技術の習得	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
11	母子の愛着・絆形成	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
12	家庭・社会への影響	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
13	保健指導・個人指導及び集団指導	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
14	産褥期の以上の看護	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
15	新生児とは	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
16	新生児の子宮外生活適応のアセスメントと援助	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
17	新生児の発達状況のアセスメントと援助	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
18	新生児の異常のアセスメントと援助	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
19	産科基礎看護技術演習(沐浴)	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。新生児に関する正常値などを予習してくる。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。演習前には技術に関する映像および参考書を演習前に確認し留意点を覚えること。
20	産科基礎看護技術演習(沐浴)	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。新生児に関する正常値などを予習してくる。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。演習前には技術に関する映像および参考書を演習前に確認し留意点を覚えること。
21	産科基礎看護技術演習(妊婦診察・産婦)	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。演習前には技術に関する映像および参考書を演習前に確認し留意点を覚えること。
22	産科基礎看護技術演習(褥婦・新生児)	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。演習前には技術に関する映像および参考書を演習前に確認し留意点を覚えること。
23	母性看護の課題・周産期システム・災害時支援	テキスト・参考書の該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
24	母性看護における他職種との連携 ーゲストティーチャーによるー	テキスト・参考書の該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
25	看護過程(妊婦)	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
26	看護過程(異常妊婦)	テキストの該当箇所を通読し要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。
27	看護過程(産婦)	テキストの該当箇所を復習して産婦の要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、事例の分析を完成させる。
28	看護過程(新生児)	テキストの該当箇所を復習して新生児の要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、不明な点は調べておくこと。事例の分析を完成させる。
29	看護過程(褥婦)	テキストの該当箇所を復習し褥婦の要点を整理しておく。	授業内容を振り返り要点を整理し、事例の分析を完成させる。
30	看護過程(統合)・まとめ	前回提示した事例の分析に必要な要点を復習しておく。	事例の分析を統合し完成させる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020045000 母性看護学実習						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	3・4
対象学科	看護学科			担当教員	坂本　保子		

学習目標(到達目標)

1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴を説明することができる。
2. 妊婦・産婦・褥婦および新生児に必要な看護技術ができる。
3. 産褥期における母子の看護過程を展開できる。
4. 妊婦・褥婦・新生児の経過に応じた保健指導の方法を説明することができる。
5. 母子保健医療チームにおける看護師の役割を説明することができる。

授業概要(教育目的)

妊婦・産婦・褥婦、新生児およびその家族の特徴を理解し、看護過程をとおして対象者や家族の状態に応じた基本的な看護実践能力を養う。母子看護に関わる保健医療チームの中での看護師の役割を理解し、継続看護に必要な社会資源の活用について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

僻地や医療過疎地など地域特性の理解のもと、地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

実習評価表にもとづいて評価する。

課題に対するフィードバック

・小テストおよび課題レポートを評価して伝える
・実習目標に沿って、指導者や指導教員のアドバイスをもとに、カンファレンスを通して振り返りをする
・実習記録などは、不足な部分についてはコメントを書き、実習目標を意識づけるようにする

参考文献

ナーシンググラフィカ　母性看護の実践　母性看護学②
ナーシンググラフィカ　母性看護技術　母性看護学③
南江堂　中村幸代　　根拠がわかる母性看護過程

講義時使用テキスト

授業時使用したテキスト、参考文献、資料の全て。

資格との関連

看護師国家試験受験資格

学生へのメッセージ

予習や復習をして基礎知識を身につけてから実習に臨んで欲しい。

実務との関連

母性領域の看護師の経験をふまえて教授する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1．実習期間：2週間 2．実習時期：3年次後期～4年次前期 3．実習場所：八戸市立市民病院、八戸赤十　字病院、三沢市立三沢病院 4．実習方法：一組の母子を受け持ち看護過程を展開する。：詳細は実習要項に記す。	実習要綱に沿って母性看護学概論および母性看護援助論の学習内容を復習する	実習内容を振り返り小テストや国家試験関連問題を解くことで要点を整理する

講義名	4020046000 精神看護学概論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	木村　緑		

学習目標(到達目標)

1. 精神保健における社会の動向と看護職が担う機能と役割を説明できる。
2. こころの機能と構造を正しく理解するためのキーワードを正しく説明できる
3. ライフサイクルにおける人間の精神的健康問題について説明できる。

授業概要(教育目的)

精神看護学概論は、人間の成長発達過程および社会の動向と深く関係する領域である。精神障害に悩む人々に関する看護の知識・技術を学ぶとともに、ライフサイクルにおける人間の精神的健康問題について理解を深めることを学習目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療過疎地やへき地など地域特性を踏まえた精神看護について理解し、地域の看護活動に積極的に取り組むことができる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

定期試験及び課題レポートによる総合的評価

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する

参考文献

1. ナーシンググラフィカ　情緒発達と看護の基本　メディカ出版
2. 精神看護学Ⅰ　精神保健学　第5版　ヌーベルヒロカワ
3. 新体系看護学全書　精神看護学概論　精神保健　メヂカルフレンド社

講義時使用テキスト

1. 系統看護学講座　精神看護の基礎[1]　医学書院

資格との関連

看護師国家試験受験にあたって必修科目である

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	第1章　精神看護学で学ぶこと: 心のケアと現代社会・精神看護学とその課題	心のケアと現代社会 精神看護学とその課題に対応する箇所を読んでくる	配布資料と教科書を読んで復習する
2	第2章　精神保健の考え方: 精神の健康とは・心身の健康に及ぼすストレスの影響	精神の健康とは/心身の健康に及ぼすストレスの影響に対応する箇所を読んでくる	配布資料と教科書を読んで復習する
3	第2章　精神保健の考え方:心的外傷が精神の健康に及ぼす影響	精神保健の考え方 心的外傷が精神の健康に及ぼす影響に対応する箇所を読んでくる	配布資料と教科書を読んで復習する
4	第3章　心のはたらきと人格の形成: 心のはたらき(意識・感情・知能・心理的特性を図る検査)	第3章　心のはたらきと人格の形成 心のはたらき(意識・感情・知能・心理的特性を図る検査) に対応する箇所を読んでくる	配布資料と教科書を読んで復習する
5	第3章　心のはたらきと人格の形成:心のしくみと人格の発達	第3章　心のはたらきと人格の形成 心のしくみと人格の発達に対応する箇所を読んでる	配布資料と教科書を読んで復習する
6	第3章　心のはたらきと人格の形成: 無意識と精神分析・自我の構造と自我の発達段階	無意識と精神分析:フロイトの精神力動論および自我の構造と自我の発達段階に対応する箇所を読んでくる	配布資料と教科書を読んで復習する
7	第3章　心のはたらきと人格の形成:　防衛機制	防衛機制に対応する箇所を読んでくる	配布資料と教科書を読んで復習する
8	第5章　精神科疾患のあらわれ方: 症状とは何か、様々な精神症状	精神科疾患のあらわれ方 (症状とは何か、様々な精神症状)に対応する箇所を読んでくる	配布資料と教科書を読んで復習する
9	第5章　精神科疾患のあらわれ方: 精神障害の診断と分類(気分障害)	精神科疾患のあらわれ方 (精神障害の診断と分類: 気分障害に対応する箇所を読んでくる	配布資料と教科書を読んで復習する
10	第5章　精神科疾患のあらわれ方: 精神障害の診断と分類　(アルコール症・神経症性障害)	精神疾患の現れ方:アルコール症・神経症性障害に対応する箇所を読んでくる	配布資料と教科書を読んで復習する
11	第5章　精神科疾患のあらわれ方: 精神障害の診断と分類(統合失調症)	精神疾患のあらわれ方:統合失調症に対応する箇所を読んでくる	配布資料と教科書を読んで復習する
12	第6章　精神科での治療: 精神療法・薬物療法・電気けいれん療法	精神科での治療(精神療法・薬物療法・電気けいれん療法)に対応する箇所を読んでくる	配布資料と教科書を読んで復習する
13	第6章　精神科での治療:薬物療法における有害反応	精神科での治療(薬物療法における有害反応)に対応する箇所を読んでくる	配布資料と教科書を読んで復習する
14	第7章　社会の中の精神障害: 精神障がいと治療の歴史・精神障がいに関連する法制度	精神障がいと治療の歴史・精神障がいに関連する法制度に対応する箇所を読んでくる	配布資料と教科書を読んで復習する
15	第7章　社会の中の精神障害: 精神科看護と法律・精神科領域で必要な法律と制度・法律、制度における課題・主要な精神保健医療福祉対策	精神科看護と法律・精神科領域で必要な法律と制度・法律、制度における課題・主要な精神保健医療福祉対策に対応する箇所を読んでくる	配布資料と教科書を読んで復習する

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020047000 精神看護援助論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	看護学科			担当教員	三浦　広美		

学習目標(到達目標)

1.精神医療における治療と看護の基礎的知識を理解し、看護計画を立案することができる。
2.精神看護に関連する法律および社会資源について理解し、支援方法を立案できる。

授業概要(教育目的)

精神保健上の問題のために生活や対人関係に困難を抱えている精神障がい者及び家族の理解に必要な知識や援助について学ぶ。疾病や障がいが生活へ及ぼす影響をとらえ、個別性に応じた看護援助やリハビリテーション、社会資源を活用した支援のあり方について学ぶことを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療過疎地やへき地など地域特性を理解し、地域の看護活動に積極的に取り組むことができる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

課題レポート、テストによる総合評価

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する

参考文献

必要に応じて授業時紹介する

講義時使用テキスト

1.医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①
2.医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ケアの人間関係① ・ケアの 前提や 原則を 学ぶ ・患者理解と自己理解について 学ぶ	ケアの前提と原則について教科書および紹介資料を読む	学びや考えをまとめる
2	ケアの人間関係② ・ケアの 方法や 技法について 学ぶ	ケアの方法について教科書および紹介資料を読む	受講後に学びや考えをまとめる
3	患者－看護師関係 ・患者－看護師関係で おこることを 学ぶ ・患者－看護師間で 生じる感情とその 対処について 学ぶ	患者－看護師関係について教科書および紹介資料を読む	患者－看護師間で生じる感情と対処についてまとめる
4	チームのダイナミクス ・病棟やチーム等のグループダイナミクスについて 理解し、カンファレンスの 方法を 学ぶ	グループダイナミクスについて 教科書および紹介資料を 読む	グループダイナミクスを 考慮したカンファレンスの 方法をまとめる
5	入院治療と看護① ・患者にとっての 入院治療の 意味を 理解し、入院目的とアセスメントについて 学ぶ ・精神科病棟の 特徴や 治療的環境について 学ぶ	入院治療と看護について紹介資料を読む	精神科病棟の特徴を踏まえた看護をまとめる
6	入院治療と看護② ・リスクマネージメントや行動制限から治療と安全のバランスについて 学ぶ	行動制限と治療について教科書および紹介資料を読む	リスクマネジメントの観点からの看護をまとめる
7	入院治療と看護⑧ ・精神科における緊急事態への 対処方法について 学ぶ	精神科における緊急事態について教科書および紹介資料を読む	精神科における緊急事態への対処方法についてまとめる
8	入院治療と看護④ ・精神科で 行われる治療、起こりやすい 合併症とその 看護について 学ぶ	精神科で 行われる治療、起こりやすい 合併症についてまとめる	精神科での治療と起こりやすい合併症への対応および看護についてまとめる
9	精神看護における 看護理論の 応用 ・精神看護における 看護診断および 看護理論の 活用を 学ぶ	看護学概論での学習を読み返しまとめる	精神看護における看護理論についてまとめる
10	プロセスレコード ・関係をアセスメントするためのプロセスレコードの 目的と 方法について 学び、プロセスレコードの 実際から 実践的な 理解を 深める	プロセスレコードに関する紹介資料・事例を 読む	プロセスレコードを 書き、自己理解について 考えをまとめる
11	看護における 感情労働と 看護師のメンタルヘルス ・精神看護場面に見られる 感情ワークについて 考える ・よい看護場面、難しい 看護場面の 対応から 感情処理のあり 方を 考える ・転移、バーンアウトなどよく経験されるメンタルヘルス 問題を 考える。危機的状況と 対処法について 考える	紹介資料を 読み、看護の 仕事と感情労働との 関係・看護師のメンタルヘルスに 関連する事柄を 調べる	看護場面の 効果的な 感情処理のあり方・看護師のメンタルヘルスを 保つ 方法についてまとめる
12	回復を 支援する① ・患者にとっての 回復・リカバリーとはなにか、その 意味を 理解し、精神障害をもつ 人々の 回復を 促し 支援する様々なアプローチを 学ぶ	回復を 支援することについて 教科書・紹介資料を 読む	リカバリーの 観点からの 看護をまとめる
13	回復を 支援する② ・治療の 場面における リカバリーと 看護の 視点（症例：アルコール 依存症における 看護）を 学ぶ	アルコール 依存症の 病態と 看護について まとめる	講義で 説明した疾患の 看護について まとめる
14	回復を 支援する③ ・治療の 場面における リカバリーと 看護の 視点（症例：アルコール 依存症のリカバリーに 向けた 精神療法）を 学ぶ	アルコール 依存症のリカバリーに 向けた 看護について まとめる	アルコール 依存症のリカバリーに 向けた 援助の 方法について まとめる
15	地域におけるケアと 支援① ・地域で 生活するための 原則及び 生活を 支える 制度について 学ぶ	地域生活を 支える 制度をまとめる	地域生活を 支える 原則についての 学びをまとめる
16	地域におけるケアと 支援② ・地域で 精神障害者を 支援するための 方法について 学ぶ	地域生活を 支える 方法をまとめる	地域生活を 支える 方法についての 学びをまとめる
17	精神看護の 展開：統合失調症① ・統合失調症の 病態、病気の 経過と 症状、検査および 薬物療法の 基礎的知識に 基づいた 看護について 学ぶ	統合失調症の 病態・病気の 経過と 症状・検査・薬物療法について まとめる	統合失調症の看護について まとめる
18	精神看護の 展開：統合失調症② ・統合失調症の 回復のプロセスに 沿った 看護について 学ぶ ・症状に 対する 看護について 学ぶ	統合失調症の回復のプロセスについて 教科書および紹介資料を 読む	統合失調症の 回復のプロセスに 沿った 看護及び 症状に 対する 看護について まとめる
19	精神看護の 展開：統合失調症③ ・事例を 基に 情報整理の 方法について 学ぶ	統合失調症の 事例を 読む	看護理論を 使った 情報整理の 方法を まとめる
20	精神看護の 展開：統合失調症④ ・情報整理からアセスメントの 実際について 学ぶ	統合失調症に関する資料を確認してくる	統合失調症の看護アセスメントを考える
21	精神看護の 展開：統合失調症⑥ ・アセスメントから 問題を 抽出し、具体策の 立案について 学ぶ	統合失調症に関する資料を確認してくる	統合失調症の看護過程を考える
22	生活障害と 看護 ・てんかん、知的能力障害／知的発達症、発達障害の 生活への 影響とその 看護を 学ぶ	てんかん、知的能力障害／ 知的発達症、発達障害の 病態について まとめる	講義で 説明した疾患の 看護について まとめる
23	精神看護の 展開：感情障害① ・情報整理からアセスメントの 実際について 学ぶ	感情障害の 病態・症状・検査・薬物療法について まとめる	感情障害の看護について まとめる
24	精神看護の 展開：感情障害② ・感情障害の 症状、検査や 薬物療法の 基礎的知識に 基づいた 看護について 学ぶ	感情障害の 事例を 読む	看護理論を 使った 情報整理の 方法を まとめる
25	精神看護の 展開：感情障害③ ・事例を 基に 情報整理の 方法について 学ぶ	感情障害に 関する資料を 確認してくる	感情障害の 看護アセスメントを 考える
26	精神看護の 展開：感情障害④ ・アセスメントから 問題を 抽出し、具体策の 立案について 学ぶ	感情障害に 関する資料を 確認してくる	感情障害の 看護過程を 考える
27	精神看護の 展開：感情障害⑥ ・感情障害患者の 看護計画について 学ぶ	感情障害の 看護計画に 関する資料を 確認してくる	感情障害の 看護過程について 学んだところを まとめる
28	精神看護の 展開：感情障害⑧ ・感情障害患者の 援助の 実際について 学ぶ	感情障害の 看護計画に 関する資料を 確認してくる	感情障害の 看護過程で 重要なところを 整理する
29	治療的コミュニケーション① ・精神看護におけるコミュニケーションについて 学ぶ	コミュニケーションについて 今まで 習ったことを まとめてくる	コミュニケーションで 重要な 事について まとめる
30	治療的コミュニケーション② ・精神看護におけるコミュニケーションについて 学ぶ（ロールプレイを 通して 学びを 深める）	精神障害者に 対するコミュニケーションの 具体的方法を 学ぶ	精神障害者に 対するコミュニケーションの 具体的方法について まとめる

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020048000 精神看護学実習						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	3・4
対象学科	看護学科			担当教員	三浦　広美		

学習目標(到達目標)

1. 精神に障がいを持つ人の理解ができ、環境への配慮について説明できる。
2. 精神的健康問題が及ぼす影響について理解し、セルフケア能力の向上に向けた必要な援助計画を立案できる。
3. 精神に障がいを持つ人との関わりを通して自己理解を深め、援助的関係に役立てることができる。
4. 精神に障がいを持つ人に現れている精神症状を把握し、治療経過における看護の役割について説明できる。
5. 精神に障がいを持つ人が地域で生活するうえで必要な支援の方法について説明できる。

授業概要(教育目的)

精神看護の特徴を総合的に理解し、リカバリーに向けてのセルフケア向上に必要な看護援助の技法を身につけることを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

僻地や医療過疎地など地域特性の理解のもと、地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

実習評価表にもとづいて評価する。

課題に対するフィードバック

評価表は採点の上返却する。

参考文献

授業時使用したテキスト、参考文献、資料の全て。

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	実習期間：2週間 2．実習時期：3年次秋学期)～4年次春学期 2．実習場所：青南病院、松平病院、十和田市立中央病院、精神障害者通所リハビリテーションセンター 青陽館、就労継続支援B型 カシオペア 3．実習内容 ①受け持ち患者の症状や言動を分析し、看護師としての必要な援助計画を立案する ②プロセスレコードにより自己理解を深め、援助的関係に役立てることで、患者―看護師関係を築く。 ※詳細は実習要項を参照	事前に提示された課題を行う	実習の学びについてレポートにまとめる

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020049000 在宅看護学概論 ※2023年開講せず						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

1. 地域・在宅看護の概念と対象について理解できる。
2. 地域・在宅療養者を支える訪問看護の概念、訪問看護ステーションの役割について理解できる。
3. 地域療養を支える各種制度、ケアマネジメントについて理解できる。
4. 地域・在宅看護の対象者と家族への支援について理解できる。

授業概要(教育目的)

地域で疾病や障がいをもって生活する人々を看護するために、医療保険や介護保険制度、地域の社会資源を理解して、多職種や他機関と協働できる在宅ケアを目指せるように、在宅看護の基本的な考え方と援助方法を学び、拡大する在宅看護・家族看護・地域看護へのニーズとそれに応えるために克服しなければならない課題を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

これからの時代に求められる地域共生社会で活動する看護への期待は大きい。病院に限らず、多様な施設での活動、へき地や医療過疎地など地域特性の理解のもと、地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている

評価方法

定期試験、課題レポート、授業への参加度により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

・テキストを熟読し、予習、復習の学習姿勢を習慣化し、知識を深める。
・講義内に復習テストを実施し、知識を確認する。

参考文献

1. 石垣和子他：在宅看護論ー自分らしい生活の継続を目指してー、南江堂、2021
2. 河野あゆみ：在宅看護過程、医学書院、2021

講義時使用テキスト

・☆　有佳他編：ナーシング・グラフィカ　地域・在宅看護論①－地域療養を支えるケア
　地域・在宅看護論②ー在宅療養を支える技術　　(株)メディカ出版、2024

資格との関連

看護師資格取得に必須

学生へのメッセージ

・1年次の「地域保健学」の学びを復習し、学習内容を活かす。
・これからの時代に求められる地域共生社会を支えるための在宅看護は、すべてのライフステージの人々を対象とし、人生の最期までを見守る活動も重要のため、他の専門看護領域の知識も活用し、横断的な学習視点が必要である。

実務との関連

臨床での看護師や訪問看護師としての経験を活かし、在宅看護の実際を具体的に学習する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	第Ⅰ章　地域・在宅看護の概念① 1)地域・在宅看護の背景 2)地域・在宅看護の歴史的変遷	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
2	第Ⅰ章　地域・在宅看護の概念② 1)地域・在宅看護の基盤 2)地域・在宅看護の役割・機能	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。 第Ⅰ・Ⅱ章の復習テストの予習	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
3	第Ⅱ章　在宅療養者と家族の支援 1)地域・在宅看護の対象者 2)在宅療養の成立条件 3)在宅療養者の家族への看護 ※第Ⅰ・Ⅱ章復習テストの実施①	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
4	第Ⅲ章　地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護① 1)地域包括ケアシステム 2)療養の場の移行に伴う看護:退院支援・退院調整 3)多職種連携	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
5	第Ⅲ章　地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護② 1)在宅看護におけるケアマネジメント 2)地域包括ケアと地域ケア会議	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。 第Ⅰ・Ⅱ章の復習テストの内容振り返り。
6	第Ⅳ章　地域療養を支える制度① 1)社会資源の活用 2)医療保険制度 3)後期高齢者医療制度	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
7	第Ⅳ章　地域療養を支える制度② 1)介護保険制度 2)障害者に関する法律・難病法	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。 第Ⅲ章の復習テストの内容振り返り。
8	第Ⅳ章　地域療養を支える制度③ 1)子どもの在宅療養を支える制度 2)母子保健制度 3)産業保健制度 4)学校保健制度	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。 第Ⅲ・Ⅳ章の復習テストの予習	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
9	第Ⅴ章　在宅療養を支える訪問看護① 1)訪問看護の特徴 2)訪問看護制度と現状 ※第Ⅲ章復習テストの実施②	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
10	第Ⅴ章　在宅療養を支える訪問看護② 1)在宅ケアを支える訪問看護ステーション 2)訪問看護ステーションの役割・機能 3)訪問看護ステーション開設基準	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
11	第Ⅴ章　在宅療養を支える訪問看護③ 1)訪問看護サービスの展開 2)ICFの視点からの訪問看護過程の実際 3)家庭訪問・初回訪問	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
12	第Ⅴ章　在宅看護を支える訪問看護④ 1)訪問看護記録 2)訪問看護師の一日:DVD学習	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
13	第Ⅵ章　在宅看護における安全と健康管理 1)在宅看護における危機管理 2)日常生活における安全管理	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。 第Ⅳ・Ⅴ章の復習テストの予習。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
14	第Ⅶ章　在宅における援助技術 1)生活ケアと医療的ケア 2)生活ケアの援助技術 3)医療的ケアの援助技術 ※第Ⅳ・Ⅴ章復習テストの実施③	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。 第Ⅳ・Ⅴ章の復習テストの内容振り返り。
15	第Ⅷ章　在宅看護の先駆的取り組み 1)海外の在宅ケアの特徴と共通性 2)海外の活動から学ぶ意義 3)オーストラリアで就労の看護師とのオンライン交流	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。第Ⅴ章のまとめテストの内容振り返り。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020049001 地域・在宅看護学概論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	壬生　寿子		

学習目標(到達目標)

1. 地域・在宅看護の概念と対象について理解できる。
2. 地域・在宅療養者を支える訪問看護の概念、訪問看護ステーションの役割について理解できる。
3. 地域療養を支える各種制度、ケアマネジメントについて理解できる。
4. 地域・在宅看護の対象者と家族への支援について理解できる。

授業概要(教育目的)

地域で疾病や障がいをもって生活する人々を看護するために、医療保険や介護保険制度、地域の社会資源を理解して、多職種や他機関と協働できる在宅ケアを目指せるように、在宅看護の基本的な考え方と援助方法を学び、拡大する在宅看護・家族看護・地域看護へのニーズとそれに応えるために克服しなければならない課題を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

これからの時代に求められる地域共生社会で活動する看護への期待は大きい。病院に限らず、多様な施設での活動、へき地や医療過疎地など地域特性の理解のもと、地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけられる。

評価方法

定期試験、課題レポート、授業への参加度により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

・テキストを熟読し、予習、復習の学習姿勢を習慣化し、知識を深める。
・講義内に復習テストを実施し、知識を確認する。

参考文献

1. 石垣和子他：在宅看護論ー自分らしい生活の継続を目指してー、南江堂、2021
2. 河野あゆみ：在宅看護過程、医学書院、2021

講義時使用テキスト

・地域・在宅看護論Ⅰ総論　地域における暮らしと健康の理解を深める　南江堂　2025
・地域・在宅看護論Ⅱ支援論　暮らしの場における多様な支援を考える　南江堂　2025

資格との関連

看護師資格取得に必須

学生へのメッセージ

・1年次の「地域保健学」の学びを復習し、学習内容を活かす。
・これからの時代に求められる地域共生社会を支えるための在宅看護は、すべてのライフステージの人々を対象とし、人生の最期までを見守る活動も重要のため、他の専門看護領域の知識も活用し、横断的な学習視点が必要である。

実務との関連

臨床での看護師や訪問看護師の経験を活かし、在宅看護活動の実際等を現実的、具体的に学習する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	第Ⅰ章　地域・在宅看護の概念① 1)地域・在宅看護の背景 2)地域・在宅看護の歴史的変遷	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
2	第Ⅰ章　地域・在宅看護の概念② 1)地域・在宅看護の基盤 2)地域・在宅看護の役割・機能	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。 第Ⅰ・Ⅱ章の復習テストの予習	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
3	第Ⅱ章　在宅療養者と家族の支援 1)地域・在宅看護の対象者 2)在宅療養の成立条件 3)在宅療養者の家族への看護 ※第Ⅰ・Ⅱ章復習テストの実施①	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
4	第Ⅲ章　地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護① 1)地域包括ケアシステム 2)療養の場の移行に伴う看護：退院支援・退院調整 3)多職種連携	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
5	第Ⅲ章　地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護② 1)在宅看護におけるケアマネジメント 2)地域包括ケアと地域ケア会議	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。 第Ⅰ・Ⅱ章の復習テストの内容振り返り。
6	第Ⅳ章　地域療養を支える制度① 1)社会資源の活用 2)医療保険制度 3)後期高齢者医療制度	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
7	第Ⅳ章　地域療養を支える制度② 1)介護保険制度 2)障害者に関する法律・難病法	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。 第Ⅲ章の復習テストの内容振り返り。
8	第Ⅳ章　地域療養を支える制度③ 1)子どもの在宅療養を支える制度 2)母子保健制度 3)産業保健制度 4)学校保健制度	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。 第Ⅲ・Ⅳ章の復習テストの予習	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
9	在宅における終末期の考え方 1)終末期医療の現状 2)在宅看取りの現状と訪問看護師の役割	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
10	第Ⅴ章　在宅療養を支える訪問看護① 1)訪問看護の特徴 2)訪問看護制度と現状 ※第Ⅲ章復習テストの実施②	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
11	第Ⅴ章　在宅療養を支える訪問看護② 1)在宅ケアを支える訪問看護ステーション 2)訪問看護ステーションの役割・機能 3)訪問看護ステーション開設基準	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
12	第Ⅴ章　在宅療養を支える訪問看護③ 1)訪問看護サービスの展開 2)ICFの視点からの訪問看護過程の実際 3)家庭訪問・初回訪問	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
13	第Ⅴ章　在宅看護を支える訪問看護④ 1)訪問看護記録 2)訪問看護師の一日：DVD学習	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。 第Ⅳ・Ⅴ章の復習テストの予習。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
14	第Ⅶ章　在宅における援助技術 1)生活ケアと医療的ケア 2)生活ケアの援助技術 3)医療的ケアの援助技術 ※第Ⅳ・Ⅴ章復習テストの実施③	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。 第Ⅳ・Ⅴ章の復習テストの内容振り返り。
15	Ⅷ章　在宅看護における安全と健康管理 1)在宅看護における危機管理 2)日常生活における安全管理	事前学習は担当教員からの指示がない限り講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで、再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。第Ⅴ章のまとめテストの内容振り返り。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020050000 在宅看護援助論 2024年度開講せず						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

1. 在宅療養者とその家族の特徴を理解し、特徴に応じた援助方法について説明ができる。
2. 訪問看護における看護過程の特徴を理解し、アセスメントから計画立案までできる。
3. ケアマネジメントの重要性と在宅ケアにおける看護師の役割について説明できる。
4. 基本的な在宅看護技術について、援助方法と留意点を説明できる。
5. 在宅看護の代表的な疾患について、援助方法と留意点を説明できる。

授業概要(教育目的)

在宅で療養する人とその家族を対象とした看護について学習する。在宅療養者の特徴、主な健康障害、看護援助とその提供機関、家族支援方法、社会資源の活用方法、多職種との連携方法、ケアマネージメントの学習を通して訪問看護と外来看護の特徴および入院看護との違いを理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

多関係機関との連携・協働するための判断力、行動力を身につけ、へき地や医療過疎地など地域特性の理解のもと、地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

定期試験、課題レポート、授業への参加度により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

実習期間中、教員は巡回での指導であり、訪問看護過程等の記録に対して指導やコメントをして返却する。体調管理状況をチェックし、実習が継続できるようにする。

参考文献

1. 臺 有佳他編:ナーシング・グラフィカ　地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア
地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術　メディカ出版2021.
2. 河野あゆみ:強みと弱みからみた 在宅看護過程、2019

講義時使用テキスト

石垣和子:在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして 南江堂 2020

資格との関連

国家試験受験資格取得のための必修科目である。

学生へのメッセージ

在宅看護学概論を基礎に、在宅看護学実習に向けての知識構築のために、演習を加えた講義内容である。病院実習とは異なり、1～2名の学生が訪問看護師と同行訪問し、マンツーマンで指導を受けるなるため、看護倫理を踏まえた対応、社会人としてのマナーを守り行動することが大切である。

実務との関連

看護師としての実務経験を活かし、指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	在宅看護の 概念の 理解 1)在宅看護学概論の 振り返り 2)在宅療養生活を 支える訪問看護活動	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。 ※復習テスト①の 予習をする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。
2	地域療養を 支える訪問看護技術 1)家庭訪問・初回訪問 2)訪問の 手順と倫理・心構え ※復習テスト①	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。 ※復習テスト①の 振り返りをする。
3	ICFモデルを 用いた 訪問看護過程の 展開技術 1)慢性閉塞性肺疾患(COPD)の 事例検討 2)訪問看護過程の 展開	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。
4	事例で 学ぶ 在宅看護技術① ・在宅療養における 看護過程の 特徴	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。
5	事例で 学ぶ 在宅看護技術② ・在宅におけるヘルスアセスメント	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。
6	事例で 学ぶ 在宅看護技術③ ・情報取集の 項目とアセスメントのポイント ・ICFを 用いた 情報の 統合	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。
7	事例で 学ぶ 在宅看護技術④ ・在宅療養における 看護過程展開のポイント	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。
8	事例で 学ぶ 在宅看護技術⑤ ・看護過程展開における 記録用紙の 活用方法	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。
9	在宅の 場の 移行に 伴う看護 ・退院支援、退院調整、多職種連携の 実際	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。
10	在宅療養生活を 支える基本的な技術① ・コミュニケーション	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。
11	在宅療養生活を 支える基本的な技術② ・在宅におけるアセスメント技術	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。
12	在宅療養生活を 支える基本的な技術③ ・環境整備 ・生活リハビリテーション ・感染予防	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。
13	在宅療養生活を 支える基本的な技術④ ・ターミナルケア:在宅看取りの 事例検討② ・看護過程の 展開	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。
14	地域で生活する子どもの訪問看護	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。
15	地域で 生活を 希望する精神障害者の 看護① ・精神看護の 理解	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。
16	地域で 生活を 希望する精神障害者の 看護② ・事例検討③ ・看護過程の 展開	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。
17	地域で在宅人工呼吸療法を継続しているALS療養者の看護展開	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。
18	地域で 生活する難病療養者の 理解 ・難病認定看護師による 事例紹介	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。
19	在宅看護における 技術演習①-1 ・医療的ケアの 援助技術① ・医療ケアの 原理原則	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。
20	在宅看護における 技術演習①-2 ・在宅人工呼吸療法(HMV) ・睡眠時無呼吸症候群(SAS) ・在宅酸素療法(HOT)	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。
21	日常生活を 支える看護技術① ・食生活 ・排泄 ・清潔 ・肢位の 保持と移動 ・呼吸 ・睡眠 医療的ケアの 援助技術 ⑧ ・在宅中心静脈栄養法 ・CVポート	事前学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、予習2時間を 原則とする。復習テスト②の 予習をする。	事後学習に 必要な時間は担当教員から指示がない限り、2時間の 講義(90分)に対して、復習2時間を 原則とする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020050001 地域・在宅看護援助論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	看護学科			担当教員	壬生　寿子		

学習目標(到達目標)

1. 在宅療養者・家族の特徴を理解し、援助方法について説明できる。
2. 訪問看護における看護過程の特徴を理解し、訪問看護計画の立案ができる
3. ケアマネジメントの重要性と在宅ケアにおける看護職の役割について説明できる。
4. 疾患の理解、基本的な在宅看護技術、援助方法と留意点を説明できる。

授業概要(教育目的)

地域で療養する人とその家族を対象とした在宅看護について、在宅における看護援助方法、家族の状況に合わせた家族支援方法、社会資源の活用方法、他機関・多職種との連携方法、ケアマネジメントや在宅看護の活動の手段としての訪問看護を中心とした活動や継続看護について地域包括ケアを意識して学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

・これからの時代に求められる地域共生社会で活躍する看護師を目指し、病院に限らず、多様な施設での活動も視野に入れ、地域での看護活動に積極的に取り組むことができるように基礎的な看護実践能力を身につける。
・実習につながる講義であるため、演習を通して技術を身につける。

評価方法

定期試験・課題レポート・授業への参加度により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

1. 課題レポートはコメントをし科目講義終了前には返却する。
2. テキストを熟読し、予習、復習の学習姿勢を習慣化する。

講義時使用テキスト

1. 地域療養を支えるケア：地域・在宅看護論① メディカ出版　(1年次購入)
2. 在宅療養を支える技術：地域・在宅看護論② メディカ出版　(2年次購入)
　1年次・2年次に購入したテキストを使用する

参考文献

1. 石垣和子他：地域・在宅看護論ー自分らしい生活の継続を目指してー 南江堂 2023
2. 尾崎章子他：地域・在宅看護過程ー療養者が望む暮らしを支えるー 医歯薬出版株式会社 2023

資格との関連

1. 看護師資格取得に必須
2. 2022年度よりカリキュラム改正され内容が深化

学生へのメッセージ

1. 1年次の「地域保健学」「地域・在宅看護学概論」の復習をし、在宅療養者を生活者として捉え、在宅看護活動を保健・医療・福祉の広い視点で捉えられるように学ぶ。
2. 在宅看護を支える活動の手段としての訪問看護活動を理解し、4年次の実習に役立てる。

実務との関連

臨床での看護師・訪問看護師としての経験を活かし、在宅看護の実際を具体的に学習する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	地域・在宅看護の概念 ・地域・在宅看護学概論の 振り返り	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
2	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 ※復習テスト①	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
3	在宅療養を 支える訪問看護 ・訪問看護ステーション ・訪問看護制度	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
4	地域・在宅看護を 支える制度① ・社会資源 ・医療保険制度 ・後期高齢者医療制度	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
5	地域・在宅看護を 支える制度② ・母子保健制度 ・産業保健 ・学校保健	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
6	対象に応じた 在宅看護1 ・精神疾患療養者の 在宅看護のポイント	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
7	対象に応じた 在宅看護2 ・難病療養者への 在宅看護の 実際 ・難病認定看護師の 役割	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
8	対象に応じた 在宅看護3 ・ALS療養者の 在宅看護のポイント	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
9	対象に応じた 在宅看護4-① ・子どもの 在宅療養を 支える訪問看護 ※課題①提示	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
10	対象に応じた 在宅看護4-② ・子どもの 在宅療養を 支える看護 　発達障害児及びその家族への 対応	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
11	対象に応じた 在宅看護5-① ・在宅終末期療養者への 看護	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
12	対象に応じた 在宅看護5－② ・在宅看取りの 実際 ・家族看護	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
13	療養の場に 移行に 伴う看護 ・在宅看護における 多職種連携	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
14	医療機関における 入退院時連携 ・退院支援 ・退院調整 ※復習テスト②	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
15	地域・在宅看護を 支える制度③ ・介護保険制度	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
16	在宅看護における ケアマネジメント	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
17	ICFモデルを 用いた 訪問看護過程展開の 実際1 ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)の 看護過程展開① ・事例紹介	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
18	ICFモデルを 用いた 訪問看護過程展開の 実際2 ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)の 看護過程展開② ・在宅における 連携	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
19	ICFモデルを 用いた 訪問看護過程展開の 実際3 ・COPDの 看護過程：情報収集→アセスメント→ 計画立案→ 評価①	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
20	ICFモデルを 用いた 訪問看護過程展開の 実際4 ・COPDの 看護過程：情報収集→アセスメント→ 計画立案→ 評価② ・実習記録用紙の 活用方法	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。
21	在宅療養を 支える看護技術演習：生活ケア1 ・生活ケアの 目的と意義	事前学習は担当教員からの指示がない限り、講義範囲の内容についてテキストを熟読し、2時間の講義(90分)に対して予習2時間を原則とする。	学習内容を配布資料、テキストで再確認をし、知識を深めるため、2時間の講義(90分)に対して復習2時間を原則とする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020051000 在宅看護学実習						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

1. 在宅看護の理論と知識・技術を統合させ、療養者とその家族のQOLを考えた看護援助方法を理解し、説明ができる。
2. 療養者と家族のよりよい健康生活をつくり出す一翼を担う在宅看護の理論と技術を体験する。
3. 家族を単位とした身体的・精神的・社会的側面に応じた適切な看護の在り方、関連諸機関・多職種との協働による在宅看護の基本を理解できる。
4. 施設内看護と在宅看護の共通点・相違点を理解し、継続看護の必要性について説明ができる。

授業概要(教育目的)

健康障害を持ちながら在宅療養をしている個人とその家族を対象とした在宅ケアの意義を理解し、看護ですでに学習した知識と技術を統合させ、個人とその家族のQOLを考えた看護を提供する。在宅ケアにおいては訪問看護を中心としたケアシステムと看護援助方法、さらに家族を単位として生活条件、生活スタイル、生活環境、経済状態などに応じた適切なケアのあり方、関連諸機関、職種との協働によるケアの基本を学び、よりよい健康生活をつくり出す一翼を担う看護の理論と技術を教授する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

多関係機関との連携・協働を意識し、へき地や医療過疎地など地域特性の理解のもと、地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

・実習評価表にもとづいて臨地実習指導者の評価を参考に担当担当教員が評価する。
・最終評価は個別に開示する。

課題に対するフィードバック

・臨地実習指導者の指示のもと、指導を受け、毎日カンファレンスを実施し、日々の振り返りをする。
・実習1週目に中間カンファレンスを実施し、訪問看護看護過程の確認をする。
・実習最終日に学内での全体カンファレンスを実施し情報共有を通して学びを深める。

参考文献

1. 河野あゆみ:在宅看護過程　医学書院　2021
2. 訪問看護アドバンス一訪問看護の世界を写真と動画で学ぶ一　インターメディカ　2023

講義時使用テキスト

授業時使用したテキスト、参考文献、配布資料、事前学習を参考にする。

資格との関連

国家試験の内容と関連があり、必修科目である。

学生へのメッセージ

・実習要項を熟読すること。
・病院実習とは異なり、1ステーションに1～2名の学生配置であるため、社会人としてのマナー、看護倫理を守り、八戸学院大学の学生であることを意識して実習に臨むこと。
・実習先へは各自で移動のため、事前に場所の確認をしておくこと。
・移動時は交通事故を起こさないように十分気を付けること。

実務との関連

訪問看護ステーション指導者と担当教員が連絡、情報交換を密にして指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
2	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
3	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
4	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
5	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
6	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
7	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスをじっしし、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
8	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
9	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
10	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
11	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
12	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
13	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスをじっしし、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
14	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
15	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
16	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
17	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
18	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
19	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
20	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
21	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
22	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
23	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
24	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
25	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
26	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
27	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
28	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。

講義名	4020051001 地域・在宅看護実習						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	壬生　寿子		

学習目標(到達目標)

1. 在宅看護の理論と知識・技術を統合させ、療養者とその家族のQOLを考えた看護援助方法を理解し、説明ができる。
2. 療養者と家族のよりよい健康生活をつくり出す一翼を担う在宅看護の理論と技術を体験する。
3. 家族を単位とした身体的・精神的・社会的側面に応じた適切な看護の在り方、関連諸機関・多職種との協働による在宅看護の基本を理解できる。
4. 施設内看護と在宅看護の共通点・相違点を理解し、継続看護の必要性について説明ができる。

授業概要(教育目的)

健康障害を持ちながら在宅療養をしている個人とその家族を対象とした在宅ケアの意義を理解し、看護ですでに学習した知識と技術を統合させ、個人とその家族のQOLを考えた看護を提供する。在宅ケアにおいては訪問看護を中心としたケアシステムと看護援助方法、さらに家族を単位として生活条件、生活スタイル、生活環境、経済状態などに応じた適切なケアのあり方、関連諸機関、職種との協働によるケアの基本を学び、よりよい健康生活をつくり出す一翼を担う看護の理論と技術を教授する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

多関係機関との連携・協働を意識し、へき地や医療過疎地など地域特性の理解のもと、地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

・実習評価表にもとづいて臨地実習指導者の評価を参考に担当担当教員が評価する。
・最終評価は個別に開示する。

課題に対するフィードバック

・臨地実習指導者の指示のもと、指導を受け、毎日カンファレンスを実施し、日々の振り返りをする。
・実習1週目に中間カンファレンスを実施し、訪問看護看護過程の確認をする。
・実習最終日に学内での全体カンファレンスを実施し情報共有を通して学びを深める。

講義時使用テキスト

授業時使用したテキスト、参考文献、配布資料、事前学習を参考にする。

参考文献

1. 河野あゆみ：在宅看護過程　医学書院　2021
2. 訪問看護アドバンス―訪問看護の世界を写真と動画で学ぶ―　インターメディカ　2023

資格との関連

国家試験の内容と関連があり、必修科目である。

学生へのメッセージ

・実習要項を熟読すること。
・病院実習とは異なり、1ステーションに1～2名の学生配置であるため、社会人としてのマナー、看護倫理を守り、八戸学院大学の学生であることを意識して実習に臨むこと。
・実習先へは各自で移動のため、事前に場所の確認をしておくこと。
・移動時は交通事故を起こさないように十分気を付けること。

実務との関連

訪問看護ステーション指導者と担当教員が連絡、情報交換を密にして指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
2	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
3	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
4	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
5	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
6	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
7	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスをじっしし、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
8	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
9	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
10	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
11	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
12	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
13	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスをじっしし、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
14	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
15	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
16	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
17	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
18	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
19	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
20	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
21	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
22	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
23	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
24	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
25	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
26	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
27	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。
28	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間)　関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	訪問看護ステーションでの同行訪問(5日間) 関連施設実習(2日間)　学内実習(3日間)	毎日カンファレンスを実施し、実習の振り返りをする。学習は毎日2時間を原則とする。

講義名	4020052000 統合看護論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	看護学科			担当教員	築場　理利子		

学習目標(到達目標)

1. 看護の役割機能、看護サービスを提供する仕組みについて説明できる
2. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割と機能について説明できる
3. 専門職連携の理論と実践について説明できる
4. 社会の変動と科学技術の発展を理解し、看護を発展させていくことの重要性について説明できる
5. 専門職として生涯にわたり成長していくために、生涯学習の重要性とキャリアデザインについて説明できる

授業概要(教育目的)

看護に求められている社会的ニーズを理解し、個人と集団と社会に対し、適切な看護を提供できるよう、看護学における専門分野での既習の知識・技術を統合して、社会背景や社会保障制度の現状を踏まえた質の高い看護ケアを提供するための法や制度、サービス提供における連携・協働の実際について学び、地域包括ケアシステムの構成員としての活動することについて理解する。また、組織の中での看護師の役割を理解し、看護専門職としての価値と専門性を発展させていくことの重要性について理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域特性の理解のもと、地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力および地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身に付ける

評価方法

定期試験とグループワークの参加状況や授業中の発言等総合的に評価

課題に対するフィードバック

授業終了時にレスポンスカードを記入することで講義内容の理解と振り返りを行う。疑問等は次回授業時にフィードバックする。また、グループワークの内容で模範・代表的なものをフィードバックする。

参考文献

・看護マネジメント入門　第2版　原玲子著　日本看護協会出版会
・看護の統合と実践①看護管理　ナーシンググラフィカ出版
・看護追及へのアプローチ　第5版　田中幸子編著　　医歯薬出版株式会社
他必要な資料は授業時に紹介する

講義時使用テキスト

使用テキストは特になく、毎回資料を配布する。
購入しているテキストの中で「看護管理」「看護関連法規」「社会保障・社会福祉」「チーム医療論」などは関連しているので予習・復習に活用する

資格との関連

最近、国家試験に統合看護分野からも出題されている

学生へのメッセージ

看護の統合は、今迄学習してきた基礎分野や専門分野での知識・技術を統合するもので、各看護学で学んだ内容を基盤に、卒業後臨床現場にスムーズに適用していけるように実践的に学習していくものです。沢山グループワークがありますので、積極的にグループワークや授業に参加して欲しいと思います

実務との関連

急性期病院での臨床経験と認定看護管理者としての看護管理の経験をもとに、理解が深まるよう具体的に示し、かつ看護職がおかれている看護の現場を包括的視点でとらえた構成で教授する

授業計画表

	内容	予習	復習
1	看護の統合・看護の 発展 ・統合看護論とは、学習の 目的・目標 ・看護を 取り巻く社会背景	参考文献の 関連個所を 読む。	配付資料を 読み 直し、授業の内容・論点を整理する。
2	社会制度と医療計画 ・社会保障制度、医療保険制度、介護保険制度 ・医療計画、地域医療構想	参考文献の 関連個所を 読む。前回の 授業の 内容を 読み 返し整理する。	配付資料を 読み 直し、授業の内容・論点を整理する。
3	看護サービスを 提供するしくみ ・看護制度と法律、看護行政 ・診療報酬のしくみ、看護必要度、看護職員需給見通し	参考文献の 関連個所を 読む。前回の 授業の 内容を 読み 返し整理する。	配付資料を 読み 直し、授業の内容・論点を整理する。
4	地域包括ケアシステムの必要性	参考文献の 関連個所を 読む。前回の 授業の 内容を 読み 返し整理する。	配付資料を 読み 直し、授業の内容・論点を整理する。
5	地域包括システムの 実際 ・在宅移行支援、退院支援、退院調整 ・意思決定支援	参考文献の 関連個所を 読む。前回の 授業の 内容を 読み 返し整理する。	配付資料を 読み 直し、授業の内容・論点を整理する。
6	地域包括ケアの 推進と看護 ・地域医療連携（高齢者・認知症の 退院支援） ・地域連携パス	参考文献の 関連個所を 読む。前回の 授業の 内容を 読み 返し整理する。	配付資料を 読み 直し、授業の内容・論点を整理する。
7	地域包括ケアの 推進と看護 ・多職種連携・チーム医療 ・看護チームの 役割	参考文献の 関連個所を 読む。前回の 授業の 内容を 読み 返し整理する。	配付資料を 読み 直し、授業の内容・論点を整理する。
8	・看護職の 倫理綱領 ・アドバンスケアプラニング ・看護関連のガイドラインを 読み 解く	参考文献の 関連個所を 読む。前回の 授業の 内容を 読み 返し整理する。	配付資料を 読み 直し、授業の内容・論点を整理する。
9	多重課題 ・多重課題の 理解と 対応策	参考文献の 関連個所を 読む。前回の 授業の 内容を 読み 返し整理する。	配付資料を 読み 直し、授業の内容・論点を整理する。
10	多重課題 ・事例を 通して 理解を 深める	参考文献の 関連個所を 読む。前回の 授業の 内容を 読み 返し整理する。	配付資料を 読み 直し、授業の内容・論点を整理する。
11	コミュニケーション ・コミュニケーションスキル ・コミュニケーションツール	参考文献の 関連個所を 読む。前回の 授業の 内容を 読み 返し整理する。	配付資料を 読み 直し、授業の内容・論点を整理する。
12	・医療情報システムと看護記録に 関する指針 ・リーダーシップ・メンバーシップ・チームワーク	参考文献の 関連個所を 読む。前回の 授業の 内容を 読み 返し整理する。	配付資料を 読み 直し、授業の内容・論点を整理する。
13	キャリアデザインと生涯学習①	参考文献の 関連個所を 読む。前回の 授業の 内容を 読み 返し整理する。	配付資料を 読み 直し、授業の内容・論点を整理する。
14	キャリアデザインと生涯学習②ゲストティーチャー ・看護のスペシャリストの 実践	参考文献の 関連個所を 読む。前回の 授業の 内容を 読み 返し整理する。	配付資料を 読み 直し、授業の内容・論点を整理する。
15	キャリアデザインと生涯学習③ ・看護管理者のキャリアの 実践 ・社会人、看護専門職業人としての 心構え	参考文献の 関連個所を 読む。前回の 授業の 内容を 読み 返し整理する。	配付資料を 読み 直し、授業の内容・論点を整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020053000 チーム医療論						
年度	2026	開講時期	前期前半	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	看護学科			担当教員	切明　美保子		

学習目標(到達目標)

1. チーム医療の理念と目的について説明できる。
2. 主な保健・医療専門職の役割について説明できる。
3. 医療チームにおける看護職の役割について説明できる。
4. チーム医療に関する課題や、その克服方法について意見を述べることができる。

授業概要(教育目的)

保健・医療・福祉制度における専門職の種類と役割を理解し、チーム医療の理念と目的、協働する活動の方法について学ぶ。チーム医療が必要とされる背景と医療チームにおける看護職の役割と責任について理解し、事例を用いた演習を行い、チーム医療の効果と課題および課題克服の方法を考える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

課題レポートと筆記試験により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

・課題については次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

1. 必要時、紹介する。

講義時使用テキスト

1. 実践チーム医療論　実際と教育プログラム　医歯薬出版

資格との関連

学生へのメッセージ

患者を中心とした良質で安全な医療を提供するためには、多職種が協働するチーム医療を実践することが不可欠です。将来、看護職として現場で活動するために、チーム医療を行うための基本的な知識を身につけ、実践できるようにしてほしい。

実務との関連

総合病院での看護経験を活かし、教授している。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	チーム医療の理念と目的	チーム医療の理念と目的に関するテキストの部分を読み、要点をまとめる。	授業内容を整理し、重要事項や疑問点をまとめる。
2	保健・医療・福祉制度における専門職とその役割	保健・医療・福祉制度における専門職と役割に関するテキストの部分を読み、要点をまとめる。	授業内容を整理し、重要事項や疑問点をまとめる。
3	保健医療福祉制度における看護職の役割	看護職と専門看護師・認定看護師・特定看護師の役割に関するテキストの部分を読み、要点をまとめる。	授業内容を整理し、重要事項や疑問点をまとめる。
4	チーム医療と倫理	チーム医療と倫理に関するテキストの部分を読み、要点をまとめる。	配布資料とノートを読み直し、重要項目および疑問点をピックアップする。
5	医療安全・医療効率から見たチーム医療	医療安全・医療効率から見たチーム医療に関するテキスト部分を読み、要点をまとめる。	授業内容を整理し、重要事項や疑問点をまとめる。
6	多職種チームカンファレンスの展開方法 グループワーク	多職種チームカンファレンスの展開方法に関するテキストの部分を読み、要点をまとめる。	授業内容を整理し、重要事項や疑問点をまとめる。
7	チーム医療の事例展開(1) グループワーク	チーム医療の事例展開に関するテキストの部分を読み、要点をまとめる。	グループワーク内容を振り返り、疑問点をまとめる。
8	チーム医療の事例展開(2) グループワーク	チーム医療の事例展開に関するテキストの部分を読み、要点をまとめる	グループワーク内容を振り返り、疑問点をまとめる。

講義名	4020054000 医療安全論						
年度	2026	開講時期	後期前半	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	築場　理利子		

学習目標(到達目標)

1. 医療事故防止に関する看護職の責任と役割を説明できる。
2. 医療事故発生のメカニズムと発生防止の考え方について説明できる。
3. 医療事故の事例と原因分析を通し、医療を取り巻く社会的な状況について説明できる。
4. 医療事故後対応の考え方と自己の医療事故を回避する方策について説明できる。

授業概要(教育目的)

医療における安全管理の理論を理解するとともに、安全で質の高い医療サービスを提供するために必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。臨床現場でおける取り組みの実際を知り、医療安全の考え方、知識・技術を理解する。また、医療安全の理論に基づいた事故防止の考え方と方法、事故の分析、事故発生の予防、事故発生後の対応、わが国の組織的な安全管理体制などについて学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

定期試験・グループワークの参加状況による評価

課題に対するフィードバック

授業の終了時に、レスポンスカードを記入することで講義内容の振り返りと評価を行う。
課題・グループワークの模範例や代表例のフィードバック及びレスポンスカード等、質問の対してフィードバックする。

講義時使用テキスト

1. 松下由美子ほか編　ナーシンググラフィカ　看護の統合と実践②医療安全第5版　メディカ出版
2. 他随時資料を配布する

参考文献

1. 医療安全ワークブック第4版　川村治子　医学書院
2. ナースのための危険予知トレーニングテキスト　杉山涼子　メディカ出版
3. 医療現場のヒューマンエラー対策ブック　河野龍太郎　日本能率協会マネジメントセンター
4. チームステップス日本版　医療安全　チームで取り組むヒューマンエラー対策　東京慈恵会医科大学付属病院　医療安全管理部　メディカルビュー

資格との関連

看護師国家試験においても医療安全にかかわる出題が増えてきている。

学生へのメッセージ

臨地実習の事前学習としても重要な科目であるため、よくテキストを読み、講義内容を理解し、患者と自分自身の安全を考えて行動できる看護学生になろう。

実務との関連

病院の医療安全管理者としての経験から、理解を深めるためにより具体的に、医療現場の安全な医療の提供への取り組みと現状について教授する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 医療安全の 意味と看護職の 責務、医療安全の 取り組みと医療の 質の 評価 ・医療安全の 意味とその 重要性 ・看護職の 法的責任について ・国や 組織による医療安全の 取り組み ・医療事故の 定義・分類・報告制度 ・医療安全施策と医療の 質の 評価	テキストの該当箇所を読む	授業内容から、配布資料とテキストをよく読み 整理する
2	2. 医療事故発生のメカニズムと分析の 考え 方、事故対策 ・ヒューマンエラーと 人間特性・環境の 関係 について ・事故の 構造、分析の 考え 方と事故対策	テキストの該当箇所を読む	授業内容から、配布資料とテキストをよく読み 整理する
3	3. 医療機関における安全文化醸成のための 取り組み ・医療機関における安全対策の 取り組み ・安全文化の 醸成について	テキストの該当箇所を読む	授業内容から、配布資料とテキストをよく読み 整理する
4	4. 看護における事故発生要因と安全対策 ・看護業務を 行う際の 環境の 特徴とリスク ・看護業務にかかわる 主な医療事故の 種類、分析、対策	テキストの該当箇所を読む	授業内容から、配布資料とテキストをよく読み 整理する
5	5. 在宅看護における医療事故と安全対策、医療従事者の安全を 脅かすリスクと対策 ・在宅で 起こりうる医療・介護事故の 実際と 防止対策 ・感染、医療機器、医療品、労働形態、暴力などの 危険と予防策	テキストの該当箇所を読む	授業内容から、配布資料とテキストをよく読み 整理する
6	6. 事故分析と医療事故後の対応 ・事故発生時の 初期対応の 考え 方と方法 ・紛争時の 対応 ・事故事例をもとに事故分析を 行い、予防策についてグループで 検討する	グループ 演習 テキストの 該当箇所を 読む	グループワーク・プレゼンテーション・授業内容から、配布資料とテキストをよく読み 整理する
7	7. 看護学生の 実習と安全 ・実習中の 事故を 予防するための 方法を 学ぶ ・トラブル回避コミュニケーション	グループ 演習 テキストの 該当箇所を 読む	グループワーク・授業内容から、配布資料とテキストをよく読み 整理する
8	8. 危険予知トレーニング(KYT)演習 ・KYTの 手法を 学ぶ ・KYTの 手法で 事例をもとに演習する	グループ 演習 テキストの 該当箇所を 読む	グループワーク・プレゼンテーション・授業内容から、配布資料とテキストをよく読み 整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020055000	看護管理論					
年度	2026	開講時期	前期前半	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	看護学科			担当教員	市川　裕美子		

学習目標(到達目標)

1. 看護におけるマネジメントの基盤となる普遍的な要素や医療制度、マネジメントの意義について説明できる。
2. 看護サービスを安全で効果的かつ安定的に提供するための管理過程とマネジメントスキルについて説明できる。
3. 看護管理の基盤となる主な理論を説明できる。

授業概要(教育目的)

患者の安全・安楽を目指した看護活動の実践には技術だけでなく、看護管理や医療制度、看護制度についての知識が不可欠である。看護におけるマネジメントの意義・概要を学び、看護サービスの効果的で安全安定供給のためのマネジメント能力の基礎を養うとともに、看護管理や看護制度についての知識を体系的に学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基本的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

筆記試験による評価

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

ナーシング・グラフィカ　看護管理(メディカ出版)
他　必要時紹介する

講義時使用テキスト

学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門　第2版　日本看護協会出版会

資格との関連

看護師国家試験に関連している

学生へのメッセージ

管理はすべての人が行っていること。その基本と求められている能力などについて学びましょう。

実務との関連

担当教員は病院勤務経験、看護管理者としての経験もある。その経験に基づいて講義を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	導入・授業の進め方 第1章～第3章 ・マネジメントとは ・看護マネジメントとは ・医療におけるサービスの構造	テキストの該当箇所を読む。	テキストの該当箇所、配布資料を参考に授業の内容を整理し、論点を整理する。
2	第4章～第5章 ・組織の成り立ちと病院組織の基本的構造 ・目標管理	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理する。	テキストの該当箇所、配布資料を参考に授業の内容を整理し、論点を整理する。
3	第6章　情報共有のしくみ ・情報とは何か ・診療記録と電子化 ・情報の取り扱いにおける注意事項 ・情報リテラシー	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理する。	テキストの該当箇所、配布資料を参考に授業の内容を整理し、論点を整理する。
4	第7章～第8章 ・医療の中の協働 ・業務遂行のマネジメント	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理する。	テキストの該当箇所、配布資料を参考に授業の内容を整理し、論点を整理する。
5	第9章～第11章 ・日本の医療制度と病院経営 ・医療安全の基本的な考え方 ・医療現場の感染管理の基本	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理する。	テキストの該当箇所、配布資料を参考に授業の内容を整理し、論点を整理する。
6	第12章～第13章 ・医療現場における業務上の危険 ・災害対策の基本	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理する。	テキストの該当箇所、配布資料を参考に授業の内容を整理し、論点を整理する。
7	第14章～第15章 ・看護職の法的責任 ・看護者の基本的責務	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理する。	テキストの該当箇所、配布資料を参考に授業の内容を整理し、論点を整理する。
8	第16章 ・看護職のキャリア開発	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理する。	テキストの該当箇所、配布資料を参考に授業の内容を整理し、論点を整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020056000 看護教育論						
年度	2026	開講時期	後期前半	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	田中　克枝		

学習目標(到達目標)

1. 看護教育の理念、目的、教育制度の概略を説明できる。
2. 看護教育の教育課程、様々な教育形態について説明できる。
3. 看護教育の将来について、意見を述べることができる。

授業概要(教育目的)

看護教育の理念・意義、看護教育の変遷、教育課程、教育形態等に関する理論を体系的に学び、看護職の教育的背景から生涯教育における重要性と専門職としての継続教育の必要性を理解する。また、海外の看護教育も学び、日本の看護教育の将来の在り方を考えることができる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基本的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

課題レポートによる評価

課題に対するフィードバック

調べてきたもの、発表したものはその授業内、または次回の授業でフィードバックする。
試験(レポート)の成績の知りたい学生は個別に開示する。

参考文献

1)グレッグ美鈴・池西悦子編:看護教育学　看護を学ぶ自分と向き合う改訂第2版,南江堂,2022.
2)杉森みど里・舟島なをみ:看護教育学　第6版,医学書院,2020.

講義時使用テキスト

指定テキストなし。

資格との関連

学生へのメッセージ

積極的に講義に参加し、課題を見つけ調べ、次の講義に臨みましょう！

実務との関連

看護師の臨床経験や看護教員としての実務経験を生かして、看護教育学の話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	看護教育学とは:看護教育の理念・意義、看護教育の変遷 教育課程:教育制度、基礎教育・継続教育 (講義、グループワーク)	今までの講義、実習から看護教育について、自分の考えを整理する	配布資料を読み直し、整理する
2	教育形態:専門学校教育、大学教育、大学院教育、准看護師の教育など (講義、グループディスカッション)	配布資料の該当箇所を読む	配布資料を読み直し、整理する
3	教育方法:講義・演習・臨地実習・フィールドワーク他 (講義、グループディスカッション)	配布資料の該当箇所を読む	配布資料を読み直し、整理する
4	看護基礎教育のカリキュラム開発、評価の考え方 (講義、グループディスカッション)	配布資料の該当箇所を読む	配布資料を読み直し、整理する
5	演習①:臨地実習における教育と学習 (文献、インターネットから調査)	臨地実習の看護教育について調べる	調べたことをまとめる
6	演習②:海外の看護教育の在り方 (文献、インターネットから調査)	海外の看護教育について調べる	調べたことをまとめる
7	演習①②の発表	調べたことを発表できるように準備する	他の学生の発表を聞いて、関心のある事柄について自分でも調べ整理する
8	望ましい看護教育の在り方 (グループディスカッション)	今までの配布資料を読み、ディスカッションした内容を振り返る。	課題についてレポートをまとめる

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020057000 家族看護論						
年度	2026	開講時期	前期前半	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	坂本　保子		

学習目標(到達目標)

1. 家族看護の概要と必要性について説明できる。
2. 家族看護における看護者の役割と援助姿勢について説明できる。
3. 家族のライフサイクルに応じた発達課題やセルフケア機能に着目した援助方法について説明できる。
4. 家族のアセスメントの目的と概要が説明できる。
5. 健康問題を持つ家族の事例を通して基本的支援の方法を説明できる。

授業概要(教育目的)

家族を看護の対象として捉え、家族が有する発達課題や家族の健康に関する諸問題や支援について学ぶ。
家族を理解するための家族看護の諸理論、アセスメント、家族看護過程について学ぶ。
個人・集団・地域の社会問題に対し効果的な対処方法を考える。
看護に対する多様なニーズに応え看護の質を高めることができるという立場から看護援助を考える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

課題レポートと定期試験により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

・授業の終了時にリアクションペーパーを記入することで講義内容の振り返りを行い、適宜コメントし返却する。
・定期試験の成績を知りたい学生は個別に開示する。

参考文献

・鈴木和子、渡部祐子：家族看護学―理論と実践―　第5版　日本看護協会出版会,2019.
・森山美智子編：ファミリーナーシングプラクティス　家族看護の理論と実践,医学書院

講義時使用テキスト

山崎あけみ、原礼子編：看護学テキストNICE　家族看護学,改訂第3版, 南江堂,最新版.

資格との関連

看護師受験国家資格

学生へのメッセージ

講義は休まず受講すること。予習・復習が重要である。また、グループワークの際は積極的に意見を述べること。

実務との関連

担当者は看護師としての勤務経験があり、実務経験をもとに講義する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 家族看護とは 家族の 定義、家族の 要素、家族システム論、 家族看護学の 歴史と動向	テキストの 該当箇所を 読み、要点を 整理しておく。	講義内容を 振り返り、要点を 整理し不明な 点は 調べておくこと。
2	2. 看護学における家族の 理解と考え 方 ストレスに 対処モデル、家族の 構造、 パートナーシップ、現代社会と家族、 家族の 多様性	テキストの 該当箇所を 読み、要点を 整理しておく。	講義内容を 振り返り、要点を 整理し不明な 点は 調べておくこと。
3	3. 家族看護過程 （家族看護アセスメント・看護計画の 立案・主な家族アセスメントモデル）	テキストの 該当箇所を 読み、要点を 整理しておく。	講義内容を 振り返り、要点を 整理し不明な 点は 調べておくこと。
4	4. 家族を 取り巻く社会的・文化的背景	テキストの 該当箇所を 読み、要点を 整理しておく。新聞やインターネットなどから関連する記事を 読む。	講義内容を 振り返り、要点を 整理し不明な 点は 調べておくこと。
5	5. 家族看護実践例からの 学び、GW①	テキストや 事例の 内容不明な 点は 調べて各自で 要点を 整理しておく。	各自で まとめたものをグループ内で 相互作用を 活用して 共有したことを整理しておくこと。
6	6. 家族看護実践例からの 学び、GW②	グループで 共有した内容を 振り返り、不明な点は 調べて 要点を 整理しておく。	各自で 不明な点は 調べて 要点を 整理してまとめたことをグループで 共有すること。
7	7. 家族看護実践例からの 学び、GW③	各自で 不明な点は 調べて 要点を 整理してまとめたことをグループで 共有すること。	各自で 不明な点は 調べて 要点を 整理してまとめたことをグループで 共有し評価すること。
8	8. 家族看護の 課題	テキストの 該当箇所を 読み、要点を 整理しておく。	講義内容を 振り返り、要点を 整理し不明な 点は 調べておくこと。

講義名	4020058000 救急看護						
年度	2026	開講時期	後期前半	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	今　明秀		

学習目標(到達目標)

1. 救急時における看護職による医療行為の法的根拠を説明できる。
2. 救急看護の対象の特徴と観察、アセスメントの視点を説明できる。
3. 救急時の主な看護技術の内容及び実施時の注意点を説明できる。

授業概要(教育目的)

病気や事故、災害に遭遇した時の救急処置や施設における救急救命の基礎的知識、技術を学習する。また、救急医療の置かれた現状や問題について医療システム全体の中で捉え、救急医療の将来について看護の視点から総括して展望できるよう学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

課題レポートによる評価

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

1. 系統看護学講座別巻　救急看護学　医学書院

資格との関連

学生へのメッセージ

積極的主体的に学習することを望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	救急医療・救急看護の定義と法的倫理的側面	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	救急看護の対象(患者・家族)の特徴	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	救急患者の観察とアセスメントの視点	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	演習:主要病態に対する救急処置と看護(心肺停止・意識障害・呼吸障害・ショック・循環障害)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	演習:主要病態に対する救急処置と看護(急性腹症・泌尿器・生殖器障害・外傷・熱傷・中毒)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	演習:主要病態に対する救急処置と看護(中毒・溺水・刺咬症・精神症状・脳死状態)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	演習:救急時の看護技術の内容および実施時の注意点	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	救急時に使用される医薬品	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020059001 リハビリテーション看護						
年度	2026	開講時期	前期前半	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	看護学科			担当教員	市川　裕美子		

学習目標(到達目標)

1. リハビリテーションの概念、障害と回復過程に応じた援助方法を理解し、人生の「再構築」のための支援のあり方を説明することができる。
2. 障害をもつ対象者および家族支援におけるリハビリテーション看護の特性と役割を説明することができる。

授業概要(教育目的)

リハビリテーションを必要とする対象とその家族への看護を学習する。総論として、リハビリテーションを必要とする対象の理解、リハビリテーションチームの定義・理念、リハビリテーションチームにおける看護の役割を理解する。各発達段階や障害の特性を踏まえ、小児、成人、高齢者、精神、地域の各領域におけるリハビリテーション看護の方法について学ぶ

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的方法を身につけている。

評価方法

試験及びレポートによる総合的評価

課題に対するフィードバック

試験、レポートの成績を知りたい学生には個別に対応する。

参考文献

1. 中西純子他著　成人看護学　リハビリテーション看護論　第3版　ヌーヴェルヒロカワ
2. 奥宮暁子他著　ナーシング・グラフィカ　成人看護学　リハビリテーション看護　メディカ出版
3. 酒井郁子他著　看護学テキスト　リハビリテーション看護　南江堂

講義時使用テキスト

講義時テキストはなし。資料を配布する。

資格との関連

看護師国家試験に関連する

学生へのメッセージ

その人らしく生きることを支援し、QOLを高めていくことを目指して学習していきましょう。

実務との関連

担当教員全員は、病院勤務の実務経験がある。その経験に基づき講義する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	リハビリテーションの 理念、リハビリテーション 看護の 概念・目的	参考文献の 関連箇所を 読む。	配布資料を 読み 直し、授業の内容・論点を 整理する。
2	成人看護領域におけるリハビリテーション 看護の 方法	参考文献の 関連箇所を 読む。	配布資料を 読み 直し、授業の内容・論点を 整理する。
3	リハビリテーションチームの 定義・理念 在宅看護学領域におけるリハビリテーション 看護の 方法	参考文献の 関連箇所を 読む。	配布資料を 読み 直し、授業の内容・論点を 整理する。
4	高齢者看護学領域におけるリハビリテーション 看護の 方法	参考文献の 関連箇所を 読む。	配布資料を 読み 直し、授業の内容・論点を 整理する。
5	小児看護学領域におけるリハビリテーション 看護の 目的、対象者の 特徴	参考文献の 関連箇所を 読む。	配布資料を 読み 直し、授業の内容・論点を 整理する。
6	小児看護学領域におけるリハビリテーション 看護の 方法	参考文献の 関連箇所を 読む。	配布資料を 読み 直し、授業の内容・論点を 整理する。
7	精神看護学領域における看護の目的	参考文献の 関連箇所を 読む。	配布資料を 読み 直し、授業の内容・論点を 整理する。
8	精神看護学領域における看護の方法	参考文献の 関連箇所を 読む。	配布資料を 読み 直し、授業の内容・論点を 整理する。

講義名	4020060001 緩和ケア論						
年度	2026	開講時期	前期後半	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	看護学科			担当教員	市川　裕美子		

学習目標(到達目標)

1. 緩和ケア、エンド・オブ・ライフの概念、チームアプローチ、コミュニケーション、倫理的課題
　について説明できる。
2. 緩和ケアを必要とする患者・家族の抱える全人的苦痛を理解し、対象の状況に応じた緩和ケア、
　エンド・オブ・ライフケアの方法について説明できる。
3. 緩和ケアにおける意思決定支援、緩和ケアの広がりについて説明できる。
4. 1～3を通して自己の援助者としての姿勢や自己の死生観について明確化できる。

授業概要(教育目的)

緩和ケアの概念ならびに緩和ケアを必要とする患者・家族が抱える全人的苦痛を理解し、緩和に必要なケアを実践するための看護上の知識を修得する。また、臨床でよく遭遇する事例を通して通して、その課題と対応や緩和ケアにより患者・家族のクオリティオブライフ(QOL)を改善する取り組みについて考究する。さらに一連の学習過程を通して、援助者としての姿勢と自己の死生観を明確化する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

・豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している
・科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている

評価方法

定期試験とグループワークなど自主的な学修で総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験、レポートの成績を知りたい学生には個別に対応する。

講義時使用テキスト

なし
その都度資料を配布する。

参考文献

恒藤　暁、田村恵子編集：系統看護学講座、別巻「緩和ケア」、医学書院、東京、2020.
編者：宮下光令　成人看護学⑥　緩和ケア　ナーシンググラフィカ、大阪、2022.
谷本真理子　増島麻里子編集：NICE　看護学テキスト「エンドオブライフケア」南江堂、東京、2022.
その他授業時紹介する。

資格との関連

看護師国家試験に関連している教科である。

学生へのメッセージ

緩和ケア、エンド・オブ・ライフケアの理解を深め、自分の死生観をしっかり持てるよう、テキストや配布資料、文献をよく読み考える学習をして欲しい。

実務との関連

看護師としての実務経験あり。それらの経験をもとに緩和ケア、エンド・オブ・ライフケアについて講義する

授業計画表

	内容	予習	復習
1	エンドオブライフケア アドバンスケアプランニング 緩和ケア	成人看護学概論などの参考となる箇所を読んでくる。	配布資料を読み直し、参考テキストも使用しながら、授業の内容・論点を整理する
2	全人的苦痛の理解とケアの実践 身体的ケア①	資料の該当箇所を読む	配布資料を読み直し、参考テキストも使用しながら、授業の内容・論点を整理する
3	全人的苦痛の理解とケアの実践 身体的ケア②	資料の該当箇所を読む	配布資料を読み直し、参考テキストも使用しながら、授業の内容・論点を整理する
4	全人的ケアの実践 精神的　社会的　スピリチュアル(霊的)ケア	資料の該当箇所を読む	配布資料を読み直し、参考テキストも使用しながら、授業の内容・論点を整理する
5	意思決定支援、コミュニケーション 緩和ケアの広がり	資料やテキストの該当箇所を読んでくる	配布資料を読み直し、参考テキストも使用しながら、授業の内容・論点を整理する
6	事例で学ぶエンドオブライフケア 多様な疾患や状態にある人のアセスメント、ケアの実際とポイント	資料の該当箇所を読む	配布資料を読み直し、参考テキストも使用しながら、授業の内容・論点を整理する
7	臨死期のケア 家族のケア 医療スタッフのケア	資料の該当箇所を読む	配布資料を読み直し、参考テキストも使用しながら、授業の内容・論点を整理する
8	緩和ケア認定看護師の実践 緩和ケアの実際	資料の該当箇所を読む	配布資料を読み直し、参考テキストも使用しながら、授業の内容・論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020061000	災害看護活動論					
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	看護学科			担当教員	坂本　弘子		

学習目標(到達目標)

1. 災害および災害看護に関する基礎的知識について述べることができる。
2. 災害発生時の社会の対応やしくみ、被災者および援助者の心理について述べることができる。
3. 災害各期における看護活動と災害時に必要な技術について述べることができる。
4. 病院における災害看護と倫理・教育・理論について述べることができる。
5. 対象別にみた災害看護の実践について述べることができる。

授業概要(教育目的)

近年、地球温暖化に伴う気候変動などの影響もあり災害の頻度や規模が拡大し、被害が増大している。本学の所在地は、地震・津波の多発地であり、常に災害の危険に瀕しているといえる。災害がおこれば被災傷病者が発生し、当然医療・看護への要請が高くなる。そのため災害看護を理解し、災害時に適切な救援活動を行えるように、看護職としてのみならず、救援チームとして活動できるような知識・技術を身に付ける。地域的な特徴を生かして、災害看護を実践的に学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

演習への参加状況とレポートで評価をする

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に対応する。

参考文献

救急看護(医学書院)
応急手当普及員講習テキスト
授業時適宜資料を配布する

講義時使用テキスト

災害看護学 (南江堂)

資格との関連

普通救命講習Ⅱ修了証
看護師国家試験受験資格

学生へのメッセージ

災害現場での救命処置やトリアージに必要なフィジカルアセスメントを学ぶことで、災害看護活動に取り組み社会へ貢献しましょう。

実務との関連

看護師・救急救命士・応急手当普及員の資格を持ち、長い臨床経験がある。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	災害および災害看護に関する基礎的知識	テキストの講義内容と一致する部分を読み要点をまとめる	講義資料とテキストを読み、理解不十分な点を調べ学習をする
2	災害発生時の社会の対応やしくみ、および被災者・援助者の心理	テキストの講義内容と一致する部分を読み要点をまとめる	講義資料とテキストを読み、理解不十分な点を調べ学習をする
3	災害各期における看護活動と必要な技術、倫理・教育・理論	テキストの講義内容と一致する部分を読み要点をまとめる	講義資料とテキストを読み、理解不十分な点を調べ学習をする
4	対象別にみた災害看護の実践	テキストの講義内容と一致する部分を読み要点をまとめる	普通救命講習テキストを読む
5	救命のための心肺蘇生法とAEDの使用方法　演習	普通救命講習テキストを読む	講義資料とテキストを読み、理解不十分な点を調べ学習をする
6	出血時の止血法と骨折時の固定法その他の応急手当　演習	普通救命講習テキストを読む	講義資料とテキストを読み、理解不十分な点を調べ学習をする
7	災害看護の実践:災害トリアージの実際　演習	テキストと配布資料の担当箇所を読む	講義資料とテキストを読み、理解不十分な点を調べ学習をする
8	災害看護の実践:救護方法・搬送方法　演習	テキストと配布資料の担当箇所を読む	講義資料とテキストを読み、理解不十分な点を調べ学習をする

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020062000 国際看護活動論						
年度	2026	開講時期	後期前半	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	工藤　恵子		

学習目標(到達目標)

1. 看護職として世界の人々の健康に目を向ける必要性を説明できる。
2. 紛争や貧困、様々な格差が人々の健康に与える影響について説明できる。
3. グローバリゼーションが進展している中で、保健医療においてどのような活動ができるか意見を述べる。
4. 多様な文化背景をもつ人々に適切なヘルスケアを提供できるよう異文化の対象理解を促進することができる。

授業概要(教育目的)

グローバリゼーションがますます進展している現在、同じ地球上に住む人間として、世界中の人々が互いに助けあい健康に生きていくことが求められている。看護職として、国内外の人々に関心を寄せながら文化背景を考慮しつつ、健康の向上のために国際的に協力することが期待されている。世界各国の人々の生活や健康状態の現実を見極め、日本の看護職として国際的な視野で協力活動ができるようその方法を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

課題レポート・リフレクションシートによる評価

課題に対するフィードバック

課題(レポート・リフレクションシート)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

1. 授業時適宜資料を配布する。

講義時使用テキスト

1. 国際看護学(医学書院)

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

看護師として総合病院に勤務。医療機関での実務経験をもとに国際看護について話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	健康に影響する世界の課題	テキストの該当箇所を読んでくる。	テキストの該当箇所を読み、要点をまとめる。
2	少数派の理解や多様性の尊重、積極的に共生する能力や精神と態度(グループワーク)	テキストの該当箇所を読んでくる。	テキストの該当箇所を読み、要点をまとめる。
3	国際看護学の定義および対象	テキストの該当箇所を読んでくる。	テキストの該当箇所を読み、要点をまとめる。
4	国際看護に関連する基礎知識	テキストの該当箇所を読んでくる。	テキストの該当箇所を読み、要点をまとめる。
5	日本における文化や制度を考慮した在留外国人への看護(グループワーク)	テキストの該当箇所を読んでくる。	テキストの該当箇所を読み、要点をまとめる。
6	国際協力の基礎知識	テキストの該当箇所を読んでくる。	テキストの該当箇所を読み、要点をまとめる。
7	国際協力と看護	テキストの該当箇所を読んでくる。	テキストの該当箇所を読み、要点をまとめる。
8	国際看護学における教育	テキストの該当箇所を読んでくる。	テキストの該当箇所を読み、要点をまとめる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020063000 へき地看護活動論						
年度	2026	開講時期	後期前半	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	築場　理利子		

学習目標(到達目標)

1. へき地医療の理念、わが国・青森県のへき地保健医療対策を説明できる。
2. へき地の特性や地域住民の生活と健康について特徴を説明できる。
3. へき地医療、へき地看護活動の方法について特徴を説明できる。
4. へき地看護活動論で学んだことをこれからの看護にどのように活かすか説明できる。

授業概要(教育目的)

へき地では、その地域的特性から環境的・人的・物的にも限られた資源の中で、包括的な看護活動が必要となる。本授業ではへき地医療の理念を踏まえて、へき地の特性や地域住民の生活を理解し、ヘルスニーズに沿ったへき地医療看護の特徴について学ぶ。ICTを活用した遠隔地医療なども含めた関係機関との連携や協働体制の構築に関わる看護の機能・役割を考え、へき地における看護活動の方法を考える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

・講義終了後の科目レポート、授業への参加度(演習の発表、グループワークの参加状況、授業中の発言等)で総合的に評価する。
採点配分:科目レポート60点、課題提出スライド10点、医療セミナー感想レポート10点、グループワーク発表・参加度10点、授業後のレスポンスカード10点

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には、個別に開示する。

参考文献

必要時、紹介する。

講義時使用テキスト

テキストは「なし」
講義ごとに資料を配布する。

資格との関連

へき地看護について、国家試験にも出題されてきている。

学生へのメッセージ

看護師の活躍する場も多様化している。医療が行き届かい場での人々の健康を守ることも看護師として
重要な役割である。へき地看護を学ぶことで、広い視野で物事を考えることができ、看護の視点が広がると思われる。

実務との関連

一部の講義は、実際に看護活動をしている看護師が実施する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	へき地およびへき地医療の定義と理念	授業内容について文献・インターネット等で調べる	授業の内容を整理し、配布資料を読み直しポイントをまとめる。
2	わが国および青森県のへき地保健医療対策の理解	授業内容について文献・インターネット等で調べる	授業の内容を整理し、配布資料を読み直しポイントをまとめる。
3	へき地における医療・看護活動の実際①	授業内容について文献・インターネット等で調べる	授業の内容を整理し、配布資料を読み直しポイントをまとめる。
4	へき地における医療・看護活動の実際②	授業内容について文献・インターネット等で調べる	授業の内容を整理し、配布資料を読み直しポイントをまとめる。
5	へき地における住民の生活と健康の理解	授業内容について文献・インターネット等で調べる	授業の内容を整理し、配布資料を読み直しポイントをまとめる。
6	へき地看護におけるICT活用と遠隔医療の理解	授業内容について文献・インターネット等で調べる	授業の内容を整理し、配布資料を読み直しポイントをまとめる。
7	へき地で働く看護職に求められる専門性① ・グループワーク	授業内容について文献・インターネット等で調べる	授業の内容を整理し、配布資料を読み直しポイントをまとめる。
8	へき地で働く看護職に求められる専門性② ・発表およびまとめ	授業内容について文献・インターネット等で調べる	授業の内容を整理し、配布資料を読み直しポイントをまとめる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020063001 僻地看護活動論						
年度	2026	開講時期	後期前半	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

1. へき地医療の理念、わが国・青森県のへき地保健医療対策を説明できる。
2. へき地の特性や地域住民の生活と健康について特徴を説明できる。
3. へき地医療、へき地看護活動の方法について特徴を説明できる。
4. へき地看護活動論で学んだことをこれからの看護にどのように活かすか説明できる。

授業概要(教育目的)

へき地では、その地域的特性から環境的・人的・物的にも限られた資源の中で、包括的な看護活動が必要となる。本授業ではへき地医療の理念を踏まえて、へき地の特性や地域住民の生活を理解し、ヘルスニーズに沿ったへき地医療看護の特徴について学ぶ。ICTを活用した遠隔地医療なども含めた関係機関との連携や協働体制の構築に関わる看護の機能・役割を考え、へき地における看護活動の方法を考える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

・各講義後のレポート、授業への参加度等で総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には、個別に開示する。

参考文献

必要時、紹介する。

講義時使用テキスト

テキストは「なし」だが、講義ごとに資料を配布する。

資格との関連

へき地看護について、国家試験にも出題されてきている。

学生へのメッセージ

看護師の活躍する場も多様化している。医療が行き届かい場での人々の健康を守ることも看護師として
重要な役割である。
へき地看護を学ぶことで、広い視野で物事を考えることができ、看護の視点が広がると思われる。

実務との関連

一部の講義は実際に看護活動をしている看護師やゲストティーチャーが実施する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	へき地および僻地医療の定義と理念	授業内容について文献・インターネット等で調べる	授業の内容を整理し、配布資料を読み直しポイントをまとめる。
2	わが国および青森県のへき地保健医療対策の理解	授業内容について文献・インターネット等で調べる	授業の内容を整理し、配布資料を読み直しポイントをまとめる。
3	へき地における医療・看護活動の実際①	授業内容について文献・インターネット等で調べる	授業の内容を整理し、配布資料を読み直しポイントをまとめる。
4	へき地における医療・看護活動の実際②	授業内容について文献・インターネット等で調べる	授業の内容を整理し、配布資料を読み直しポイントをまとめる。
5	へき地における住民の生活と健康の理解	授業内容について文献・インターネット等で調べる	授業の内容を整理し、配布資料を読み直しポイントをまとめる。
6	へき地看護におけるICT・AI活用について ・ゲストティーチャーによる講義	授業内容について文献・インターネット等で調べる	授業の内容を整理し、配布資料を読み直しポイントをまとめる。
7	へき地で働く看護職に求められる専門性① ・グループワーク	授業内容について文献・インターネット等で調べる	授業の内容を整理し、配布資料を読み直しポイントをまとめる。
8	へき地で働く看護職に求められる専門性② ・発表およびまとめ	授業内容について文献・インターネット等で調べる	授業の内容を整理し、配布資料を読み直しポイントをまとめる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020064000 統合看護実習						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	築場　理利子		

学習目標(到達目標)

1. 病院における看護の役割・機能と、看護管理の実際を説明できる。
2. 看護チームの役割とチームで協働することの実際を説明できる。
3. 専門職が連携・協働するプロセスの実際を説明できる。
4. 地域包括ケアシステムにおける地域連携・看看連携を説明できる。
5. 安全で安心な療養環境・職場環境づくりのための体制を説明できる。
6. 自己の看護観を深め、看護専門職者としての課題を述べることができる。

授業概要(教育目的)

1. 臨地実習の総まとめとして、地域包括ケアシステムをふまえた医療提供体制について理解を深め、医療チームの一員としてのこれまで学んだ知識・技術・態度を統合し、専門職としての役割遂行をめざした看護実践能力を高める。
2. 看護専門職としての役割・責務を学習し、自己の看護観を確認し、専門性を発展させるための課題を明確にし、卒業後の学習への動機につなげる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

実習評価表にもとづいて評価する。

課題に対するフィードバック

1. 日々の実習計画・看護計画などは教員や臨床指導者などに確認しアドバイスをうける。
2. 毎日の実習の学びをカンファレンスによりグループ内で共有する。学生同士の意見交換や、臨床指導者や教員からアドバイスがある。
3. 実習の評価について知りたい学生には個別で開示する。

参考文献

看護学科全てのテキスト、授業の資料等

講義時使用テキスト

指定テキスト無し。

資格との関連

看護師国家試験受験資格

学生へのメッセージ

大学4年間での最終の病院実習となり、今迄の実習や授業で学んだ総まとめの大事な臨地実習になります。実習方法は3年生までの患者1名受け持ちの看護過程を展開していくものではありません。複数患者受け持ちによる多重課題やタイムマネジメントの体得や看護管理者や専門・認定看護師等からの看護管理やチーム活動を学ぶとともに、入職時の様々なギャップを緩和するための実習にもなっています。初めは実習内容に戸惑うこともあるかと思いますが、その時は実習目標を読み返し臨んでください。皆さんが大きく成長できる実習だと思います。

実務との関連

担当教員全員が看護師として病院勤務経験、看護管理経験がある。それに基づいて実習指導を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	実習時期:4年次前期(7月) 実習期間:2週間 実習場所:八戸赤十字病院、青森労災病院、八戸市立市民病院、十和田市立中央病院 実習内容:実習要項に提示する。	看護技術項目は既実習で経験した項目を確認する。看護管理についてはテキスト、講義資料などを確認する。受け持ち患者の疾患や複数患者のケア方法などを自己学習する。	複数患者受け持ちは指導者のシャドウイングで看護過程を展開し、時間管理やケア・業務の優先度などの学びをまとめる。実習全体を通してグループごとに課題とした学習テーマについて学びをまとめ発表する。個人で実習まとめを記録する。

講義名	4020065001 公衆衛生看護学概論Ⅰ						
年度	2026	開講時期	後期前半	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	工藤　恵子		

学習目標(到達目標)

1)公衆衛生看護(学)の理念と概念について述べることができる。
2)公衆衛生看護(学)および公衆衛生看護活動とは何か説明できる。
3)公衆衛生看護活動の支援とは何かを理解することを通して、公衆衛生看護(学)の役割を考えることができる。

授業概要(教育目的)

看護の役割の多様性、活動の広がり、視野を広げることを目指し、地域保健および地域看護の基礎となる理念と活動の概要、地域の人々と健康、地域保健の場を含めて、地域の人々の健康課題に対応した地域看護活動の原理・原則を理解する。また、地域で生活する人々の健康支援をする保健師の公衆衛生看護活動の概要を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

小テスト・課題レポート等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

課題(レポート等)は次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。また、コメントして返却する。

参考文献

標美奈子著:標準保健師講座・1　公衆衛生看護学概論、医学書院
中村裕美子著:標準保健師講座・2　公衆衛生看護技術、医学書院
松田正己著:標準保健師講座・3　対象別公衆衛生看護活動、医学書院
井伊久美子、他著:保健師業務要覧、日本看護協会出版会
厚生労働統計協会:厚生の指標増刊　国民衛生の動向、厚生労働統計協会
日本公衆衛生協会:衛生行政大要、日本公衆衛生協会
※その他、参考となる書籍や文献等は授業中に適宜紹介する。

講義時使用テキスト

荒賀直子、他編:公衆衛生看護学　.jp、インターメディカル

資格との関連

本科目は、公衆衛生看護学(保健師国家試験受験資格)を選択し選抜された学生の必修科目となっている。

学生へのメッセージ

公衆衛生看護は、病気の有無、年齢等にかかわらず、地域で生活するすべての人を対象とした学問です。病院で入院治療を受けた患者さんもいずれ自宅、地域へ帰ります。保健師養成課程を希望していなくても、地域における看護活動のひとつとして、公衆衛生看護を是非学んでください。

実務との関連

看護職としての実務経験を活かし講義します。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	公衆衛生看護の概念	各授業内容の該当部分のテキスト、参考書は、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	講義後は、授業内容を整理し、次回講義前に整理しておくこと。不明点があれば、インターネットなどを用いて最新情報を確認し、疑問の論点整理をして次回講義にのぞむこと。
2	公衆衛生看護と地域看護	各授業内容の該当部分のテキスト、参考書は、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	講義後は、授業内容を整理し、次回講義前に整理しておくこと。不明点があれば、インターネットなどを用いて最新情報を確認し、疑問の論点整理をして次回講義にのぞむこと。
3	公衆衛生看護の対象と対象の健康と生活	各授業内容の該当部分のテキスト、参考書は、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	講義後は、授業内容を整理し、次回講義前に整理しておくこと。不明点があれば、インターネットなどを用いて最新情報を確認し、疑問の論点整理をして次回講義にのぞむこと。
4	公衆衛生看護活動における支援①	各授業内容の該当部分のテキスト、参考書は、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	講義後は、授業内容を整理し、次回講義前に整理しておくこと。不明点があれば、インターネットなどを用いて最新情報を確認し、疑問の論点整理をして次回講義にのぞむこと。
5	公衆衛生看護活動における支援②	各授業内容の該当部分のテキスト、参考書は、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	講義後は、授業内容を整理し、次回講義前に整理しておくこと。不明点があれば、インターネットなどを用いて最新情報を確認し、疑問の論点整理をして次回講義にのぞむこと。
6	公衆衛生看護活動における支援③	各授業内容の該当部分のテキスト、参考書は、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	講義後は、授業内容を整理し、次回講義前に整理しておくこと。不明点があれば、インターネットなどを用いて最新情報を確認し、疑問の論点整理をして次回講義にのぞむこと。
7	学びのシェア①	各授業内容の該当部分のテキスト、参考書は、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	講義後は、授業内容を整理し、次回講義前に整理しておくこと。不明点があれば、インターネットなどを用いて最新情報を確認し、疑問の論点整理をして次回講義にのぞむこと。
8	学びのシェア②	各授業内容の該当部分のテキスト、参考書は、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	講義後は、授業内容を整理し、次回講義前に整理しておくこと。不明点があれば、インターネットなどを用いて最新情報を確認し、疑問の論点整理をして次回講義にのぞむこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020068000 公衆衛生看護管理論						
年度	2026	開講時期	前期後半	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	工藤　恵子		

学習目標(到達目標)

1) 公衆衛生看護管理の目的と機能の基本的考え方を説明できる。
2) 住民の健康保持増進、地域ケアの質の確保のための施策化の方法について説明できる。
3) 健康危機管理、リスクマネジメントの方法、住民の権利保障、情報公開と個人情報の保護の方法について説明できる。
4) 地域保健研究の方法を身につける。

授業概要(教育目的)

公衆衛生看護管理の目的およびその機能を教示する。保健師が行う保健施策・事業の円滑な運営および人材育成等に必要な各種管理業務の方法を理解し、住民の健康保持増進、地域ケア(地域保健ケア)の質の確保のための施策化の方法について学ぶ。また、健康危機管理、リスクマネジメントの方法、住民の権利保障と情報公開、個人情報の保護の方法を身に付ける。保健師としてより質の高い公衆衛生看護活動を展開するための地域保健研究の方法を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

1.試験・評価は八戸学院大学試験規程に準ずる。60点以上を合格とし単位認定する。
2.筆記試験、グループワークの成果(企画書、指導案、作成媒体、実施内容、評価)等により、総合的に評価する。総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

・課題(レポート等)は次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。また、コメントして返却する。
・課題に関するグループワークについては、毎回学習成果を記録・提出させ、それに対してその都度コメントすることによってフィードバックする。また、プレゼンテーションについては、質問や学生同士のディスカッションを促すことによってフィードバックする。

講義時使用テキスト

荒賀直子、他編:公衆衛生看護学　.jp、インターメディカル

参考文献

標美奈子著:標準保健師講座・1　公衆衛生看護学概論、医学書院
中村裕美子著:標準保健師講座・2　公衆衛生看護技術、医学書院
松田正己著:標準保健師講座・3　対象別公衆衛生看護活動、医学書院
井伊久美子、他著:保健師業務要覧、日本看護協会出版会
厚生労働統計協会:厚生の指標増刊　国民衛生の動向、厚生労働統計協会
※その他、参考となる書籍や文献等は授業中に適宜紹介する。

資格との関連

本科目は、公衆衛生看護学(保健師国家試験受験資格)を選択し選抜された学生の必修科目となっている。

学生へのメッセージ

実務との関連

本科目は、市町村保健師として公衆衛生看護管理の経験する教員が担当する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	公衆衛生看護における管理とは:目的、機能	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
2	公衆衛生看護管理について:業務管理、情報管理	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
3	公衆衛生看護管理について:事例管理、地区管理	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
4	公衆衛生看護管理について:組織運営、人事管理、人材育成	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
5	公衆衛生看護管理について:予算管理	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
6	公衆衛生看護管理について:健康危機管理、災害時マネジメント	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
7	公衆衛生看護管理について:事業化、施策化、政策形成	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
8	公衆衛生看護研究について	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020069000 公衆衛生看護学実習Ⅰ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	柴生田　英香		

学習目標(到達目標)

1) 保健医療福祉行政における保健所の役割・機能の基本的考え方を説明できる。
2) 保健所の主な業務内容を説明できる。
3) 保健所に所属する保健師の役割と主な業務内容を説明できる。
4) 保健所の円滑な運営のための公衆衛生看護管理の基本的考え方を説明できる。

授業概要(教育目的)

地域保健における保健福祉サービス提供システムの構築、運営とマネジメントについて、実際の保健所事業の見学や実践をとおして理解を深める。保健所および保健サービス提供体制、公衆衛生看護活動の実際を経験して理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

実習ガイダンスを含めた実習内容(事前準備、実習の取り組み状況・参加状況・グループワークの状況や貢献度、実習中・実習後のカンファレンス等での発言や意見交換の状況等)および実習態度(遅刻・欠席を含む態度全般)、実習記録物の提出状況と内容、学生の自己評価、実習指導者評価等から総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート等)はコメントして返却する。

参考文献

授業時使用したテキストおよび参考文献、資料等の全て。

講義時使用テキスト

授業時使用したテキスト(公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護支援論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護活動展開論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護管理論、その他関係する講義のテキスト等)

資格との関連

本科目は、公衆衛生看護学(保健師国家試験受験資格)を選択し選抜された学生の必修科目となっている。

学生へのメッセージ

実務との関連

市町村で保健師として勤務した経験のある教員、都道府県保健師としての経験がある教員、看護職として臨床看護や地域看護に従事した経験のある教員とで実習指導を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1.実習期間:1週間 2.実習時期:4年次秋学期 3.実習場所:青森県内の保健所(県型保健所または中核市保健所) 4.実習内容:実習保健所に所属する保健師の指導のもと、保健師と行動を共にし、保健所における保健師業務を見学または実践する。実習内容の詳細については実習要項で提示する。	これまでの講義・演習内容を十分に復習し、事前課題をもとに確認する。テキストや参考書、実習要項を熟読し、実習目的・目標を理解し、自己の実習目標を立案する。	日々の学びについて実習記録をもとに整理する。また、実習後のディスカッション等を通じてグループワーク内で学びを共有し、自己の理解を踏まえる。さらに、実習で学んだ内容を整理し、カンファレンスを行い、まとめレポートを作成する

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020070000 公衆衛生看護学実習Ⅱ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	古舘　美喜子		

学習目標(到達目標)

1)保健医療福祉行政における市町村および保健師の役割・機能の基本的な考え方を説明できる。
2)住民特性・地域特性に合わせた保健事業、関連職種、関係機関との連携について説明できる。
3)市町村における保健福祉事業の目的や展開プロセスを説明できる。
4)保健福祉計画策定やケアシステムの構築における保健師の役割について説明できる。

授業概要(教育目的)

市町村における保健サービス提供体制、公衆衛生看護活動の実際を経験する。市町村における保健福祉事業の目的や展開プロセスを理解し、住民特性・地域特性に合わせた保健事業、関連職種との連携の実際について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

実習ガイダンスを含めた実習内容(事前準備、実習の取り組み状況・参加状況・グループワークの状況や貢献度、実習中・実習後のカンファレンス等での発言や意見交換の状況等)および実習態度(遅刻・欠席を含む態度全般)、実習記録物の提出状況と内容、学生の自己評価、実習指導者評価等から総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート等)はコメントして返却する。

参考文献

授業時使用したテキストおよび参考文献、資料等の全て。

講義時使用テキスト

授業時使用したテキスト(公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護支援論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護活動展開論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護管理論、その他関係する講義等)

資格との関連

本科目は、公衆衛生看護学(保健師国家試験受験資格)を選択し選抜された学生の必修科目となっている。

学生へのメッセージ

実務との関連

看護職として実務経験をもとに公衆衛生看護学実習Ⅱに対応する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	実習期間:3週間 実習期間:4年次秋学期 実習場所:青森県内の市町村および産業保健に関わる施設 実習内容:実習場所に所属する保健師と行動を共にし、地域住民及び労働者の健康の保持増進のための保健福祉サービス提供のシステムおよび保健師の働きを学習する。実習内容の詳細については実習要項で提示する。	これまでの講義・演習内容を十分に復習し、事前課題をもとに確認する。テキストや参考書、実習要項を熟読し、実習目的・目標を理解し、自己の実習目標を立案する。	日々の学びについて実習記録をもとに整理する。また、実習後のディスカッション等を通じてグループワーク内で学びを共有し、自己の理解を踏まめる。さらに、実習で学んだ内容を整理し、カンファレンスを行い、まとめレポートを作成する

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020071000 看護学研究法						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	看護学科			担当教員	溝江　弓恵		

学習目標(到達目標)

1. 看護研究の意義と概要，研究の進め方を説明できる。
2. データベースを活用して文献検索ができる。
3. クリティークの意義を理解し，実践することができる。
4. 看護研究における倫理原則と輪的配慮について説明できる。
5. 量的研究・質的研究それぞれの概要と特徴を説明できる。
6. 研究計画書の構成を理解し，自分の関心のあるテーマに基づいて研究計画書を作成できる。
7. 研究論文の書き方や研究成果の発表方法について説明できる。

授業概要(教育目的)

看護における研究の意義と研究のプロセスを学び，研究の基礎的能力を養う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと，地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけることと関連する。

評価方法

小テスト，個人課題(課題レポートや研究計画書など)の提出状況，グループワークへの参加態度に基づいて総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題レポートは次の授業で代表的なものをフィードバックする。
小テストはWeb Class活用して実施し，採点結果を表示する。

参考文献

小林亜美編，看護研究 日々のケアの知りたいと追及する，学研，2023.
桂敏樹，星野明子編，かんたん看護研究計画書 書き方ガイド，南江堂，2025.

講義時使用テキスト

前田ひとみ編，ナーシング・グラフィカ基礎看護学④看護研究，メディカ出版，2024.

資格との関連

看護師国家試験受験資格と関連する。

学生へのメッセージ

個人課題は，講義資料，テキスト・参考書等を活用して主体的に行ってください。また，学習効果を上げるために，グループワークでは遅刻や欠席をせず，積極的に参加するようにしてください。

実務との関連

臨床経験をもとに看護ケアの質を高めるための看護研究について理解が深まるように教育する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 看護研究とは	テキストの該当箇所を読み，論点を把握しておく	テキスト，配布資料を読み直し，論点を整理する
2	2. 研究課題(テーマ)の選定 ・日々の疑問点をグループで出し合い，リサーチクエスチョンの絞り込み・発表をする	テキストの該当箇所を読み，論点を把握しておく	テキスト，配布資料を読み直し，論点を整理する 課題(PICOおよびPECOを活用した研究課題の検討)を記入し提出する
3	3. 文献検索 ・気になるキーワードについてデータベースを用いて検索する	テキストの該当箇所を読み，論点を把握しておく 関連動画『文献検索の方法』を視聴する	テキスト，配布資料を読み直し，論点を整理する
4	4. 論文クリティーク①	テキストの該当箇所を読み，論点を把握しておく 関連動画『ジャーナルクラブ』を視聴する	テキスト，配布資料を読み直し，論点を整理する
5	5. 論文クリティーク② ・クリティークでわかったことをグループで話し合い，意見交換をする	配布された原著論文を読む テキストの該当箇所を読み，論点を把握しておく	テキスト，配布資料を読み直し，論点を整理する
6	6. 研究における倫理	テキストの該当箇所を読み，論点を把握しておく	テキスト，配布資料を読み直し，論点を整理する
7	7. 量的研究の基礎①(量的研究の概要)	テキストの該当箇所を読み，論点を把握しておく	テキスト，配布資料を読み直し，論点を整理する
8	8. 量的研究の基礎②(調査研究，介入研究)	テキストの該当箇所を読み，論点を把握しておく	テキスト，配布資料を読み直し，論点を整理する
9	9. 量的研究の基礎③(量的研究のデータ分析)	テキストの該当箇所を読み，論点を把握しておく 関連動画『統計的仮説検定の手順』『仮説検定における第一種の過誤と第二種の過誤』『相関分析と回帰分析の違い』を視聴する	テキスト，配布資料を読み直し，論点を整理する
10	10. 質的研究の基礎①(質的研究の概要，主な質的研究方法)	テキストの該当箇所を読み，論点を把握しておく	テキスト，配布資料を読み直し，論点を整理する
11	11. 質的研究の基礎②(文献研究，事例研究)	テキストの該当箇所を読み，論点を把握しておく 関連動画『看護研究における面接法』を視聴する	テキスト，配布資料を読み直し，論点を整理する
12	12. クリティークの実践 ・既習内容を生かし，関心のあるテーマで論文クリティークを実施する	関心のある研究課題(テーマ)の文献を入手して読む テキストの該当箇所を読み，論点を把握しておく	テキスト，配布資料を読み直し，論点を整理する
13	13. 研究計画書の作成① ・関心のあるテーマで研究計画書を作成する	関心のある研究課題の研究計画を検討する	テキスト，配布資料を読み直し，論点を整理する
14	14. 研究計画書の作成② ・グループ内で研究計画書を発表し，意見交換を行う	研究計画書について他者にわかりやすく説明できるよう準備する	テキスト，配布資料を読み直し，論点を整理する
15	15. 研究成果のまとめと公表	テキストの該当箇所を読み，論点を把握しておく 関連動画『学会発表』『魅力的な発表資料の作り方』を視聴する	授業の内容を整理し，要点をまとめる

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020072000 看護卒業研究						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

1. 関心のあるテーマに沿って研究計画を立案することができる。
2. 研究計画にもとづいて研究プロセスを進めることができる。
3. 卒業研究論文として成果をまとめることができる。
4. ゼミ内または学内において成果を発表し意見交換することができる。

授業概要(教育目的)

看護学に関する学生各自の気づきや関心を深め、広範な知識と高度な専門性を追求し、各自の研究計画に基づいて研究のプロセスを進め、看護研究論文として成果をまとめる。指導教員の専門性に沿った研究テーマ毎に、少人数のゼミナール形式の活動をする。研究成果は、卒業論文として作成提出ののち、学生が主体的に企画運営するゼミ内発表・学内発表等プレゼンテーションを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

各ゼミの担当教員からの指示により、研究計画書もしくは課題レポートを提出し、評価表に基づいて評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミナールの担当教員と担当学生の間で、ゼミを行う毎に指導を受ける。
最終評価を知りたい学生については個別に開示する。

参考文献

講義時使用テキスト

各ゼミの担当教員から必要に応じて提示される。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

指導教員全員、看護師または医師として実務経験があり、それにもどついて看護研究の指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 卒業研究ガイダンス、研究課題提出 2. ゼミナール：以降担当教員別GW 3. 課題学習・ゼミ内発表 4. 文献検索演習：医学中央雑誌Webの 利用、その 他の 検索 5. 先行研究文献のレビュー・クリティーク 6. 研究計画の 立案 7. 研究倫理審査手続き 8. 外部機関への 研究協力の 依頼(必要がある場合) 9. 調査・実験等の 実施 10. 収集されたデータの 取りまとめ、入力(必要な場合)、解析 11. 課題の 考察 12. 論文作成・提出 13. 研究成果のゼミ内報告会：発表と運営 14. 研究成果の 学内報告会：発表と運営 15. 卒業研究論文の 抄録集および論文集の 作成・製本	研究課題に沿って先行研究の文献レビュー・クリティークしたり、研究準備などそれぞれの 指導のもとに予習する。	ゼミ都度、文献をまとめたり、研究計画などまとめたり、結果、考察をまとめたりする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020072424 看護卒業研究（田中克枝）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	田中　克枝		

学習目標(到達目標)

1. テーマとなる研究課題を明確に示すことができる。
2. 文献を批判的に読解し、テーマに関連づけて説明できる。
3. 研究計画書を立案し、研究計画書を作成することができる。
4. 研究計画書に基づいて、一連の研究プロセスを進めることができる。
5. 卒業研究論文として研究成果をまとめることができる。
6. 研究内容をまとめ、研究成果を発表することができる。また、意見交換を通じて発表内容を共有し、学生個々の看護観を深めることができる。

授業概要(教育目的)

・看護学に関する学生各自の気づきや関心を深め、広範な知識と高度な専門性を追求し、各自の研究計画に基づいて研究のプロセスを進め、卒業研究論文として成果をまとめる。
・指導教員の専門性に沿った研究テーマ毎に企画運営するゼミ内発表・学内発表等プレゼンテーションを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

各ゼミの担当教員からの指示により、研究計画書もしくは課題レポートを提出し、評価表に基づいて評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミナールの担当教員と担当学生の間で、ゼミを行う毎に指導を受ける。
最終評価を知りたい学生については個別に開示する。

参考文献

各ゼミの担当教員が適宜提示する。

講義時使用テキスト

各ゼミの担当教員が必要に応じて提示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

指導教員全員、看護師または医師として実務経験があり、それにもどついて看護研究の指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 卒業研究ガイダンス(オリエンテーション)、研究課題提出 2. ゼミナール：担当教員別グループワーク 3. 課題学習・ゼミ内発表 4. 文献検索演習：医学中央雑誌Webの 利用、その 他の 検索 5. 先行研究文献のレビュー・クリティーク 6. 研究計画の 立案 7. 研究倫理審査手続き 8. 外部機関への 研究協力の 依頼(必要がある場合) 9. 調査・実験等の 実施 10. 収集されたデータの 取りまとめ、入力、解析(必要のある場合) 11. 課題の 考察 12. 論文作成・提出 13. 研究成果のゼミ内報告会：発表と運営 14. 研究成果の 学内報告会：発表と運営 15. 卒業研究論文の 抄録集および論文集の 作成・製本	研究課題に沿って 先行研究の 文献レビュー・クリティークしたり、研究準備などそれぞれの 指導のもとに 予習する。	ゼミのメンバーで、文献をまとめたり、研究計画などまとめたり、結果、考察をまとめたりする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020072425 看護卒業研究（壬生寿子）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	壬生　寿子		

学習目標(到達目標)

1. テーマとなる研究課題を明確に示すことができる。
2. 文献を批判的に読解し、テーマに関連づけて説明できる。
3. 研究計画書を立案し、研究計画書を作成することができる。
4. 研究計画書に基づいて、一連の研究プロセスを進めることができる。
5. 卒業研究論文として研究成果をまとめることができる。
6. 研究内容をまとめ、研究成果を発表することができる。また、意見交換を通じて発表内容を共有し、学生個々の看護観を深めることができる。

授業概要(教育目的)

・看護学に関する学生各自の気づきや関心を深め、広範な知識と高度な専門性を追求し、各自の研究計画に基づいて研究のプロセスを進め、卒業研究論文として成果をまとめる。
・指導教員の専門性に沿った研究テーマ毎に企画運営するゼミ内発表・学内発表等プレゼンテーションを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

・地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

各ゼミの担当教員からの指示により、研究計画書もしくは課題レポートを提出し、評価表に基づいて評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミナールの担当教員と担当学生の間で、ゼミを行う毎に指導を受ける。
最終評価を知りたい学生については個別に開示する。

参考文献

各ゼミの担当教員が適宜提示する。

講義時使用テキスト

各ゼミの担当教員が必要に応じて提示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

領域の特性を活かしたテーマ設定をする。

実務との関連

指導教員全員、看護師または医師として実務経験があり、それに基づいて看護研究の指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 卒業研究ガイダンス(オリエンテーション)、研究課題提出 2. ゼミナール：担当教員別グループワーク 3. 課題学習・ゼミ内発表 4. 文献検索演習：医学中央雑誌Webの 利用、その 他の 検索 5. 先行研究文献のレビュー・クリティーク 6. 研究計画の 立案 7. 研究倫理審査手続き 8. 外部機関への 研究協力の 依頼(必要がある場合) 9. 調査・実験等の 実施 10. 収集されたデータの 取りまとめ、入力、解析(必要のある場合) 11. 課題の 考察 12. 論文作成・提出 13. 研究成果のゼミ内報告会：発表と運営 14. 研究成果の 学内報告会：発表と運営 15. 卒業研究論文の 抄録集および論文集の 作成・製本	研究課題に沿って 先行研究の 文献レビュー・クリティークしたり、研究準備などそれぞれの 指導のもとに 予習する。	ゼミのメンバーで、文献をまとめたり、研究計画などまとめたり、結果、考察をまとめたりする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020072427 看護卒業研究（小沢久美子）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	小沢　久美子		

学習目標(到達目標)

1. テーマとなる研究課題を明確に示すことができる。
2. 文献を批判的に読解し、テーマに関連づけて説明できる。
3. 研究計画書を立案し、研究計画書を作成することができる。
4. 研究計画書に基づいて、一連の研究プロセスを進めることができる。
5. 卒業研究論文として研究成果をまとめることができる。
6. 研究内容をまとめ、研究成果を発表することができる。また、意見交換を通じて発表内容を共有し、学生個々の看護観を深めることができる。

授業概要(教育目的)

・看護学に関する学生各自の気づきや関心を深め、広範な知識と高度な専門性を追求し、各自の研究計画に基づいて研究のプロセスを進め、卒業研究論文として成果をまとめる。
・指導教員の専門性に沿った研究テーマ毎に企画運営するゼミ内発表・学内発表等プレゼンテーションを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

各ゼミの担当教員からの指示により、研究計画書もしくは課題レポートを提出し、評価表に基づいて評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミナールの担当教員と担当学生の間で、ゼミを行う毎に指導を受ける。
最終評価を知りたい学生については個別に開示する。

参考文献

各ゼミの担当教員が適宜提示する。

講義時使用テキスト

各ゼミの担当教員が必要に応じて提示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

指導教員全員、看護師または医師として実務経験があり、それにもどついて看護研究の指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 卒業研究ガイダンス(オリエンテーション)、研究課題提出 2. ゼミナール：担当教員別グループワーク 3. 課題学習・ゼミ内発表 4. 文献検索演習：医学中央雑誌Webの 利用、その 他の 検索 5. 先行研究文献のレビュー・クリティーク 6. 研究計画の 立案 7. 研究倫理審査手続き 8. 外部機関への 研究協力の 依頼(必要がある場合) 9. 調査・実験等の 実施 10. 収集されたデータの 取りまとめ、入力、解析(必要のある場合) 11. 課題の 考察 12. 論文作成・提出 13. 研究成果のゼミ内報告会：発表と運営 14. 研究成果の 学内報告会：発表と 運営 15. 卒業研究論文の 抄録集および論文集の 作成・製本	研究課題に沿って 先行研究の 文献レビュー・クリティークしたり、研究準備などそれぞれの 指導のもとに 予習する。	ゼミのメンバーで、文献をまとめたり、研究計画などまとめたり、結果、考察をまとめたりする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020072431 看護卒業研究（工藤恵子）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	工藤　恵子		

学習目標(到達目標)

1. テーマとなる研究課題を明確に示すことができる。
2. 文献を批判的に読解し、テーマに関連づけて説明できる。
3. 研究計画書を立案し、研究計画書を作成することができる。
4. 研究計画書に基づいて、一連の研究プロセスを進めることができる。
5. 卒業研究論文として研究成果をまとめることができる。
6. 研究内容をまとめ、研究成果を発表することができる。また、意見交換を通じて発表内容を共有し、学生個々の看護観を深めることができる。

授業概要(教育目的)

・看護学に関する学生各自の気づきや関心を深め、広範な知識と高度な専門性を追求し、各自の研究計画に基づいて研究のプロセスを進め、卒業研究論文として成果をまとめる。
・指導教員の専門性に沿った研究テーマ毎に企画運営するゼミ内発表・学内発表等プレゼンテーションを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

各ゼミの担当教員からの指示により、研究計画書もしくは課題レポートを提出し、評価表に基づいて評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミナールの担当教員と担当学生の間で、ゼミを行う毎に指導を受ける。
最終評価を知りたい学生については個別に開示する。

参考文献

各ゼミの担当教員が適宜提示する。

講義時使用テキスト

各ゼミの担当教員が必要に応じて提示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

指導教員全員、看護師または医師として実務経験があり、それにもどついて看護研究の指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 卒業研究ガイダンス(オリエンテーション)、研究課題提出 2. ゼミナール：担当教員別グループワーク 3. 課題学習・ゼミ内発表 4. 文献検索演習：医学中央雑誌Webの 利用、その 他の 検索 5. 先行研究文献のレビュー・クリティーク 6. 研究計画の 立案 7. 研究倫理審査手続き 8. 外部機関への 研究協力の 依頼(必要がある場合) 9. 調査・実験等の 実施 10. 収集されたデータの 取りまとめ、入力、解析(必要のある場合) 11. 課題の 考察 12. 論文作成・提出 13. 研究成果のゼミ内報告会：発表と運営 14. 研究成果の 学内報告会：発表と運営 15. 卒業研究論文の 抄録集および論文集の 作成・製本	研究課題に沿って 先行研究の 文献レビュー・クリティークしたり、研究準備などそれぞれの 指導のもとに 予習する。	ゼミのメンバーで、文献をまとめたり、研究計画などまとめたり、結果、考察をまとめたりする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020072432 看護卒業研究（三浦広美）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	三浦　広美		

学習目標(到達目標)

1. テーマとなる研究課題を明確に示すことができる。
2. 文献を批判的に読解し、テーマに関連づけて説明できる。
3. 研究計画書を立案し、研究計画書を作成することができる。
4. 研究計画書に基づいて、一連の研究プロセスを進めることができる。
5. 卒業研究論文として研究成果をまとめることができる。
6. 研究内容をまとめ、研究成果を発表することができる。また、意見交換を通じて発表内容を共有し、学生個々の看護観を深めることができる。

授業概要(教育目的)

・看護学に関する学生各自の気づきや関心を深め、広範な知識と高度な専門性を追求し、各自の研究計画に基づいて研究のプロセスを進め、卒業研究論文として成果をまとめる。
・指導教員の専門性に沿った研究テーマ毎に企画運営するゼミ内発表・学内発表等プレゼンテーションを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

各ゼミの担当教員からの指示により、研究計画書もしくは課題レポートを提出し、評価表に基づいて評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミナールの担当教員と担当学生の間で、ゼミを行う毎に指導を受ける。
最終評価を知りたい学生については個別に開示する。

参考文献

各ゼミの担当教員が適宜提示する。

講義時使用テキスト

各ゼミの担当教員が必要に応じて提示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

指導教員全員、看護師または医師として実務経験があり、それにもどついて看護研究の指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 卒業研究ガイダンス(オリエンテーション)、研究課題提出 2. ゼミナール：担当教員別グループワーク 3. 課題学習・ゼミ内発表 4. 文献検索演習：医学中央雑誌Webの 利用、その 他の 検索 5. 先行研究文献のレビュー・クリティーク 6. 研究計画の 立案 7. 研究倫理審査手続き 8. 外部機関への 研究協力の 依頼(必要がある場合) 9. 調査・実験等の 実施 10. 収集されたデータの 取りまとめ、入力、解析(必要のある場合) 11. 課題の 考察 12. 論文作成・提出 13. 研究成果のゼミ内報告会：発表と運営 14. 研究成果の 学内報告会：発表と 運営 15. 卒業研究論文の 抄録集および論文集の 作成・製本	研究課題に沿って 先行研究の 文献レビュー・クリティークしたり、研究準備などそれぞれの 指導のもとに 予習する。	ゼミのメンバーで、文献をまとめたり、研究計画などまとめたり、結果、考察をまとめたりする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020072433 看護卒業研究（切明美保子）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	切明　美保子		

学習目標(到達目標)

1. テーマとなる研究課題を明確に示すことができる。
2. 文献を批判的に読解し、テーマに関連づけて説明できる。
3. 研究計画書を立案し、研究計画書を作成することができる。
4. 研究計画書に基づいて、一連の研究プロセスを進めることができる。
5. 卒業研究論文として研究成果をまとめることができる。
6. 研究内容をまとめ、研究成果を発表することができる。また、意見交換を通じて発表内容を共有し、学生個々の看護観を深めることができる。

授業概要(教育目的)

・看護学に関する学生各自の気づきや関心を深め、広範な知識と高度な専門性を追求し、各自の研究計画に基づいて研究のプロセスを進め、卒業研究論文として成果をまとめる。
・指導教員の専門性に沿った研究テーマ毎に企画運営するゼミ内発表・学内発表等プレゼンテーションを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

各ゼミの担当教員からの指示により、研究計画書もしくは課題レポートを提出し、評価表に基づいて評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミナールの担当教員と担当学生の間で、ゼミを行う毎に指導を受ける。
最終評価を知りたい学生については個別に開示する。

参考文献

各ゼミの担当教員が適宜提示する。

講義時使用テキスト

各ゼミの担当教員が必要に応じて提示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

指導教員全員、看護師または医師として実務経験があり、それにもどついて看護研究の指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 卒業研究ガイダンス(オリエンテーション)、研究課題提出 2. ゼミナール：担当教員別グループワーク 3. 課題学習・ゼミ内発表 4. 文献検索演習：医学中央雑誌Webの 利用、その 他の 検索 5. 先行研究文献のレビュー・クリティーク 6. 研究計画の 立案 7. 研究倫理審査手続き 8. 外部機関への 研究協力の 依頼(必要がある場合) 9. 調査・実験等の 実施 10. 収集されたデータの 取りまとめ、入力、解析(必要のある場合) 11. 課題の 考察 12. 論文作成・提出 13. 研究成果のゼミ内報告会：発表と運営 14. 研究成果の 学内報告会：発表と運営 15. 卒業研究論文の 抄録集および論文集の 作成・製本	研究課題に沿って 先行研究の 文献レビュー・クリティークしたり、研究準備などそれぞれの 指導のもとに 予習する。	ゼミのメンバーで、文献をまとめたり、研究計画などまとめたり、結果、考察をまとめたりする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020072434 看護卒業研究（市川裕美子）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	市川　裕美子		

学習目標(到達目標)

1. テーマとなる研究課題を明確に示すことができる。
2. 文献を批判的に読解し、テーマに関連づけて説明できる。
3. 研究計画書を立案し、研究計画書を作成することができる。
4. 研究計画書に基づいて、一連の研究プロセスを進めることができる。
5. 卒業研究論文として研究成果をまとめることができる。
6. 研究内容をまとめ、研究成果を発表することができる。また、意見交換を通じて発表内容を共有し、学生個々の看護観を深めることができる。

授業概要(教育目的)

・看護学に関する学生各自の気づきや関心を深め、広範な知識と高度な専門性を追求し、各自の研究計画に基づいて研究のプロセスを進め、卒業研究論文として成果をまとめる。
・指導教員の専門性に沿った研究テーマ毎に企画運営するゼミ内発表・学内発表等プレゼンテーションを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

各ゼミの担当教員からの指示により、研究計画書もしくは課題レポートを提出し、評価表に基づいて評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミナールの担当教員と担当学生の間で、ゼミを行う毎に指導を受ける。
最終評価を知りたい学生については個別に開示する。

参考文献

各ゼミの担当教員が適宜提示する。

講義時使用テキスト

各ゼミの担当教員が必要に応じて提示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

指導教員全員、看護師または医師として実務経験があり、それにもどついて看護研究の指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 卒業研究ガイダンス(オリエンテーション)、研究課題提出 2. ゼミナール：担当教員別グループワーク 3. 課題学習・ゼミ内発表 4. 文献検索演習：医学中央雑誌Webの 利用、その 他の 検索 5. 先行研究文献のレビュー・クリティーク 6. 研究計画の 立案 7. 研究倫理審査手続き 8. 外部機関への 研究協力の 依頼(必要がある場合) 9. 調査・実験等の 実施 10. 収集されたデータの 取りまとめ、入力、解析(必要のある場合) 11. 課題の 考察 12. 論文作成・提出 13. 研究成果のゼミ内報告会：発表と運営 14. 研究成果の 学内報告会：発表と運営 15. 卒業研究論文の 抄録集および論文集の 作成・製本	研究課題に沿って 先行研究の 文献レビュー・クリティークしたり、研究準備などそれぞれの 指導のもとに 予習する。	ゼミのメンバーで、文献をまとめたり、研究計画などまとめたり、結果、考察をまとめたりする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020072435 看護卒業研究（坂本保子）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	坂本　保子		

学習目標(到達目標)

1. テーマとなる研究課題を明確に示すことができる。
2. 文献を批判的に読解し、テーマに関連づけて説明できる。
3. 研究計画書を立案し、研究計画書を作成することができる。
4. 研究計画書に基づいて、一連の研究プロセスを進めることができる。
5. 卒業研究論文として研究成果をまとめることができる。
6. 研究内容をまとめ、研究成果を発表することができる。また、意見交換を通じて発表内容を共有し、学生個々の看護観を深めることができる。

授業概要(教育目的)

・看護学に関する学生各自の気づきや関心を深め、広範な知識と高度な専門性を追求し、各自の研究計画に基づいて研究のプロセスを進め、卒業研究論文として成果をまとめる。
・指導教員の専門性に沿った研究テーマ毎に企画運営するゼミ内発表・学内発表等プレゼンテーションを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

各ゼミの担当教員からの指示により、研究計画書もしくは課題レポートを提出し、評価表に基づいて評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミナールの担当教員と担当学生の間で、ゼミを行う毎に指導を受ける。
最終評価を知りたい学生については個別に開示する。

参考文献

各ゼミの担当教員が適宜提示する。

講義時使用テキスト

各ゼミの担当教員が必要に応じて提示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

指導教員全員、看護師または医師として実務経験があり、それにもどついて看護研究の指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 卒業研究ガイダンス(オリエンテーション)、研究課題提出 2. ゼミナール：担当教員別グループワーク 3. 課題学習・ゼミ内発表 4. 文献検索演習：医学中央雑誌Webの 利用、その 他の 検索 5. 先行研究文献のレビュー・クリティーク 6. 研究計画の 立案 7. 研究倫理審査手続き 8. 外部機関への 研究協力の 依頼(必要がある場合) 9. 調査・実験等の 実施 10. 収集されたデータの 取りまとめ、入力、解析(必要のある場合) 11. 課題の 考察 12. 論文作成・提出 13. 研究成果のゼミ内報告会：発表と運営 14. 研究成果の 学内報告会：発表と運営 15. 卒業研究論文の 抄録集および論文集の 作成・製本	研究課題に沿って 先行研究の 文献レビュー・クリティークしたり、研究準備などそれぞれの 指導のもとに 予習する。	ゼミのメンバーで、文献をまとめたり、研究計画などまとめたり、結果、考察をまとめたりする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020072437 看護卒業研究（坂本弘子）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	坂本　弘子		

学習目標(到達目標)

1. テーマとなる研究課題を明確に示すことができる。
2. 文献を批判的に読解し、テーマに関連づけて説明できる。
3. 研究計画を立案し、研究計画書を作成することができる。
4. 研究計画書に基づいて、一連の研究プロセスを進めることができる。
5. 卒業研究論文として研究成果をまとめることができる。
6. 研究内容をまとめ、研究成果を発表することができる。また、意見交換を通じて発表内容を共有し学生個々の看護観を深めることができる。

授業概要(教育目的)

・看護学に関する学生各自の気づきや関心を深め、広範な知識と高度な専門性を追求し、各自の研究計画に基づいて研究のプロセスを進め、卒業研究論文として成果をまとめる。
・指導教員の専門性に沿った研究テーマ毎に企画運営するゼミ内発表・学内発表等プレゼンテーションを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

各ゼミの担当教員からの指示により、研究計画書もしくは課題レポートを提出し、評価表に基づいて評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミナールの担当教員と担当学生の間で、ゼミを行う毎に指導を受ける。
最終評価を知りたい学生については個別に開示する。

参考文献

各ゼミの担当教員が適宜提示する。

講義時使用テキスト

各ゼミの担当教員が必要に応じて提示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

指導教員全員、看護師または医師として実務経験があり、それにもどついて看護研究の指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 卒業研究ガイダンス(オリエンテーション)、研究課題提出 2. ゼミナール：担当教員別グループワーク 3. 課題学習・ゼミ内発表 4. 文献検索演習：医学中央雑誌Webの 利用、その 他の 検索 5. 先行研究文献のレビュー・クリティーク 6. 研究計画の 立案 7. 研究倫理審査手続き 8. 外部機関への 研究協力の 依頼(必要がある場合) 9. 調査・実験等の 実施 10. 収集されたデータの 取りまとめ、入力、解析(必要のある場合) 11. 課題の 考察 12. 論文作成・提出 13. 研究成果のゼミ内報告会：発表と運営 14. 研究成果の 学内報告会：発表と運営 15. 卒業研究論文の 抄録集および論文集の 作成・製本	研究課題に沿って 先行研究の 文献レビュー・クリティークしたり、研究準備などそれぞれの 指導のもとに 予習する。	ゼミのメンバーで、文献をまとめたり、研究計画などまとめたり、結果、考察をまとめたりする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020072451 看護卒業研究（溝江弓恵）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	溝江　弓恵		

学習目標(到達目標)

1. テーマとなる研究課題を明確に示すことができる。
2. 文献を批判的に読解し、テーマに関連づけて説明できる。
3. 研究計画書を立案し、研究計画書を作成することができる。
4. 研究計画書に基づいて、一連の研究プロセスを進めることができる。
5. 卒業研究論文として研究成果をまとめることができる。
6. 研究内容をまとめ、研究成果を発表することができる。また、意見交換を通じて発表内容を共有し、学生個々の看護観を深めることができる。

授業概要(教育目的)

・看護学に関する学生各自の気づきや関心を深め、広範な知識と高度な専門性を追求し、各自の研究計画に基づいて研究のプロセスを進め、卒業研究論文として成果をまとめる。
・指導教員の専門性に沿った研究テーマ毎に企画運営するゼミ内発表・学内発表等プレゼンテーションを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

各ゼミの担当教員からの指示により、研究計画書もしくは課題レポートを提出し、評価表に基づいて評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミナールの担当教員と担当学生の間で、ゼミを行う毎に指導を受ける。
最終評価を知りたい学生については個別に開示する。

参考文献

各ゼミの担当教員が適宜提示する。

講義時使用テキスト

各ゼミの担当教員が必要に応じて提示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

指導教員全員、看護師または医師として実務経験があり、それにもどついて看護研究の指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 卒業研究ガイダンス(オリエンテーション)、研究課題提出 2. ゼミナール：担当教員別グループワーク 3. 課題学習・ゼミ内発表 4. 文献検索演習：医学中央雑誌Webの 利用、その 他の 検索 5. 先行研究文献のレビュー・クリティーク 6. 研究計画の 立案 7. 研究倫理審査手続き 8. 外部機関への 研究協力の 依頼(必要がある場合) 9. 調査・実験等の 実施 10. 収集されたデータの 取りまとめ、入力、解析(必要のある場合) 11. 課題の 考察 12. 論文作成・提出 13. 研究成果のゼミ内報告会：発表と運営 14. 研究成果の 学内報告会：発表と運営 15. 卒業研究論文の 抄録集および論文集の 作成・製本	研究課題に沿って 先行研究の 文献レビュー・クリティークしたり、研究準備などそれぞれの 指導のもとに 予習する。	ゼミのメンバーで、文献をまとめたり、研究計画などまとめたり、結果、考察をまとめたりする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020072452 看護卒業研究（古舘美喜子）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	古舘　美喜子		

学習目標(到達目標)

1. テーマとなる研究課題を明確に示すことができる。
2. 文献を批判的に読解し、テーマに関連づけて説明できる。
3. 研究計画書を立案し、研究計画書を作成することができる。
4. 研究計画書に基づいて、一連の研究プロセスを進めることができる。
5. 卒業研究論文として研究成果をまとめることができる。
6. 研究内容をまとめ、研究成果を発表することができる。また、意見交換を通じて発表内容を共有し、学生個々の看護観を深めることができる。

授業概要(教育目的)

・看護学に関する学生各自の気づきや関心を深め、広範な知識と高度な専門性を追求し、各自の研究計画に基づいて研究のプロセスを進め、卒業研究論文として成果をまとめる。
・指導教員の専門性に沿った研究テーマ毎に企画運営するゼミ内発表・学内発表等プレゼンテーションを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

各ゼミの担当教員からの指示により、研究計画書もしくは課題レポートを提出し、評価表に基づいて評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミナールの担当教員と担当学生の間で、ゼミを行う毎に指導を受ける。
最終評価を知りたい学生については個別に開示する。

参考文献

各ゼミの担当教員が適宜提示する。

講義時使用テキスト

各ゼミの担当教員が必要に応じて提示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

指導教員全員、看護師または医師として実務経験があり、それにもどついて看護研究の指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 卒業研究ガイダンス(オリエンテーション)、研究課題提出 2. ゼミナール：担当教員別グループワーク 3. 課題学習・ゼミ内発表 4. 文献検索演習：医学中央雑誌Webの 利用、その 他の 検索 5. 先行研究文献のレビュー・クリティーク 6. 研究計画の 立案 7. 研究倫理審査手続き 8. 外部機関への 研究協力の 依頼(必要がある場合) 9. 調査・実験等の 実施 10. 収集されたデータの 取りまとめ、入力、解析(必要のある場合) 11. 課題の 考察 12. 論文作成・提出 13. 研究成果のゼミ内報告会：発表と運営 14. 研究成果の 学内報告会：発表と運営 15. 卒業研究論文の 抄録集および論文集の 作成・製本	研究課題に沿って 先行研究の 文献レビュー・クリティークしたり、研究準備などそれぞれの 指導のもとに 予習する。	ゼミのメンバーで、文献をまとめたり、研究計画などまとめたり、結果、考察をまとめたりする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020072453 看護卒業研究（佐々木真湖）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	佐々木　真湖		

学習目標(到達目標)

1. テーマとなる研究課題を明確に示すことができる。
2. 文献を批判的に読解し、テーマに関連づけて説明できる。
3. 研究計画書を立案し、研究計画書を作成することができる。
4. 研究計画書に基づいて、一連の研究プロセスを進めることができる。
5. 卒業研究論文として研究成果をまとめることができる。
6. 研究内容をまとめ、研究成果を発表することができる。また、意見交換を通じて発表内容を共有し、学生個々の看護観を深めることができる。

授業概要(教育目的)

・看護学に関する学生各自の気づきや関心を深め、広範な知識と高度な専門性を追求し、各自の研究計画に基づいて研究のプロセスを進め、卒業研究論文として成果をまとめる。
・指導教員の専門性に沿った研究テーマ毎に企画運営するゼミ内発表・学内発表等プレゼンテーションを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

各ゼミの担当教員からの指示により、研究計画書もしくは課題レポートを提出し、評価表に基づいて評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミナールの担当教員と担当学生の間で、ゼミを行う毎に指導を受ける。
最終評価を知りたい学生については個別に開示する。

参考文献

各ゼミの担当教員が適宜提示する。

講義時使用テキスト

各ゼミの担当教員が必要に応じて提示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

指導教員全員、看護師または医師として実務経験があり、それにもどついて看護研究の指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 卒業研究ガイダンス(オリエンテーション)、研究課題提出 2. ゼミナール：担当教員別グループワーク 3. 課題学習・ゼミ内発表 4. 文献検索演習：医学中央雑誌Webの 利用、その 他の 検索 5. 先行研究文献のレビュー・クリティーク 6. 研究計画の 立案 7. 研究倫理審査手続き 8. 外部機関への 研究協力の 依頼(必要がある場合) 9. 調査・実験等の 実施 10. 収集されたデータの 取りまとめ、入力、解析(必要のある場合) 11. 課題の 考察 12. 論文作成・提出 13. 研究成果のゼミ内報告会：発表と運営 14. 研究成果の 学内報告会：発表と 運営 15. 卒業研究論文の 抄録集および論文集の 作成・製本	研究課題に沿って 先行研究の 文献レビュー・クリティークしたり、研究準備などそれぞれの 指導のもとに 予習する。	ゼミのメンバーで、文献をまとめたり、研究計画などまとめたり、結果、考察をまとめたりする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020072457 看護卒業研究（築場理利子）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	築場　理利子		

学習目標(到達目標)

1. テーマとなる研究課題を明確に示すことができる。
2. 文献を批判的に読解し、テーマに関連づけて説明できる。
3. 研究計画書を立案し、研究計画書を作成することができる。
4. 研究計画書に基づいて、一連の研究プロセスを進めることができる。
5. 卒業研究論文として研究成果をまとめることができる。
6. 研究内容をまとめ、研究成果を発表することができる。また、意見交換を通じて発表内容を共有し、学生個々の看護観を深めることができる。

授業概要(教育目的)

・看護学に関する学生各自の気づきや関心を深め、広範な知識と高度な専門性を追求し、各自の研究計画に基づいて研究のプロセスを進め、卒業研究論文として成果をまとめる。
・指導教員の専門性に沿った研究テーマ毎に企画運営するゼミ内発表・学内発表等プレゼンテーションを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

各ゼミの担当教員からの指示により、研究計画書もしくは課題レポートを提出し、評価表に基づいて評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミナールの担当教員と担当学生の間で、ゼミを行う毎に指導を受ける。
最終評価を知りたい学生については個別に開示する。

参考文献

各ゼミの担当教員が適宜提示する。

講義時使用テキスト

各ゼミの担当教員が必要に応じて提示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

指導教員全員、看護師または医師として実務経験があり、それにもどついて看護研究の指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 卒業研究ガイダンス(オリエンテーション)、研究課題提出 2. ゼミナール：担当教員別グループワーク 3. 課題学習・ゼミ内発表 4. 文献検索演習：医学中央雑誌Webの 利用、その 他の 検索 5. 先行研究文献のレビュー・クリティーク 6. 研究計画の 立案 7. 研究倫理審査手続き 8. 外部機関への 研究協力の 依頼(必要がある場合) 9. 調査・実験等の 実施 10. 収集されたデータの 取りまとめ、入力、解析(必要のある場合) 11. 課題の 考察 12. 論文作成・提出 13. 研究成果のゼミ内報告会：発表と運営 14. 研究成果の 学内報告会：発表と運営 15. 卒業研究論文の 抄録集および論文集の 作成・製本	研究課題に沿って 先行研究の 文献レビュー・クリティークしたり、研究準備などそれぞれの 指導のもとに 予習する。	ゼミのメンバーで、文献をまとめたり、研究計画などまとめたり、結果、考察をまとめたりする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020072458 看護卒業研究（柴生田英香）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	柴生田　英香		

学習目標(到達目標)

1. テーマとなる研究課題を明確に示すことができる。
2. 文献を批判的に読解し、テーマに関連づけて説明できる。
3. 研究計画書を立案し、研究計画書を作成することができる。
4. 研究計画書に基づいて、一連の研究プロセスを進めることができる。
5. 卒業研究論文として研究成果をまとめることができる。
6. 研究内容をまとめ、研究成果を発表することができる。また、意見交換を通じて発表内容を共有し、学生個々の看護観を深めることができる。

授業概要(教育目的)

・看護学に関する学生各自の気づきや関心を深め、広範な知識と高度な専門性を追求し、各自の研究計画に基づいて研究のプロセスを進め、卒業研究論文として成果をまとめる。
・指導教員の専門性に沿った研究テーマ毎に企画運営するゼミ内発表・学内発表等プレゼンテーションを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

各ゼミの担当教員からの指示により、研究計画書もしくは課題レポートを提出し、評価表に基づいて評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミナールの担当教員と担当学生の間で、ゼミを行う毎に指導を受ける。
最終評価を知りたい学生については個別に開示する。

参考文献

各ゼミの担当教員が適宜提示する。

講義時使用テキスト

各ゼミの担当教員が必要に応じて提示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

指導教員全員、看護師または医師として実務経験があり、それにもどついて看護研究の指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 卒業研究ガイダンス(オリエンテーション)、研究課題提出 2. ゼミナール：担当教員別グループワーク 3. 課題学習・ゼミ内発表 4. 文献検索演習：医学中央雑誌Webの 利用、その 他の 検索 5. 先行研究文献のレビュー・クリティーク 6. 研究計画の 立案 7. 研究倫理審査手続き 8. 外部機関への 研究協力の 依頼(必要がある場合) 9. 調査・実験等の 実施 10. 収集されたデータの 取りまとめ、入力、解析(必要のある場合) 11. 課題の 考察 12. 論文作成・提出 13. 研究成果のゼミ内報告会：発表と運営 14. 研究成果の 学内報告会：発表と 運営 15. 卒業研究論文の 抄録集および論文集の 作成・製本	研究課題に沿って 先行研究の 文献レビュー・クリティークしたり、研究準備などそれぞれの 指導のもとに 予習する。	ゼミのメンバーで、文献をまとめたり、研究計画などまとめたり、結果、考察をまとめたりする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020072459 看護卒業研究（堺香奈子）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	堺　香奈子		

学習目標(到達目標)

1. テーマとなる研究課題を明確に示すことができる。
2. 文献を批判的に読解し、テーマに関連づけて説明できる。
3. 研究計画書を立案し、研究計画書を作成することができる。
4. 研究計画書に基づいて、一連の研究プロセスを進めることができる。
5. 卒業研究論文として研究成果をまとめることができる。
6. 研究内容をまとめ、研究成果を発表することができる。また、意見交換を通じて発表内容を共有し、学生個々の看護観を深めることができる。

授業概要(教育目的)

・看護学に関する学生各自の気づきや関心を深め、広範な知識と高度な専門性を追求し、各自の研究計画に基づいて研究のプロセスを進め、卒業研究論文として成果をまとめる。
・指導教員の専門性に沿った研究テーマ毎に企画運営するゼミ内発表・学内発表等プレゼンテーションを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

各ゼミの担当教員からの指示により、研究計画書もしくは課題レポートを提出し、評価表に基づいて評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミナールの担当教員と担当学生の間で、ゼミを行う毎に指導を受ける。
最終評価を知りたい学生については個別に開示する。

参考文献

各ゼミの担当教員が適宜提示する。

講義時使用テキスト

各ゼミの担当教員が必要に応じて提示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

指導教員全員、看護師または医師として実務経験があり、それにもどついて看護研究の指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 卒業研究ガイダンス(オリエンテーション)、研究課題提出 2. ゼミナール：担当教員別グループワーク 3. 課題学習・ゼミ内発表 4. 文献検索演習：医学中央雑誌Webの 利用、その 他の 検索 5. 先行研究文献のレビュー・クリティーク 6. 研究計画の 立案 7. 研究倫理審査手続き 8. 外部機関への 研究協力の 依頼(必要がある場合) 9. 調査・実験等の 実施 10. 収集されたデータの 取りまとめ、入力、解析(必要のある場合) 11. 課題の 考察 12. 論文作成・提出 13. 研究成果のゼミ内報告会：発表と運営 14. 研究成果の 学内報告会：発表と運営 15. 卒業研究論文の 抄録集および論文集の 作成・製本	研究課題に沿って 先行研究の 文献レビュー・クリティークしたり、研究準備などそれぞれの 指導のもとに 予習する。	ゼミのメンバーで、文献をまとめたり、研究計画などまとめたり、結果、考察をまとめたりする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020072460 看護卒業研究（田中完）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	田中　完		

学習目標(到達目標)

1. テーマとなる研究課題を明確に示すことができる。
2. 文献を批判的に読解し、テーマに関連づけて説明できる。
3. 研究計画書を立案し、研究計画書を作成することができる。
4. 研究計画書に基づいて、一連の研究プロセスを進めることができる。
5. 卒業研究論文として研究成果をまとめることができる。
6. 研究内容をまとめ、研究成果を発表することができる。また、意見交換を通じて発表内容を共有し、学生個々の看護観を深めることができる。

授業概要(教育目的)

・看護学に関する学生各自の気づきや関心を深め、広範な知識と高度な専門性を追求し、各自の研究計画に基づいて研究のプロセスを進め、卒業研究論文として成果をまとめる。
・指導教員の専門性に沿った研究テーマ毎に企画運営するゼミ内発表・学内発表等プレゼンテーションを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

各ゼミの担当教員からの指示により、研究計画書もしくは課題レポートを提出し、評価表に基づいて評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミナールの担当教員と担当学生の間で、ゼミを行う毎に指導を受ける。
最終評価を知りたい学生については個別に開示する。

参考文献

各ゼミの担当教員が適宜提示する。

講義時使用テキスト

各ゼミの担当教員が必要に応じて提示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

指導教員全員、看護師または医師として実務経験があり、それにもどついて看護研究の指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 卒業研究ガイダンス(オリエンテーション)、研究課題提出 2. ゼミナール：担当教員別グループワーク 3. 課題学習・ゼミ内発表 4. 文献検索演習：医学中央雑誌Webの 利用、その 他の 検索 5. 先行研究文献のレビュー・クリティーク 6. 研究計画の 立案 7. 研究倫理審査手続き 8. 外部機関への 研究協力の 依頼(必要がある場合) 9. 調査・実験等の 実施 10. 収集されたデータの 取りまとめ、入力、解析(必要のある場合) 11. 課題の 考察 12. 論文作成・提出 13. 研究成果のゼミ内報告会：発表と運営 14. 研究成果の 学内報告会：発表と運営 15. 卒業研究論文の 抄録集および論文集の 作成・製本	研究課題に沿って 先行研究の 文献レビュー・クリティークしたり、研究準備などそれぞれの 指導のもとに 予習する。	ゼミのメンバーで、文献をまとめたり、研究計画などまとめたり、結果、考察をまとめたりする。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020072461 看護卒業研究（日當ひとみ）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	日當　ひとみ		

学習目標(到達目標)

1. テーマとなる研究課題を明確に示すことができる。
2. 文献を批判的に読解し、テーマに関連づけて説明できる。
3. 研究計画書を立案し、研究計画書を作成することができる。
4. 研究計画書に基づいて、一連の研究プロセスを進めることができる。
5. 卒業研究論文として研究成果をまとめることができる。
6. 研究内容をまとめ、研究成果を発表することができる。また、意見交換を通じて発表内容を共有し、学生個々の看護観を深めることができる。

授業概要(教育目的)

・看護学に関する学生各自の気づきや関心を深め、広範な知識と高度な専門性を追求し、各自の研究計画に基づいて研究のプロセスを進め、卒業研究論文として成果をまとめる。
・指導教員の専門性に沿った研究テーマ毎に企画運営するゼミ内発表・学内発表等プレゼンテーションを行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。

評価方法

各ゼミの担当教員からの指示により、研究計画書もしくは課題レポートを提出し、評価表に基づいて評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミナールの担当教員と担当学生の間で、ゼミを行う毎に指導を受ける。
最終評価を知りたい学生については個別に開示する。

参考文献

各ゼミの担当教員が適宜提示する。

講義時使用テキスト

各ゼミの担当教員が必要に応じて提示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

指導教員全員、看護師または医師として実務経験があり、それにもどついて看護研究の指導を行っている。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 卒業研究ガイダンス(オリエンテーション)、研究課題提出 2. ゼミナール：担当教員別グループワーク 3. 課題学習・ゼミ内発表 4. 文献検索演習：医学中央雑誌Webの 利用、その 他の 検索 5. 先行研究文献のレビュー・クリティーク 6. 研究計画の 立案 7. 研究倫理審査手続き 8. 外部機関への 研究協力の 依頼(必要がある場合) 9. 調査・実験等の 実施 10. 収集されたデータの 取りまとめ、入力、解析(必要のある場合) 11. 課題の 考察 12. 論文作成・提出 13. 研究成果のゼミ内報告会：発表と運営 14. 研究成果の 学内報告会：発表と 運営 15. 卒業研究論文の 抄録集および論文集の 作成・製本	研究課題に沿って 先行研究の 文献レビュー・クリティークしたり、研究準備などそれぞれの 指導のもとに 予習する。	ゼミのメンバーで、文献をまとめたり、研究計画などまとめたり、結果、考察をまとめたりする。

講義名	4020073000 地域保健学						
年度	2026	開講時期	後期前半	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

1)地域包括ケアの概念と考え方について政策の変遷や社会情勢の関係を理解することができる。
2)地域包括ケアにおける地域・健康・対象・生活・家族の理解とその関連を説明でき、地域保健活動の実際を理解することができる。
3)地域包括ケアシステムの概念を理解し、関係する保健・医療・福祉を含めた他職種・他機関との連携および協働の必要性を考え、看護職の役割を述べることができる。

授業概要(教育目的)

人々の医療・療養の場は、病院中心から在宅・地域中心への転換が進み、看護の対象となる人々の生活の場も病院から在宅・地域へ移行、看護職の地域での活動が必須である。これらに対応するため、地域での生活を支える社会的、政治的背景を理解し、他職種連携や地域連携の基本的な知識を修得する。地域の様々な場で支援を必要とする対象者とその家族の理解、生活の場としての地域の理解、継続看護、在宅医療・在宅看護等を含めた地域包括ケアシステムについて学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療過疎地やへき地など地域特性を理解し、地域の看護活動に積極的に取り組むことができる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

筆記試験、授業中のレポート、課題の提出状況や内容等で総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート等)は授業で代表的なものをいくつか授業で情報共有をしフィードバックする。また、コメントして返却する。

参考文献

・厚生労働統計協会:厚生の指標増刊　国民衛生の動向、厚生労働統計協会
※その他、参考となる書籍や文献等は授業中に適宜紹介する。

講義時使用テキスト

公衆衛生学(2年次春学期)、在宅看護学概論(2年次秋学期)で使用のテキストを用いる
・公衆衛生学のテキストは科目のシラバスを確認すること
・在宅看護学概論のテキスト:ナーシング・グラフィカ　在宅看護論①:地域療養を支えるケア、メディカ出版

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション:地域保健学の学び方 地域包括ケア①:概念の理解、社会情勢の変化とその影響	事前事後学習(予習・復習)に必要な時間は、担当教員からの指示がない限り、2時間の講義(90分)に対して予習2時間・復習2時間を原則とする。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
2	地域包括ケア②:地域・対象・健康・生活・家族の理解、地域保健活動の概要	事前事後学習(予習・復習)に必要な時間は、担当教員からの指示がない限り、2時間の講義(90分)に対して予習2時間・復習2時間を原則とする。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
3	学校保健活動・産業保健活動	事前事後学習(予習・復習)に必要な時間は、担当教員からの指示がない限り、2時間の講義(90分)に対して予習2時間・復習2時間を原則とする。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
4	成人保健活動・高齢者保健活動	事前事後学習(予習・復習)に必要な時間は、担当教員からの指示がない限り、2時間の講義(90分)に対して予習2時間・復習2時間を原則とする。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
5	障害者保健活動	事前事後学習(予習・復習)に必要な時間は、担当教員からの指示がない限り、2時間の講義(90分)に対して予習2時間・復習2時間を原則とする。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
6	母子保健活動	事前事後学習(予習・復習)に必要な時間は、担当教員からの指示がない限り、2時間の講義(90分)に対して予習2時間・復習2時間を原則とする。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
7	地域包括ケアシステム①:概念の理解、高齢者における地域包括ケアシステムの目的と実際	事前事後学習(予習・復習)に必要な時間は、担当教員からの指示がない限り、2時間の講義(90分)に対して予習2時間・復習2時間を原則とする。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
8	地域包括ケアシステム②:現代における共生社会の理解、それに関係する保健・医療・福祉等の他職種・他機関との連携および協働と看護職の役割	事前事後学習(予習・復習)に必要な時間は、担当教員からの指示がない限り、2時間の講義(90分)に対して予習2時間・復習2時間を原則とする。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020073001 地域保健学（1年生）						
年度	2026	開講時期	後期後半	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	壬生　寿子		

学習目標(到達目標)

1)地域の人々の生活と健康について考えることができる。
2)地域包括ケアにおける地域・健康・対象・生活・家族の理解とその関連を理解することできる。
3)地域包括ケアシステムの概念を理解し、保健・医療・福祉の関連を含めた他職種・他機関との連携および協働の必要性を考え、看護職の役割を説することができる。

授業概要(教育目的)

人々の医療・療養の場は、病院中心から在宅・地域中心への転換が進み、看護の対象となる人々の生活の場も病院から在宅・地域へ移行、看護職の地域での活動が必須である。これらに対応するため、地域での生活を支える社会的、政策的背景を理解し、他職種連携や地域連携の基本的な知識を修得する。地域の様々な場で支援を必要とする対象者を生活者として捉え、その家族の理解、生活の場としての地域の理解、継続看護、在宅医療・在宅看護等を含めた地域包括ケアシステムについて理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医療過疎地やへき地など地域特性を理解し、地域の看護活動に積極的に取り組むことができる基礎的な看護実践能力を身につけている。

評価方法

筆記試験は実施せず、課題①課題②の提出状況や内容、グループワークへの参加状況、授業中の態度等で総合的に
評価する。

課題に対するフィードバック

・課題レポート等はコメントをして返却する。
・講義資料、課題等の資料は2年次の「地域・在宅看護論」に活かすため、試験終了後回収する。

参考文献

・厚生労働統計協会：厚生の指標増刊　国民衛生の動向、厚生労働統計協会
※その他、参考となる書籍や文献等は授業中に適宜紹介する。
・社会福祉論で使用のテキスト：社会保障・社会福祉　医学書院

講義時使用テキスト

・テキスト：地域・在宅看護論Ⅰ総論　地域における暮らしと健康の理解を深める
・講義毎に資料を配布する。

資格との関連

・国家試験内容に関連している科目である。

学生へのメッセージ

・2年次の「地域・在宅看護論」と関連している科目であるので、基礎知識として身に着けてください。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	地域包括ケアシステムと多様な生活の 場における看護 1）地域と生活 2）健康とは 3）保健医療福祉の 概念 ※ 課題提示①：フィールドワーク	事前事後学習（予習・復習）に 必要な時間は、担当教員からの 指示がない限り、2時間の 講義（90分）に 対して 予習2時間・復習2時間を 原則とする。	配布された資料等を参考に、学習内容を 復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し 合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。グループワークには積極的に 参加しまとめ・発表作業に協力すること。
2	地域包括ケアシステムの 概念 1）地域包括ケアシステムとは 2）社会資源 3）多職種連携	事前事後学習（予習・復習）に 必要な時間は、担当教員からの 指示がない限り、2時間の 講義（90分）に 対して 予習2時間・復習2時間を 原則とする。	配布された資料等を参考に、学習内容を 復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し 合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。グループワークには積極的に 参加しまとめ・発表作業に協力すること。
3	地域を「みる」「知る」 自分の 住む 地域のフィールドワークを 通しての 情報共有 1）フィールドワークの 情報交換 （グループワーク） 2）情報 共有（全体ディスカッション） 3）地域アセスメント	事前事後学習（予習・復習）に 必要な時間は、担当教員からの 指示がない限り、2時間の 講義（90分）に 対して 予習2時間・復習2時間を 原則とする。	配布された資料等を参考に、学習内容を 復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し 合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。グループワークには積極的に 参加しまとめ・発表作業に協力すること。
4	地域で 健康に 暮らすための 看護の 役割 ① ・事例演習：高齢者（紙面演習：ワークシート） ・個人ワーク ・グループワーク ・発表	事前事後学習（予習・復習）に 必要な時間は、担当教員からの 指示がない限り、2時間の 講義（90分）に 対して 予習2時間・復習2時間を 原則とする。	配布された資料等を参考に、学習内容を 復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し 合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。グループワークには積極的に 参加しまとめ・発表作業に協力すること。
5	地域で 健康に 暮らすための 看護の 役割 ② ・事例演習：身体障害者 （DVD視聴） ・個人ワーク ・グループワーク ・発表	事前事後学習（予習・復習）に 必要な時間は、担当教員からの 指示がない限り、2時間の 講義（90分）に 対して 予習2時間・復習2時間を 原則とする。	配布された資料等を参考に、学習内容を 復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し 合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。グループワークには積極的に 参加しまとめ・発表作業に協力すること。
6	地域で 健康に 暮らすための 看護の 役割 ③ ・事例演習：小児 （DVD視聴） ・個人ワーク ・グループワーク ・発表	事前事後学習（予習・復習）に 必要な時間は、担当教員からの 指示がない限り、2時間の 講義（90分）に 対して 予習2時間・復習2時間を 原則とする。	配布された資料等を参考に、学習内容を 復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し 合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。グループワークには積極的に 参加しまとめ・発表作業に協力すること。
7	地域で 健康に 暮らすための 看護の 役割 ④ ・事例演習：認知症高齢者 （DVD視聴） ・個人ワーク ・グループワーク ・発表	事前事後学習（予習・復習）に 必要な時間は、担当教員からの 指示がない限り、2時間の 講義（90分）に 対して 予習2時間・復習2時間を 原則とする。	配布された資料等を参考に、学習内容を 復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し 合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。グループワークには積極的に 参加しまとめ・発表作業に協力すること。
8	地域包括ケアシステムの 必要性と発展 1）事例演習の 振り返り 2）グループワーク発表 3）講義まとめ ※ 課題提示② 地域包括ケアシステムについて	事前事後学習（予習・復習）に 必要な時間は、担当教員からの 指示がない限り、2時間の 講義（90分）に 対して 予習2時間・復習2時間を 原則とする。	配布された資料等を参考に、学習内容を 復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し 合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。グループワークには積極的に 参加しまとめ・発表作業に協力すること。

講義名	4020074000 公衆衛生看護支援論Ⅰ						
年度	2026	開講時期	前期後半	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	看護学科			担当教員	柴生田　英香		

学習目標(到達目標)

1) 健康教育の基礎理論を理解できる。
2) 地域の健康課題から対象者に適した健康教育を企画立案し、事例を用いて実践できる。
3) 評価の手法を理解し、実施した健康教育を評価できる。

授業概要(教育目的)

健康教育に必要な基礎理論を学修し、対象集団の行動変容を促す健康教育を展開する技法を学ぶ。設定された事例から、対象者の特性に応じた健康教育について、グループワークを通してを企画立案する。企画立案した内容から、適切な媒体を選択し、健康教育を実施、評価する。これにより、健康教育の理論を理解し、対象者の特性に応じた健康教育技術を修得することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

筆記試験およびレポート、グループワークの成果(企画書、指導案、作成媒体、実施内容、評価)等により、総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート等)は次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。また、コメントして返却する。

参考文献

中村裕美子ほか著：標準保健師講座・2　公衆衛生看護技術，医学書院
岸恵美子ほか編：保健学講座　公衆衛生看護支援技術，メヂカルフレンド社

※その他、参考となる書籍や文献等は授業中に適宜紹介する。

講義時使用テキスト

鳩野洋子ほか編：公衆衛生看護学.jp、インターメディカル

資格との関連

本科目は、公衆衛生看護学(保健師国家試験受験資格)を選択し選抜された学生の必修科目となっている。

学生へのメッセージ

実務との関連

市町村保健師としての経験を持つ教員および都道府県保健師としての経験を持つ教員、看護職として患者教育に携わった経験のある教員が担当する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	講義：健康教育とは、	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
2	講義：健康教育に必要な基礎理論	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
3	講義：健康教育の教育技術、教育媒体	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
4	講義：健康教育の企画立案、実施、評価	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
5	グループワーク：健康課題抽出、健康教育の目的・目標設定、企画立案	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
6	グループワーク：健康教育指導案作成	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
7	グループワーク：健康教育指導案作成	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
8	グループワーク：健康教育指導案作成	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
9	グループワーク：健康教育指導案作成	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。

講義名	4020075000 公衆衛生看護支援論Ⅱ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	看護学科			担当教員	柴生田　英香		

学習目標(到達目標)

1) 公衆衛生看護における対人支援活動の目的および基礎理論を理解できる。
2) 公衆衛生看護における対人支援について、根拠に基づいた技術を事例を用いて展開できる。
3) 地域組織活動や地域ケアシステムの展開と、発展段階に応じた保健師の役割を説明できる。

授業概要(教育目的)

公衆衛生看護おける対人支援活動に必要な基礎理論を学修し、事例検討や演習を通じて家庭訪問や健康診査場面等での保健指導技術を学ぶ。また、地域組織活動などのグループ支援について、地域特性やグループの発展段階に応じた保健師の役割について、事例検討や演習を通じて実践的に学ぶ。これにより、公衆衛生看護における対人支援活動の目的および基礎理論を理解し、対象者や地域特性に応じた保健指導、地域組織活動支援技術を修得することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

1.グループワークの実施状況、発表内容、レポート等を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート等)は次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。また、コメントして返却する。

参考文献

中村裕美子著：標準保健師講座・2　公衆衛生看護技術、医学書院
松田正己著：標準保健師講座・3　対象別公衆衛生看護活動、医学書院
岸恵美子ほか編：保健師学講座2　公衆衛生看護支援技術、メヂカルフレンド社
佐伯和子ほか編：公衆衛生看護学テキスト2　公衆衛生看護の方法と技術、医歯薬出版
※その他、参考となる書籍や文献等は授業中に適宜紹介する。

講義時使用テキスト

鳩野洋子ほか編：公衆衛生看護学.jp、インターメディカル

資格との関連

本科目は、公衆衛生看護学(保健師国家試験受験資格)を選択し選抜された学生の必修科目となっている。

学生へのメッセージ

実務との関連

市町村保健師としての経験を持つ教員および都道府県保健師としての経験を持つ教員、看護職として対象支援に携わった経験のある教員が担当する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	講義:公衆衛生看護における対人支援活動の目的	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
2	講義:公衆衛生看護における対人支援活動に必要な基礎理論	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
3	講義:対人支援活動の場(家庭訪問、健康診査、地域組織活動)	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
4	講義:対人支援活動技術(乳幼児健診)	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
5	フィールドワーク:乳幼児健診(階上町乳児健診・3歳児健診参加)①	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
6	フィールドワーク:乳幼児健診(階上町乳児健診・3歳児健診参加)②	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
7	フィールドワーク:乳幼児健診(階上町乳児健診・3歳児健診参加)③	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
8	フィールドワーク:乳幼児健診(階上町乳児健診・3歳児健診参加)④	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
9	グループワーク:乳幼児健診(振り返り)①	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。

講義名	4020076000 公衆衛生看護活動展開論Ⅰ						
年度	2026	開講時期	前期後半	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	看護学科			担当教員	古舘　美喜子		

学習目標(到達目標)

1)さまざまな対象に対する公衆衛生看護援助の基礎的知識について説明できる。
2)さまざまな健康状況・生活状況にある対象に対する公衆衛生看護援助の基礎的知識と方法について説明できる。
3)対象や健康課題に応じた生活の特徴から、健康課題および支援の特徴・方向性について説明できる。

授業概要(教育目的)

さまざまな対象に対して公衆衛生看護活動を展開できるように、その理論と方法を教授する。親子(母子)保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動、精神保健活動、障がい者(児)保健活動、難病保健活動、感染症保健活動、歯科保健活動、学校保健活動、産業保健活動、地域包括ケア等について、事例や実践例を用いて実践的に教授する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

筆記試験およびレポート、授業中の発言やグループワークの状況(参加度・貢献度・発言や取り組みの状況等)等により、総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート等)は次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。また、コメントして返却する。

参考文献

標美奈子著:標準保健師講座・1　公衆衛生看護学概論、医学書院
中村裕美子著:標準保健師講座・2　公衆衛生看護技術、医学書院
松田正己著:標準保健師講座・3　対象別公衆衛生看護活動、医学書院
上野昌江、他編:公衆衛生看護学、中央法規
井伊久美子、他著:保健師業務要覧、日本看護協会出版会
厚生労働統計協会:厚生の指標増刊　国民衛生の動向、厚生労働統計協会
日本公衆衛生協会:衛生行政大要、日本公衆衛生協会
※その他、参考となる書籍や文献等は授業中に適宜紹介する。

講義時使用テキスト

荒賀直子、他編:公衆衛生看護学　.jp、インターメディカル

資格との関連

本科目は、公衆衛生看護学(保健師国家試験受験資格)を選択し選抜された学生の必修科目となっている。

学生へのメッセージ

実務との関連

看護職として医療機関に勤務。実務経験をもとに公衆衛生看護活動展開論Ⅰに関する講義を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	地域保健活動における対象アプローチ：発達段階と健康課題および保健サービス	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
2	対象別:母子保健活動①	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
3	対象別:母子保健活動②	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
4	対象別:成人保健活動①	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
5	対象別:成人保健活動②	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
6	対象別:高齢者保健活動①	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
7	対象別:高齢者保健活動②	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
8	健康課題別:感染症保健活動①	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
9	健康課題別:感染症保健活動②	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。

講義名	4020077000 公衆衛生看護活動展開論Ⅱ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	看護学科			担当教員	古舘　美喜子		

学習目標(到達目標)

1)公衆衛生看護活動について理解し、地域診断のプロセスを理解でき、地域に顕在・潜在する健康課題を導き出すと同時に、その課題について解決策を考え、効果的な介入の展開方法について考えることが出来る。
2)二次資料を活用して、実習地域における地域診断を展開し、現時点での健康問題を明確にすることが出来る。また、実習時に収集する情報等を整理することが出来る。

授業概要(教育目的)

地域における基本的な公衆衛生看護の支援技術として、地域全体のヘルスケアシステムの向上を目指す地域診断を理解し、公衆衛生看護活動計画における理論と、立案・実施・評価の一連の過程について、具体例を用いて学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

作成した地域診断の内容、授業中の発言やグループワークの状況(参加度・貢献度・発言や取り組みの状況等)等により、総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート等)は次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。また、コメントして返却する。

参考文献

標美奈子著:標準保健師講座・1　公衆衛生看護学概論、医学書院
中村裕美子著:標準保健師講座・2　公衆衛生看護技術、医学書院
松田正己著:標準保健師講座・3　対象別公衆衛生看護活動、医学書院
井伊久美子、他著:保健師業務要覧、日本看護協会出版会
厚生労働統計協会:厚生の指標増刊　国民衛生の動向、厚生労働統計協会
日本公衆衛生協会:衛生行政大要、日本公衆衛生協会
※その他、参考となる書籍や文献等は授業中に適宜紹介する。

講義時使用テキスト

荒賀直子、他編:公衆衛生看護学　.jp、インターメディカル

資格との関連

本科目は、公衆衛生看護学(保健師国家試験受験資格)を選択し選抜された学生の必修科目となっている。

学生へのメッセージ

実務との関連

看護職として医療機関に勤務。実務経験をもとに公衆衛生看護展開論Ⅱに関する講義・演習を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	秋学期演習ガイダンス(オリエンテーション) 地域診断①　公衆衛生看護活動における地域保健活動過程の 理解と地域診断	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を 参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等、各自行うこと。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの 実施や 課題を 出す 場合がある。
2	地域診断②公衆衛生看護活動における地域保健活動家庭の理解と地域診断	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を 参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等、各自行うこと。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの 実施や 課題を 出す 場合がある。
3	地域診断③公衆衛生看護活動における地域保健活動家庭の理解と地域診断	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を 参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等、各自行うこと。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの 実施や 課題を 出す 場合がある。
4	地域診断④　美保野地区の地区踏査	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を 参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等、各自行うこと。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの 実施や 課題を 出す 場合がある。
5	地域診断⑤　美保野地区の地区踏査	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を 参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等、各自行うこと。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの 実施や 課題を 出す 場合がある。
6	地域診断⑥　美保野地区の地区踏査	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を 参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等、各自行うこと。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの 実施や 課題を 出す 場合がある。
7	地域診断⑦　美保野地区の地区踏査	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を 参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等、各自行うこと。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの 実施や 課題を 出す 場合がある。
8	地域診断⑧　美保野地区の地区踏査	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を 参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等、各自行うこと。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの 実施や 課題を 出す 場合がある。
9	地域診断の実際:既存資料を活用した地域診断の作成①	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を 参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等、各自行うこと。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの 実施や 課題を 出す 場合がある。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020078000 公衆衛生看護支援実習						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	実習	対象年次	3年次秋
対象学科	看護学科			担当教員	柴生田　英香		

学習目標(到達目標)

1) 各種法律に基づいた健康診査が説明できる。
2) 保健指導・健康相談の目的、対象、展開過程等の一連の流れが理解できる。
3) 保健指導の対象者を理解・アセスメントし、保健指導計画を立案できる。
4) 地域包括支援センターの機能と役割を説明できる。
5) 実習施設における専門職の役割を理解できる。
6) 実習施設管内における顕在的・潜在的な地域課題を理解できる。

授業概要(教育目的)

公衆衛生看護に必要な保健指導や健康相談、家庭訪問、地区活動等の技術について、保健師等が行う保健指導の見学や、地域包括支援センターにおける保健師活動の見学および参加を通じて理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

実習ガイダンスを含めた実習内容(事前準備、実習の取り組み状況・参加状況・グループワークの状況や貢献度、実習中・実習後のカンファレンス等での発言や意見交換の状況等)および実習態度(遅刻・欠席を含む態度全般)、実習記録物の提出状況と内容、学生の自己評価、実習指導者評価等から総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、実習記録等)はコメントして返却する。

参考文献

授業時使用したテキストおよび参考文献、資料等の全て。

講義時使用テキスト

授業時使用したテキスト(公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護支援論Ⅰ、公衆衛生看護活動展開論Ⅰ、公衆衛生看護管理論、その他関係する講義のテキスト等)

資格との関連

本科目は、公衆衛生看護学(保健師国家試験受験資格)を選択し選抜された学生の必修科目となっている。

学生へのメッセージ

実務との関連

行政保健師としての実務経験のある教員と看護職として医療機関の実務経験ある教員で構成された教員領域であり、公衆衛生看護支援実習に対応する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1.実習期間:1週間 2.実習時期:3年生秋～4年生春学期 3.実習場所:八戸西健診プラザ、八戸市内または十和田市内の地域包括支援センター 4.実習内容:健康相談・保健指導見学、高齢者の家庭訪問や地区活動、相談支援の実際を見学	これまでの講義・演習内容を十分に復習し、事前課題をもとに確認する。テキストや参考書、実習要項を熟読し、実習目的・目標を理解し、自己の実習目標を立案する。	日々の学びについて実習記録をもとに整理する。また、実習後のディスカッション等を通じてグループワーク内で学びを共有し、自己の理解を踏まえる。さらに、実習で学んだ内容を整理し、まとめ、グループ発表を行う。

講義名	4020079000 コミュニケーション論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	田中　克枝		

学習目標(到達目標)

1. コミュニケーションの基本的な技術を理解できる。
2. コミュニケーションの種類や技法を理解し、人間関係を構築するコミュニケーションについて考えることができる。
3. 看護におけるコミュニケーションについて、効果的なコミュニケーション技術を活用できる。
4. 演習(グループワーク、ロールプレイ)を通して、良好なコミュニケーションのあり方を考えることができる。

授業概要(教育目的)

情報通信技術の発達に伴い、学生は友人との直接的な関わりも少なくなり、SNS(ソーシャルネットワーク・サービス)を利用していることが多くなっている現状がある。看護職は人間対人間の接する職業であり、効果的なコミュニケーション技術を必要としている。本授業では基本的なコミュニケーション技術の修得、グループディスカッションでのアサーティブな発言の仕方などを学び、演習を通して良好な人間関係を構築できるコミュニケーションのあり方を考える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

必修科目

評価方法

期末試験(70%)と演習等の活動状況(30%)を総合的に判断する。

課題に対するフィードバック

試験結果等を知りたい時は個別で情報開示する。

参考文献

1)諏訪茂樹編:看護のためのコミュニケーションと人間関係,中央法規,2019.
2)茂野香おる・今井宏美:系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔2〕基礎看護技術,p21-62,2021.
3)渡部富栄:対人コミュニケーション入門　看護のパワーアップにつながる理論と技術,ライフサポート社,2019.

講義時使用テキスト

篠崎恵美子・藤井徹也:看護コミュニケーション　基礎から学ぶスキルとトレーニング　第2版,医学書院,2022.

資格との関連

学生へのメッセージ

毎回、授業の後半は演習を行います。いろんな人に関心をもち、よく観察しましょう。そして、円滑なコミュニケーションができるよう、積極的に講義・演習に参加しましょう。

実務との関連

担当教員は看護師としての実務経験があり、実務経験をもとに教授する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	授業のオリエンテーション コミュニケーションとは 演習:自己紹介、他者紹介 コミュニケーションの 構成要素、特徴	テーマに即したテキストの部分を 読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読む
2	コミュニケーションの 種類 言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション 演習:表情、ジェスチャーでのコミュニケーション、敬語の 使い方	テーマに即したテキストの部分を 読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読む
3	コミュニケーションに影響する要因 演習:GW、発表 姿勢、位置、視線、表情など	テーマに即したテキストの部分を 読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読む
4	看護におけるコミュニケーション① ・患者中心のコミュニケーション ・傾聴、共感、アサーティブ 演習:GW	テーマに即したテキストの部分を 読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読む
5	看護におけるコミュニケーション② 情報収集、説明の技術:演習	テーマに即したテキストの部分を 読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読む
6	看護におけるコミュニケーション③ 質問の 仕方、リフレクション、自己開示など 演習:GW	テーマに即したテキストの部分を 読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読む
7	看護学生が 遭遇するコミュニケーションの 困難状況 演習:ロールプレイ	テーマに即したテキストの部分を 読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読む
8	リフレクション、振り返り プロセスレコードを 使用した演習	テーマに即したテキストの部分を 読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読む
9	グループ学習のコミュニケーション 演習:グループ 討議	テーマに即したテキストの部分を 読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読む
10	コミュニケーション障害のある人との対応 多職種連携とコミュニケーション① 演習:GW	テーマに即したテキストの部分を 読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読む
11	看護面接のプロセス　13ステップ ・アサーティブ・コミュニケーション ・セルフ・コントロール 演習	テーマに即したテキストの部分を 読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読む
12	コミュニケーション障がいがある人への対応 演習:グループワーク	テーマに即したテキストの部分を 読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読む
13	模擬患者と看護師のコミュニケーション ロールプレイ①	テーマに即したテキストの部分を 読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読む
14	模擬患者の家族と看護師のコミュニケーション ロールプレイ②	テーマに即したテキストの部分を 読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読む
15	まとめ 良好なコミュニケーションをするためには	テーマに即したテキストの部分を 読む	授業内容を 整理し、テキストや 配布資料を 読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020080000	基礎看護学実習Ⅲ					
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	小沢　久美子		

学習目標(到達目標)

1. 受け持ち患者について、身体的・精神的・社会的側面から捉えることができる。
2. 受け持ち患者の看護について、看護過程を用いて整理することができる。
3. 倫理的配慮のもとに日常生活の援助を実践し、振り返ることができる。
4. 看護を学ぶ学生としての学習姿勢を身につける。

授業概要(教育目的)

医療施設における患者の療養生活を理解し、看護実践を通して、対象に適した看護を実践するための看護過程の展開方法を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

実習評価表にもとづいて評価する。

課題に対するフィードバック

・事前課題（予習）、実習記録、事後課題レポートについては、コメントまたは面談により フィードバックする。また実習中はカンファレンスを行い、実習目標に沿って振り返りを行う。
・成績評価について自己評価をしてもらい、良かった点と今後の課題について個々にフィードバックを行う。

参考文献

適宜紹介する。

講義時使用テキスト

授業で使用したテキスト、参考文献、資料の全て。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

看護師として総合病院に勤務。臨床経験をもとに受け持ち患者の看護について理解が深まるように助言する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	実習時期：2年次秋学期 実習期間：2週間10日間 実習内容：初めて入院患者を受け持ち、日常生活の援助を実践しながら看護過程を展開する。 実習場所：八戸赤十字病院、青森労災病院 計画の詳細は実習要項参照 ・理解度の確認（発問・実習記録、発表内容） ・実習最終日にグループワークおよび全体のまとめ発表会を行い、実習での学びを共有する。	実習要項に沿って授業内容を復習し、論点を整理する	実習で学んだ内容を整理し、実習後のまとめレポートを作成する

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020081000 保健医療福祉行政論Ⅲ						
年度	2026	開講時期	後期前半	講義区分	講義	対象年次	4年
対象学科	看護学科			担当教員	柴生田　英香		

学習目標(到達目標)

1) 公衆衛生看護に関わる保健医療福祉行政の目的と機能の基本的考え方を説明できる。
2) 保健医療福祉行政における業務のPDCAサイクルについて説明できる。
3) 住民の健康保持増進、地域ケアの質の確保のための政策形成について説明できる。

授業概要(教育目的)

公衆衛生看護に関わる保健医療福祉行政の目的、機能、関係法規について、これまで学修した内容を統合し、自治体保健師の役割について理解を深める。また、地域住民の多様化、複雑化した健康ニーズに対応すべく、保健師による質の高い支援に必要なソーシャルキャピタルを活用できる能力を身につけるとともに、条例や予算管理を含めた政策形成、計画策定の構造について理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働する中で求められる看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。

評価方法

1.試験・評価は八戸学院大学試験規程に準ずる。60点以上を合格とし単位認定する。
2.筆記試験、グループワークの成果(企画書、指導案、作成媒体、実施内容、評価)等により、総合的に評価する。総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート等)は次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。また、コメントして返却する。

参考文献

標美奈子著:標準保健師講座・1　公衆衛生看護学概論、医学書院
中村裕美子著:標準保健師講座・2　公衆衛生看護技術、医学書院
松田正己著:標準保健師講座・3　対象別公衆衛生看護活動、医学書院
井伊久美子、他著:保健師業務要覧、日本看護協会出版会
厚生労働統計協会:厚生の指標増刊　国民衛生の動向、厚生労働統計協会
安藤雄一ほか監:公衆衛生がみえる2024－2025、インターメディカル
※その他、参考となる書籍や文献等は授業中に適宜紹介する。

講義時使用テキスト

荒賀直子、他編:公衆衛生看護学　.jp、インターメディカル

資格との関連

本科目は、公衆衛生看護学(保健師国家試験受験資格)を選択し選抜された学生の必修科目となっている。※保健師養成課程履修者のみ受講可

学生へのメッセージ

実務との関連

市町村保健師として、市町村行政職の経験を持つ教員が担当する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	保健医療福祉行政とは:目的、関係法規、実施事業	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
2	保健医療福祉行政について:保健所機能	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
3	保健医療福祉行政について:政策形成、計画策定	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
4	保健医療福祉行政について:自治体運営、予算管理、議会	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
5	保健医療福祉行政について:公衆衛生看護学実習Ⅱまとめ①	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
6	保健医療福祉行政について:公衆衛生看護学実習Ⅱまとめ②	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
7	保健医療福祉行政について:公衆衛生看護学実習Ⅱまとめ③	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。
8	保健医療福祉行政について:事業評価、PDCAサイクル	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	配布された資料とテキスト等を参考に、学習内容を復習し、学んだことをまとめる。まとめたものを発表し合い、学びをシェアすることができるように準備して授業に臨むこと。自己の学びの整理、振り返り等のためにポートフォリオを作成する。前回までの授業内容の理解を確認するため小テストの実施や課題を出す場合がある。

印刷日：2026年10月05日

講義名	4020082000 公衆衛生看護学概論Ⅱ						
年度	2026	開講時期	前期前半	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	看護学科			担当教員	工藤　恵子		

学習目標(到達目標)

1)公衆衛生看護活動の対象の特性、社会環境の変遷と健康問題との関連について考えを述べることができる。
2)公衆衛生看護活動の対象と対象の健康と生活について説明できる。
3)公衆衛生看護(学)の役割(専門性・独自性)についての考えを述べることができる。

授業概要(教育目的)

公衆衛生看護の歴史を通して、公衆衛生看護(学)とは何か、人々の健康の維持、健康課題に対応した公衆衛生看護の目的、役割、機能を学ぶ。また、健康課題の多様性を理解したうえで、公衆衛生看護(学)とは何か、その専門性・独自性を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

小テスト・課題レポート等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

課題(レポート等)は次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。また、コメントして返却する。

参考文献

標美奈子著:標準保健師講座・1　公衆衛生看護学概論、医学書院
中村裕美子著:標準保健師講座・2　公衆衛生看護技術、医学書院
松田正己著:標準保健師講座・3　対象別公衆衛生看護活動、医学書院
井伊久美子、他著:保健師業務要覧、日本看護協会出版会
厚生労働統計協会:厚生の指標増刊　国民衛生の動向、厚生労働統計協会
日本公衆衛生協会:衛生行政大要、日本公衆衛生協会
※その他、参考となる書籍や文献等は授業中に適宜紹介する。

講義時使用テキスト

荒賀直子、他編:公衆衛生看護学　.jp、インターメディカル

資格との関連

本科目は、公衆衛生看護学(保健師国家試験受験資格)を選択し選抜された学生の必修科目となっている。

学生へのメッセージ

実務との関連

看護職としての実務経験を活かし講義します。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	公衆衛生看護活動の対象と活動の場	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	講義後は、授業内容を整理し、次回講義前に整理しておくこと。不明点があれば、インターネットなどを用いて最新情報を確認し、疑問の論点整理をして次回講義にのぞむこと。
2	公衆衛生看護活動の方法と特性①	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	講義後は、授業内容を整理し、次回講義前に整理しておくこと。不明点があれば、インターネットなどを用いて最新情報を確認し、疑問の論点整理をして次回講義にのぞむこと。
3	公衆衛生看護活動の方法と特性②	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	講義後は、授業内容を整理し、次回講義前に整理しておくこと。不明点があれば、インターネットなどを用いて最新情報を確認し、疑問の論点整理をして次回講義にのぞむこと。
4	健康に影響する背景・要因と健康課題と公衆衛生看護活動	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	講義後は、授業内容を整理し、次回講義前に整理しておくこと。不明点があれば、インターネットなどを用いて最新情報を確認し、疑問の論点整理をして次回講義にのぞむこと。
5	公衆衛生看護活動②	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	講義後は、授業内容を整理し、次回講義前に整理しておくこと。不明点があれば、インターネットなどを用いて最新情報を確認し、疑問の論点整理をして次回講義にのぞむこと。
6	公衆衛生看護(学)の機能・役割(専門性・独自性)	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	講義後は、授業内容を整理し、次回講義前に整理しておくこと。不明点があれば、インターネットなどを用いて最新情報を確認し、疑問の論点整理をして次回講義にのぞむこと。
7	保健福祉行政の事業化・施策化	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	講義後は、授業内容を整理し、次回講義前に整理しておくこと。不明点があれば、インターネットなどを用いて最新情報を確認し、疑問の論点整理をして次回講義にのぞむこと。
8	公衆衛生看護活動の実際:ゲストティーチャー	各授業内容の該当部分のテキストは、必ず一度目をとおしてから、授業に望むこと。	講義後は、授業内容を整理し、次回講義前に整理しておくこと。不明点があれば、インターネットなどを用いて最新情報を確認し、疑問の論点整理をして次回講義にのぞむこと。

講義名	4020083000 発達心理学（看護学科）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	遠藤　光男		

学習目標(到達目標)

1.人間の発達について，基本的な理論および発達課題について説明できる。
2.各発達段階における心と身体の特性について説明できる。
3.自分や周囲の人々を生涯発達の観点から理解することができる。

授業概要(教育目的)

発達心理学は，人間を身体・心理・社会的側面の統合体としてとらえ，その人間を，生涯に渡って変化していく過程，すなわち，発達の観点から総合的に理解することを目的とした学問である。これは教育・看護・医学・保育・社会福祉など人間を対象としている職業に従事する人々や学生に重要な視点を提供する。それぞれの職種はある特定の時期の人間を対象とすることが多い。しかし，それらの人々の理解や援助・支援には以前の発達段階やその後の発達段階についての知識が必要となる。本授業では，特に身体と心の発達に焦点をあて，各発達段階の諸特性について概説していく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、自らの課題を明確にして、課題探究に取り組む主体的姿勢を身につけている。

評価方法

授業への参加態度，レポート等の課題内容，および，最終試験の成績をもとに総合的に判断する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

講義時使用テキスト

なし。授業毎に適宜資料を配付する。

参考文献

「公認心理師スタンダードテキストシリーズ12　発達心理学」林創(編著)　ミネルヴァ書房
「コメディカルのための専門基礎分野テキスト　人間発達学(改訂6版)」福田惠美子(編著)　中外医学社
「看護のための人間発達学(第5版)」舟島なをみ・望月美知代(著)　医学書院

資格との関連

学生へのメッセージ

本授業の目的に一つは発達の視点から自分や他者をより深く理解することである。これは，将来人を対象とする職業に従事するときに役立つばかりではなく，現在の自分の課題を理解したり，将来的な展望を持って生きるためにも有益である。このような観点を常に持ちながら，授業に臨んでほしい。適宜，授業内容と関連する看護師国家試験の過去問等を提示するので，国家試験を見据えた学習をしてほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	発達心理学の概説	シラバスを確認し，授業の概要を理解する。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
2	発達理論	発達理論について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
3	胎児期・新生児期の発達	胎児期・新生児期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
4	乳児期の発達	乳児期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
5	乳幼児期・児童期の発達1：感覚と運動	乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
6	乳幼児期・児童期の発達2：愛着と社会性	乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
7	乳幼児期・児童期の発達3：認知	乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
8	乳幼児期・児童期の発達4：言語	乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
9	乳幼児期・児童期の発達5：対人関係と遊び	乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
10	青年期の発達1：心身の発達	青年期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
11	青年期の発達2：アイデンティティの確立	青年期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
12	成人期の発達1：キャリア形成	成人期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
13	成人期の発達2：結婚と家族形成	成人期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
14	老年期の発達1：心身の発達	老年期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
15	老年期の発達2：心理社会的課題	老年期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。

講義名	4020083001 発達心理学（看護学科-再履修）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	遠藤　光男		

学習目標(到達目標)

1.人間の発達について，基本的な理論および発達課題について説明できる。
2.各発達段階における心と身体の特性について説明できる。
3.自分や周囲の人々を生涯発達の観点から理解することができる。

授業概要(教育目的)

発達心理学は，人間を身体・心理・社会的側面の統合体としてとらえ，その人間を，生涯に渡って変化していく過程，すなわち，発達の観点から総合的に理解することを目的とした学問である。これは教育・看護・医学・保育・社会福祉など人間を対象としている職業に従事する人々や学生に重要な視点を提供する。それぞれの職種はある特定の時期の人間を対象とすることが多い。しかし，それらの人々の理解や援助・支援には以前の発達段階やその後の発達段階についての知識が必要となる。本授業では，特に身体と心の発達に焦点をあて，各発達段階の諸特性について概説していく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、自らの課題を明確にして、課題探究に取り組む主体的姿勢を身につけている。

評価方法

授業への参加態度，レポート等の課題内容，および，最終試験の成績をもとに総合的に判断する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

「公認心理師スタンダードテキストシリーズ12　発達心理学」林創(編著)　ミネルヴァ書房
「コメディカルのための専門基礎分野テキスト　人間発達学(改訂6版)」福田惠美子(編著)　中外医学社
「看護のための人間発達学(第5版)」舟島なをみ・望月美知代(著)　医学書院

講義時使用テキスト

なし。授業毎に適宜資料を配付する。

資格との関連

学生へのメッセージ

本授業の目的に一つは発達の視点から自分や他者をより深く理解することである。これは，将来人を対象とする職業に従事するときに役立つばかりではなく，現在の自分の課題を理解したり，将来的な展望を持って生きるためにも有益である。このような観点を常に持ちながら，授業に臨んでほしい。適宜，授業内容と関連する看護師国家試験の過去問等を提示するので，国家試験を見据えた学習をしてほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	発達心理学の概説	シラバスを確認し，授業の概要を理解する。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
2	発達理論	発達理論について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
3	胎児期・新生児期の発達	胎児期・新生児期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
4	乳児期の発達	乳児期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
5	乳幼児期・児童期の発達1：感覚と運動	乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
6	乳幼児期・児童期の発達2：愛着と社会性	乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
7	乳幼児期・児童期の発達3：認知	乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
8	乳幼児期・児童期の発達4：言語	乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
9	乳幼児期・児童期の発達5：対人関係と遊び	乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
10	青年期の発達1：心身の発達	青年期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
11	青年期の発達2：アイデンティティの確立	青年期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
12	成人期の発達1：キャリア形成	成人期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
13	成人期の発達2：結婚と家族形成	成人期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
14	老年期の発達1：心身の発達	老年期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。
15	老年期の発達2：心理社会的課題	老年期の発達について図書館やネット等で調べておく。	授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。 授業の内容を整理し、論点を整理する。